ユーザーガイド

AWS 請求

Version 2.0

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

AWS 請求: ユーザーガイド

Copyright © 2025 Amazon Web Services, Inc. and/or its affiliates. All rights reserved.

Amazon の商標とトレードドレスは、Amazon 以外の製品またはサービスとの関連において、顧客に混乱を招いたり、Amazon の名誉または信用を毀損するような方法で使用することはできません。Amazon が所有していないその他のすべての商標は Amazon との提携、関連、支援関係の有無にかかわらず、それら該当する所有者の資産です。

Table of Contents

とは AWS Billing and Cost Management 1
の機能 AWS Billing and Cost Management 1
請求と支払い 1
コスト分析 2
コストの整理 2
予算編成と計画 3
コスト削減とコミットメント 3
関連サービス 3
AWS Billing Conductor 3
IAM 4
AWS Organizations 5
AWS 料金表 API 5
Billing の設定 6
請求機能の詳細 10
次のステップ 11
AWS コスト管理機能を使用して支出を最適化する 11
請求情報とコスト管理 API を使用する 11
詳細はこちら 11
ヘルプの表示 11
税金情報の設定 11
納税者番号の更新と削除 12
税設定の継承をオンにする 12
米国の免税を管理する 13
Tax Settings API を使用するように Amazon S3 を設定する 14
Billing 設定のカスタマイズ 18
請求書の送付設定 19
アラートの設定 20
クレジット共有設定 21
リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有 22
請求明細レポート (従来) 23
AWS 支払い設定のカスタマイズ 24
支払い方法の表示 24
デフォルトの支払い方法を指定する 25
支払い方法の削除 25

請求の支払い通貨の変更 26
追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定 27
インドでの請求について設定する 27
AWS インドにサインアップする 28
AWS India アカウントの管理 28
AWS インドとの間で登録販売者を変更する 30
登録販売者の検索 32
現在の SOR 33
関連リソース 35
毎月の請求のベストプラクティスを確認する 35
発注書の残高と有効期限を確認する 35
税金の設定を確認する 36
税金設定の継承を有効にする 36
請求連絡先情報を更新する 37
支払い通貨を確認する 38
請求書と支払いに関するサポートを受ける 39
AWS ナレッジセンター 39
へのお問い合わせ サポート 39
請求対象の使用状況の確認 40
無料利用枠の使用量のモニタリング 40
の閉鎖 AWS アカウント 41
コンソールのホームページを使用する 42
Billing and Cost Management ウィジェットの管理 42
コスト概要 43
コストモニター 44
コストの内訳 45
推奨されるアクション 45
関連リソース 47
コスト配分カバレッジ 47
コスト削減の機会 49
トップトレンド 49
請求ダッシュボードを理解する 50
Billing および Cost Explorer データの違いを知る 52
請求データ 53
Cost Explorer データ 53
償却コスト 53

AWS のサービス グループ化 54
当月の推定請求額 54
Rounding 54
割引、クレジット、返金、税金の表示 54
請求について 55
月額料金を表示する 55
[請求] ページで月額料金と請求書の内容を確認する 56
請求書の PDF をダウンロードする 59
月別レポートをダウンロードする 60
予期しない請求について 61
使用量が を超えています AWS 無料利用枠 62
アカウント閉鎖後に受け取った請求 62
オフになっている AWS リージョン のリソースから発生する料金 63
他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金 63
Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金 64
Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金 65
Elastic IP アドレスによって発生する料金 67
ストレージサービスによって発生する料金 67
へのお問い合わせ サポート 67
支払いの管理 68
タグを使用して支払いアクセスを管理する 69
支払い 70
部分的な支払い 72
バックアップ支払い方法の使用 73
残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する 74
支払い検証の管理 77
検証のベストプラクティス 77
支払いの検証 78
支払いの検証のトラブルシューティング 78
AWS Organizations 79
サブスクリプションの購入 79
クレジットカードと ACH 口座振替の管理 79
クレジットカードの追加 80
クレジットカードを更新する 80
未確認のクレジットカードのトラブルシューティング 81
クレジットカードを削除する 82

ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する ... 82
事前支払いの使用 ... 85
事前支払いを登録する ... 86
事前支払いへ資金を追加する ... 86
中国人民元での支払い ... 87
新しい中国銀行リダイレクト支払いの利用 ... 87
中国人民元クレジットカードの使用 ... 91
PIX を使用した支払い (ブラジル) ... 93
インドでの支払いの管理 ... 95
サポートされている支払い方法 ... 96
クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う ... 96
クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する ... 96
支払い時にカードの詳細情報を追加する ... 97
クレジットカードまたはデビットカードを削除する ... 98
ネットバンキングアカウントの追加 ... 98
ネットバンキング口座を使って支払う ... 99
ネットバンキングアカウントの削除 ... 100
Unified Payments Interface (UPI) を使用して支払いを行う ... 100
クレジットカードまたはデビットカードで自動支払いを設定する ... 101
自動支払いについて ... 103
AWS Marketplace または AWS サブスクリプションの支払い ... 103
クレジットカードまたはデビットカードの自動支払いをキャンセルする ... 103
AWS インド国外での請求書の支払い ... 104
India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示 ... 106
AWS 欧州での支払いの管理 ... 107
AWS 欧州のクレジットカード支払い方法の管理 ... 107
AWS 欧州のクレジットカード支払い検証の管理 ... 108
SEPA 口座振替の支払い方法の管理 ... 111
AWS Financing を使用して分割払いで請求書を支払う ... 115
Financing の開始方法 ... 115
AWS 金融への申請 ... 115
AWS Financing による支払い ... 117
財務と使用率のモニタリング ... 118
支払いプロファイルの使用 ... 118
支払いプロファイルの作成 ... 119
支払いプロファイルの編集 ... 123

支払いプロファイルの削除 ... 123
AWS クレジットの適用 ... 124
ステップ 1 : 適用するクレジットを選択する ... 124
ステップ 2: クレジット適用先を選択する ... 125
ステップ 3: 複数のアカウントに AWS クレジットを適用する ... 126
ステップ 4: AWS クレジットを共有する ... 127
クレジット共有設定 ... 128
請求書設定のカスタマイズ ... 129
重要ポイント ... 129
IAM 許可 ... 130
クォータ ... 130
請求書単位の作成 ... 130
トラブルシューティング ... 132
請求書単位の更新 ... 133
トラブルシューティング ... 134
請求書単位の削除 ... 134
トラブルシューティング ... 135
請求書単位の表示 ... 135
スナップショット履歴の表示 ... 136
他の サービスでの請求書設定の使用 ... 136
発注書の請求書単位への関連付け ... 136
AWS Cost Explorer でのコストの視覚化 ... 137
発注書を管理する ... 138
発注書設定をセットアップする ... 139
発注書を追加する ... 142
発注書を編集する ... 144
発注書を削除する ... 147
発注書を表示する ... 147
発注書の詳細ページを読む ... 148
発注所の通知を有効にする ... 150
タグを使用して発注書へのアクセスを管理する ... 150
AWS のサービス で を探索する AWS 無料利用枠 ... 153
の開始方法 AWS 無料利用枠 ... 153
その他の AWS 無料利用枠 リソース ... 154
AWS 無料利用枠 プランの選択 ... 154
追加クレジットの獲得 ... 156

Amazon EC2 を使用してインスタンスを起動する 157
Amazon Bedrock プレイグラウンドで基盤モデルを使用する 157
を使用してコスト予算を設定する AWS Budgets 157
を使用してウェブアプリを作成する AWS Lambda 158
Amazon RDS データベースを作成する 158
使用状況を追跡 158
AWS 無料利用枠 使用状況アラートの使用 159
無料利用枠の推奨アクション 161
追跡可能な AWS 無料利用枠 サービス 161
を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前) 197
の使用資格の確認 AWS 無料利用枠 198
無料利用枠後の予期しない請求額の回避 199
無料利用枠 API を使用する 200
カーボンフットプリントの表示 203
Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) の開始方法 203
IAM ポリシー 204
AWS Organizations ユーザー 204
CCFT について 204
炭素排出量データのダウンロード 205
エネルギー使用量の計算 206
炭素排出量の推定の理解 207
リージョン、使用状況、および請求データの考慮要素 207
Customer Carbon Footprint Tool と Amazon のカーボンフットプリントレポート 208
システム境界 208
入力データ 209
配分アプローチ 210
AWS Cost Categories を使用したコストの整理 212
サポートされているディメンション 215
サポートされているオペレーション 216
サポートされているルールの種類 216
デフォルト値 217
ステータス 217
クォータ 218
用語の比較 218
コストカテゴリを作成する 219
コストプレビューパネルについて 223

コストカテゴリのタグ付け ... 223
コストカテゴリを表示する ... 224
コストカテゴリの詳細ページへ移動する ... 224
コストカテゴリの詳細ページを理解する ... 225
コストカテゴリの過去 1 か月の分類 ... 225
コストタイプを変更する ... 225
コストカテゴリ値のダウンロード ... 226
コストカテゴリを編集する ... 226
コストカテゴリを削除する ... 227
コストカテゴリ内で料金を分割する ... 227
前提条件 ... 228
分割料金のベストプラクティスを理解する ... 228
コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡 ... 230
AWS生成タグの使用 ... 232
AWS Marketplace ベンダー提供のタグ ... 237
AWS生成タグのコスト配分タグの制限 ... 237
AWS生成されたタグのコスト配分タグのアクティブ化 ... 238
AWS生成されたタグのコスト配分タグの無効化 ... 239
ユーザー定義のコスト配分タグの使用 ... 239
ユーザー定義のコスト配分タグの適用 ... 240
ユーザー定義タグの制限 ... 241
ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化 ... 241
バックフィルコスト配分タグ ... 242
バックフィルによる AWS コスト管理サービスの更新 ... 243
毎月のコスト配分レポートの使用 ... 244
月別コスト配分レポートの設定 ... 244
時間別コスト配分レポートの取得 ... 246
コスト配分レポートの表示 ... 246
コスト配分タグの日付を理解する ... 247
を使用した AWS のサービス および 料金の呼び出し AWS の料金表 ... 249
概要 ... 249
の開始方法 AWS の料金表 ... 251
IAM 許可 ... 251
エンドポイント ... 251
クォータ ... 252
サービスおよび製品の検索 ... 252

料金表ファイルの取得 ... 258
料金表ファイルの取得 ... 258
料金表ファイルの手動取得 ... 262
料金表ファイルの読み取り ... 268
サービス料金表ファイルでの料金の確認 ... 289
料金更新通知の設定 ... 293
Amazon SNS 通知の設定 ... 294
AWS のサービスの通知の構造 ... 295
Savings Plans の通知の構造 ... 297
の請求の統合 AWS Organizations ... 300
一括請求 (コンソリデーティッドビリング) の処理 ... 301
EMEA AWS での一括請求 ... 302
統合期間 ... 302
対象サービス ... 303
通貨と外国為替レート ... 303
AWS Cost and Usage Report への変更 ... 303
一括請求機能の無効化 ... 304
インドでの一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ... 304
AWS India アカウントのマルチ SOR 組織の有効化 ... 304
リンクされた AWS India アカウントの SOR への影響を理解する ... 304
請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引 ... 305
請求およびアカウントアクティビティ ... 305
従量制割引 ... 305
予約インスタンス ... 306
特定のサービスの請求例 ... 307
リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有 ... 309
一括請求について ... 312
一括請求の計算方法 ... 312
料金階層 ... 313
予約インスタンス ... 317
Savings Plans ... 318
ブレンドレートとコスト ... 319
短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト ... 322
組織のサポート料金 ... 323
セキュリティ ... 325
データ保護 ... 326

Identity and Access Management 327
ユーザータイプと請求に対するアクセス許可 327
アクセス管理の概要 329
対象者 327
アイデンティティを使用した認証 332
ポリシーを使用したアクセスの管理 336
Billing と IAM の AWS 連携方法 339
請求を含むアイデンティティベースのポリシー 346
AWS 請求ポリシーの例 362
アクセスコントロールを移行します 389
AWS マネージドポリシー 465
トラブルシューティング 484
ログ記録とモニタリング 487
AWS コストと使用状況レポート 487
AWS CloudTrail 487
CloudTrail による API コールのログ記録 488
コンプライアンス検証 507
耐障害性 507
インフラストラクチャセキュリティ 508
AWS PrivateLink 508
クォータと制限 511
コストカテゴリ 511
発注書 512
事前支払い 513
コスト配分タグ 513
AWS の料金表 514
一括ポリシーマイグレーター 515
支払い方法 515
AWS 請求書設定 516
ドキュメント履歴 517
..... dxxxvii

とは AWS Billing and Cost Management

AWS 請求ユーザーガイドへようこそ。

AWS Billing and Cost Management には、請求の設定、請求書の取得と支払い、コストの分析、整理、計画、最適化に役立つ一連の機能が用意されています。

使用を開始するには、要件に合った請求を設定します。個人または小規模な組織の場合、 AWS は提供されたクレジットカードに自動的に請求します。

大規模な組織では、 AWS Organizations を使用して複数の 間で料金を統合できます AWS アカウント。その後、請求書、税金、発注書、支払い方法を組織の調達プロセスに合わせて設定できます。

コストカテゴリまたはコスト配分タグを使用するか、 AWS Cost Explorerを使用して、チーム、アプリケーション、または環境にコストを割り当てることができます。また、お好みのデータウェアハウスやビジネスインテリジェンスツールにデータをエクスポートすることもできます。

クラウドの予算管理に役立つ機能の概要について説明します。

の機能 AWS Billing and Cost Management

トピック

- 請求と支払い
- コスト分析
- コストの整理
- 予算編成と計画
- コスト削減とコミットメント

請求と支払い

毎月の料金の把握、請求書の表示と支払い、請求、請求書、税金、支払いの設定を管理できます。

- [請求] ページ — 請求書のダウンロードや、詳細な月次請求データの確認により、請求額の計算方法を把握できます。
- [発注書] — 組織独自の調達プロセスに準拠する発注書を作成および管理します。
- [支払い] — 未払いまたは支払期日を過ぎた支払い残高と支払い履歴を把握できます。

- 支払いプロファイル – さまざまな AWS のサービス プロバイダーや組織の一部に対して複数の支払い方法を設定します。
- [クレジット] — クレジット残高を確認し、クレジットの適用先を選択します。
- [請求設定] — 電子メールによる請求書の配信と、クレジット共有、アラート、割引共有の設定を有効にします。

コスト分析

コストを分析し、詳細なコストと使用状況データをエクスポートして、支出を予測します。

- AWS Cost Explorer — コストと使用状況のデータを、ビジュアル、フィルタリング、グループ化で分析できます。コストを予測し、カスタムレポートを作成できます。
- [データエクスポート] — Billing and Cost Management データセットからカスタムデータエクスポートを作成します。
- コスト異常検出 – がコスト異常 AWS を検出したときに自動アラートを設定し、予期しないコストを削減します。
- AWS 無料利用枠— 無料利用枠サービスの現在の使用状況と予測使用状況を監視して、予期しないコストが発生しないようにします。
- [コスト配分データの分割] — 共有の Amazon Elastic Container Service (Amazon ECS) リソースの詳細なコストと使用状況データを有効にします。
- [コスト管理設定] — メンバーアカウントが表示できるデータの管理、アカウントデータの粒度の変更、コスト最適化設定の構成を行います。

コストの整理

チーム、アプリケーション、エンドカスタマー全体のコストを整理できます。

- [コストカテゴリ] — チーム、アプリケーション、または環境にコストをマッピングし、Cost Explorer とデータエクスポートでこれらのディメンションに沿ってコストを表示します。共有コストを配分する分割料金ルールを定義します。
- [コスト配分タグ] — リソースタグを使用してコストを整理し、Cost Explorer とデータエクスポートでコスト配分タグごとに表示します。

予算編成と計画

計画されたワークロードのコストを見積もり、コストを追跡および管理するための予算を作成します。

- [予算] — コストと使用量のカスタム予算を設定して組織全体のコストを管理します。また、コストが定義したしきい値を超えるとアラートを受信します。
- コンソール内料金計算ツール – この機能を使用して、割引と購入のコミットメントを使用して計画されたクラウドコストを見積もります。
- パブリック料金計算ツールウェブサイト – オンデマンド料金で AWS のサービスを使用するためのコスト見積もりを作成します。

コスト削減とコミットメント

リソースの使用量を最適化し、柔軟な価格設定モデルを使用して請求額を削減します。

- AWS Cost Optimization Hub - 未使用リソースの削除、サイズの適正化、Savings Plans、予約など、カスタマイズされた推奨事項に基づいて節約の機会を特定します。
- Savings Plans – 柔軟な料金モデルにより、オンデマンド料金と比較して請求額を削減します。Savings Plans インベントリの管理、購入レコメンデーションの確認、購入分析の実行、Savings Plans の使用率とカバレッジの分析を行います。
- [予約] – Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)、Amazon Redshift、Amazon DynamoDB などのキャパシティを、割引を適用して予約します。

関連サービス

AWS Billing Conductor

Billing Conductor は、 AWS ソリューションプロバイダーと AWS エンタープライズ顧客のショーバックとチャージバックのワークフローをサポートするカスタム請求サービスです。毎月の請求データの代替バージョンをカスタマイズできます。このサービスは、お客様とその顧客またはビジネスユニット間の請求関係をモデル化します。

Billing Conductor は、 AWS 毎月の請求方法を変更しません。代わりに、このサービスを使用して、特定の請求期間における特定の顧客に対するレートを設定、生成、表示できます。また、これを使

用して、グループに適用するレートと、同じアカウントの実際のレートとの差異を分析できます AWS。

Billing Conductor を設定すると、支払いアカウント (管理アカウント) は、AWS Billing and Cost Management コンソールの請求詳細ページに適用されたカスタムレートを確認することもできます。支払者アカウントは、請求グループごとに AWS コストと使用状況レポートを設定することもできます。

Billing Conductor の詳細については、「AWS Billing Conductor ユーザーガイド」を参照してください。

IAM

AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して、アカウントまたは組織の誰が請求情報とコスト管理コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。例えば、請求書や、料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。IAM は の機能です AWS アカウント。IAM へのサインアップに必要な作業はありません。また、使用しても料金は発生しません。

アカウントを作成するときは、アカウント内のすべての AWS のサービス およびリソースへの完全なアクセス権を持つ 1 つのサインイン ID から始めます。この ID は AWS アカウントのルートユーザー と呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。

ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

デフォルトでは、アカウント内の IAM ユーザーおよびロールは、Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。アクセスを許可するには、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を有効にします。詳細については、「Activating access to the Billing and Cost Management console」を参照してください。

AWS アカウント 組織に複数の がある場合は、コスト管理の設定ページを使用して、Cost Explorer データへのリンクされたアカウントアクセスを管理できます。詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

IAM の詳細については、「IAM ユーザーガイド」を参照してください。

AWS Organizations

組織の一括請求機能を使用して、複数の AWS アカウントの請求と支払いを統合できます。すべての組織には管理アカウントがあり、すべてのメンバーアカウントの請求を支払います。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 複数のアカウントに対して 1 つの請求書を受け取るだけで済みます。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用状況の結合 – 組織内のアカウントすべての使用量を結合し、料金のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、および Savings Plans を共有できます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「従量制割引」を参照してください。
- 追加料金なし – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

組織の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」を参照してください。

AWS 料金表 API

AWS Price List API は、 AWS サービス、製品、料金情報をプログラムでクエリできる一元化されたカタログです。一括 API を使用して、JSON 形式と CSV 形式の両方で利用可能なup-to-date AWS サービス情報を一括で取得できます。

詳細については、AWS 「Price List API とは」を参照してください。

Billing の設定

このセクションでは、 AWS Billing and Cost Management コンソールの使用を開始するために必要な情報を提供します。前提条件には、IAM ユーザーへのサインアップ AWS とセットアップ、 AWS 請求書の確認、および請求とコスト管理の設定をカスタマイズするために使用できるコンソールのその他のページが含まれます。

トピック

- 請求機能の詳細
- 次のステップ
- 税金情報の設定
- Billing 設定のカスタマイズ
- AWS 支払い設定のカスタマイズ
- インドでの請求について設定する
- 登録販売者の検索
- 毎月の請求のベストプラクティスを確認する

ステップ 1: (前提条件) にサインアップ AWS して IAM ユーザーを作成する

を初めて使用する場合は AWS、 AWS アカウントを作成します。詳細については、「 の開始方法 AWS」を参照してください。

にサインアップする AWS アカウント

がない場合は AWS アカウント、次の手順を実行して作成します。

にサインアップするには AWS アカウント

1. https://portal.aws.amazon.com/billing/signup を開きます。
2. オンラインの手順に従います。

   サインアップ手順の一環として、通話呼び出しまたはテキストメッセージを受け取り、電話キーパッドで検証コードを入力するように求められます。

   にサインアップすると AWS アカウント、 AWS アカウントのルートユーザー が作成されます。ルートユーザーには、アカウントのすべての AWS のサービス とリソースへのアクセス権があ

ります。セキュリティベストプラクティスとして、ユーザーに管理アクセス権を割り当て、ルートユーザーアクセスが必要なタスクの実行にはルートユーザーのみを使用するようにしてください。

AWS サインアッププロセスが完了すると、 から確認メールが送信されます。https://aws.amazon.com/ の [マイアカウント] をクリックして、いつでもアカウントの現在のアクティビティを表示し、アカウントを管理することができます。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

にサインアップしたら AWS アカウント、日常的なタスクにルートユーザーを使用しないように AWS アカウントのルートユーザー、 のセキュリティを確保し AWS IAM Identity Center、 を有効にして管理ユーザーを作成します。

を保護する AWS アカウントのルートユーザー

1. ルートユーザーを選択し、 AWS アカウント E メールアドレスを入力して、アカウント所有者AWS Management Consoleとして にサインインします。次のページでパスワードを入力します。

   ルートユーザーを使用してサインインする方法については、AWS サインイン ユーザーガイドのルートユーザーとしてサインインするを参照してください。
2. ルートユーザーの多要素認証 (MFA) を有効にします。

   手順については、IAM ユーザーガイドの AWS アカウント 「ルートユーザー (コンソール) の仮想 MFA デバイスを有効にする」を参照してください。

管理アクセスを持つユーザーを作成する

1. IAM アイデンティティセンターを有効にします。

   手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「AWS IAM Identity Centerの有効化」を参照してください。
2. IAM アイデンティティセンターで、ユーザーに管理アクセスを付与します。

   を ID ソース IAM アイデンティティセンターディレクトリ として使用する方法のチュートリアルについては、「 AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「デフォルトを使用してユーザーアクセスを設定する IAM アイデンティティセンターディレクトリ」を参照してください。

管理アクセス権を持つユーザーとしてサインインする

- IAM アイデンティティセンターのユーザーとしてサインインするには、IAM アイデンティティセンターのユーザーの作成時に E メールアドレスに送信されたサインイン URL を使用します。

  IAM Identity Center ユーザーを使用してサインインする方法については、AWS サインイン「 ユーザーガイド」の AWS 「 アクセスポータルにサインインする」を参照してください。

追加のユーザーにアクセス権を割り当てる

1. IAM アイデンティティセンターで、最小特権のアクセス許可を適用するというベストプラクティスに従ったアクセス許可セットを作成します。

   手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「権限設定を作成する」を参照してください。
2. グループにユーザーを割り当て、そのグループにシングルサインオンアクセス権を割り当てます。

   手順については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「グループの結合」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化

デフォルトでは、 内の IAM ロール AWS アカウント は Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。これは、IAM ユーザーまたはロールに、特定の請求機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。ルートユーザーは、[IAM アクセスをアクティブ化] 設定を使用して、IAM ユーザーおよびロールに、Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを許可できます。

Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを提供する

1. [アカウント] ページにサインインして請求情報とコスト管理コンソール (https://console.aws.amazon.com/billing/home?#/account) を開きます。
2. [IAM ユーザーとロールの請求情報へのアクセス] の横にある、[編集] を選択します。
3. [IAM アクセス許可をアクティブ化] を選択します。
4. [更新] を選択します。

この機能の詳細については、「請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする」を参照してください。

ステップ 2: 請求情報と使用状況を確認する

Billing and Cost Management コンソールの機能を使用して、現在の AWS 料金と AWS 使用状況を表示します。

Billing and Cost Management コンソールを開いて使用量と料金を表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [Bills (請求書)] を選択して、現在の料金の詳細を参照します。
3. [支払い] を選択して、支払履歴を参照します。
4. [AWS Cost and Usage Reports] をクリックして、コストの詳細レポートを表示します。

AWS コストと使用状況レポートの設定と使用の詳細については、AWS 「 コストと使用状況レポートユーザーガイド」を参照してください。

ステップ 3: 請求書をダウンロードまたは印刷する

AWS 請求は、毎月の最終日の午前 0 時に請求期間を終了し、請求書を計算します。ほとんどの請求書は、月の 7 会計日目までにダウンロードできるようになります。

請求書をダウンロードまたは印刷するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. [Date] で、該当する請求書の月を選択します。
4. [Download CSV (CSV のダウンロード)] を選択してカンマ区切りの可変ファイルをダウンロードします。または [Print (印刷)] を選択します。

代替連絡先の追加または更新

代替連絡先を使用すると AWS 、利用できない場合でも、 はアカウントの問題について別のユーザーに連絡できます。代替の連絡先は、特定の人物である必要はありません。請求、運用、およびセ

キュリティ関連の問題を管理するチームがある場合は、代わりに E メール配布リストを追加できます。

代替連絡先の例

AWS は、以下のシナリオで各問い合わせタイプに連絡します。

- [請求] - 月次請求書が入手可能になったとき、または支払い方法を更新する必要がある場合。[E メールで PDF 版請求書を受け取る] が [請求設定] で有効になっている場合、代替の請求先も PDF 請求書を受け取ります。通知は AWS のサービス チームから送信できます。
- [オペレーション] - サービスが複数の AWS リージョン で一時的に利用できない場合、または利用できなくなる場合。また、連絡先は操作に関する通知も受信します。 AWS のサービス チームから通知が届く場合があります
- セキュリティ – セキュリティ、 AWS 信頼と安全、または AWS のサービス チームからの AWS 通知がある場合。これらの通知には、セキュリティ上の問題や、 AWS アカウント での潜在的な不正使用または不正行為が含まれることがあります。 AWS アカウント の使用状況に関するセキュリティ関連のトピックについて、 AWS のサービス チームから通知が届く場合があります。件名または氏名フィールドに機密情報を含めないでください。これは、E メールによる通信に使用される可能性があるためです。

代替アカウント連絡先の管理の詳細については、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「Alternate account contacts」を参照してください。

請求機能の詳細

Billing and Cost Management コンソールで使用できる機能について理解します。

- AWS 無料利用枠: を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)
- 支払い: Managing Your Payments
- 請求を表示する: 請求について
- AWS Cost Categories: AWS Cost Categories を使用したコストの整理
- コスト配分タグ: コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡
- AWS 発注書: Managing your purchase orders
- AWS コストと使用状況レポート: AWS コストと使用状況レポートの使用
- の使用 AWS CloudTrail: を使用した Billing and Cost Management API コールの口グ記録 AWS CloudTrail

- 一括請求 (コンソリデーティッドビリング: の請求の統合 AWS Organizations

次のステップ

これで、 AWS 請求書を表示して支払う準備ができました。このガイドの残りの部分は、コンソールを使用してジャーニーをナビゲートするのに役立ちます。

AWS コスト管理機能を使用して支出を最適化する

AWS コスト管理機能を使用してコストを予算化および予測することで、 AWS 支出を最適化し、全体的な AWS 請求額を削減できます。請求情報とコスト管理コンソールリソースを組み合わせて使用して支払いを管理し、 AWS コスト管理機能を使用して将来のコストを最適化します。

AWS コスト管理機能の詳細については、AWS 「 コスト管理ユーザーガイド」を参照してください。

請求情報とコスト管理 API を使用する

AWS Billing and Cost Management API リファレンスを使用して、いくつかの AWS コスト管理機能をプログラムで使用します。

詳細はこちら

プレゼンテーション、仮想ワークショップ、ブログ投稿などの請求機能の詳細については、「 Cloud Financial Management with AWS」のマーケティングページを参照してください。

仮想ワークショップは、[サービス] ドロップダウンリストを選択して目的の機能を選択することによって見つけることができます。

ヘルプの表示

請求機能について質問がある場合は、利用可能なリソースが多数あります。詳細については請求書と支払いに関するサポートを受けるを参照してください。

税金情報の設定

AWS Billing and Cost Management コンソールの左側のナビゲーションの「設定」と「設定」の「税設定」ページを使用できます。このページを使用して、税登録番号を管理し、税金設定継承を有効にして、税登録情報が Organizations アカウント間で調整されるようにし、免税を管理します。このページでは、Amazon S3 バケットを設定して Tax Settings API を使用する方法も示します。

納税者番号の更新と削除

1 つ以上の税登録番号を更新または削除するには、次の手順に従います。

> **Note**
>
> 国が [税金設定] ページのドロップダウンに表示されていない場合、 AWS は現時点ではその国の税登録を収集しません。

税登録番号を更新するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、編集する番号を選択します。
4. [納税登録の管理] で、[編集] を選択します。
5. 更新した情報を入力し、[更新] を選択します。

税登録番号は、1 つまたは複数削除できます。

税登録番号を削除するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、削除する納税登録番号を選択します。
4. [納税登録の管理] で、[TRN の削除] を選択します。
5. [Delete tax registration (税登録の削除)] ダイアログボックスで、[Delete (削除)] を選択します。

税設定の継承をオンにする

[税金設定の継承] を有効にすると、メンバーアカウントで納税登録情報を使用できます。有効にすると、税登録情報が他の AWS Organizations アカウントに追加されるため、冗長な情報を登録する手間が省けます。税金請求書は一貫した税金情報を使用して処理され、メンバーアカウントからの使用状況が 1 つの税金請求書にまとめられます。

メモ

- 税設定の継承は、メンバーアカウントが追加された後のアカウントでのみ使用できます。
- 税の継承をオフにすると、メンバーアカウントはアカウントの元の TRN 設定に戻ります。アカウントに TRN が設定されていなかった場合、TRN は割り当てられません。

税登録情報には、次の情報が含まれます。

- 法人の名称
- 課税住所
- 税登録番号
- 特別免除

税設定の継承を有効にするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [納税登録] で、[税金設定の継承を有効化] を選択します。
4. ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

米国の免税を管理する

お住まいの州が条件を満たしていれば、[税金設定] ページで米国での免税を管理できます。免除のためにアップロードしたドキュメントは、24 時間以内に サポート で確認されます。

Note

Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] ページにある [免税] タブを表示する IAM 許可が付与されている必要があります。
IAM ポリシーの例については、「IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する」を参照してください。

米国の免税をアップロードまたは追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. [免税] を選択します。
4. すべてのアカウントを選択して免税を追加します。[免税の管理] を選択し、[免税の追加] を選択します。
    a. 連結アカウントとしてログインしている場合は、連結アカウントにのみ免税を追加できます。
    b. 支払者アカウントとしてログインしている場合は、支払者アカウントと連結アカウントの両方に免税を追加できます。
5. 免税タイプと税務管轄区を指定します。
6. 証明書ドキュメントをアップロードします。
7. 情報を確認し、[Submit] (送信) を選択します。

24 時間以内に、 サポート はサポートケースを通じて、追加情報が必要な場合、またはいずれかのドキュメントが有効でなかった場合に通知します。

免除が承認されると、その免税は、[免税] タブに、[アクティブ] (アクティブ) の有効期間とともに表示できます。

免税が拒否された場合には、サポートケースを通じて通知があります。

Tax Settings API を使用するように Amazon S3 を設定する

Amazon S3 バケットに税文書を送信するアクセス許可が Tax Settings API に付与されるように、この手順に従います。その後、Amazon S3 バケットから税文書をダウンロードできます。この手順は、税登録文書を必要とする以下の国でのみ実行する必要があります。

- BD: バングラデシュ
- KE: ケニア
- KR: 韓国
- ES: スペイン

他のすべての国では、税登録文書を指定する必要はありません。Tax Settings API を呼び出し、リクエストに税登録文書を指定すると、API は `ValidationException` エラーメッセージを返します。

次の Tax Settings API オペレーションでは、Amazon S3 バケットへのアクセスが必要です。

- `BatchPutTaxRegistration`: Amazon S3 バケットを読み取るためのアクセスが必要です
- `PutTaxRegistration`: Amazon S3 バケットを読み取るためのアクセスが必要です
- `GetTaxRegistrationDocument`: Amazon S3 バケットに書き込むためのアクセスが必要です

Amazon S3 バケットへのリソースポリシーの追加

Tax Settings API が Amazon S3 バケット内のオブジェクトにアクセスできるようにするには、Amazon S3 バケットに次のリソースポリシーを追加します。

Example **`BatchPutTaxRegistration`** および **`PutTaxRegistration`** の場合

`DOC-EXAMPLE-BUCKET1` をバケットの名前に置き換えます。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "Allow the Tax Settings API to access objects",
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "Service": "tax.amazonaws.com"
            },
            "Action": [
                "s3:GetObject"
            ],
            "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*",
            "Condition": {
                "StringEquals": {
                    "aws:SourceArn": "arn:aws:tax:us-east-1:${AccountId}:*",
                    "aws:SourceAccount": "${AccountId}"
                }
            }
        }
    ]
```

```
}
```

Example **GetTaxRegistrationDocument** 用

amzn-s3-demo-bucket1 をバケットの名前に置き換えます。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "Allow the Tax Settings API to access objects",
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "Service": "tax.amazonaws.com"
            },
            "Action": [
                "s3:PutObject"
            ],
            "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*",
            "Condition": {
                "StringEquals": {
                    "aws:SourceArn": "arn:aws:tax:us-east-1:${AccountId}:*",
                    "aws:SourceAccount": "${AccountId}"
                }
            }
        }
    ]
}
```

> **Note**
>
> classic AWS リージョン（ aws パーティション) の場合、 は次のaws:SourceArnようになります。 arn:aws:tax:us-east-1:*{YOUR_ACCOUNT_ID}*:*
> 中国リージョン (aws-cn パーティション) の場合、aws:SourceArn は次のようになります: arn:aws-cn:tax:cn-northwest-1:*{YOUR_ACCOUNT_ID}*:*

Tax Settings API に S3 バケットへのアクセスを許可するには

1. Amazon S3 コンソールに移動してサインインします。
2. 左側のナビゲーションで [バケット] を選択し、リストからバケットを選択します。
3. [Permissions] (アクセス許可) タブをクリックし、[Bucket policy] (バケットポリシー) をクリックして、[Edit] (編集) をクリックします。
4. [ポリシー] セクションで、バケットにポリシーを追加します。
5. [Save changes] (変更の保存) を選択して、バケットにアタッチされるポリシーを保存します。

   Tax Settings がアクセスする必要がある S3 バケットを暗号化するバケットごとに繰り返します。

AWS KMS マネージドキーポリシー

S3 バケットが AWS KMS マネージドキー (SSE-KMS) で暗号化されている場合は、KMS キーに次のアクセス許可を追加します。このアクセス許可は、次の API オペレーションに必要です。

- `BatchPutTaxRegistration`
- `PutTaxRegistration`
- `GetTaxRegistrationDocument`

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Id": "key-consolepolicy-3",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "Allow the Tax Settings API to access objects",
            "Effect": "Allow",
            "Principal": {
                "Service": "tax.amazonaws.com"
            },
            "Action": [
                "kms:Decrypt",
                "kms:GenerateDataKey*"
            ],
            "Resource": "*",
```

```
            "Condition": {
                "StringEquals": {
                    "aws:SourceArn": "arn:aws:tax:us-east-1:
${YOUR_ACCOUNT_ID}:*",
                    "aws:SourceAccount": "${YOUR_ACCOUNT_ID}"
                }
            }
        }
    ]
}
```

SSE-KMS で暗号化された S3 バケット AWS KMS の へのアクセス権を税設定に付与するには

1. Amazon S3 コンソールに移動してサインインします。
2. 左側のナビゲーションで [カスタマーマネージドキー] を選択し、リストからバケットの暗号化に使用するキーを選択します。
3. [Switch to policy view] (ポリシービューへの切り替え) を選択し、[Edit] (編集) をクリック」します。
4. ポリシーセクションで、 AWS KMS ポリシーステートメントを追加します。
5. [Save changes] (変更の保存) を選択して、キーにアタッチされるポリシーを保存します。

   Tax Settings がアクセスする必要がある S3 バケットを暗号化するキーごとに繰り返します。

Billing 設定のカスタマイズ

[AWS 請求設定]ページを使用して、請求書の配信、アラート、クレジットの共有、リザーブドインスタンス (RI) と Savings Plans の共有、および請求の詳細 (レガシー) レポートを管理できます。一部のセクションでは、支払いアカウントのみが更新できます。

請求設定ページを表示するためのユーザーアクセス許可を割り当てることができます。詳細については、「きめ細かな AWS Billing アクションの使用」を参照してください。

請求設定ページには、次のセクションが含まれています。

目次

- 請求書の送付設定
  - 追加の請求書メール

- アラートの設定
- クレジット共有設定
- リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有
- 請求明細レポート (従来)

請求書の送付設定

毎月の請求書の PDF コピーを E メールで受け取ることができます。毎月の請求書は、 として登録された E メール AWS アカウントのルートユーザー と代替請求連絡先に送信されます。これらの E メールアドレスの更新については、「税金情報の設定」を参照してください。

毎月の PDF 請求書を E メールで受け取ることをオプトインまたはオプトアウトするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求書送付設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [PDF 請求書の E メールによる配信] を選択または選択解除します。
5. [Update] (更新) を選択します。

購入に応じて、 は次の連絡先に毎月または毎日請求書 AWS を送信します。

- の AWS アカウントのルートユーザー
- [支払い設定] ページの請求連絡先
- [アカウント] ページの代替請求連絡先

追加の請求書メール

PDF 請求書 E メールに加えて、 は請求書の詳細を含む月別または日次の E メールを前のセクションの連絡先リスト AWS に送信します。

> **Note**
>
> [支払い設定] ページで請求先を指定した場合、ルートユーザーには PDF 形式請求書や追加請求書がメールで届きません。

アラートの設定

AWS のサービス 使用量が使用 AWS 無料利用枠 制限に近づいたとき、または制限を超えたときに、E メールアラートを受信できます。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートの受信をオプトインまたはオプトアウトするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. AWS 無料利用枠 使用状況アラートの受信を選択またはクリアします。
5. (オプション) [アラートを受信する追加 E メールアドレス] に、ルートユーザーまたは代替請求連絡先としてまだ登録されていない E メールアドレスを入力します。
6. [Update] (更新) を選択します。

また、Amazon CloudWatch 請求アラートを使用して、請求額が指定のしきい値に達したときに E メール通知を受け取るようにすることもできます。

CloudWatch の請求アラートを受け取るには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. [CloudWatch 請求アラートを受け取る] を選択します。

> **Important**
>
> この設定は後で選択解除できません。

5. [Update] (更新) を選択します。

CloudWatch 請求アラートを管理するには、「CloudWatch ダッシュボード」を確認するか、[AWS 予算] を確認してください。詳細については、Amazon CloudWatch ユーザーガイド」の「推定 AWS 請求額をモニタリングする請求アラームを作成する」を参照してください。

クレジット共有設定

このセクションで、請求ファミリーのメンバーアカウント間でクレジット共有を有効にできます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

> **Note**
>
> このセクションは、 管理アカウント (支払者アカウント) の一部としてのみ使用できます AWS Organizations。

メンバーアカウントのクレジット共有を管理するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [クレジットの共有設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [Update] (更新) を選択します。

> **Tip**
>
> - 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
> - クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

AWS クレジットの詳細については、「」を参照してくださいAWS クレジットの適用。

リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有

このセクションを使用して、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を請求ファミリーのアカウント間で共有することができます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

Savings Plans の割引を共有するには、Savings Plans 所有者アカウントが RI および Savings Plans の割引共有設定でアクティブである必要があります。これにより、組織内の他の対象となる連結アカウントでの割引の使用が可能になります。

> **Note**
>
> このセクションは、 管理アカウント (支払者アカウント) の一部としてのみ使用できます AWS Organizations。

メンバーアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有を管理するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のディスカウント共有] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのディスカウント共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのディスカウント共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [Update] (更新) を選択します。

> **Tip**
>
> - 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。

- クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

請求明細レポート (従来)

AWS コストと使用状況レポートのコンソールページ以外で提供されるレガシー請求レポートを受け取ることができます。ただし、最も包括的な請求情報が提供されるため、代わりに AWS コストと使用状況レポートを使用することを強くお勧めします。また、これらの従来のレポート方法は後日サポートされなくなります。

詳細な請求レポートについては、「AWS コストと使用状況レポートユーザーガイド」の「詳細な請求レポート」を参照してください。

レポートを AWS コストと使用状況レポートに転送する方法の詳細については、「請求明細レポートから AWS コストと使用状況レポートへの移行」を参照してください。

メモ

- このセクションは、 AWS Organizationsを使用する場合にのみ表示されます。
- 請求書ページから CSV をダウンロードするには、まず月次レポートを有効にします。

請求詳細レポート (従来) 設定を編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求詳細レポート (従来)] セクションで、[編集] を選択します。
4. Amazon S3 バケットをレポート配信用に設定するには、[Amazon S3 への従来レポート配信] を選択し、[設定] を選択します。
5. Amazon S3バケットを設定する」セクションで、既存の Amazon S3 バケットを選択して AWS コストと使用状況レポートを受け取るか、新しいバケットを作成します。
6. [Update] (更新) を選択します。
7. AWS 使用状況を表示するようにレポートの詳細度を設定するには、アクティブ化するレポートを選択します。

8. [レポートの有効化] セクションで、[有効化] を選択します。

AWS 支払い設定のカスタマイズ

AWS Billing and Cost Management コンソールの Payment preferences ページを使用して、すべての支払いタイプに対して次のタスクを実行できます。

トピック

- 支払い方法の表示
- デフォルトの支払い方法を指定する
- 支払い方法の削除
- 請求の支払い通貨の変更
- 追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

AWS のサービス プロバイダー (「SOR」、「登録販売者」) によって整理された承認された支払い方法のリストについては、「 ナレッジセンター」の「What payment methods does AWS accept?」を参照してください。

サポートされている通貨の完全なリストについては、AWS 「現在サポートされている通貨」を参照してください。

> メモ
>
> - IAM ユーザーは、請求コンソールの一部のページにアクセスするために明示的なアクセス許可が必要です。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。
> - [お支払いの詳細設定] ページを使用して、クレジットカードや銀行デビット口座を管理することもできます。詳細については、クレジットカードと ACH 口座振替の管理およびACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理するを参照してください。

支払い方法の表示

アカウントに関連付けられた支払い方法を表示するには、コンソールを使用できます。

AWS アカウントに関連付けられた支払い方法を表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、 AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://www.com で開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

に関連付けられている支払い方法は、「支払い方法」セクションに一覧表示 AWS アカウント されます。

デフォルトの支払い方法を指定する

コンソールを使用して、 AWS アカウントのデフォルトの支払い方法を指定できます。

複数の AWS サービスプロバイダー (登録販売者または SOR) から請求書を受け取った場合は、支払いプロファイルを使用して、それぞれに一意の支払い方法を割り当てます。詳細については、「支払いプロファイルの使用」を参照してください。

デフォルトの支払い方法を指定するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/.com で開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   に関連付けられている支払い方法は、「支払い方法」セクションに一覧表示 AWS アカウント されます。
3. デフォルトで使用する支払い方法の横にある、[Set as default] (デフォルトとして設定) を選択します。

> **Note**
>
> 支払い方法によっては、さらなる情報やアクションが必要になる場合があります。さらなるアクションには、税登録情報の入力や、対応する支払い通貨の選択などがあります。

支払い方法の削除

コンソールを使用して、アカウントから支払い方法を削除できます。

AWS アカウントから支払い方法を削除するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://https://https://https://https://https://https
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. アカウントにそのほかのお支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認します。
4. 削除する支払い方法を選択し、[Delete] (削除) を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

請求の支払い通貨の変更

請求のお支払いに使用する通貨を変更 (たとえば、デンマーククローネから南アフリカランドへ) するには、以下の手順を実行します。でサポートされている通貨の完全なリストについては AWS、AWS ナレッジセンターのAWS 「現在サポートされている通貨」を参照してください。

アカウントに関連付けられた現地通貨を変更するには

1. にサインイン AWS Management Console し、 AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://www.com で開きます。
2. 右上隅のナビゲーションバーで、アカウント名 (またはエイリアス) を選択し、アカウント を選択します。
3. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
4. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
5. [Payment currency] (支払い通貨) セクションで、支払い通貨を選択します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

複数の AWS のサービス プロバイダー (「SOR」、「レコード販売者」) から請求書を受け取った場合は、使用する各通貨を指定する支払いプロファイルを AWS のサービス プロバイダーごとに作成できます。詳細については、「支払いプロファイルの使用」を参照してください。

追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

AWS アカウントに影響する請求関連の項目について別の担当者に問い合わせるには、追加の請求連絡先を利用します。追加の請求連絡先は、ルートアカウント連絡先および代替の請求連絡先と共に、請求イベントに関する連絡を受けます。

> メモ
>
> - 支払い方法としてクレジットカードまたはデビットカードを使用する場合は、「代替連絡先の追加または更新」を参照してください。
> - 支払い方法として請求書払いの場合は、次の手順でメールを受信する請求連絡先を追加できます。

アカウントに追加の請求連絡先を設定するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://https://https://https://https://https://https
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. 請求連絡先 E メールには、請求関連の E メール通知 AWS を送信する追加の請求連絡先 E メールメッセージを入力します。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

インドでの請求について設定する

新しいアカウントにサインアップし、連絡先と請求先住所にインドを選択した場合、ユーザー契約はインドの現地 AWS 販売者である Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) と締結されます。 AWS インドは請求を管理し、請求書の合計はドルではなくルピーで表示されます。

目次

- AWS インドにサインアップする
- AWS India アカウントの管理
  - Permanent Account Number を追加または編集する

- 複数の Permanent Account Number を編集する
- 複数の Goods and Service Tax 番号を編集する
- 税金請求書を表示する
- AWS インドとの間で登録販売者を変更する

AWS インドにサインアップする

AWS India は、インドの の現地販売 AWS 者です。 AWS India アカウントにサインアップするには、「 AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「Manage accounts in India」を参照してください。

AWS India アカウントの管理

[アカウント設定] ページを使用して、次のタスクを実行します。

- カスタマー検証の作成と編集
- 顧客確認の管理
- ユーザー名、パスワード、または E メールアドレスを編集する
- 代替の連絡先を追加、更新、または削除する
- 連絡先情報を編集する

これらのタスクの詳細については、「 AWS アカウント管理 リファレンスガイド」のAWS 「インドアカウントの管理」を参照してください。

Billing and Cost Management コンソールの [税金設定] ページを使用して、次のタスクを実行します。

- Permanent Account Number を追加または編集する
- 複数の Permanent Account Number を編集する
- 複数の Goods and Service Tax 番号を編集する
- 税金請求書を表示する

Permanent Account Number を追加または編集する

Permanent Account Number (PAN) をアカウントに追加して編集できます。

PAN を追加または編集するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Tax Settings] ナビゲーションバーで、[Edit] を選択します。
4. [Permanent Account Number (PAN)] に PAN を入力し、[Update] を選択します。

複数の Permanent Account Number を編集する

アカウントで、複数の Permanent Account Number (PAN) を編集することができます。

複数の PAN 番号を編集するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Manage Tax Registration Numbers (税登録番号の管理)] で、編集する PAN 番号を選択します。
4. [Manage Tax Registration (税登録の管理)] で、[Edit (編集)] を選択します。
5. 変更するフィールドを更新し、[Update (更新)] を選択します。

複数の Goods and Service Tax 番号を編集する

アカウントで、複数の Goods and Service Tax 番号 (GST) を編集することができます。

複数の GST 番号を編集するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. [Manage Tax Registration Numbers (税登録番号の管理)] で、編集する GST 番号、または [Edit all (すべて編集)] を選択します。
4. [Manage Tax Registration (税登録の管理)] で、[Edit (編集)] を選択します。
5. 変更するフィールドを更新し、[Update (更新)] を選択します。

税金請求書を表示する

コンソールで税金請求書を表示することができます。

税金請求書を表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. 下にスクロールし、[請求書] タブを選択します。
4. [税金請求書] セクションで、[ドキュメント ID] に記載されている請求書のリンクを選択します。

> **Note**
>
> [税金請求書] セクションは、利用可能な税金請求書がある場合にのみ表示されます。

AWS インドとの間で登録販売者を変更する

の出 AWS アカウント 品者 (SOR) を別の SOR AWS アカウント に変更するには、請求情報または税金情報を更新します。これは、機能が利用できないレガシーモデルで AWS India アカウントが運用されている場合には適用されません。 AWS アカウント 請求または税金の詳細で国または地域を編集すると、新しいロケーションのサービスプロバイダーが現在のロケーションと異なる場合、アカウントの SOR が自動的に変更されます。

アカウントを AWS インドとの間で変更する場合、請求書または送金に設定されている場合、デフォルトの支払い方法を更新する必要はありません。デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードの場合は、デフォルトの支払いカードの詳細を再確認する必要があります。これは、支払い方法が AWS インド以外のトランザクションとは別に保存されるようにするためです。詳細については、「India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示」を参照してください。

> **Note**
>
> デフォルトの支払い方法としてクレジットカードまたはデビットカードを使用する AWS India アカウントがあり、自動支払い用に e-mandate を設定している場合は、デフォルトの支払い設定を編集する前に e-mandate を無効にする必要があります。

の SOR を変更するには AWS アカウント、次のオプションを使用してこの情報を編集します。

To change the SOR using billing information

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、支払い設定を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. 新しい請求先住所を入力します。
5. Payment currency セクションで、新しい SOR の受け入れ可能な通貨のリストからデフォルト通貨を選択します。
6. (デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードの場合) 支払い方法の確認セクションで、デフォルトの支払いカードの詳細を再入力して、新しいサービスプロバイダーでの使用を確認します。

   新しい SOR でデフォルトカードを変更するには、後でカードを追加し、デフォルトの支払い方法設定を変更します。
7. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

数分後、更新された SOR を含む変更が支払い設定ページに表示されます。

To change the SOR using billing and tax information

アカウントを別の SOR に移動するには、アカウントに関連付けられた税登録番号 (TRN) を更新し、新しい有効な TRN を指定する必要があります。アカウントに関連付けられた TRN を削除することもできます。アカウントの新しい SOR は、新しい納税者住所の国と現在の請求先住所に基づいて、可用性と優先度の順に自動的に解決されます。アカウントの SOR が変更されると、アカウントが AWS インドに出入りしていることが通知されます。

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Tax Settings] を選択します。
3. アカウントを選択し、税登録の管理を選択し、編集、すべて編集、または TRN の削除を選択します。
4. (デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードの場合) ナビゲーションペインで、支払い設定を選択します。

5. 支払い方法の追加を選択して、デフォルトの支払いカードの詳細を再入力するか、新しい支払いカードを追加します。
6. カードを保存したら、デフォルトとして設定を選択します。

デフォルトの支払い設定セクションは、以前のデフォルトの支払い方法が新しい SOR で使用できないことを警告します。このアラートの支払いカードを追加した後、ページを更新して非表示にします。

前述の手順を使用して SOR を変更できない場合、アカウントは、機能が利用できないレガシーモデルで動作している可能性があります。現在、 AWS インドのアカウントをレガシーモデルから、この機能が利用可能な新しいモデルに移行しています。完了予定日は 2025 年 12 月です。

登録販売者の検索

AWS は、顧客をサポートするために定期的に事業構造を見直します。 は、再販する管轄区域 (国) 内に設立された現地事業体である登録販売者 (SOR) AWS を作成します AWS のサービス。現地の SOR は、現地の法律および規制の対象となります。SOR は現地のお客様との契約当事者となるため、お客様は現地の事業体から請求を受け、支払いを送金することができます。にサインアップすると AWS アカウント、請求情報と連絡先情報に基づいて SOR が自動的にアカウントに割り当てられます。

アカウントの SOR を見つけるには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [支払い設定] を選択し、デフォルトのお支払い方法の下にある [サービスプロバイダー] の下の名前を確認します。
3. この情報は、[税金設定] ページの [販売者] 列でも確認できます。

「アカウント」ページと「支払い設定」ページで、連絡先情報、郵送先住所、請求先住所が最新であることを確認することをお勧めします。

ビジネスアカウントをお持ちの場合は、支払者アカウントとメンバー (連結) アカウントの [税金設定] ページで税務情報が正しいことを確認します。

AWS はこの情報を使用して、希望する支払い通貨、税設定、会社の正式名称、住所などの適切なヘッダー情報を含む請求書を準備して発行します。詳細については、「毎月の請求のベストプラクティスを確認する」を参照してください。

現在の SOR

この表を使用して、以下の国の SOR を検索してください。

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
オーストラリア	Amazon Web Services オーストラリア株式会社 (ABN: 63 605 345 891)	レベル 37、2-26 パークストリート、ニューサウスウェールズ州シドニー、2000、オーストラリア
ブラジル	Amazon AWS Serviços Brasil Ltda。	A. プレジデンテ・ジュセリーノ・クビシェック、2.041、トーレE-18階と19階、ヴィラ・ノバ・コンセイサオ、サンパウロ、ブラジル
カナダ	Amazon Web Services カナダ株式会社	120 Bremner Blvd、26階、オンタリオ州トロント、M5J 0A8、カナダ
インド	Amazon Web Services インディアプライベートリミテッド (旧アマゾンインターネットサービスプライベートリミテッド)	ユニット番号 1401 ~ 1421 インターナショナルトレードタワー、ネループレイス、デリー 110019、インド
日本	Amazon Web Services 日本合同会社	〒141-0021東京都品川区上大崎三丁目1-1
マレーシア	Amazon Web Servicesマレーシア Sdn Bhd. (登録番号 201501028710 (1154031-W))	26階と35階、ザ・ガーデンズ・ノースタワー、リンカラン・サイード・プトラ、ミッ

アカウントの国/地域	AWS SOR	郵送先住所
		ドバレーシティ、クアラルンプール、59200、マレーシア
ニュージーランド	Amazon Web Servicesニュージーランド有限会社	レベル 5、18 ヴァイアダクト・ハーバー・アベニュー、オークランド、1010、ニュージーランド
シンガポール	Amazon Web Services Singapore Private Limited	23 チャーチストリート、#10-01、シンガポール 049481
南アフリカ	Amazon Web Services South Africa Proprietary Limited	ウェンブリー・スクエア 2、134 ソラン・ロード、ガーデンズ、ケープタウン、8001、南アフリカ
韓国	Amazon Web Services Korea LLC	〒06142大韓民国ソウル市江南区テヘラン路 231 イーストタワー L12
トルコ	Amazon Web Services Turkey Pazarlama, Teknoloji ve Danışmanlık Hizmetleri Limited Şirketi	Esentepe Mahallesi Bahar Sk. Özdilek/River Plaza/Wyndham Grand Hotel Apt. No: 13/52 Şişli/İstanbul, Turkey
EMEA — ヨーロッパ、中東、またはアフリカ内のあらゆる国 (南アフリカとトルコを除く)	Amazon Web Services EMEA SARL	38 アベニュー・ジョン・F・ケネディ、L-1855、ルクセンブルク
この表に記載されていないその他すべての国	Amazon Web Services, Inc.	米国ワシントン州シアトルテリーアベニューノース 410番地 98109-5210

関連リソース

がアカウントの場所 AWS を決定する方法の詳細については、「 がアカウントの場所 AWS を決定する方法」を参照してください。

SOR について質問がある場合は、アカウントと請求に関するサポートケースを作成し、「その他の請求に関する質問」オプションを指定します。

税務ヘルプの詳細については、「Amazonウェブ サービス税務ヘルプ」を参照してください。

AWS カスタマーアグリーメントの詳細については、「 AWS カスタマーアグリーメント」を参照してください。

毎月の請求のベストプラクティスを確認する

AWS は、 AWS Billing and Cost Management コンソールで指定した情報を使用して、希望する支払い通貨、税設定、会社の正式名称、住所など、適切なヘッダー情報を含む請求書を準備して発行します。

この情報がないか不正確である場合、使用または処理できない不正確な請求書を発行 AWS する可能性があります。

1 か月の請求期間が終了するときは、事前にこちらのチェックリストを使って請求書を確認し、AWS アカウントの情報が最新のものであることを確認します (所要時間 10 分)。

目次

- 発注書の残高と有効期限を確認する
- 税金の設定を確認する
- 税金設定の継承を有効にする
- 請求連絡先情報を更新する
- 支払い通貨を確認する

発注書の残高と有効期限を確認する

調達から支払いまでのプロセスの一環として、発注書を使って AWS のサービス を調達し、支払いの請求書を承認することが可能です。請求や支払いの問題が発生することを避けるため、発注書の有効期限が切れていないか、あるいは残高が不足していないかを確認します。

発注書の残高と有効期限を確認するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールの発注書ページに移動します。発注書のダッシュボードには、発注書のステータスが表示されています。
2. 発注書を選択して、[購入の詳細] ページを参照します。
3. 発注書の [残高] と [有効期限] のフィールドを確認します。

> **Tip**
>
> - E メール通知を設定しておくと、発注書の有効期限が切れたり残高が不足したりすることに前もって対応できます。詳細については、「発注所の通知を有効にする」を参照してください。
> - 発注書を追加して請求書で使用する方法については、「発注書を追加する」を参照してください。

税金の設定を確認する

課税上の目的でアカウントの場所を決定するために、 は、アカウントに関連付けられた税登録番号 (TRN) と会社の法人住所 AWS を使用します。TRN は、付加価値税 (VAT) 番号、VAT ID、VAT 登録番号、事業者登録番号とも呼ばれます。

税金の設定を確認するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] のページに進みます。
2. [納税登録] タブの下で、編集するアカウント ID を選択します。
3. [納税登録の管理] で [編集] を選択します。
4. 更新した情報を入力し、[更新] を選択します。

詳細については、「納税者番号の更新と削除」を参照してください。

税金設定の継承を有効にする

管理アカウントと の一部であるメンバーアカウントは、異なる TRNsまたは同じ TRN を持つ AWS Organizations ことができます。組織でメンバーアカウントに異なる TRN を使用する必要がある場合を除き、税金設定の継承は有効にしておくことが推奨されます。

管理アカウントからこの設定を有効にすると、税登録情報は組織内のメンバーアカウントに追加されます。これにより、個々のアカウントにこの情報を入力する手間を省くことができます。税金請求書は一貫した税金情報を使用して処理され、メンバーアカウントによる使用は、1 つの税金請求書に統合されます。

税金設定の継承を有効にするには

1. Billing and Cost Management コンソールの [課税設定] のページに進みます。
2. [納税登録] で、[税金設定の継承を有効化] を選択します。
3. ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

米国での税控除に必要な、書類の管理方法については、「米国の免税を管理する」を参照してください。

請求連絡先情報を更新する

請求連絡先情報が正しいことを確認します。 は、これらの連絡先 AWS を使用して、請求または支払い関連の通信についてお客様に連絡します。請求連絡先は、次の 2 つのページから追加できます。

- [お支払いの詳細設定] のページ
- [アカウント] のページ

お支払いの詳細設定のページから請求連絡先を追加するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] のページに進みます。
2. 「デフォルトの支払い設定」セクションの「請求連絡先の E メール」フィールドを確認してください。 は、請求または支払い関連の通信にこの連絡先 AWS を使用します。
3. [編集] を選択します。
4. 請求連絡先 E メール - オプション フィールドに、請求関連の E メール通知、支払いリマインダー、および支払いサポート通知 AWS を送信する E メールアドレスを入力します。メールアドレスは 15 件まで追加できます。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

代替連絡先を追加して、 がアカウントに関する問題について連絡するための代替 E メールアドレス AWS を持つようにすることができます AWS アカウントのルートユーザー 。代替連絡先には、請求

書を受け取るメールアドレスを指定できます。代替連絡先には、請求、請求書、支払いの問題 AWS について と通信する権限が与えられます。

代替の連絡先は、特定の人物である必要はありません。例えば、組織内に請求、オペレーション、セキュリティ関連問題を管理するチームがいる場合は E メール配布リストを追加できます。

アカウントページから代替連絡先情報を更新するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [アカウント] ページに進み、下の [代替連絡先] セクションまでスクロールします。
2. [請求] フィールドで連絡先情報を確認し、請求書を受け取るメールアドレスを確認します。

代替連絡先の使い方については、「代替連絡先の追加または更新」を参照してください。

支払い通貨を確認する

支払い通貨とは、デフォルトの支払い方法に適用される通貨のことです。デフォルトのサービスプロバイダーの請求書に表示される通貨もこの支払い通過です。組織によっては間違った通貨で発行された請求書は処理できないため、支払い通貨が正確であるか確認しておくことは重要です。

支払い通貨を確認するには

1. Billing and Cost Management コンソールの [お支払いの詳細設定] に進みます。
2. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
3. [支払い通貨] のセクションで、[デフォルトの支払い通貨] が正しい通貨であることを確認します。

支払い方法の詳細については、「クレジットカードと ACH 口座振替の管理」を参照してください。

請求書と支払いに関するサポートを受ける

AWS Billing and Cost Management コンソールのツール、料金、お支払い方法についてご質問がある場合は、さまざまなリソースを利用できます。 AWS 請求書に関する問い合わせや要請がある場合は、アソシエイトが直接サポート サポート できるように、 でケースを開くことをお勧めします。

トピック

- AWS ナレッジセンター
- へのお問い合わせ サポート
- 請求対象の使用状況の確認
- 無料利用枠の使用量のモニタリング
- の閉鎖 AWS アカウント

AWS ナレッジセンター

すべての AWS アカウント所有者は、アカウントと請求のサポートに無料でアクセスできます。AWS ナレッジセンターにアクセスして、質問に対する回答をすばやく見つけることができます。

質問またはリクエストを検索するには

1. AWS ナレッジセンターを開きます。
2. [Billing Management] を選択します。
3. トピックのリストをスキャンして、類似する質問を見つけます。

へのお問い合わせ サポート

への問い合わせ サポート は、 AWS 質問についてアソシエイトと通信するための最も迅速かつ直接的な方法です。 は、サポート担当者に連絡するための直接電話番号を発行 サポート しません。次のプロセスを使用して、アソシエイトに電子メールまたは電話で連絡をしてもらうことができます。

個別の技術サポートのみがサポートプランを必要とします。詳細については、「サポート」を参照してください。

About: Account and Billing Support を指定する サポート ケースを開くには、ルートアカウントの所有者 AWS としてサインインするか、サポートケースを開くための IAM アクセス許可が必要です。詳細については、「サポート User Guide」の「Accessing サポート」を参照してください。

AWS アカウントを閉鎖した場合でも、 にサインイン サポート して過去の請求書を表示できます。

に問い合わせるには サポート

1. サインインして サポート センターに移動します。プロンプトが表示されたら、ご利用のアカウントのメールアドレスとパスワードを入力します。
2. [ケースを作成] を選択します。
3. [Open case (ケースを開く)] ページで、[Account and Billing Support (アカウントと請求のサポート)] を選択し、フォームの必須フィールドに入力します。
4. フォームに入力したら、問い合わせオプションで、E メールの応答にウェブを選択するか、電話を選択して サポート 担当者からの電話をリクエストします。インスタントメッセージは、請求に関するお問い合わせにはご利用いただけません。

にサインインできない場合に に連絡する サポート には AWS

1. パスワードを回復するか、[AWS アカウント サポート] でフォームを送信します。。
2. [リクエスト情報] セクションで照会タイプを選択します。
3. [お問い合わせ内容をご記入ください。]セクションに入力してください。
4. [Submit] を選択してください。

請求対象の使用状況の確認

請求金額に対する使用状況を確認する場合は、Cost Explorer を有効にして自分で使用状況を確認することができます。このツールを使用すると、事前に作成されたレポートとグラフが提供されて、コストを詳細に分析できます。

Cost Explorer は、この機能を有効にしてから 24 時間使用できます。

Cost Explorer の詳細については、AWS Cost Explorer を使用したコストの分析」を参照してください。

無料利用枠の使用量のモニタリング

AWS 無料利用枠の使用状況を追跡して、無料利用枠の制限を維持できます。無料利用枠の制限がしきい値に達したときに AWS アカウントにアラートを設定し、請求情報とコスト管理コンソールを使用して使用状況をモニタリングできます。

これらの機能の使用の詳細については、「を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)」を参照してください。

無料利用枠の制限を超えて請求された使用状況の詳細については、「請求対象の使用状況の確認」セクションを参照してください。

の閉鎖 AWS アカウント

の閉鎖の詳細については AWS アカウント、「 AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「アカウントを閉じる」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management ホームページの使用

請求情報とコスト管理のホームページを使用して、 AWS クラウド財務管理データの概要を確認し、より迅速かつ情報に基づいた意思決定を行うことができます。コストの大まかな傾向と要因を理解し、注意が必要な異常値や予算超過を迅速に特定し、推奨アクションを検討し、コスト配分範囲を把握し、節約の機会を特定します。

このページのデータは から取得されます AWS Cost Explorer。以前に Cost Explorer を使用したことがない場合、このページにアクセスすると自動的に有効になります。このページに新しいデータが表示されるまでに最大 24 時間かかります。データは、利用可能な場合 24 時間ごとに一度以上更新されます。ホームページの Cost Explorer データは、分析目的に合わせて調整されています。つまり、データの AWS のサービスへのグループ分け方法、割引、クレジット、返金、税金の表示方法の違い、当月における推定請求額のタイミングの違い、四捨五入により、データが請求書や [請求] ページと異なる場合があります。

詳細については、「Billing および Cost Explorer データの違いを知る」を参照してください。

AWS クラウド 財務管理の詳細については、 AWS Billing and Cost Management コンソールの「開始方法」ページを参照してください。トピックを選択してから、特定のコンソールページまたはドキュメントのリンクを使用することができます。

Billing and Cost Management ウィジェットの管理

ウィジェットを移動またはサイズ変更することで、ウィジェットの表示方法をカスタマイズできます。

Billing and Cost Management ウィジェットを管理する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. (オプション) Billing and Cost Management ホームページをカスタマイズするには、ウィジェットをドラッグアンドドロップで移動するか、ウィジェットのサイズを変更します。
3. 各推奨事項に基づいてアクションを実行したり、詳細を確認したりするには、ウィジェット内のデータを確認し、ウィジェット内のリンク先に移動します。
4. レイアウトをリセットするには、[レイアウトをリセット] を選択し、[リセット] を選択します。

以下のウィジェットを使用できます。

- コスト概要
- コストモニター
- コストの内訳
- 推奨されるアクション
- コスト削減の機会
- トップトレンド

コスト概要

コスト概要ウィジェットでは、前月の支出と比較した現在のコスト傾向を簡単に確認できます。

[請求] ページで当月の推定請求額を表示するには、[請求書を表示] を選択します。

コスト概要ウィジェットに表示されるすべての指標には、クレジットと返金は含まれていません。つまり、ホームページには、[請求] ページや請求書とは異なる数値が表示される場合があります。ウィジェットには以下の指標が表示され、Cost Explorer で表示するように選択できます。

- [今月の初めから今日までのコスト] — 当月の推定コストです。このトレンド指標は、当月のコストを同じ期間の前月のコストと比較します。
- [同期間の前月のコスト] — 同じ期間の前月のコストです。例えば、今日が 2 月 15 日の場合、ウィジェットには 1 月 1 ~ 15 日までの前月のコストも表示されます。

> **Note**
>
> トレンドの計算は、各月の日数によって影響を受ける場合があります。例えば、7 月 31 日のトレンド指標は 7 月 1 ~ 31 日までのコストを調べ、6 月 1 ~ 30 日のコストと比較します。

- [当月の予測コストの合計] — 当月の推定総コストの予測です。
- [前月のコストの合計] — 前月の総コストです。詳細については、各指標を選択して Cost Explorer でコストを表示するか、[請求書を表示] を選択して、[請求] ページで当月の推定請求額を確認してください。

> **Note**
>
> このウィジェットの指標には、クレジットと返金は含まれていません。ここに表示されるコストは、[請求] ページや請求書に記載されているコストと異なる場合があります。

Cost Explorer へのアクセスの詳細については、「Cost Explorer で予測する」を参照してください。

コストモニター

このウィジェットは、コストと使用状況の予算、および が AWS 検出したコスト異常をすばやく表示し、修正できるようにします。

- [予算状況] — コストと使用量の予算のいずれかが超過した場合に警告します。

  ステータスは以下のようになります。

- [OK] — コストと使用量の予算を超えていません。
- [予算超過] — コストと使用量の予算を超えています。実際のコストが 100% より大きくなっています。超過した予算の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — コストと使用量の予算をまだ作成していません。

ステータスインジケーターを選択して [予算] ページに移動し、各予算の詳細を確認するか、予算を作成します。予算ステータスインジケーターには、コストと使用予算に関する情報のみが表示されます。カバレッジ、Savings Plans の利用状況、予約状況を追跡するために作成した予算は、このウィジェットには表示されません。コスト異常ステータスは、現在の月の最初の日以降に がコストの異常 AWS を検出した場合に警告します。ステータスは以下のようになります。

- [OK] — 当月のコスト異常は検出されていません。
- [異常検出] — コスト異常が検出されました。検出された異常の数と警告アイコンが表示されます。
- [セットアップが必要です] — 異常検出モニターはまだ作成されていません。

ステータスインジケーターを選択して [コスト異常検出] ページに移動し、検出された各異常の詳細を確認するか、異常検出モニターを作成します。コスト異常ステータスインジケーターには、当月に

検出されたコスト異常に関する情報のみが表示されます。すべての異常履歴を表示するには、[コスト異常検出] ページにアクセスしてください。

予算の詳細については、「 によるコストの管理 AWS Budgets」を参照してください。

異常検出モニターの詳細については、「AWS 異常検出で異常な使用料を検出する」を参照してください。

コストの内訳

このウィジェットでは過去 6 か月間のコストの内訳が表示されるため、コストの傾向と要因を把握できます。コストの内訳については、ドロップダウンリストからオプションを選択してください。

- サービス
- AWS リージョン
- メンバーアカウント (AWS Organizations 管理アカウント用)
- コスト配分タグ
- コストカテゴリ

コストカテゴリまたはコスト配分タグキーを選択した場合は、グラフにカーソルを合わせると値が表示されます。

コストと使用状況を詳しく調べるには、[Cost Explorer でコストを分析] を選択します。Cost Explorer を使用すると、アベイラビリティーゾーン、インスタンスタイプ、データベースエンジンなどのディメンションを追加して、コストと使用状況を視覚化、グループ化、フィルタリングできます。

Cost Explorer の詳細については、「Cost Explorer を使用してデータを探索する」を参照してください。

推奨されるアクション

このウィジェットは、 AWS クラウド財務管理のベストプラクティスを実装し、コストを最適化するのに役立ちます。

推奨されるアクションウィジェットを使用する

1. それぞれの推奨事項については、リンクをクリックしてアカウントに対するアクションを実行してください。デフォルトでは、ウィジェットは推奨されるアクションを 7 つまで表示します。

2. その他の推奨アクションを読み込むには、[さらにアクションを読み込む] を選択します。
3. 特定の推奨事項を却下するには、右上隅の [X] アイコンを選択します。

> **Note**
>
> 各レコメンデーション AWS のサービス を示す へのアクセス許可がない場合、アクセス拒否エラーが表示されます。例えば、`budgets:DescribeBudgets` を除くすべての Billing and Cost Management アクションにアクセスできる場合は、予算を除くすべての推奨事項をページに表示できます。不足している IAM アクションをポリシーに追加することについてのエラーメッセージを参照してください。

このウィジェットには以下の推奨事項が表示されます。

予算

このウィジェットは、以下の例のように、注意が必要な予算がある場合に推奨事項を表示します。

- コストと使用量の予算を超えている、または超過すると予測されている場合
- Savings Plans、予約のカバレッジ、利用率が定義された予算基準を下回った場合
- カスタム予算アラートのしきい値を超えた場合

コストモニターウィジェットとは異なり、このウィジェットには以下に関連する情報が表示されます。

- 超過すると予測されているが、まだ超過していない予算
- 警戒状態にあるが、まだ超過していない予算
- Savings Plans または予約の利用とカバレッジ予算

コスト異常検出

このウィジェットには、注意が必要な異常が検出された場合の推奨事項が表示されます。コストモニターウィジェットとは異なり、このウィジェットには、過去 90 日間に検出された、コストへの影響総額が 100 USD を超え、影響率が 40% を超えるコスト異常が表示されます。

コスト最適化

このウィジェットは、次の理由による推奨事項を表示します。

- コスト効率を向上させ、 AWS 請求額を削減するのに役立ちます。推定削減額の合計が前月のコストの 5% 以上 AWS Cost Optimization Hub になると、 からのレコメンデーションが表示されます。
- 十分に活用されていない Savings Plans や予約を確認するため
- 今後 30 日以内に有効期限が切れる Savings Plans または予約を更新するため

AWS 無料利用枠

このウィジェットには、使用量がいずれかのサービスに設定された無料利用枠使用制限の 85% を超えた場合の推奨事項が表示されます。

入門

このウィジェットは、次のような AWS クラウド財務管理のベストプラクティスを実装するための推奨事項を示しています。

- 支出を追跡、管理するための予算を作成する
- 有効な Savings Plans はあるが、Savings Plans の予算を作成していない
- リザーブドインスタンスの契約はあるが、リザーブドインスタンス予算を作成していない
- 適切なユーザーが からの通信を受信できるように、代替請求連絡先を追加します。 AWS
- コスト異常モニターを設定していない

関連リソース

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- AWS Budgetsを使用したコストの管理
- AWS コスト異常検出で異常な支出を検出する
- Cost Optimization Hub
- AWS 無料利用枠の使用
- 追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定

コスト配分カバレッジ

組織内でコストを可視化し、説明責任を果たすには、チーム、アプリケーション、環境、またはその他の面にコストを配分することが重要です。このウィジェットには、コストカテゴリとコスト配分タ

グに未割り当てのコストが表示されるため、コストを整理するためのアクションを取るべき部分がわかります。

コスト配分カバレッジは、作成したコストカテゴリまたはコスト配分タグキーに値が割り当てられていないコストの割合として定義されます。

Example 例

- 今月の支出額は 100 USD で、コストを個々のチームごとに整理するためのコストカテゴリ (「チーム」という名前) を作成しました。
- チーム A のコストカテゴリの値は 40 USD、チーム B のコストカテゴリの値は 35 USD です。また未割り当ての 25 USD があります。
- この場合、コスト配分カバレッジは 25/100 = 25% です。

未配分コスト指標が低いということは、コストは組織にとって重要な側面に沿って適切に配分されているということです。詳細については、「リソースのタグ付けのベストプラクティス」ホワイトペーパーの「コスト配分戦略の構築」を参照してください。 AWS

このウィジェットは、当月の直近の未割り当てコスト率を前月のすべての未割り当てコスト率と比較します。このウィジェットには、最大 5 つのコスト配分タグキーまたは 5 つのコストカテゴリが表示されます。コスト配分タグキーまたはコストカテゴリのいずれかが 5 つを超える場合は、ウィジェットの設定を使用して必要なものを指定してください。

Cost Explorer を使用して未割り当てのコストをより詳細に分析するには、コストカテゴリまたはコスト配分名を選択します。

コストカテゴリまたはコスト配分タグのコスト配分カバレッジを向上させるには、 AWS タグエディタを使用してコストカテゴリルールを編集したり、リソースのタグ付けを改善したりできます。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- コストカテゴリによる AWS コストの管理
- AWS コスト配分タグの使用
- Using Tag Editor

コスト削減の機会

このウィジェットには、コストと AWS の請求額の削減に役立つ Cost Optimization Hub からの推奨事項が表示されます。これには次が含まれる場合があります。

- 未使用のリソースを削除する
- 過剰にプロビジョニングされたリソースを適切なサイズに調整する
- Savings Plans を購入または予約する

削減の機会ごとに、ウィジェットには毎月の推定削減額が表示されます。推定削減額は重複せず、推奨される削減機会ごとに自動的に調整されます。

Example 例

- *###### A* と*###### B* の 2 つの Amazon EC2 インスタンスがあるとします。
- Savings Plans を購入した場合、*###### A* のコストを 20 USD、*###### B* のコストを 10 USD 削減できるため、合計 30 USD の削減になります。
- ただし、*###### B* がアイドル状態の場合、ウィジェットは Savings Plans を購入する代わりにこのインスタンスを終了するように勧める場合があります。削減の機会があれば、アイドル状態の*###### B* を終了することでどれだけ削減できるかがわかります。

このウィジェットで節約できる機会を確認するには、Cost Optimization Hub ページにアクセスするか、コスト管理設定ページを使用してオプトインできます。

トップトレンド

このウィジェットでは、過去 2 か月間の最も重要なコストの変化を簡単に確認できます。

- ドル差の絶対値でソートされた上位 10 のコスト変動を表示します
- パーセント値と絶対値の両方の変更を表示します。
- 変更が発生した特定のサービス、アカウント、またはリージョンを強調表示します。
- Cost Explorer の比較ビューでさらに分析する傾向を選択できます。

コスト傾向について詳しく調べるには、Cost Explorer でコスト傾向を表示するを選択します。

コストの比較の詳細については、「期間間のコストの比較」を参照してください。

請求ダッシュボードを理解する

> **Note**
>
> ナビゲーションペインの [レガシーページ] セクションから、以前のバージョンの [Billing] ホームページにアクセスできます。

請求ダッシュボード (旧コンソール) を理解する

AWS 請求コンソールのダッシュボードページを使用して、 AWS 支出の一般的なビューを取得できます。また、最もコストの高いサービスまたはリージョンを特定したり、過去数か月間の使用料金の傾向を表示したりするために使用することもできます。ダッシュボードページを使用して、 AWS 使用状況のさまざまな内訳を表示できます。これは、無料利用枠のユーザーである場合に特に便利です。 AWS のコストおよび請求書に関する詳細を表示する場合は、左側のナビゲーションペインにある [Billing details] (請求の詳細) を選択します。ダッシュボードレイアウトは、ページ上部にある歯車アイコンをクリックすることで、ユースケースに合わせていつでもカスタマイズできます。

AWS 請求コンソールダッシュボードで AWS コストを表示しても、Cost Explorer を有効にする必要はありません。Cost Explorer をオンにしてコストと使用状況データの追加のビューにアクセスするには、「Enabling AWS Cost Explorer」 を参照してください。

AWS 請求コンソールとダッシュボードを開くには

- にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

デフォルトでは、コンソールに AWS [Billing Dashboard] (請求ダッシュボード) ページが表示されます。

ダッシュボードページについて

AWS 請求コンソールダッシュボードには、以下のセクションが含まれています。希望するレイアウトを作成するには、[Dashboard] (ダッシュボード) ページのセクションをドラッグアンドドロップします。表示されるセクションとレイアウトをカスタマイズする場合は、ページ上部にある歯車アイコンをクリックします。これらの設定は、[Dashboard] (ダッシュボード) ページへの継続的なアクセ

ス用に保存されます。ビューからセクションを一時的に削除するには、各セクションの x アイコンを選択します。すべてのセクションを表示するには、ページ上部にある [Refresh] (更新) を選択します。

AWS 概要

このセクションでは、すべてのアカウント、サービスプロバイダー AWS リージョン、サービス、およびその他の KPI の AWS コストの概要を示します。 KPIs 前期間と比較した合計には、直近の解約月の合計 AWS コストが表示されます。また、当月の予測コストの合計との比較も行います。カードの歯車アイコンをクリックして、表示する KPI を決定します。

最も高いコストと使用量の詳細

このセクションには、過去 1 か月 (MTD) の推定支出ごとの上位サービス、アカウント、または AWS リージョン が表示されます。表示する項目を選択するには、右上の歯車アイコンをクリックします。

上位 5 つのサービスごとのコスト傾向

このセクションでは、直近 3~6 回分の請求期間における上位 5 つのサービスのコスト傾向を確認できます。

セクションの上部で、グラフの種類と期間のいずれかを選択できます。歯車アイコンを使用して追加設定を調整できます。

行には以下の情報が示されます。

- 平均: 直近 3 か月間の平均コスト。
- 合計: 直近の請求での合計。
- 傾向: [Total] (合計) 列を [Average] (平均) 列と比較する。

アカウントのコスト傾向

このセクションには、直近 3~6 回分の請求期間におけるアカウントのコスト傾向が表示されます。の管理アカウントの場合 AWS Organizations、上位 5 つのセクションのコスト傾向には、直近 3 つから 6 つの終了した請求期間の上位 5 つの AWS アカウントが表示されます。請求書がまだ発行されていない場合、このセクションにはデータが表示されません。

セクションの上部で、グラフの種類と期間のいずれかを選択できます。歯車アイコンを使用して追加設定を調整します。

行には以下の情報が示されます。

- 平均: 直近 3 か月間の平均コスト。

- 合計: 直近の請求での合計。
- 傾向: [Total] (合計) 列を [Average] (平均) 列と比較する。

ダッシュボードでは、次のグラフを表示できます。

- 支出の概要
- サービスごとの過去 1 か月の支出
- 支出ごとの過去 1 か月の上位サービス

支出の概要

[支出の概要] グラフには、先月に支出した金額、過去 1 か月の AWS 使用量、および今月どの程度支出する可能性があるかの予測を表示します。予測は、過去の AWS コストに基づく見積りです。したがって、実際の月次コストが予測と一致しない場合があります。

サービスごとの過去 1 か月の支出

[Month-to-Date Spend by Service] (サービスごとの過去 1 か月の支出) グラフには、最も頻繁に使用する上位のサービスと、そのサービスがコストに占める割合が表示されます。[サービスごとの過去 1 か月の支出] グラフには予測は含まれません。

支出ごとの過去 1 か月の上位サービス

[支出ごとの過去 1 か月の上位サービス] グラフには、最も頻繁に使用するサービスと、過去 1 か月に発生したコストが表示されます。[支出ごとの過去 1 か月の上位サービス] グラフには予測は含まれません。

> **Note**
>
> 請求情報とコスト管理コンソールの更新時間は、請求データを反映するために約 24 時間です。

Billing および Cost Explorer データの違いを知る

Billing and Cost Management コンソールにアクティブなデータがある場合、Cost Explorer データと比較して、[Billing] ページと [支払い] ページに表示される際に注意すべき重要な違いがあります。このセクションでは、各データセットの使用方法と各データセットの利点について詳しく説明します。

請求データ

請求データは、 AWS Billing and Cost Management コンソールの請求書と支払いページ、および AWS 発行する請求書に表示されます。請求データは、前月の請求期間における実際の請求額と、その月のサービス利用状況に基づき現在の請求期間に発生した推定請求額を把握するのに役立ちます。請求書は、支払うべき金額を表します AWS。

Cost Explorer データ

Cost Explorer データは次の場所に表示されます。

- Billing and Cost Management ホームページ
- Cost Explorer、Budgets、コスト異常検出のページ
- カバレッジと使用状況に関するレポート

Cost Explorer は詳細な分析をサポートしているため、節約の機会を特定できます。Cost Explorer データは、より詳細なディメンション (アベイラビリティーゾーンやオペレーティングシステムなど) を提供します。また、請求データと比較すると違いが見られる可能性のある特徴が含まれています。[Cost Management] 設定ページでは、連結アカウントへのアクセスや、履歴データおよび詳細なデータの設定など、Cost Explorer データの設定を管理できます。詳細については、「Cost Explorer へのアクセスの管理」を参照してください。

償却コスト

請求データは常に現金ベースで表示されます。これは、 が毎月 AWS 請求する金額を表します。例えば、9 月に全額前払いの 1 年間の Savings Plan sを購入すると、 AWS は 9 月の請求期間にその Savings Plan sの全額を請求します。その際、請求データには、Savings Plans の 9 月の全費用が含まれます。これにより、 AWS 請求書の理解、検証、支払いを予定どおりに行うことができます。

一方、Cost Explorer データを使用して、償却されたコストを表示することもできます。コストが償却されると、前払い料金がその契約期間全体にわたって分散または償却されます。前の例では、Cost Explorer を使用して Savings Plans の償却ビューを表示できます。1 年分全額前払いの Savings Plans 購入は、契約対象の 12 か月間に均等に分散されます。償却コストを参考に、予約ポートフォリオや Savings Plans に関連する 1 日の実効コストを把握できます。

AWS のサービス グループ化

請求データでは、 AWS 請求は請求書 AWS のサービス の にグループ化されます。詳細な分析に役立つように、Cost Explorer では一部のコストを異なる方法でグループ化します。

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud のコンピューティングコストを、Amazon Elastic Block Store ボリュームや NAT ゲートウェイなどの付随的なコストとの比較で把握するとします。Cost Explorer は、Amazon EC2 のコストを単一のグループに分類する代わりに、コストを [EC2 - インスタンス] と [EC2 - その他] にグループ化します。

別の例として、データ転送コストの分析に役立つように、Cost Explorer は転送コストをサービスごとにグループ化します。請求データでは、データ転送コストは [データ転送] という名前の 1 つのサービスにグループ化されます。

当月の推定請求額

請求データと Cost Explorer データは、1 日に 1 回以上更新されます。更新される頻度は異なる場合があります。その結果、月次の推定料金に差異が発生することがあります。

Rounding

請求データと Cost Explorer データは、別の精度で処理されます。例えば Cost Explorer のデータは、時間単位およびリソースレベルの精度で利用できます。請求データは月単位で、リソースレベルの詳細は提供されません。その結果として、四捨五入によって請求データと Cost Explorer データに差異が発生する場合があります。これらのデータソースが異なる場合は、請求書に記載されている金額が最終的な AWSへの未払い金額になります。

割引、クレジット、返金、税金の表示

[請求] ページ (例えば、[サービス別料金] タブ) の請求データには返金が含まれませんが、Cost Explorer データには含まれます。返金が行われると、他の請求タイプとの差異が発生する場合があります。

例えば、税金の一部が返金されたとします。[請求] ページの [サービス別税金] タブには、引き続き税額の全額が表示されます。Cost Explorer データには、返金後の税額が表示されます。

請求について

AWS 請求書に関する質問や料金の請求については、 サポート に連絡して、すぐに問い合わせに対処してください。サポートが必要な場合は、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する」を参照してください。

使用料と定期的な料金の AWS 請求書が毎月届きます。1 回限りの料金、例えば一括前払いのリザーブドインスタンスの購入費などは、ただちに請求されます。

今月の予定請求金額と過去の月の最終料金は、いつでも確認できます。このトピックでは、毎月の請求と過去の請求の確認方法、請求レポートの受け取りと内容の確認方法、請求書のダウンロード方法について説明します。支払いを行うには、「支払い」を参照してください。

トピック

- 月額料金を表示する
- [請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する
- 請求書の PDF をダウンロードする
- 月別レポートをダウンロードする
- 予期しない請求について

月額料金を表示する

Billing and Cost Management コンソールで月額料金を表示するときはこちらの手順に従います。

月額料金を表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求] を選択します。
3. [請求期間] (例: 2023 年 8 月) を選択します。
4. AWS 請求書の概要を表示します。

月額料金を表示する (古いコンソール)

月額料金を表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [請求] を選択します。
3. [請求期間] で、月を選択します。

   [Summary] セクションには、その月の料金の概要と明細が表示されます。

   > **Note**
   >
   > 要約は、その月のアクティビティが完了して最終的な料金が AWS で計算されない限り、請求書ではありません。

   で一括請求機能を使用する場合 AWS Organizations、請求ページには、アカウント別の請求タブにすべてのアカウントの合計が一覧表示されます。組織のアカウントごとにアクティビティを表示するには、アカウント ID を選択します。一括請求の詳細については、「の請求の統合 AWS Organizations」を参照してください。

[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する

毎月の請求期間の終了時、または 1 回限りの料金が発生すると、 は PDF ファイルとして請求書 AWS を発行します。クレジットカードで支払う場合、 は現時点で登録されているクレジットカード AWS にも請求します。

請求書をダウンロードして月額料金の詳細を表示するには、 AWS Billing and Cost Management コンソールの請求書ページを使用できます。

> **Note**
>
> Billing and Cost Management コンソールのページには、IAM ユーザーが使用するときは明示的なアクセス許可が必要になるページがあります。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

請求ページ

請求書ページを使用して、毎月の請求対象コストと、 AWS のサービス および を通じて行われた購入の詳細を確認できます AWS Marketplace。請求書は、毎月の請求期間が終了したとき (請求ステータスが [発行済み] になっている)、もしくは、サブスクリプションがあるときか 1 回限りの購入が行われたときに生成されます。月次請求期間が終了していない (請求ステータスが保留中と表示される) AWS のサービス 場合、このページには、従量制料金に基づく最新の予想料金が表示されます。

の管理アカウントとしてサインインしている場合は AWS Organizations、メンバーアカウントの一括料金を確認できます。アカウントレベルの詳細は、[アカウント別料金] からも確認できます。

AWS Billing Conductor ユーザーであり、管理アカウントとしてサインインしているとします。ページの上部にある歯車アイコンを選択して、プロフォルマビュー表示をオンにすることができます。月と年を選択し、請求期間を指定します。

表示されるセクションをカスタマイズする場合は、ページ上部にある歯車アイコンを選択します。これらの設定は、[請求書] ページの今後の利用のために保存されます。

AWS 請求の概要

AWS 請求の概要セクションには、月額料金の概要が表示されます。こちらの情報は、すでに終了した請求期間 (請求ステータスが [発行済み] になっいる) の請求書の合計金額です。

終了していない請求期間は、ステータスに [保留中] と表示されます。合計には、 AWS のサービス 従量制料金に基づく最新の推定料金が表示されます。合計は米ドル (USD) で表示されます。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。

支払情報

支払い情報セクションには、 が支払い AWS を受け取った選択した請求期間の請求書が一覧表示されます。サービスプロバイダー、請求タイプ、ドキュメントタイプ、請求書 IDs、支払いステータス、支払いを AWS 受信した日付、合計金額は USD で確認できます。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。詳細については、「Managing Your Payments」を参照してください。

サービスプロバイダーごとの最も高いコスト

サービスプロバイダー別の最高コストセクションでは、請求期間のコスト AWS リージョン が最も高いアカウントの と を特定し、それぞれのmonth-over-monthの傾向を表示します。保留中の請求期間の場合、月比トレンドは、現在の請求期間の月累計支出と前の請求期間の同等の部分を比較します。

サービス別料金

サービス別の料金タブには、それぞれの支出が表示されます AWS のサービス。こちらは、サービス名または USD の金額で並べ替えたり、サービス名およびリージョンでフィルタリングしたりすることができます。各サービスの横にある + アイコンをクリックすると、そのサービスの料金がリージョン別に表示されます。リージョンを選択して、料金の詳細を表示します。

アカウント別の料金

AWS Organizations を使用して管理アカウントにサインインすると、アカウント別の料金タブに各メンバーアカウントの支出が表示されます。アカウント ID、アカウント名、または米ドルでの金額で並べ替えたり、アカウント ID またはアカウント名でフィルタリングしたりできます。各アカウントの横にある + アイコンを選択すると、サービスプロバイダ別のアカウントの料金が表示されます。各明細項目の横にある + アイコンを選択すると、そのサービスおよびリージョン別に料金が表示されます。リージョンを選択して、料金の詳細を表示します。

請求書

[請求書] のタブには、選択した請求期間中にトランザクションが発生した各サービスプロバイダーの、請求書が一覧で表示されます。ここには、請求タイプ、請求書の日付、合計金額 (USD) などの詳細が記載されています。請求書が別の通貨で発行された場合、他の通貨での合計も表示されます。各請求書の PDF を表示したり、ダウンロードしたりするときは、[請求書 ID] を選択します。

削減量

[削減額] のタブには、Savings Plans、クレジット、その他割引プログラムの結果として、請求期間中の削減額がまとめられています。これらの削減額は、[サービス別料金]、[アカウント別料金]、[請求書] の各タブにも反映されています。各節約タイプを選択して、サービス別の詳細を表示します。

サービス別の税金

[サービス別税金] のタブには、税金が課されたサービスの税引き前料金、税金、税引き後料金が表示されています。サービス名、税引き後の料金、税引き前の料金、または米ドルでの税金で並べ替えたり、サービス名でフィルタリングしたりできます。

税金請求書と補足文書

[税金請求書と補足文書] のセクションには、選択した請求期間の税金請求書とその他補足文書が一覧表示されています。すべてのサービスプロバイダーが納税請求書を発行するわけではありません。[請求書 ID] 列には、税金請求書に関連付けられているコマーシャルインボイスが表示され

ています。各請求書の PDF を表示したり、ダウンロードしたりするときは、[ドキュメント ID] を選択します。

請求書の PDF をダウンロードする

毎月の請求書の PDF をダウンロードするには、以下の手順に従ってください。

料金のコピーを PDF ドキュメントとしてダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [請求] ページで、[請求期間] の [月] を選択します。
3. [AWS 請求の概要] セクションで、[請求ステータス] が [発行済み] になっていることを確認します。
4. [請求書] タブを選択します。
5. ダウンロードするドキュメントの [請求書 ID] を選択します。
6. (EMEA SARL AWS 以外のサービスプロバイダーの場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、「税金請求書と補足文書」セクションで、ドキュメント ID を選択します。
7. （ AWS EMEA SARL の場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、AWS EMEA SARL 料金セクションでドキュメント ID を選択します。

料金のコピーを PDF としてダウンロード (古いコンソール)

料金のコピーを PDF ドキュメントとしてダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [請求書] ページで、[日付] リストから、すべてのアクティビティが閉じている月を選択します。
3. [合計] の下で、[Amazon Web Services, Inc. - サービス料金] を選択します。
4. [請求書 <invoiceID>] を選択します。
5. (EMEA SARL AWS 以外のエンティティの場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、税金請求書セクションで請求書 <invoiceID> を選択します。
6. （ AWS EMEA SARL の場合) 特定の税金請求書のコピーをダウンロードするには、「Amazon Web Services EMEA SARL – サービス料金」セクションの「請求書 <invoiceID>」を選択します。

月別レポートをダウンロードする

月別レポートをオンにすると、請求に関するレポートを CSV ファイルでダウンロードできるようになります。この機能を使うと、レポートが Amazon S3 バケットに配信されます。

> **Tip**
>
> 利用可能なコストと使用状況データの最も詳細なセット AWS Cost and Usage Report には、 を使用することをお勧めします。詳細については、「AWS コストと使用状況レポートユーザーガイド」の「コストと使用状況レポートとは」を参照してください。 AWS

月別レポート用の CSV ファイルをダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [請求明細レポート (レガシー)] で [編集] を選択し、次に [S3 へのレガシーレポート配信] を選択します。
4. [S3 バケットをアクティブ化する] を選択し、レポートの配信先を指定します。
5. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
   - 既存の S3 バケットを使用するときは、[既存の S3 バケットを使用] を選択して、S3 バケットを選択します。
   - 新しい S3 バケットを作成するときは、[新しい S3 バケットを作成] を選択し、[S3 バケット名] に名前を入力して、[リージョン] を選択します。
6. [Next (次へ)] を選択します。
7. デフォルトの IAM ポリシーを読み、[このポリシーが正しいことを確認しました] を選択します。
8. [Save] を選択します。
9. [請求] ページで、[すべてを CSV にダウンロード] を選択します。

予期しない請求について

AWS 請求書に関する質問や料金の請求については、 に連絡してお問い合わせ サポート にすぐに対応してください。サポートが必要な場合は、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する」を参照してください。

以下の例は、予想外の料金が請求されないようにするために役立ちます。このページには、 の個々のサービス内の特定の機能や動作が一覧表示 AWS されており、特にサービスのサブスクリプションを解除したり、アカウントを閉鎖したりすると、予期しない料金が発生することがあります。

> **Note**
>
> これは網羅的なリストではありません。具体的なユースケースに関する質問は、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」のプロセスに従って サポート までお問い合わせください。
> アカウントを閉鎖するか、サービスからサブスクリプションを解除する場合は、 AWS リソースを割り当て AWS リージョン たすべての に対して適切な手順を実行してください。

トピック

- 使用量が を超えています AWS 無料利用枠
- アカウント閉鎖後に受け取った請求
- オフになっている AWS リージョン のリソースから発生する料金
- 他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金
- Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金
- Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金
- Elastic IP アドレスによって発生する料金
- ストレージサービスによって発生する料金
- へのお問い合わせ サポート

使用量が を超えています AWS 無料利用枠

サービスの無料利用枠の利用期限が切れていないか確認します。の有料プランを選択した場合 AWS 無料利用枠、6 か月の終了後、またはクレジットが完全に使用された後に従量pay-as-youで課金されます。アカウントは閉鎖されていないため、 AWS リソースをシームレスかつ継続的に使用できます。詳細については、「を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)」を参照してください。

料金が発生しているリソースを特定したら、引き続きリソースを使用して請求を管理したり、未使用のリソースを終了したり、 AWS アカウントを終了したりできます。

- 請求の管理については、「とは AWS Billing and Cost Management」および「Billing の設定」を参照してください。
- リソースの終了については、そのサービスのリソースドキュメントを参照してください。例えば、未使用の Amazon Elastic Compute Cloud インスタンスがある場合は、「インスタンスの終了」を参照してください。
- の閉鎖の詳細については AWS アカウント、「 AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「アカウントを閉じる」を参照してください。

アカウント閉鎖後に受け取った請求

次のいずれかの理由により、アカウントを閉鎖した後に請求書が届く場合があります。

アカウントを閉鎖する前の 1 か月に発生した料金

月の初めからアカウントを閉鎖した日付までに発生した使用量に対して、最終的な請求書が届きます。例えば、1 月 15 日にアカウントを閉鎖した場合、1 月 1 日から 15 日の間に発生した使用に対する請求書が 2 月初旬に届きます。

アカウントにアクティブなリザーブドインスタンスがある

Amazon EC2 リザーブドインスタンス、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) リザーブドインスタンス、Amazon Redshift リザーブドインスタンス、または Amazon ElastiCache リザーブドキャッシュノードをプロビジョニングした可能性があります。予約期間が終了するまで、これらのリソースの請求書が引き続き届きます。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「リザーブドインスタンス」を参照してください。

Savings Plans にサインアップした

プラン期間が完了するまで、Savings Plans でカバーされるコンピューティング使用量に対する請求書が引き続き届きます。Savings Plans の詳細については、Savings Plans ユーザーガイドを参照してください。

アクティブな AWS Marketplace サブスクリプションがある

AWS Marketplace サブスクリプションは、アカウント閉鎖時に自動的にキャンセルされません。まず、サブスクリプション内のソフトウェアのすべてのインスタンスを終了します。次に、AWS Marketplace コンソールのサブスクリプションの管理ページでサブスクリプションをキャンセルします。

> **Important**
>
> アカウントを閉鎖してから 90 日以内に、アカウントへのサインイン、アクティブなリソースの表示、過去の請求の表示、 AWS 請求書の支払いを行うことができます。詳細については、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「Close your account」を参照してください。

未払いの AWS 請求書の支払いについては、「」を参照してください支払い。

オフになっている AWS リージョン のリソースから発生する料金

AWS リージョン まだリソースがある をオフに (無効に) すると、それらのリソースに対して引き続き料金が発生します。ただし、無効なリージョンのリソースにはアクセスできません。

これらのリソースから料金が発生しないようにするには、リージョンを有効にし、そのリージョン内のすべてのリソースを終了してから、リージョンを無効にします。

アカウントのリージョンの管理の詳細については、「 AWS アカウント管理 リファレンスガイド」のAWS リージョン 「アカウントで使用できる を指定する」を参照してください。

他のサービスによって起動されたサービスによって発生する料金

多数の AWS のサービス がリソースを起動できるので、使用したサービスを通じて起動した可能性のあるものをチェックしてください。

AWS Elastic Beanstalkによって作成されたリソースから発生する料金

Elastic Beanstalk は、ユーザーが必要とするすべてのリソースが実行されるように設計されています。つまり、ユーザーが停止したすべてのサービスが自動的に再起動されます。これを回避するには、Elastic Beanstalk が作成したリソースを終了する前に Elastic Beanstalk 環境を終了する必要があります。詳細については、AWS Elastic Beanstalk デベロッパーガイドの「環境を終了する」を参照してください。

Elastic Load Balancing (ELB) ロードバランサーから発生する料金

Elastic Beanstalk 環境と同様に、ELB ロードバランサーは最小数の Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスの実行を維持するように設計されています。ロードバランサーに登録された Amazon EC2 インスタンスを削除する前に、ロードバランサーを終了する必要があります。詳細については、Elastic Load Balancing ユーザーガイドの「ロードバランサーの削除」を参照してください。

で開始されたサービスによって発生する料金 OpsWorks

OpsWorks 環境を使用して AWS リソースを作成する場合は、 OpsWorks を使用してそれらのリソースを終了するか、 OpsWorks 再起動する必要があります。たとえば、 OpsWorks を使用して Amazon EC2 インスタンスを作成し、Amazon EC2 コンソールを使用してインスタンスを終了する場合、 OpsWorks 自動ヒーリング機能はインスタンスを失敗として分類し、再起動します。詳細については、「AWS OpsWorks ユーザーガイド」を参照してください。

Amazon EC2 インスタンスによって発生する料金

ロードバランサーと Elastic Load Balancing 環境を削除した後、Amazon EC2 インスタンスを停止または終了できます。インスタンスを停止しても後で再起動できますが、ストレージ料金が請求されることがあります。インスタンスを終了すると、インスタンスは完全に削除されます。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「インスタンスのライフサイクル」、特に「インスタンスの停止と起動」と「インスタンスの削除」を参照してください。

> **メモ**
>
> - Amazon EC2 インスタンスは複数の AWS のサービスの基盤として機能します。これらのインスタンスは他のサービスによって起動された場合でも、Amazon EC2 コンソールのインスタンスリストに表示される場合があります。例えば、Amazon RDS インスタンスは、Amazon EC2 インスタンスで実行されます。

- 基盤となる Amazon EC2 インスタンスを終了すると、それを起動したサービスが終了をエラーと解釈し、インスタンスを再起動することがあります。たとえば、 には、障害を検出したときにリソースを再起動する自動ヒーリングと呼ばれる機能 OpsWorks があります。通常、リソースを削除するためのベストプラクティスは、それを起動したサービスを通して実行することです。

さらに、インスタンスストアを使用する Amazon Machine Image (AMI) から Amazon EC2 インスタンスを作成する場合は、Amazon S3 で関連するバンドルを確認します。AMI の登録を解除しても、バンドルは削除されません。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「AMI の登録を解除する」を参照してください。

Amazon Elastic Block Store ボリュームとスナップショットによって発生する料金

ほとんどの Amazon EC2 インスタンスは、関連付けられた Amazon EBS ボリュームがその終了時に削除されるように構成されますが、ボリュームとデータは保持するように設定できます。Amazon EC2 コンソールの [Volumes] ペインで、不要になったボリュームを確認します。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「Amazon EBS ボリュームを削除する」を参照してください。

Amazon EBS ボリュームのスナップショットを保存したが、不要になった場合は、それらも同様に削除します。ボリュームを削除しても、関連付けられたスナップショットが自動的に削除されることはありません。

スナップショットの削除の詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「Deleting an Amazon EBS snapshot」を参照してください。

スナップショットを削除しても、組織のデータストレージコストが減少しない場合があります。他のスナップショットはそのスナップショットのデータを参照する場合があります。参照されたデータは常に保持されます。

Example 例: スナップショットの削除

例えば、最初にデータボリュームが 10 GiB のスナップショット (*snap-A*) を取得した場合は、スナップショットのサイズも 10 GiB になります。スナップショットは増分バックアップであるため、2 回目に同じボリュームのスナップショットを取得した場合は、最初のスナップショットを取得後に変更したデータブロックのみ含まれます。

2 回目のスナップショット (*snap-B*) で、最初のスナップショットのデータを参照することもできます。つまり、4 GiB のデータを変更し、2 回目のスナップショットを取得した場合、2 番目のスナップショットのサイズは 4 GiB になります。また、2 番目のスナップショットでは、最初に取得した、変更していない 6 GiB のスナップショットを参照できます。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「How snapshots work」を参照してください。

この例では、毎日の AWS コストと使用状況レポート (AWS CUR) に 2 つのエントリが表示されます。 AWS CUR は、1 日のスナップショット使用量をキャプチャします。この例で、*snap-A* の使用量は 0.33 GiB (10 GiB/30 日)、*snap-B* の使用量は 0.1333 GiB (4 GiB/30 日) です。月額 0.05 USD/GB のレートを使用すると、*snap-A* のコストは 0.33 GiB × 0.05 USD = 0.0165 USD になります。*snap-B* のコストは 0.133 GiB x 0.05 USD = 0.0066 USD となり、両方のスナップショットに対して 1 日あたり合計 0.0231 USD となります。詳細については、「AWS Data Exports ユーザーガイド」を参照してください。

lineItem/ Operation	lineItem/ ResourceId	lineItem/ UsageAmount	lineItem/ UnblendedCost	resourceTags/ user:usage
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-A	0.33	0.0165	dev
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-B	0.133	0.0066	dev

最初のスナップショット (前の表の最初の行の *snap-A*) を削除すると、2 番目のスナップショット (前の表の 2 番目の行の *snap-B*) で参照されるデータはすべて保持されます。2 番目のスナップショットには 4 GiB の増分データが含まれており、最初のスナップショットの 6 GiB を参照しています。*snap-A* を削除すると、*snap-B* のサイズは 10 GiB (*snap-B* からの変更済みの 4 GiB および *snap-A* からの未変更の 6 GiB) になります。

次の表では、毎日の CUR AWS の *snap-B* の使用量は 0.33 GiB (10 GiB/30 日) で、1 日あたり 0.0165 USD で請求されます。スナップショットを削除すると、残りのスナップショットの料金は毎日再計算されるため、各スナップショットのコストも毎日変わる可能性があります。

lineItem/Operation	lineItem/ResourceId	lineItem/UsageAmount	lineItem/UnblendedCost	resourceTags/user:usage
CreateSnapshot	arn:aws:ec2:us-east-1:123:snapshot/snap-B	0.33	0.0165	dev

スナップショットの詳細については、ブログ記事「Cost Allocation for EBS Snapshots」を参照してください。

Elastic IP アドレスによって発生する料金

終了したインスタンスにアタッチされたすべての Elastic IP アドレスはアタッチを解除されますが、割り当ては続行されます。その IP アドレスが不要になった場合は、追加料金が発生しないように解放してください。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「Elastic IP アドレスをリリース」を参照してください。

ストレージサービスによって発生する料金

AWS リソースのコストを最小限に抑える場合は、Amazon RDS や Amazon S3 などの多くのサービスでストレージコストが発生する可能性があることに注意してください。ストレージの料金の詳細については、「Amazon S3 料金」および「Amazon RDS の料金」を参照してください。

へのお問い合わせ サポート

上記は、 に予期しない料金が表示される理由をすべて網羅したリストではありません AWS アカウント。このページに記載されている理由のいずれにもよらない料金が発生した場合は、「へのお問い合わせ サポート」を参照してください。

AWS 支払いの管理

を開くには AWS アカウント、有効な支払い方法が登録されている必要があります。支払い方法の追加、更新、削除、および支払いを行うには、この章の手順を使用します。

AWS Billing and Cost Management コンソールの Payment preferences ページを使用して、 AWS 支払い方法を管理できます。

> **Note**
>
> IAM ユーザーは、請求コンソールの一部のページにアクセスするために明示的なアクセス許可が必要です。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

支払いまたは支払い方法の詳細については、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」を参照してください。

トピック

- タグを使用して支払い方法へのアクセスを管理する
- 支払い
- 残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する
- 支払い検証の管理
- クレジットカードと ACH 口座振替の管理
- 事前支払いの使用
- 中国人民元での支払い
- PIX を使用した支払い (ブラジル)
- インドでの支払いの管理
- AWS 欧州での支払いの管理
- AWS Financing を使用して分割払いで請求書を支払う
- 支払いプロファイルの使用

タグを使用して支払い方法へのアクセスを管理する

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) を使用して、支払い方法へのアクセスを管理できます。支払い方法を作成する際、キーと値のペアでタグ付けできます。その後、IAM ポリシーを作成し、タグを指定できます。例えば、`project` キーを追加してそのキーに `test` という値を割り当てると、IAM ポリシーによってこのタグの付いた支払い方法へのアクセスを明示的に許可または拒否できます。

新しい支払い方法にタグを追加したり、既存の支払い方法を更新したりするには、「クレジットカードと ACH 口座振替の管理」を参照してください。

Example タグを使用してアクセスを許可する

次のポリシーでは、IAM エンティティが visa の `creditcard` キーと値を持つ支払い方法にアクセスすることを許可します。

JSON

```
{
"Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "payments:ListPaymentInstruments",
            "payments:GetPaymentInstrument",
            "payments:ListTagsForResource"
        ],
        "Resource": "arn:aws:payments:123456789012:*:payment-instrument/*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {
            "aws:ResourceTag/creditcard": "visa"
            }
        }
    }]
}
```

Example タグを使用してアクセスを拒否する

次のポリシーでは、`creditcard` キーと値が `visa` である支払い方法に対して IAM エンティティが支払いアクションを完了することを拒否します。

JSON

```
{
"Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": "payments:*",
        "Resource": "*"
    },
    {
        "Effect": "Deny",
        "Action": "payments:GetPaymentInstrument",
        "Resource": "arn:aws:payments::123456789012:payment-instrument:*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {
            "aws:ResourceTag/creditcard": "visa"
            }
        }
    }]
}
```

詳細については、IAM ユーザーガイドにある下記のトピックを参照してください。

- ABAC とは AWS
- タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御

支払い

このセクションのプロセスを使用して AWS 請求書の支払いを行うには、 AWS Billing and Cost Management コンソールの支払いページを使用できます。

AWS は、毎月初めにデフォルトの支払い方法を自動的に請求します。その料金が正常に処理されない場合は、コンソールを使用して支払い方法を更新し、支払いを行うことができます。

> **Note**
>
> ACH 銀行デビットで支払う場合、 は請求書 AWS を提供し、月初から 10 日以内に支払い方法への請求を開始します。支払いが処理されるまで 3～5 日ほどかかる場合があります。詳細については、「ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する」を参照してください。

支払いを行う前に、今後自動的に請求される支払い方法がデフォルトの支払い方法として設定されていることを確認します。クレジットカードを使用している場合は、カードが有効期限内であることを確認してください。詳細については、「デフォルトの支払い方法を指定する」および「クレジットカードと ACH 口座振替の管理」を参照してください。

支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が一覧表示されていない場合は、この時点で必要なアクションはありません。
3. 未処理の請求書がある場合は、支払う請求書を [支払い期限] テーブルで選択してから、[支払いを完了する] を選択します。
4. [支払いを完了する] ページで、請求書の支払いに使用できる場合は、デフォルトの支払い方法が選択されます。別の支払い方法を使用する場合、または対象の支払い方法を選択する場合は、[変更] を選択します。
5. 概要が支払う金額と一致していることを確認し、[確認と支払い] を選択します。

   銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

   ACH 銀行デビットで支払い、 が銀行口座に請求できず、再試行する AWS 旨の E AWS メールメッセージが から送信されたとします。銀行に連絡して問題を確認してください。

   銀行口座への最後の請求に AWS 失敗したという E メールが届いた場合は、支払い期日表で支払う請求書を選択します。次に [支払いを完了する] を選択して請求書の支払いを行います。銀行口座への請求や、未払い金の支払いに関してご質問がある場合は、サポートセンターでケースを作成します。

海外送金で支払うが、使用料の支払期限が超過している場合は、サポートセンターでケースを作成します。

部分的な支払い

AWS Billing and Cost Management コンソールの支払いページを使用して、部分的な支払い方法を使用して AWS 請求書を支払います。このセクションでは、コンソールの手順と、支払いが失敗した場合のシナリオのトラブルシューティング方法について説明します。

部分的な支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の請求書がすべて一覧表示されます。請求書が一覧表示されていない場合は、この時点で必要なアクションはありません。
3. 未処理の請求書がある場合は、支払う請求書を [支払い期限] テーブルで選択してから、[支払いを完了する] を選択します。
4. [支払いを完了] ページでは、デフォルトの支払い方法が選択されます。

   a. デフォルトの支払い方法を続けるには、次のステップに進みます。

   b. 別の支払い方法を使用する場合、または現在の選択が部分的な支払いの対象ではない場合は、[変更] を選択します。

   c. 新しい支払い方法の追加するには、「クレジットカードと ACH 口座振替の管理」を参照してください。
5. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
6. [支払い金額] 列に、各請求書に対して支払う部分的な支払い金額を入力します。
7. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

   銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

Note

- 現在、部分的な支払いの対象となるのは支払いカードのみです。他の支払い方法 (ACH など) で部分的な支払いを行うことはできません。
- 中国人民元 (CNY) 中国ユニオンペイクレジットカードは部分的な支払いの対象外です。
- サブスクリプション請求書と AWS Marketplace 請求書は、部分的な支払いの対象外です。

部分的な支払いのトラブルシューティング

支払いカードで前回の請求試行に AWS 失敗した E メール通知を受け取った場合は、次のトラブルシューティングプロセスを試してください。

部分的な支払い請求の失敗をトラブルシューティングするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. 支払う金額を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。

トランザクションが引き続き失敗する場合は、銀行に連絡して、トランザクションが拒否される理由を確認してください。または、別の対象カードで支払うこともできます。

バックアップ支払い方法の使用

バックアップ支払い方法機能を使用すると、 AWS 請求書の支払いの遅延を回避できます。バックアップ支払い方法の設定は、 AWS Billing and Cost Management コンソールの Payment Preferences ページで更新できます。

対象となる支払い方法

バックアップ支払い方法は、クレジットカードと SEPA 銀行口座のみをサポートします。他の支払い方法は、バックアップ支払い方法として使用することはできません。

バックアップ支払い方法を有効にするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、支払い設定を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. Backup 支払い方法をオンにします。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

現在のバックアップ支払い方法を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、支払い設定を選択します。

支払い方法は、バックアップ支払い方法が正常に有効になっている`Enabled`場合、バックアップ支払い方法とステータスを表示します。

バックアップ支払い方法を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、支払い設定を選択します。
3. [Default payment preferences] (デフォルトの支払いの詳細設定) セクションで、[Edit] (編集) を選択します。
4. Backup の支払い方法をオフにします。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

残りの請求書、未適用の資金、支払い履歴を表示する

Billing and Cost Management コンソールの Payments account summary ページを使用して、 AWS アカウントの財務ステータスを確認できます。このセクションでは、各コンソールコンポーネントが表す内容の概要を説明します。

支払いアカウントの概要

このページには、 AWS アカウントの財務ステータスの統合ビューが表示されます。これには、支払い対象 AWS と使用可能な資金が含まれます。これは、支払い義務を理解し、利用可能な残高を管理するための簡単なビューです。

未払い残高の合計

これは、期限を過ぎた請求書金額を含む、現在支払義務がある金額を示します。支払いを行うには、「支払い」を参照してください。

未適用資金の合計

これは、 AWS アカウントで現在利用可能な未使用の資金の合計額です。これには、未適用の現金、クレジットメモ、または前払い残高が含まれる場合があります。前払い残高は、請求書の支払いに自動的に使用されます。詳細については、「事前支払いの使用」を参照してください。

過去の過払い、送金アドバイスの欠落、請求調整など、さまざまな理由で、アカウントに資金やクレジットメモが適用されていない可能性があります。請求書の支払いに未適用の資金またはクレジットメモを使用するか、この金額を返金するには、請求書の E メールアドレスを使用して AWS 送金指示を送信します。 サポート 「」の手順に従って に連絡することもできますへのお問い合わせ サポート。未適用の資金の使用をリクエストすると、未適用の資金金額を除く未払い残高の合計を支払うことができます。

> **Note**
>
> 未適用資金の合計には AWS クレジットは含まれません。詳細については、「AWS クレジットの適用」を参照してください。

[支払い期限]、[未適用の資金]、および [支払い履歴] テーブルは、次の手順で説明されているように、検索およびフィルタリングできます。歯車アイコンを選択して、デフォルトの列を変更し、その他のテーブル設定をカスタマイズします。適切な ID を選択して項目を個別にダウンロードするか、[ダウンロード] を選択してから、[CSV のダウンロード] を選択して、レポートの目的でテーブルの CSV ファイルをダウンロードします。

残りの請求書支払いを確認するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払い期限] タブを選択して、[支払い期限] テーブルを表示します。

   [お支払い期限] テーブルには、残りの請求書支払いがすべて一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

   このテーブルには、以下のステータスが含まれます。

   - [期限] — 支払い期日が近づいている未処理の請求書。
   - [期限経過] — 支払い期日までに支払いが行われていない未処理の請求書。
   - [予定] — 今後の支払い予定がある請求書。
   - [処理中] — 現在支払いが予定されている請求書。

未適用の資金を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment] を選択します。
3. [未適用の資金] タブを選択して、[未適用の資金] テーブルを表示します。

   [未適用資金] テーブルには、未適用のすべてのクレジットメモが一覧表示されます。テーブルには、請求書の合計金額と残高が表示されます。

   ステータスが [未適用] の場合は、請求書に適用可能なクレジットメモが存在します。

   ステータスが [部分的に適用] の場合は、以前の請求書に金額の一部が適用されたクレジットメモが存在します。

支払い履歴を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment] を選択します。
3. [トランザクション] タブを選択して、[トランザクション] テーブルを表示します。

   トランザクションテーブルには、完了したすべてのトランザクションが一覧表示されます AWS。

支払い検証の管理

クレジットカードを使用して AWS オンラインで支払う、クレジットカードを追加または更新する、または新しい を登録するたびに、銀行から追加の検証を求められる場合があります AWS アカウント。

銀行が追加の認証を必要とする場合、銀行の Web サイトにリダイレクトされます。銀行の手順に従って、検証プロセスを完了します。検証を完了させるために、銀行から次のことを求められる場合があります。

- 1 回限りの SMS コードを入力する
- 銀行のモバイルアプリケーションを使用してクレジットカードを検証する
- 生体認証やその他の認証方法を使う

目次

- 検証のベストプラクティス
- 支払いの検証
- 支払いの検証のトラブルシューティング
- AWS Organizations
- サブスクリプションの購入

検証のベストプラクティス

- デフォルトの支払い方法が検証済みであることを確認します。「未確認のクレジットカードのトラブルシューティング」を参照してください。
- 銀行のクレジットカード情報が最新であることを確認します。銀行は登録されたカード所有者にのみ検証コードを送信します。
- 最新のコードを入力します。認証ポータルを閉じた場合や新しいコードをリクエストした場合は、最新のコードの受信が遅れることがあります。
- 指示に従ってコードを入力します。コードの送信元の電話番号を入力しないでください。

支払いの検証

AWS 請求コンソールを使用して、支払いを検証する必要があることを確認するか、失敗した支払いを再試行できます。

AWS 銀行で支払いを確認する必要がある場合は、 から E メールが送信されます。

支払いを検証するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [Payments due (支払い期限)] で支払う請求書を見つけ、[Verify and pay (検証して支払い)] を選択します。
4. [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) ページで、使用する支払い方法を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
6. 支払いを検証する必要がある場合は、銀行のウェブサイトにリダイレクトされます。検証を完了するには、表示される指示に従ってください。

銀行で支払いが処理されると、[支払い] ページにリダイレクトされます。

> **Note**
>
> - 銀行で支払い処理が完了するまで、請求書は [支払い処理中] というステータスで表示されます。
> - 検証プロセスが完了すると、 AWS 日本のお客様の支払いカードが優先設定ページに表示されます。

支払いの検証のトラブルシューティング

検証が正しく完了しなかった場合は、次のいずれかのアクションを取ることをお勧めします。

- AWS 請求コンソールの支払い設定ページに移動し、クレジットカードが検証されていることを確認します。「未確認のクレジットカードのトラブルシューティング」を参照してください。
- AWS 請求コンソールの支払い設定ページに移動し、請求連絡先情報を更新します。

- 銀行に連絡して、自分の連絡先情報が最新であることを確認します。
- 銀行に連絡して、検証が失敗した理由の詳細を確認します。
- キャッシュと cookie を消去するか、別のブラウザを使用します。

AWS Organizations

のメンバーアカウントの場合 AWS Organizations、前払いを必要とする購入したサービスは、管理アカウントユーザーが支払いを検証するまでアクティブ化されない場合があります。検証が必要な場合、 は管理アカウントの請求連絡先に E メールで AWS 通知します。

管理アカウントとメンバーアカウント間の連絡プロセスを確立してください。

サブスクリプションの購入

複数のサブスクリプションを一度に (一括で) 購入し、銀行から確認を求められたとします。その後、銀行から個々の購入の確認を求められる場合があります。

サブスクリプションには、リザーブドインスタンス、ビジネスサポートプラン、Route 53 ドメインなどの即時購入が含まれる場合があります。サブスクリプションには AWS Marketplace 料金は含まれません。

すべての購入について検証を完了させる必要があります。

クレジットカードと ACH 口座振替の管理

AWS Billing and Cost Management コンソールの支払い設定ページを使用して、クレジットカードと ACH 銀行デビットの支払い方法を管理できます。

トピック

- クレジットカードの追加
- クレジットカードを更新する
- 未確認のクレジットカードのトラブルシューティング
- クレジットカードを削除する
- ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する

> **Note**
>
> 人民元決済のクレジットカードをご使用になる場合は、「中国人民元クレジットカードの使用」を参照してください。

クレジットカードの追加

アカウントへのクレジットカードの追加は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。

にクレジットカードを追加するには AWS アカウント

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. クレジットカード情報を入力します。
5. (オプション) [デフォルトの支払い方法として設定] で、このクレジットカードをデフォルトの支払い方法にするかどうか選択します。
6. カードの請求先住所を入力します。
7. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。タグの詳細については、「Managing Your Payments using tags」を参照してください。
8. 内容を確認して問題がなければ、[支払い方法を追加] を選択します。

クレジットカードを更新する

クレジットカードに関連付けられている有効期限、氏名、住所、電話番号は更新することができます。

> **Note**
>
> クレジットカードを追加または更新すると、 は前月の未払いの請求書を新しいカードに AWS 請求します。

クレジットカードを更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   に関連付けられた支払い方法は、「支払い方法」セクション AWS アカウント に表示されます。
3. 編集するクレジットカードを選択し、[編集] を選択します。
4. 変更する情報を更新します。
5. 変更を確認し、問題がなければ [変更の保存] を選択します。

未確認のクレジットカードのトラブルシューティング

支払いを行うには、期限切れでない有効なクレジットカードが登録されている必要があります。

クレジットカード情報が最新であることを確認するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. お支払い方法を確認します。クレジットカードが未検証の場合は、[検証] を選択し、画面の指示に従います。
4. それでもこのクレジットカードを検証できない場合は、以下の手順に従います。

   a. 支払い方法を選択して、[削除] を選択します。

   b. [支払い方法を追加] を選択し、クレジットカード情報をもう一度入力します。

   c. プロンプトに従ってクレジットカード情報を確認します。

> **Note**
>
> 銀行によっては、追加の検証を求められる場合があります。銀行の Web サイトにリダイレクトされます。詳細については、「支払い検証の管理」を参照してください。

クレジットカードを削除する

クレジットカードを削除する前に、 AWS アカウント に別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認してください。

デフォルトに設定されている支払い方法は削除できません。

クレジットカードを削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。に関連付けられた支払い方法は、「支払い方法」セクション AWS アカウント に表示されます。
3. 削除する支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
4. [この支払い方法を削除しますか] のダイアログボックスで、[削除] を選択します。

ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する

資格要件を満たしている場合は、ACH 銀行デビット支払い方法として米国の銀行口座を支払い方法に追加できます。

その場合、Amazon Web Services のお客様であること、および以下の要件が満たされていることが必要です。

- AWS アカウント 少なくとも 60 日前に を作成している
- 過去 12 か月間で 1 件以上の請求が発生し、全額支払い済みである。
- 過去 12 か月間で累計 100 USD 以上を支払っている。
- 支払い通貨を USD に設定している。

ACH 銀行デビットで支払う場合、 は請求書 AWS を提供し、月初から 10 日以内に支払い方法への請求を開始します。 AWS Billing and Cost Management コンソールの支払い欄に [成功] と表示されている場合でも、支払いが完了するまでに最大 20 日間かかります。

銀行引き落とし口座の追加または更新は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。

目次

- 銀行引き落とし口座を追加する

- 銀行引き落とし口座を更新する

銀行引き落とし口座を追加する

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、 AWS 支払い方法に口座振替口座を追加できます。個人用口座またはビジネス用口座のいずれも使用できます。ただし、口座が米国内の支店にある場合に限ります。

ACH 銀行引き落とし口座を追加するときは、次の情報をお手元に用意しておきます。

- 米国の銀行口座番号
- 米国の銀行口座の支店コード
- 銀行を口座と関連付けるアドレス
- (個人用銀行口座の場合) 米国の運転免許証番号またはその他の州発行の ID 番号
- (ビジネス用銀行口座の場合) 納税者番号 (Tax ID)

銀行引き落とし口座を AWS アカウントに追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Bank account (ACH)] (銀行口座 (ACH)) を選択します。
5. [口座のタイプ] で、[個人用] または [事業用] を選択します。
6. [Name on account] (口座の名前) で、主要口座名義人の名前を入力します。
7. [銀行支店番号] に 9 桁の支店番号を入力します。

   支店コードは常に 9 桁です。銀行によっては、小切手の最初にルーティングナンバーが記載されていることがあります。他の銀行では口座番号が最初に記載されていることがあります。
8. [銀行支店番号を再入力] に、もう一度 9 桁の支店番号を入力します。
9. [当座預金口座の番号] に当座預金口座の番号を入力します。

   口座番号は 17 桁まで入力できます。この口座は、米国にある銀行の ACH が有効な当座預金口座である必要があります。
10. [当座金口座の番号を再入力] に、もう一度、当座預金口座の番号を入力します。

11. 個人用の銀行口座の場合

    a. [運転免許証番号その他都道府県が発行した ID] に、プライマリアカウントの所有者の、有効な運転免許証の番号か、その他都道府県が発行した身分証明書の番号を入力します。

    b. [発行された ID の都道府県] に、都道府県名を入力します。

12. 事業用口座の場合は、[納税 ID] に、事業用連邦納税 ID を入力します。
13. [デフォルトの支払い方法として設定] で、この銀行引き落とし口座をデフォルトの支払い方法として設定するどうかを選択します。
14. [請求連絡先情報] に、プライマリアカウントの所有者の、有効な米国の請求連絡先を入力します。
15. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。タグの詳細については、「Managing Your Payments using tags」を参照してください。
16. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。

銀行引き落とし口座を更新する

銀行デビットロ座に関連付けられた名前、住所、または電話番号は更新することができます。

銀行引き落とし口座を更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント 、「支払い方法」セクションに記載されています。
3. 編集する銀行引き落とし口座を選択し、[編集] を選択します。
4. 変更する情報を更新します。
5. 変更を確認し、問題がなければ [変更の保存] を選択します。

事前支払いの使用

> **Note**
>
> 前払いは のパブリックプレビューであり AWS Billing and Cost Management 、変更される可能性があります。この機能は、選択した顧客グループで使用できます。事前支払いの使用には、AWS サービス規約 (セクション 2) のベータおよびプレビュー参加条件が適用されます。

前払いを使用して使用量を AWS 事前に支払います。 は、支払い期日に請求書の支払いを自動的に行うために資金 AWS を使用します。デフォルトの支払い方法は、前払い残高が利用できない場合に使用されます。

事前支払いには、 AWS Billing and Cost Management コンソールで登録できます。電子資金振替を使用して、前払いに資金を追加できます。 AWS Inc. のお客様は、米国の支店所在地にある個人または法人の銀行口座を使用して資金を追加できます。欧州で前払いを使用するには、アカウントで AWS 欧州請求書が必要です。

> **メモ**
>
> - 登録販売者 (SOR) が AWS Inc. または AWS Europe で、米ドルで支払っている場合は、前払いを使用できます。[前払い] タブが表示されない場合は、次のいずれかの理由が考えられます。
>   - AWS アカウントに別の SOR がある。ご利用の SOR を確認するには、[支払い設定] ページに移動し、デフォルトのお支払い方法の下にある [サービスプロバイダー] の下の名前を確認してください。この情報は、[税金設定] ページの [販売者] 列でも確認できます。
>   - 組織に属するメンバーアカウントの場合、前払いを利用できるのは管理アカウント (支払いアカウントとも呼ばれます) だけです。
> - 前払いは AWS GovCloud (US)ではご利用いただけません。
> - 前払いに関するサービス制限の詳細なリストについては、「事前支払い」をご覧ください。

トピック

- 事前支払いを登録する
- 事前支払いへ資金を追加する

事前支払いを登録する

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して前払いに登録できます。

事前支払いに登録するには

1. にサインイン AWS Management Console し、 AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://https://https://https://https://https://https://https://https://https://
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [事前支払いの利用規約] を承諾します。
5. [登録] を選択します。

事前支払いへ資金を追加する

電子資金振替または個人またはビジネス用銀行口座を使用して、事前支払いに資金を追加できます。

電子資金振替を使用して事前支払いに資金を追加するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://www.com で開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [資金の追加] を選択します。
5. [金額] の下で、追加する基金の金額を入力します。

   金額は US ドル建ての入力が必要です。
6. [支払い方法] の下で、[支払い方法の選択] を選択します。
7. [電子送金] を選択します。
8. [この支払い方法を使用する] を選択します。
9. 支払いの詳細を確認し、[検証] を選択します。

10. 電子資金振込を完了するには、[支払いの概要] セクションの手順を使用します。

資金概要ドキュメントは、前払いの概要ページからダウンロードできます。

銀行口座を使用して事前支払いに資金を追加するには

銀行口座を使用して事前支払いに資金を追加するには、ACH 銀行デビット支払い方法として米国の銀行口座を追加する資格要件を満たしている必要があります。詳細については、「ACH 銀行引き落としによる支払い方法を管理する」を参照してください。

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://www.com で開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [事前支払い] タブを選択します。
4. [資金の追加] を選択します。
5. [金額] の下で、追加する基金の金額を入力します。

   金額は US ドル建ての入力が必要です。
6. [支払い方法] の下で、[支払い方法の選択] を選択します。
7. [銀行口座] を選択します。
8. [この支払い方法を使用する] を選択します。
9. 支払いの詳細を確認し、[資金の追加] を選択します。

入力した資金の金額が銀行口座に請求されます。

資金概要ドキュメントは、前払いの概要ページからダウンロードできます。

中国人民元での支払い

AWS Inc. のお客様は、人民元の通貨を使用して支払いを行うことができます。

新しい中国銀行リダイレクト支払いの利用

中国を拠点とするお客様は、中国の銀行のリダイレクト支払い方法を使用してお支払いを完了できます。これを行うには、人民元による支払いを有効にして、優先通貨として設定する必要があります。中国の銀行のリダイレクト方式を使用すると、 AWS Inc. について人民元で支払うことができます。

トピック

- 中国の銀行のリダイレクト支払いを利用するための要件
- 中国の銀行のリダイレクト支払いの設定
- 中国銀行リダイレクトによる支払い
- 中国の銀行のリダイレクトから請求書による支払いへの切り替え

中国の銀行のリダイレクト支払いを利用するための要件

支払い方法として中国銀行リダイレクトを使用するには、Amazon Web Services, Inc. のお客様であること、および以下の要件が満たされていることが必要です。

- 人民元による支払いを有効にする必要があります。
- 優先通貨として人民元を設定する必要があります。

中国の銀行のリダイレクト支払いの設定

中国銀行リダイレクトを支払い方法として使用するには、 AWS Billing and Cost Management コンソールで人民元の支払いを有効にします。

人民元の支払いを有効にするには、本人確認のための情報を提供します。個人アカウントの場合、確認のために国民識別番号が必要です。ビジネスアカウントの場合、次の情報が必要です。

- Unified Social Credit Code または組織コード
- 営業許可証の画像

必要な情報を収集したら、次の手順に従います。この手順では、優先通貨を人民元に設定し、中国銀行リダイレクト支払いをセットアップします。

人民元の支払いを有効にし、中国の銀行のリダイレクト支払い方法を設定するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay with Chinese yuan] (人民元での支払い) のセクションで、[Get started] (今すぐ始める) または [Pay in Chinese yuan] (人民元で支払う) を選択します。

4. 「Terms and Conditions for Chinese Yuan Payments」(人民元でのお支払いに関する規約) を確認します。その後、[I have read and agree to the Terms and Conditions for Chinese Yuan Payments] (私は、人民元のお支払いに関する規約を読み、同意します) を選択します。
5. [次へ] を選択します。
6. 個人アカウントの場合、以下を実行します。

   - [Full name] (フルネーム) で、フルネームを中国語で入力します。
   - [Identity card number] (身分証明書番号) で、国民識別番号を入力します。

   ビジネスアカウントを使用している場合は、以下を実行します。

   - [Company name] (会社名) は中国語で入力してください。
   - [Contact name] (連絡先の名前) で、連絡先の名前を中国語で入力します。
   - [Contact phone number] (連絡先の電話番号) で、会社の連絡先の電話番号を入力します。
   - [Uniform social credit code or organization code] (Unified Social Credit Code または組織コード) で、会社のコードを入力します。
   - [Company business license] (会社の営業許可証) で、会社の営業許可証の画像をアップロードします。

   > **Note**
   >
   > アカウントによっては、中国銀聯クレジットカードの追加が必要になる場合があります。詳細については、「中国人民元クレジットカードの使用」を参照してください。

7. [Next] (次へ) を選択します。
8. 入力した本人確認のための情報が正しいことを確認します。その後で、[送信] を選択します。

本人情報の確認には 1 営業日を要する場合があります。本人であることが確認されると、デフォルトの通貨は自動的に人民元に変更されます。さらに、中国の銀行のリダイレクトの支払い方法は、[Payment Methods] (お支払方法) コンソールページの [Pay with Chinese yuan] (人民元での支払い) セクションで利用できます。

中国銀行リダイレクトによる支払い

支払い方法を設定した後、中国銀行のリダイレクトを使用して、請求書の支払いを行うことができます。

> **Note**
>
> ビジネスアカウントを使用している場合は、中国銀行リダイレクト支払い方法に選択する銀行口座名が、人民元での支払い設定時に送信した会社の正式名称と同一である必要があります。前の手順のステップ 6 を参照してください。

中国銀行のリダイレクトを使用して請求書を支払うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. 支払いを希望する請求書を選択し、[Complete payment] (支払いを完了) を選択します。
4. [Select payment option (支払いオプションの選択)] で、[中国銀行のリダイレクト] を選択します。
5. 50,000 USD を超える支払いについては、適用される税および源泉徴収の義務を履行したことを確認してください。そのためには、[I confirm that I fulfilled the Chinese tax and surcharge withholding obligations according to Chinese tax laws and regulations] (私は、中国の税法および規制に従って、中国の税および追加料金の源泉徴収義務を履行したことを確認します) を選択します。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。
7. リダイレクトを続行するには、[OK] を選択します。

リダイレクトされたら、ドロップダウンメニューから銀行を選択し、銀行のウェブサイトでお支払いを完了します。トランザクションリクエストの処理には最大 24 時間かかることがあります。

中国の銀行のリダイレクトから請求書による支払いへの切り替え

デフォルトの支払い方法を請求書による支払いに変更するには、次の手順に従います。

請求書による支払いの方法に切り替えるには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay by invoice] (請求書による支払い) セクションで、使用するデフォルトの支払い方法の横にある [Make default] (デフォルトにする) を選択します。
4. [Change your payment method and currency] (支払い方法と通貨を変更) ダイアログボックスで、[Yes, I want to proceed] (はい、続行します) を選択します。

お支払い方法を変更すると、優先通貨はデフォルトで USD に設定されます。優先通貨を人民元に戻すには、中国の銀行のリダイレクト支払い方法の横にある Make default デフォルトにする を選択します。優先通貨をサポートされている別の通貨に変更するには、「請求の支払い通貨の変更」を参照してください。

中国人民元クレジットカードの使用

> **Note**
>
> 現時点では、人民元デビットカードはサポートされていません。

AWS Inc. のアカウントをお持ちで、米ドルで請求され、中国を拠点としている場合は、以下のセクションを使用してアカウントに人民元 (CNY) クレジットカードを追加できます。

次のタスクを実行するには、 AWS Billing and Cost Management コンソールの [支払い方法] ページを使用します。

- the section called “中国人民元クレジットカードの設定”
- the section called “中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードへの切り替え”
- the section called “別の中国人民元クレジットカードの追加”

中国人民元クレジットカードの設定

使用する通貨を CNY に変更し、クレジットカードを追加するには、次の情報が必要です。

- 国民 ID 番号
- ビジネスライセンス (該当する場合)
- ビジネスライセンスの画像 (該当する場合)

必要な情報を入力したら、次の手順に従って指定通貨を変更し、最初の中国人民元クレジットカードを追加します。

最初の中国人民元クレジットカードを追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Pay with Chinese yuan] を選択します。
4. [Setting up Chinese yuan payment] ダイアログボックスで、[Terms and Conditions for Chinese yuan payments (中国人民元でのお支払いに関する規約)] をお読みの上、[I've already read and agree to the above terms and conditions] を選択し、[Next] を選択します。
5. [Verify customer identity] に、次の情報を入力します。

   - 国民 ID の名前
   - 連絡先の番号
   - (法人のみ) 会社名
   - 国民 ID 番号
   - (法人のみ) Business License number (ビジネスライセンス番号)
   - (法人のみ) Business License image (ビジネスライセンスの画像)

   必要な情報を入力したら、[次へ] を選択します。
6. [中国銀聯クレジットカードを追加] にカードと銀行の情報を入力します。
7. [Get Code (コードの取得)] を選択し、指定されたコードを入力して、[Next (次へ)] を選択します。
8. 情報を確認し、[I have confirmed that the provided information is accurate and valid (表示された情報は性格で有効なものであることを確認しました)] を選択して、[Submit (送信)] を選択します。

お客様の情報の確認に 1 営業日かかる場合があります。情報の確認が完了すると、 AWS より E メールが送信されます。

中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードへの切り替え

中国人民元クレジットカードからインターナショナルクレジットカードに切り替えるには、優先通貨を変更します。次の手順に従って、デフォルトの支払い方法と指定の通貨を一度に変更することができます。

デフォルトの支払い方法と通貨を変更するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. デフォルトの支払い方法として使用するインターナショナルクレジットカードの横にある、[Make Default] を選択します。
4. ダイアログボックスの [Select payment currency (支払い通貨の選択)] で、使用する通貨を選択します。次に、[はい、続行します] を選択します。

別の中国人民元クレジットカードの追加

別の中国人民元クレジットカードを追加するには、次の手順に従います。

別の中国のクレジットカードを追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment Methods (支払い方法)] を選択します。
3. [Add a Chinese yuan credit card (中国人民元クレジットカードの追加)] を選択します。
4. クレジットカードのボックスに、カードおよび銀行に関する情報を入力します。
5. [コードの取得] を選択し、指定されたコードを入力して、[Continue (続行)] を選択します。

PIX を使用した支払い (ブラジル)

要件が満たされている場合、PIX 機能を有効にした状態でモバイルバンキングアプリを使用できます。この機能を使用して、 AWS 生成された QR コードをスキャンして の支払いを行うことができます AWS アカウント。

PIX を使用するには、Amazon Web Services ブラジルのお客様であり、 が次の要件を満た AWS アカウント している必要があります。

- 請求書はブラジルレアル (BRL) で生成され、BRL が優先通貨として設定されている。
- クレジットカードがデフォルトのお支払いとして設定されている。

クレジットカードの登録は必須です。ただし、クレジットカードが有効な支払いオプションである場合、PIX はご利用いただけません。クレジットカードでの支払いが失敗した場合は、PIX を支払い方法として選択できます。

PIX を使用して取引を完了するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. [支払期限] セクションで、[期限切れ] ステータスの請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払い方法を変更] または [PIX を使用] を選択します。
6. [QR コードを生成] を選択します。

> **Note**
>
> PIX の QR コードは 30 分間有効です。取引時間が 30 分を超える場合は、これらの手順をもう一度実行して新しい QR コードを生成してください。

7. モバイルバンキングアプリで、PIX オプションを開き、 AWS 生成された QR コードをスキャンしてトランザクションの詳細を確認します。 AWS 支払いの完了ページで PIX コードをコピーを選択して、コードを銀行ページに貼り付けることもできます。
8. バンキングアプリから必要な追加の手順をすべて完了してください。
9. 完了した取引を[支払い] ページで確認します。

> **Note**
>
> 銀行から支払いの確認を受け取るまでに最大 2 分かかります。情報が届き次第、[支払い] ページに変更内容が反映されます。

PIX のお支払いに関する質問については、サポートにお問合せください。

インドでの支払いの管理

アカウントが AWS India にある場合は、このトピックの手順に従って支払い方法を管理し、支払いを行います。アカウントが AWS か AWS India かの詳細については、「」を参照してください登録販売者の検索。

> **Note**
>
> 支払い方法に関して質問がある場合は、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」を参照してください。

目次

- サポートされている支払い方法
- クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う
- クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する
- 支払い時にカードの詳細情報を追加する
- クレジットカードまたはデビットカードを削除する
- ネットバンキングアカウントの追加
- ネットバンキング口座を使って支払う
- ネットバンキングアカウントの削除
- Unified Payments Interface (UPI) を使用して支払いを行う
- クレジットカードまたはデビットカードで自動支払いを設定する
- 自動支払いについて
- AWS Marketplace または AWS サブスクリプションの支払い
- クレジットカードまたはデビットカードの自動支払いをキャンセルする
- AWS インド国外での請求書の支払い
- India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示
  - 対象外の支払い方法アラートのトラブルシューティング

サポートされている支払い方法

AWS は、 AWS インドのアカウントの Visa、Mastercard、American Express、RuPay のクレジットカードとデビットカードをサポートしています。さらに、インターネットバンキング (ネットバンキング) アカウントと Unified Payments Interface (UPI) を使用して、 AWS インドの AWS 請求書を支払うことができます。また、対象となるクレジットカードまたはデビットカードの自動支払い (e-mandates) を設定して、支払い期日に AWS 請求書を自動的に支払うこともできます。e-mandates は、15,000 INR 以下の料金にのみ使用できます。

クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う

Billing and Cost Management コンソールを使用して、 AWS インドの請求書を支払うことができます。クレジットカードまたはデビットカードを使って支払う場合は、次の手順に従います。

クレジットカードまたはデビットカードを使って支払うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. このカードで自動定期的な支払いを有効にするには、[今後の支払いでこの支払い方法に自動的に請求する] の横にあるチェックボックスをオンにします。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。
7. 支払い方法が Visa、American Express、Mastercard、および RuPay の場合は、支払いを認証するためにお使いの銀行にリダイレクトされます。

   支払いが確認されると、[Payments] (支払い) ページにリダイレクトされます。銀行が支払いを処理するまで、 AWS 請求書は支払い期日テーブルに残ります。

クレジットカードまたはデビットカードの詳細情報を保存する

カードネットワークのクレジットカードまたはデビットカードの詳細を に保存して AWS 、インド準備銀行 (RBI) のガイドラインに従って後続の AWS 請求書の支払いを行うことができます。

デビットカードまたはクレジットカードの詳細情報を保存する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [クレジット/デビットカード] を選択します。
5. カード番号、有効期限、セキュリティコード (CVV)、およびカード所有者の名前を入力します。
6. [今後の支払いのためにカード情報を保存する] に同意します。
7. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
8. カード情報を確認してから、[お支払い方法を追加] を選択します。

   クレジットカードを認証するために銀行のウェブサイトにリダイレクトされ、2 インドルピー (INR) が課金されます。この料金は、5 ~ 7 営業日以内にカードに返金されます。

   カードが正常に認証されると、カードの詳細情報が AWS アカウントに保存されます。

支払い時にカードの詳細情報を追加する

AWS 請求書の支払い時に、クレジットカードまたはデビットカードの詳細を追加することもできます。支払い方法としてカードを追加すると、この手順を繰り返す必要がなくなります。

支払い時にカードの詳細情報を追加する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [支払い期限] テーブルで、支払い対象の請求書を選択します。
4. [支払う] を選択します。
5. [支払い方法を追加する] を選択してから、[クレジット/デビットカード] を選択します。
6. カード番号、有効期限、セキュリティコード (CVV)、およびカード所有者の名前を入力します。
7. [今後の支払いのためにカード情報を保存する] に同意します。

8. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。
9. カード情報を確認してから、[お支払い方法を追加] を選択します。

   請求書の支払い概要にリダイレクトされ、その画面で支払いを行うように求められます。

   支払いが正常に完了すると、カードの詳細情報が AWS アカウントに保存されます。

クレジットカードまたはデビットカードを削除する

クレジットカードまたはデビットカードを削除する前に、 AWS アカウント に別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認してください。

クレジットカードまたはデビットカードを削除する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。に関連付けられた支払い方法は、「支払い方法」セクション AWS アカウント に表示されます。
3. 削除する支払い方法を選択して、[削除] を選択します。
4. [この支払い方法を削除しますか] のダイアログボックスで、[削除] を選択します。

ネットバンキングアカウントの追加

支払い方法へのインターネットバンキング (ネットバンキング) 口座の追加は、Billing and Cost Management コンソールから行えます。この支払いオプションは、 AWS インドのすべてのお客様が利用できます。

ネットバンキングの口座を追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [Net Banking] (ネットバンキング) を選択します。
5. [ネットバンキングに関する情報] で銀行名を選択します。
6. [請求先住所情報] のセクションに、ご自身の名前、請求先住所、電話番号を入力します。

7. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。

ネットバンキング口座を使って支払う

Billing and Cost Management コンソールを使用して、 AWS インドの請求書を支払うことができます。ネットバンキングで支払いを行うときは、次の手順に従います。

> **Note**
>
> 現在の AWS インドの規制により、 AWS 支払いごとに請求を承認するように銀行にリダイレクトされます。ネットバンキングは、自動支払いには使用できません。

ネットバンキングを使って支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [お支払いの完了] ページで、保存したネットバンキング口座がデフォルトで選択されます。別のネットバンキングアカウントを使用するには、[支払い方法を追加]、[ネットバンキング] の順に選択します。
6. 要約を確認し、[確認して支払う] を選択します。
7. 支払いを検証するために、銀行のウェブサイトにリダイレクトされます。銀行のアカウントにサインインして、画面の指示に従って支払を承認します。

   支払いが確認されると、[Payments] (支払い) ページにリダイレクトされます。処理が正常に完了したことを示すメッセージがページの上部に表示されます。

ネットバンキングアカウントの削除

AWS アカウントからネットバンキングの口座を削除する場合、Billing and Cost Management コンソールから行います。

ネットバンキング口座を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント 、「支払い方法」セクションに記載されています。
3. AWS アカウント に別の有効な支払い方法がデフォルトとして設定されていることを確認します。
4. 削除する支払い方法を選択し、[削除] を選択します。
5. [Delete payment method] (支払方法を削除) ダイアログボックスで [Delete] (削除) を選択します。

Unified Payments Interface (UPI) を使用して支払いを行う

請求コンソールを使用して、 AWS インドの請求書の支払いを行うことができます。Unified Payments Interface (UPI) で支払いを行うには、次の手順に従います。

> **Note**
>
> UPI トランザクションを承認するために、有効な UPI ID と請求先住所を入力すると、 AWS India は指定した UPI ID に関連付けられた UPI アプリケーション (アプリ) にリクエストを送信します。支払いを完了するには、UPI アプリを開き、10 分以内にトランザクションを承認します。トランザクションが 10 分以内に承認されない場合、リクエストは期限切れになり、Billing コンソールから支払いを再試行する必要があります。

UPI を使用して支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

[支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。

3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払いを完了] ページで次のいずれかを実行します。
   - [UPI の使用] ボタンを選択します。
   - [支払い方法の追加] を選択し、メニューから [Unified Payments Interface (UPI)] を選択します。
6. UPI ID を入力し、[検証] を選択します。
7. 成功したら、請求先住所を入力するか、既存の住所を使用することを選択します。
8. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
9. [支払い] ページにリダイレクトしたら、概要を確認してから、[確認して支払う] を選択します。

   支払いを承認するために必要な手順を示す中間ページにリダイレクトされます。支払いが確認されると、[支払い] ページにリダイレクトされ、ページの上部に成功メッセージが表示されます。

クレジットカードまたはデビットカードで自動支払いを設定する

> **Note**
>
> e-mandate 機能はプレビューリリースであり、変更される可能性があります。

次の手順を使用して、 AWS インドの請求書に対してクレジットカードまたはデビットカードの自動定期支払いを有効にできます。現在、請求ごとに最大 15,000 INR の自動支払いをサポートしています。15,000 INR を超える請求には、手動支払いを行う必要があります。カードで定期的な支払いを有効にするには、カードに e-mandate を設定する必要があります。

プレビューリリース中の一部のお客様は、銀行を通じて追加の承認で請求書を自動的に請求できます。15,000 ~ 100,000 INR の請求書には、銀行を通じてお客様の承認が必要です。銀行から受け取った指示に従って、支払いを承認します。

e-mandate を設定するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。

   [支払い期限] テーブルには、未処理の AWS 請求書がすべて一覧表示されます。請求書が表示されない場合、必要な操作はありません。
3. [支払い期限] テーブルで、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. [支払いの概要] セクションで、[今後の支払いでこの支払い方法に自動的に請求する] の横にあるチェックボックスをオンにします。
6. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

> **Note**
>
> - クレジットカードまたはデビットカードがサポートされていない場合、またはデフォルトの支払い方法として設定されていない場合、チェックボックスを選択して e-mandate を設定することはできません。e-mandate のサポートの詳細については、銀行にお問い合わせください。デフォルトの支払い方法を変更するには、「デフォルトの支払い方法を指定する」を参照してください。
> - カードのアクティブな e-mandate をキャンセルしないと、デフォルトの支払い方法を変更または編集することはできません。これは、デフォルトの支払い手段に対してのみ自動的に請求されるようにするためです。e-mandate をキャンセルするには、「クレジットカードまたはデビットカードの自動支払いをキャンセルする」を参照してください。e-mandate がキャンセルされたら、デフォルトのカードを編集または変更できます。

次のステップとして、銀行は支払いと e-mandate の設定を確認するようにリダイレクトします。e-mandate が正常に設定されると、[支払いの設定] ページでデフォルトの支払い方法のステータスが `AutoPay enabled` と表示されます。

15,000 INR までの今後の AWS 請求は、次の請求サイクルから毎月クレジットカードまたはデビットカードに自動的に請求されます。

自動支払いについて

定期的な支払いの設定が完了すると、 AWS インドは毎月最大 15,000 INR を自動的に請求します。

自動支払いの設定に成功したら、次の点に注意してください。

- [支払いの設定] ページでは、デフォルトの支払いのステータスが `AutoPay enabled` と表示されます。
- AWS 請求書が生成されると、料金の 24 時間前に SMS または銀行からの E メールを通じて、事前デビットリマインダーが届きます。
- 手動支払いは、 がカードに自動的に請求 AWS している間、最大 96 時間まで一時的に無効になります。

自動支払いが失敗した場合、次の点に注意してください。

- 自動請求は、残高不足やその他の理由で失敗する可能性があります。
- カードへの請求が複数回試行され、そのたびにメールアラートが送信されます。
- 15,000 INR を超える請求には、手動支払いを行う必要があります。

AWS Marketplace または AWS サブスクリプションの支払い

India AWS アカウントから AWS Marketplace の購入またはサブスクリプションに対して支払いを行う場合、e-mandate は自動支払いには使用できません。代わりに、支払いページから支払いを完了する必要があります。

サブスクリプションの場合、サブスクリプションをアクティブ化するには、1 時間以内に支払いを完了する必要があります。その間にトランザクションを完了できない場合、サブスクリプションの購入と請求書は無効になります。続行するには、サブスクリプションを再購入して支払いを完了します。

クレジットカードまたはデビットカードの自動支払いをキャンセルする

e-mandate をキャンセルすることで、定期的な AWS 請求書に対するクレジットカードまたはデビットカードの自動支払いを無効にすることができます。

AWS コンソールを使用して e-mandate をキャンセルするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで [支払いの詳細設定] ページを選択します。
3. [デフォルトの支払い設定] セクションで、AutoPay が現在アクティブの場合、ステータスが `AutoPay enabled` と表示されます。
4. [AutoPay を無効にする] を選択します。
5. [自動支払いを無効にする] モーダルで、[無効にする] を選択します。

銀行ポータルまたは SiHub を介して e-mandate をキャンセルするには

1. 銀行のウェブサイトに直接アクセスするか、引き落とし前の SMS またはメール通知で銀行から送信されたリンクからアクセスします。
   - アクティブな e-mandate を表示するには、支払いカードの詳細の入力が必要になる場合があります。
2. アクティブな e-mandate リストから [Amazon Web Services] を検索し、[キャンセル] を選択します。
   - 銀行は、ワンタイムパスワードを送信したり、キャンセルリクエストを完了するために追加の認証を必要とする場合があります。

AWS が e-mandate がキャンセルされたことを確認すると、デフォルトの支払い方法に変更が反映されます。自動支払いステータスは、Billing and Cost Management コンソールの [支払いの設定] ページで確認できます。Billing and Cost Management コンソールでこれ以上のアクションは必要ありません。保留中の請求と今後の請求に対して、手動で支払いを行う必要があります。

e-mandate のキャンセルが失敗した場合、[支払いの設定] ページでデフォルトの支払い方法のステータスが `AutoPay enabled` と表示されます。支払いカードへのさらなる請求を防ぐために、キャンセルプロセスを再度試みます。

AWS インド国外での請求書の支払い

> **Note**
>
> AWS インド以外の SORs の請求書の支払いを行うためにアカウントに支払いカードを保存できない場合、アカウントは、この機能が利用できないレガシーモデルで運用されている可能性があります。現在、 AWS インドのアカウントをレガシーモデルから、この機能が利用可能な新しいモデルに移行しています。完了予定日は 2025 年 12 月です。

India AWS アカウントはあるが、 AWS インドの登録販売者 (SOR) 以外の請求書に対して AWS 支払いを行う必要があるシナリオが発生する場合があります。

例

- Inc AWS . から AWS Marketplace 請求書を受け取りました。
- アカウントを AWS India に移行する前に、 から AWS India 以外の SOR からの未払いの請求書がある。
- アカウントは、 AWS インドにないメンバーアカウントを持つ組織の管理アカウントです。

> **Note**
>
> India AWS アカウントから AWS India SOR にない請求書に AutoPay を使用することはできません。支払いコンソールページから AWS インド以外のすべての請求書を決済する必要があります。詳細については、「支払い」を参照してください。

デフォルトの支払い方法がクレジットカードまたはデビットカードである AWS インドのアカウントで、 AWS インド以外の請求書の支払いを行う場合は、それらの SORs の支払いの対象となる支払いカードを使用する必要があります。Payment preferences を使用して AWS India アカウントに支払いカードを追加する場合、その支払い方法は RBI ガイドラインに従って AWS India 請求書への支払いにのみ使用できます。対象となるカードを保存していない場合は、新しい支払い方法を追加する必要があります。

AWS インド以外の請求書の支払いを完了するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. AWS インド以外の請求書の未払いの請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. 支払いの完了ページで、次のいずれかを実行します。
   - (対象となるカードがファイルに保存されている場合) AWS インド以外の請求書の支払いを完了するために、カードが自動的に選択されます。

     ファイルで別の対象となる支払いカードを使用するには、支払い方法の変更を選択します。

- (対象となるカードがファイルに保存されていない場合) 支払い方法を追加を選択し、AWS インド国外での支払いの対象となるクレジットカードまたはデビットカードを入力します。このカードは、 AWS インド以外の請求書に対する将来の支払いのために保存されます。

> **Note**
>
> アカウントに支払いカードを保存できない場合は、 サポート に連絡して、アカウントで機能が有効になっていることを確認してください。

India AWS 請求書の対象となるクレジットカードまたはデビットカードの表示

アカウントに保存されたすべての支払いカードは、支払い方法セクションの「支払い設定コンソール」ページで確認できます。

インド準備銀行 (RBI) のガイドラインでは、 AWS インドカードは Payment Aggregators and Payment Gateway (") の規制に従って保存する必要があります。つまり、カードは AWS インド国外での取引に使用される支払いカードとは別に保存されます。 AWS インドに移行する前に別のサービスプロバイダーと取引したアカウント、または複数のサービスプロバイダーのメンバーアカウントに対して支払いを行う AWS インドの管理アカウントの場合、同じカードが支払い方法の下に 2 回表示される場合があります。1 回は RBI ガイドラインに従って AWS インドで を使用し、もう 1 回は AWS インド以外のトランザクションに使用します。

AWS India アカウントから支払い方法を表示すると、RBI ガイドラインに従って保存され、AWS インドの請求書の対象となる支払いカードが表示されます。すべての支払いカードを表示するには、「対象外の支払い方法を表示」をオンにします。これにより、 AWS インドの請求書`Ineligible`で とマークされているものを含め、登録されているすべての支払いカードが表示されますが、他の SORs でも使用できます。同じ支払いカードが 2 つある場合、1 つのカードは AWS インドの RBI 規制に従ってのみ保存され、もう 1 つは他の SOR 請求書用に保存されている可能性があります。

対象外の支払い方法アラートのトラブルシューティング

最近 SOR を AWS インドとの間で変更した場合、支払い設定ページにアラートが表示されることがあります。アラートには、デフォルトの支払い方法が現在のサービスプロバイダーで を使用できないことが記載されています。これは、RBI ガイドラインでは、 に使用される支払いカードは AWS

インドの請求書にのみ使用できることを要求しているためです。デフォルトの支払いカードを更新することで、このアラートバナーを修復できます。

対象となる支払いカードを登録するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. (新しい SOR の対象となるカードがファイルに保存されている場合) カードを選択し、デフォルトとして設定します。
4. (対象となるカードがファイルに保存されていない場合) 支払い方法を追加を選択し、 AWS インド国外での支払いの対象となるクレジットカードまたはデビットカードを入力します。保存したら、デフォルトとして設定を選択します。

AWS 欧州での支払いの管理

アカウントが AWS 欧州にある場合は、このセクションの手順に従って支払い方法と支払いを管理します。

トピック

- AWS 欧州のクレジットカード支払い方法の管理
- AWS 欧州のクレジットカード支払い検証の管理
- SEPA 口座振替の支払い方法の管理

AWS 欧州のクレジットカード支払い方法の管理

AWS Billing and Cost Management コンソールの支払い設定ページを使用して、次のクレジットカードタスクを実行できます。

- Add a credit card to your AWS Europe account
- Update your credit card
- Confirm that your credit card is up to date

AWS 欧州アカウントにクレジットカードを追加するには

コンソールを使用して、アカウントにクレジットカードを追加できます。

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. クレジットカードフィールドに情報を入力し、[Continue (続行)] を選択します。
5. クレジットカード情報フィールドに、カードの請求連絡先を入力します。
6. [続行] をクリックしてください。

クレジットカードを更新するには

クレジットカードに関連付けられた名前、住所、電話番号は更新できます。

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. 編集するクレジットカードの横にある [編集] を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ページの最下部にある [更新] を選択します。

クレジットカードが最新であることを確認するには

支払いを行うには、期限切れでない有効なクレジットカードが登録されている必要があります。

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. カードの有効期限日が将来の日付であることを確認します。カードが期限切れの場合は、新しいカードを追加するか、現在のカードを更新します。

AWS 欧州のクレジットカード支払い検証の管理

最近の EU 規制に準拠するために、クレジットカードを使用して AWS オンラインでの支払い、クレジットカードの追加や更新、または新しい の登録を行うたびに、銀行から確認を求められる場合があります AWS アカウント。銀行は通常、オンライン購入が完了する前に、一意のセキュリティコー

ドをクレジットカード所有者にオンラインで送信します。銀行で支払いを確認する必要がある場合は、 から E メールが送信されます AWS。検証後、 AWS ウェブサイトにリダイレクトされます。

支払いの検証を行いたくない場合は、支払い方法として銀行口座を登録してください。銀行デビット支払いの利用資格に関する詳細については、「」を参照してください。

EU の規制に関する詳細については、欧州委員会のウェブサイト（英語）を参照してください。

-
-
-
-
-

検証のベストプラクティス

- クレジットカード情報が最新であることを確認します。銀行は登録されたカード所有者にのみ検証コードを送信します。
- 最新のコードを入力します。認証ポータルを閉じた場合や新しいコードをリクエストした場合は、最新のコードの受信が遅れることがあります。
- 指示に従ってコードを入力します。コードの送信元の電話番号を入力しないでください。

支払いの検証

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して、支払いに検証が必要であることを確認するか、失敗した支払いを再試行できます。

支払いを検証するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Orders and invoices (注文と請求書)] を選択します。
3. [Payments due (支払い期限)] で支払う請求書を見つけ、[Verify and pay (検証して支払い)] を選択します。
4. [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) ページで、使用する支払い方法を選択します。
5. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。

6. 支払いを検証する必要がある場合は、銀行のウェブサイトにリダイレクトされます。検証を完了するには、表示される指示に従ってください。

銀行での支払いが処理されると、[注文と請求書] ページにリダイレクトされます。

> **Note**
>
> 銀行で支払い処理が完了するまで、請求書は [支払い処理中] というステータスで表示されます。

支払いの検証のトラブルシューティング

検証が正しく完了しなかった場合は、次のいずれかのアクションを取ることをお勧めします。

- 銀行に連絡して、自分の連絡先情報が最新であることを確認します。
- 銀行に連絡して、検証が失敗した理由の詳細を確認します。
- キャッシュと cookie を消去するか、別のブラウザを使用します。
- AWS Billing and Cost Management コンソールの支払い設定ページに移動し、請求連絡先情報を更新します。

AWS Organizations

のメンバーアカウントの場合 AWS Organizations、前払いを必要とする購入したサービスは、管理アカウントユーザーが支払いを検証するまでアクティブ化されない場合があります。検証が必要な場合、 は管理アカウントの請求連絡先に E メールで AWS 通知します。

管理アカウントとメンバーアカウント間の連絡プロセスを確立してください。支払い方法を変更するには、「」を参照してください。

サブスクリプションの購入

複数のサブスクリプションを一度に (一括で) 購入し、銀行から確認を求められたとします。その後、銀行から個々の購入の確認を求められる場合があります。

サブスクリプションには、リザーブドインスタンス、ビジネスサポートプラン、Route 53 ドメインなどの即時購入が含まれる場合があります。サブスクリプションには AWS Marketplace 料金は含まれません。

すべての購入について検証を完了させるか、支払い方法として銀行口座を登録してください。銀行デビット支払いの利用資格に関する詳細については、「」を参照してください。

SEPA 口座振替の支払い方法の管理

AWS 欧州のお客様は、SEPA 銀行デビット支払いを許可する銀行口座を追加できます。個人用口座またはビジネス用口座のいずれも使用できます。ただし、SEPA がサポートされている国の支店に口座があり、ユーロでのお支払いの場合に限ります。

SEPA 銀行デビットで支払う場合、 は請求書 AWS を提供し、翌日または請求書の期日のいずれか遅い方に支払い方法への請求を開始します。 AWS Billing コンソールの支払い欄に [Succeeded] (成功) と表示されている場合でも、支払いが完了するまでに最大 5 営業日かかります。

AWS 請求コンソールの支払い設定ページを使用して、次の SEPA 銀行デビットタスクを実行できます。

目次

- 銀行口座を確認して AWS 欧州の支払い方法にリンクする
- AWS 欧州の支払い方法に口座振替口座を手動で追加する
- 振替口座情報を更新する

銀行口座を確認して AWS 欧州の支払い方法にリンクする

> **Note**
>
> この機能を使用するには、ドイツ、オランダ、スペイン、英国、またはベルギーに請求先住所が必要です。請求先住所を変更するには、「振替口座情報を更新する」を参照してください。

SEPA 銀行デビット口座を確認して にリンクするには、銀行口座に AWS アカウント サインインします。本人確認と銀行口座名義を確認を行うために、銀行口座へのサインインをお願いしています。

AWS は TrueLayer と連携して銀行に接続し、銀行口座の所有権を安全に検証します。この 1 回限りの認証プロセスの間、お客様の情報は暗号化されたエンドツーエンド接続で保護されます。個人データは、接続された銀行口座の名義人であることを確認する目的以外に共有されることや使用されることはありません。

銀行口座のサインイン認証情報にアクセスできない場合は、銀行口座名義人用の IAM エンティティ (ユーザーやロールなど) を作成して、請求コンソールへのアクセスを許可することができます。その後、 AWS アカウント 支払い方法を更新できます。口座のユーザー名、パスワード、支払い方法などの機密情報は共有しないことをお勧めします。詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- アクセス許可の管理の概要
- 「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」のアカウントのルートユーザーを保護するためのベストプラクティス

銀行口座の確認とリンクを行うには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。
4. [銀行口座] を選択します。
5. [銀行にサインイン] を選択します。
6. [銀行口座をリンク] を選択します。
7. 銀行名を選択します。
8. [Allow] (許可) を選択します。共有した情報は、銀行口座名義の確認と詐欺防止にのみ使用されます。
9. 銀行口座にサインインします。銀行口座の認証情報を使用します (AWS アカウントの認証情報ではありません)。接続は暗号化され、認証情報は保護されます。 AWS は、オンラインバンキングの認証情報にアクセスまたは保存しません。

   > **Note**
   >
   > 銀行では、多要素認証 (MFA) による口座へのサインインが要求される場合があります。

10. [請求先住所情報] に主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
11. [銀行口座を追加] を選択し、[利用規約] に同意して、銀行引き落とし口座を追加します。これで、銀行口座が検証され、 AWS 欧州の支払い方法に追加されました。

> **Note**
>
> AWS はオンラインバンキングの認証情報にアクセスまたは保存しません。 AWS はお客様の明示的な同意を求め、銀行に以下の情報のみをリクエストします。
>
> - 口座名義人の名前
> - アカウント番号
>
> 銀行によっては、追加情報の共有についてお客様の同意が求められる場合があります。ただし、追加情報は と共有されません AWS。 は、銀行口座の所有権を確認し、この情報を最初に収集した後に銀行口座に請求 AWS できます。この情報 AWS へのアクセスは、現地の規制と銀行のポリシーに基づいて期限切れになります。
> 口座振替による支払いを削除するには、「支払い方法の削除」を参照してください。銀行情報への AWS データアクセスを削除するには、 TrueLayerドキュメントを参照してください。

AWS 欧州の支払い方法に口座振替口座を手動で追加する

振替口座を手動で追加するには、次の要件が満たされている必要があります。

- 過去 12 か月間に 1 件以上の請求書を全額支払っている
- 過去 2 か月間に少なくとも累計 100 USD または 100 EUR を支払った。

支払い方法を追加する前に、次の情報が必要です。

- Bank Identifier Code (BIC)
- 銀行口座の支店コード (IBAN)
- 銀行を口座と関連付けるアドレス

SEPA 振替口座を手動で追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. [Add payment method] (支払い方法を追加) を選択します。

4. [銀行口座] を選択します。
5. [Account Holder Name (口座名義)] に、プリンシパルアカウントの名義を入力します。
6. [BIC (SWIFT code)] (BIC (SWIFT コード)) に、8 桁または 11 桁の番号を入力します。ルーティング番号は、8 桁または 11 桁です。
7. [Confirm BIC (Swift コード) (BIC (Swift コード) の確認)] に、BIC を再入力します。コピーアンドペーストしないでください。
8. [IBAN] に、IBAN の数字を入力します。
9. [Reenter IBAN] (IBAN を再入力) で、IBAN の数字を再入力します。コピーアンドペーストしないでください。
10. [Make Default (支払い方法に設定する)] で、この銀行デビット口座をデフォルトの支払い方法にするかどうかを選択します。
11. [Billing Address information] (請求先住所情報) に、主要口座名義人の請求連絡先を入力します。
12. [Add bank account] (銀行口座を追加) を選択し、[Terms and Conditions] (利用規約) に同意して、銀行デビット口座を追加します。

振替口座情報を更新する

銀行デビット口座に関連付けられた名前、住所、または電話番号は更新することができます。

振替口座情報を更新するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。

   に関連付けられている支払い方法は AWS アカウント 、「支払い方法」セクションに記載されています。
3. 編集する銀行デビット口座を選択し [Edit] (編集) を選択します。
4. 変更するフィールドを更新します。
5. ダイアログボックスの最下部で [Save changes] (変更の保存) を選択します。

支払い方法に関して質問がある場合は、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」を参照してください。

AWS Financing を使用して分割払いで請求書を支払う

Financing を使用すると、選択した AWS Marketplace 購入分を最大 48 か月の分割払いで支払うことができます。 AWS Billing and Cost Management コンソールから申請すると、アプリケーションは当社のパートナーレンダーによってレビューされます。アプリケーションが承認されたら、Billing and Cost Management コンソールの Payments ページで、ローンを利用して一部の AWS Marketplace 請求書をすぐに支払うことができます。すべての資金調達の決定は、パートナーレンダーの単独の裁量に委ねられます。

> **Note**
>
> - 現在、会社のリーガルアドレスが米国外、またはネバダ州、ノースカロライナ州、北ダコタ州、テネシー州、バーモント州の州にある場合、資金は利用できません。
> - AWS Marketplace 購入の資金に関心がある場合は、AWS Financing Marketing ページにあるインタレストフォームに入力します。

Financing の開始方法

IAM 許可

AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーまたはロールには、 金融機能を使用するためのアクセス許可が必要です。管理者に連絡して、これらのアクセス許可へのアクセスを許可します。必要な IAM アクセス許可の詳細については、「サービス認可リファレンス」の「Billing: AWS Billing コンソールアクションを含むアイデンティティベースのポリシー」およびAWS 「支払いのアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。

次のステップ

開始するには、 AWS Billing and Cost Management コンソールから金融を申請します。手順については、AWS 金融への申請 を参照してください。

AWS 金融への申請

Financing の使用を開始する前に、アプリケーションを送信する必要があります。アプリケーションに署名するために必要な IAM アクセス許可があることを確認します。

金融を申請するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. 金融タブを選択します。
4. 「Financing に移動」を選択します。
5. 「利用可能なローンオプション」で、「アプリケーションの開始」を選択します。
6. アプリケーションの概要ページで情報を確認し、次へを選択します。
7. ビジネス情報に、リーガルビジネス名を入力します。
8. (オプション) 代替ビジネス名がある場合は、ビジネス DBA 名フィールドに代替名を入力します。

   Doing Business As (DBA) 名を使用しない場合は、ビジネスが DBA 名を使用していないの横にあるチェックボックスをオンにします。
9. 「会社の住所」に、会社の正式な住所を入力します。
10. 「追加情報」にビジネスの詳細を入力します。

    - ビジネスリーガル構造: ドロップダウンリストからビジネス構造を選択します。
    - 設立日: 個人事業主またはパートナーシップの場合は、会社が設立された日付。

      設立日: 設立の場合は、会社が登録された日付。
    - 事業年数: 現在の所有権の下で事業が運営されている年数。
    - 年間ビジネス収益: 子会社および共同所有下にある関連エンティティを含む、前期における事業連結収益。通常、年間ビジネス収益は最新の法人税明細書で報告されます。
    - 納税者番号 (TIN): 9 桁の納税者番号。
11. [Next (次へ)] を選択します。
12. 連絡先の情報に、主要連絡先の情報を入力します。この情報は、申請プロセス中に必要な場合に、財務プロバイダーから連絡を受けるために使用されます。
13. 「保証者情報」に、会社で 25% 以上を所有している人の詳細を入力します。さらに保証を追加するには、追加の保証を追加するを選択します。
14. [Next (次へ)] を選択します。
15. 確認と送信ページで入力した情報を確認します。変更が必要な場合は、編集を選択します。

16. ローン申請開示セクションで、ローン開示の表示を選択します。
17. [Next (次へ)] を選択します。
18. アプリケーションが承認されたら、Financing ページの下にあるレビューと署名を選択します。
19. アプリケーションの詳細を表示ページで、概要と年間パーセンテージ率 ("") オプションを確認します。[Next (次へ)] を選択します。
20. 銀行口座情報を入力し、次へを選択します。
21. 「ドキュメントの署名」ページで、リストされている各ドキュメントの電子署名を指定します。署名者情報で、署名者の情報を入力し、次へを選択します。
22. 確認して送信ページで入力した情報を確認します。変更が必要な場合は、編集を選択します。
23. [送信] を選択します。

アプリケーションプロセス中に提供された情報と署名されたドキュメントは、レンダーと共有されます。レンダーは、承認され、必要なすべての文書が受領されたことを確認した後、ローンをアクティブ化します。追加情報が必要な場合は、アプリケーションで指定した E メールアドレスにレンダーから連絡されることがあります。

AWS Financing による支払い

承認済みのローン金額を使用して、一部の請求書の支払いを行うことができます。承認済みのローン金額を使用するには、支払い済みでアクティブな請求書残高よりも多い金額である必要があります。承認された財務金額は 90 日間有効です。この期間が経過したら、再適用する必要があります。

Financing を使用して一部の請求書の支払いを行うには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. 支払い期日表で、支払う請求書を選択します。
4. [Complete payment (支払いを完了)] を選択します。
5. 支払い方法 で、毎月の分割払い を選択します。
6. 「支払い条件の選択」で、提供されたオプションから支払い期間とローン期間を選択します。
7. Open View オファーの概要 - 法的開示文書を確認するための分割支払いの開示。
8. [Verify and pay] (確認して支払う) を選択します。

財務と使用率のモニタリング

承認された金融の金額、使用量、およびローンは、請求情報とコスト管理コンソールで追跡できます。また、署名済みのローン文書、ローン金額に対する支払い、および利用可能な未払い残高を確認することもできます。

資金と使用率をモニタリングするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [支払い] を選択します。
3. 金融タブを選択します。
4. 資金調達に移動 を選択します。
5. 詳細を表示する資金調達ラインを選択します。
6. 離脱の詳細を表示するには、リストされている離脱 ID 名を選択します。

支払いプロファイルの使用

支払いプロファイルを使用すると、複数の AWS のサービス プロバイダー (「SOR」、「レコード販売者」) から請求書を受け取るときに支払い方法を管理できます。使用する通貨と優先支払い方法を指定して、各 AWS のサービス プロバイダーに設定された支払いプロファイルを作成できます。

サービスプロバイダーの支払いプロファイルを作成すると、指定した通貨と支払い方法を使用して、支払いプロファイルによって自動的に請求書が支払われます AWS 。

支払いプロファイルは必要ありません。支払いプロファイルを作成しない場合、 にサインアップしたときに作成されたデフォルトの支払い設定が使用されます AWS アカウント。

支払いプロファイルは、有効なデフォルトの支払い方法があるにもかかわらず発生してしまう支払い漏れ、サブスクリプション購入の失敗、未処理の契約更新などを回避するのに役立ちます。支払いプロファイルを使用すると、次のことを実行できます。

- プロバイダーごとに異なる通貨を使用する AWS のサービス
- プロバイダーごとに異なる支払い方法を使用する AWS のサービス
- 有効な支払い方法により一貫して請求の自動支払いを行う
- サービスの中断や残高不足を回避する

> **Note**
>
> 国や技術上の制限により、すべての支払い方法をすべてのプロバイダーに適用できるわけではありません。デフォルトの支払い方法がサービスプロバイダーに対して有効でない場合は、そのサービスプロバイダーに適用できる支払い方法を使用して支払いプロファイルを作成してください。詳細については、「支払いプロファイルの作成」を参照してください。

トピック

- 支払いプロファイルの作成
- 支払いプロファイルの編集
- 支払いプロファイルの削除

支払いプロファイルの作成

請求情報とコスト管理コンソールから次の手順によって、新しいカスタムプロファイルを作成できます。

支払いプロファイルを作成するには

1. にサインイン AWS Management Console し、 AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://www.com で開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Create payment profiles] (支払いプロファイルの作成) を選択します。
5. 請求を受けるサービスプロバイダーを選択します。
6. 支払い通貨を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
    - 新しい支払い方法の追加

a. [Add a new payment method] (新しい支払い方法の追加) を選択し、新しいタブを開きます。
b. アカウントに新しい支払い方法を追加します。詳しくは、「Managing Your Payments」を参照してください。
c. Create payment profile (支払いプロファイルの作成) タブに戻ります。
d. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、更新アイコンを選択します。
e. 作成した新しい支払い方法を選択します。

9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

> **Note**
>
> 支払いプロファイルを作成すると、指定された AWS のサービス プロバイダーによって発行された新しい請求書の通貨と支払い方法が更新されます。

例: AWS Inc. の請求用の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、 AWS Inc. サービスプロバイダーから受け取った請求書の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、 AWS Organizations 管理アカウントは AWS 欧州にあります (サービスプロバイダーとしてAWS 「EMEA SARL」と表示) 。デフォルトの支払い通貨はユーロ (EUR) です。

有効なデフォルトの支払い方法がファイルにある場合は、 AWS 欧州の請求書を自動的に支払うことができます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび SEPA 銀行デビットロ座があります。詳細については、「AWS 欧州での支払いの管理」を参照してください。

AWS Inc. の請求書では、別の通貨 (USD など) と別の支払い方法 (クレジットカードなど) を使用して支払う支払いプロファイルを作成できます。

この AWS Inc. の支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/://https://https://https://https://https
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。

4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、`AWS Inc` を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、`USD - US dollar` を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: `My AWS Inc. payment profile`)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

この支払いプロファイルが作成されると、 AWS Inc. の請求書は、USD 通貨と指定した支払い方法を使用して自動的に支払われます。

例: AWS 欧州の請求用の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、 AWS 欧州 (AWS 「EMEA SARL」) サービスプロバイダーから受け取った請求書の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、 AWS Organizations 管理アカウントは AWS Inc. にあります。デフォルトの支払い通貨は米ドル (USD) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、 AWS Inc. からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび ACH 銀行デビットとしての米国銀行口座があります。詳細については、「Managing Your Payments」を参照してください。

AWS 欧州の請求書では、別の通貨 (USD など) と別の支払い方法 (クレジットカードなど) を使用して支払う支払いプロファイルを作成できます。

この AWS 欧州の例の支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/.com で開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、`AWS EMEA SARL` を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、`EUR - Euro` を選択します。

7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: `My AWS Europe payment profile`)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

例: AWS ブラジルの請求用の支払いプロファイルの作成

このセクションでは、 AWS ブラジル (「Amazon Web Services」/> Serviços Brasil Ltda.」) サービスプロバイダーから受け取った請求書の支払いプロファイルを作成する方法の例を示します。この例では、管理 AWS Organizations アカウントは AWS Inc. にあります。デフォルトの支払い通貨は米ドル (USD) です。

有効なデフォルトの支払い方法が登録されている場合は、 AWS Inc. からの請求は自動的に支払い処理されます。有効な支払い方法の例として、クレジットカードおよび ACH 銀行デビットとしての米国銀行口座があります。詳細については、「Managing Your Payments」を参照してください。

AWS ブラジルの請求書については、ブラジルの AWS リアル (BRL) 通貨クレジットカードを使用して支払う支払いプロファイルを作成できます。

この AWS ブラジルの例の支払いプロファイルを作成するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/.com で開きます。
2. ナビゲーションペインの [Preferences (設定)] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. [支払いプロファイルの作成] を選択します。
5. [Service provider] (サービスプロバイダー) で、`Amazon Web Services"/> Serviços Brasil Ltda` を選択します。
6. [Currency] (通貨) で、`BRL - Brazilian real` を選択します。
7. (オプション) 支払いプロファイルの名前を入力します (例: `My AWS Brazil payment profile`)。
8. [Payment method] (支払い方法) セクションの下で、指定したサービスプロバイダーに対して対応する通貨で支払いを行う支払い方法を選択します。
9. [Create payment profile] (支払いプロファイルの作成) を選択します。

支払いプロファイルの編集

支払いプロファイルを作成した後は、請求情報とコスト管理コンソールを使用していつでも詳細を編集できます。

支払いプロファイルを編集するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/:///https://https://https://https://https://https
2. ナビゲーションペインの [設定] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、支払いプロファイルを選択し、[Edit] (編集) を選択します。
4. 支払いプロファイルを更新して、[Save changes] (変更の保存) を選択します。

支払いプロファイルの削除

支払いプロファイルは、請求情報とコスト管理コンソールを使用していつでも削除できます。

支払いプロファイルを削除するには

1. AWS Billing and Cost Management コンソールを https://console.aws.amazon.com/costmanagement/.com で開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] の下で、[支払い方法] を選択します。
3. [Payment profiles] (支払いプロファイル) セクションの下で、[Visit payment profiles] (支払いプロファイルの表示) を選択します。
4. 支払いプロファイルを選択し、[削除] を選択します。

AWS クレジットの適用

AWS クレジットは、 請求書に自動的に適用され、対象サービスに関連するコストをカバーします。対象となるサービスの詳細については、AWS「プロモーションクレジットの引き換え」を参照してください。クレジットは、なくなるか期限切れになるまで適用されます。

AWS クレジット全般、または既に有効期限が切れているクレジットについては、 にお問い合わせください サポート。への連絡方法の詳細については サポート、「」を参照してください請求書と支払いに関するサポートを受ける。

> AWS クレジットの表示
>
> - 前回の請求日以降のクレジット残高を表示するには、[請求] コンソールの [クレジット] ページに移動します。クレジット残高は [残高] 列で確認できます。クレジット残高は毎月、現在の請求サイクルの終了時に更新されます。たとえば、今月の請求書に既にクレジットを適用している場合、[残高] 列はその請求サイクルの終了時に更新されます。
> - 当月の推定クレジット残高を表示するには、[請求] コンソールの [請求書] ページに移動し、[削減額] タブを選択します。このクレジット残高は 24 時間ごとに更新され、最新の推定クレジット残高が表示されます。

トピック

- ステップ 1 : 適用するクレジットの選択
- ステップ 2: クレジット適用先の選択
- ステップ 3: 単一および複数のアカウントに AWS クレジットを適用する
- ステップ 4: AWS クレジットの共有

ステップ 1 : 適用するクレジットの選択

このセクションでは、単一またはスタンドアロンの で AWS クレジットがどのように適用されるかについて説明します AWS アカウント。に複数のクレジット AWS アカウント がある場合、使用可能なクレジットは次の順序で適用されます。

AWS アカウント に複数のクレジットがある場合のクレジットの適用順序

1. 全体の中で残りの有効期限が最も短いクレジット

2. 対象サービスの数が最も少ないクレジット
3. 全体の中で最も古いクレジット

たとえば、ジョージが 2 つのクレジットを使用できる場合を考えます。クレジット 1 は、2019 年 1 月期限の 10 USD 相当で、Amazon S3 にも Amazon EC2 にも利用でき ます。クレジット 2 は、2019 年 12 月期限の 5 USD 相当で、Amazon EC2 のみで使用できます。Jorge には、すべてのクレジットを適用するのに十分な AWS 料金がかかります。 は、クレジット 2 より早く期限切れになるため、最初にアプリケーションにクレジット 1 AWS を選択します。

Note

- クレジットを消費した後も有効な使用量が残っている場合は、クレジットがすべて消費されるか、使用量が満たされるまで、このプロセスが繰り返されます。
- クレジットは、最も高額のサービス料金 (例えば、Amazon EC2、Amazon S3 など) に適用されます。その後、クレジットは、料金が高いサービスから低いサービスに向け順に消費されます。
- クレジットは、請求プロセス中に顧客の選択を適用する必要はありません。 AWS は、該当するサービスに対象クレジットを自動的に適用します。

ステップ 2: クレジット適用先の選択

このセクションでは、 AWS クレジット共有がオンになっている AWS Organizations 場合に でクレジットがどのように適用されるかを示します。

クレジット共有がアクティブ化された AWS Organizations ときに でクレジットがどのように適用されるかの順序

1. クレジットを所有するアカウントでは、サービスの利用料金が補償されます。
2. クレジットは、支出が最も高い AWS アカウント に適用されます。
3. 連結アカウントでは、請求は特定のフィールドごとにグループ化され、クレジットは請求額が最も高いグループに適用されます。
4. このグループ内で、クレジットが最も高い料金に最初に適用されます

このプロセスは、クレジットがすべて消費されるか、お客様のために補償するべき支出がなくなるまで継続します。

AWS は、対象となるすべての登録販売者に対して、利用可能な最大の料金にクレジットを適用します。つまり AWS 、 は有効期限が切れる前にクレジットを適用しようとします。したがって、特定のサービスに対して一般的なクレジットを使用する可能性があります。

たとえば、ジョージが 2 つのクレジットを使用できる場合を考えます。クレジット 1 は、2019 年 1 月期限の 10 USD 相当で、Amazon S3 にも Amazon EC2 にも利用でき ます。クレジット 2 は、2019 年 12 月期限の 5 USD 相当で、Amazon EC2 のみで使用できます。Jorge には 2 つの AWS 料金があります。1 月に期限切れになる Amazon EC2 Amazon EC2料金に 100 USD、Amazon S3 に 50 USD のクレジット 1 AWS を適用します。これにより、Jorge には 90 USD の Amazon EC2 料金と 50 USD の Amazon S3 料金が残ります。Jorge は Amazon EC2Amazon EC2 に 85 AWS USD、Amazon S3 に 50 USD を支払う必要があります。彼は今、自分のクレジットのすべてを使用しました。

ステップ 3: 単一および複数のアカウントに AWS クレジットを適用する

次のルール AWS では、 がクレジットを 1 つのアカウントおよび組織の請求に適用する方法を指定します (クレジット共有がオンになっています) 。

- 請求サイクルは毎月の初日に始まります。
- AWS アカウント が組織に含まれていない個人によってその月の最初の日に所有されているとします。同じ月の後半に、この個人のアカウントが組織に追加されたとします。この場合、 はその月の使用量に対する個々の請求に対する個人のクレジット AWS を適用します。つまり、個人が組織に加わった日までのクレジット AWS を適用します。

  > **Note**
  >
  > 個人のアカウントのクレジットは、その個人が組織に追加された日から同月末までの、アカウントでの使用をカバーしません。この期間は、個人のアカウントのクレジットは請求に適用されません。ただし、翌月から、 は個人のアカウントクレジットを組織 AWS に適用します。

- アカウントが組織によってその月の最初の日時点で所有されている場合、 AWS は、そのアカウントが同じ月に組織を離れた場合でも、支払人アカウントまたはリンクされたアカウントが償還したクレジットを組織の請求書に適用します。月の始まりは 0:00 UTC+0 の 1 秒後に始まります。例えば、あるアカウントが 8 月 1 日に組織を離れるとします。このアカウントはその暦月中は組織

に属していたため、組織の請求に、アカウントが償還した 8 月のクレジットが AWS により適用されます。

- その月に個人が組織を離れた場合、 は翌月の 1 日に個人のアカウントにクレジットを適用 AWS し始めます。
- クレジットは、該当月の任意の時点で組織に加入するすべてのアカウントと共有されます。ただし、組織の共有クレジットプールは、月の最初の日から組織の一員となっているアカウントからのクレジットのみで構成されます。

例えば、スーザンが月の最初の日に単一のアカウントを所有していて、その月に組織に加わるとします。また、自分が組織に加わった翌日にクレジットを引き換えるとします。 は、毎月 1 日から組織に加わった日まで発生した使用量に対して、自分のアカウントにクレジット AWS を適用します。ただし、次の月の最初の日以降は、組織の請求にクレジットが AWS により適用されます。スーザンが組織を離れた場合、スーザンが請求したクレジットは、離脱の翌月 1 日まで組織の請求書に適用されます。彼女が離れた後の月から開始し、組織の請求の代わりに彼女の請求にスーザンのクレジットが AWS により適用されます。

別の例では、スーザンは 1 月 1 日に単一のアカウントを所有していて、1 月 11 日に組織に加わったとします。スーザンが 1 月 18 日に 100 USD のクレジットを引き換えた場合、 は 1 月に発生した使用量をスーザンのアカウント AWS に適用します。2 月 1 日以降から、スーザンのクレジットは組織の一括請求に適用されます。スーザンのクレジットが 50 USD で 4 月 16 日に組織を離れた場合は、スーザンのクレジットは組織の 4 月度の一括請求に適用されます。5 月から、スーザンのクレジットは自身のアカウントに適用されます。

ステップ 4: AWS クレジットの共有

Billing and Cost Management コンソールの [請求設定] ページで、クレジット共有を無効化できます。次のルールでは、クレジット共有を無効化した場合の、単一のアカウントおよび組織の請求へのクレジットの適用方法を指定します。

- 請求サイクルは毎月の初日に始まります。
- クレジットは、クレジットを受け取ったアカウントのみに適用されます。
- 請求書は、月の最終日にアクティブになっているクレジット共有設定を使用して計算されます。
- 組織内では、支払者アカウントのみがクレジット共有の有効化または無効化を切り替えることができます。支払いアカウントのユーザーは、クレジットを共有できるアカウントを選択することもできます。

クレジット共有設定

このセクションで、請求ファミリーのメンバーアカウント間でクレジット共有を有効にできます。特定のアカウントを選択することも、すべてのアカウントで共有を有効にすることもできます。

> **Note**
>
> このセクションは、 管理アカウント (支払者アカウント) の一部としてのみ使用できます AWS Organizations。

メンバーアカウントのクレジット共有を管理するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [クレジットの共有設定] セクションで、[編集] を選択します。
4. 特定のアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、表からアカウントを選択し、[有効化] または [無効化] を選択します。
5. すべてのアカウントのクレジット共有を有効または無効にするには、[アクション] を選択し、[すべて有効化] または [すべて無効化] を選択します。
6. [Update] (更新) を選択します。

> **Tip**
>
> - 組織に加入する新しいアカウントのクレジット共有を有効にするには、[新しく作成したメンバーアカウントのデフォルト共有] を選択します。
> - クレジット共有設定の履歴をダウンロードするには、[設定履歴 (CSV) をダウンロード] を選択します。

請求書設定を使用した AWS 請求書設定のカスタマイズ

AWS 請求書設定を使用して、 AWS 組織内の特定のメンバーアカウントが、そのメンバーアカウントまたは他のメンバーアカウントの料金に対応する請求書を受け取るように、請求書設定を設定できます。請求書設定を使用すると、請求書を受け取るメンバーアカウントが組織のビジネスモデルを正確に表すことができます。その結果、請求書設定により、ビジネスエンティティへのチャージバックの手動オーバーヘッドにかかる時間を節約できます。コストをビジネスエンティティに合わせる AWS アカウントのグループを作成し、エンティティ間の請求関係をモデル化して、 の調達をさらに合理化できます AWS のサービス。請求書単位はいつでも作成でき、請求書単位からアカウントを追加または削除できます。これらの変更は、その月のいつでも実行でき、変更は翌月の初めに受け取った請求書に反映されます。サイクル外請求書 (OCBs) とサブスクリプション購入請求書も、それぞれの請求書レシーバーアカウントに請求されます。請求書単位の一部ではないアカウントは、 AWS 請求書設定を使用して、以前と同じ方法で請求書を引き続き受け取ります。

日次請求書統合にオプトインした場合、その日の終わりにアクティブになっている請求書単位の設定に従った日次請求書が一括で送信されます。

請求書ユニットは、支払者アカウントの支払い方法と条件を継承します。管理アカウントとメンバーアカウントは、参加中にメンバーアカウントによって発生したすべての料金について、連帯して責任を負います AWS Organizations。

請求書を表示するには、支払者アカウントと請求書レシーバーアカウントは、請求情報とコスト管理コンソールの請求書ページから請求書をダウンロードできます。請求書は、請求書ユニットで設定した請求連絡先にも E メールで送信されます。返金またはクレジットメモは、請求書が発行された元のアカウントに発行されます。

重要ポイント

請求書設定は、以下の特定の機能に使用できます。

請求書単位を作成する

事業体に対応する請求書単位または相互に排他的なアカウントのセットを作成できます。請求書単位は、指定されたレシーバーアカウントと、レシーバーに発行された請求書に基づいて請求がグループ化された一連のアカウントで構成されます。請求書ユニットを使用して AWS コストを分離し、今後各事業体の請求書を設定できます。

請求書レシーバーを割り当てる

各請求書ユニットにレシーバーを割り当てることができます。支払者アカウントまたは別のメンバーアカウントを選択して、事業体の請求書を受け取ることができます。

発注書を各事業体に関連付ける

各請求書単位に発注書を関連付けて、ビジネスエンティティ間でprocure-to-payプロセスを管理できます。

コストを視覚化、分析、理解する

Cost Explorer と を請求書単位 AWS Cost and Usage Report ごとに使用して、 AWS コストをさらに分析できます。

IAM アクセス許可のセットアップ

ユーザーやロールなどの AWS Identity and Access Management (IAM) ID には、請求書設定を使用するためのアクセス許可が必要です。アクセスを許可するには、「請求コンソールで AWS 請求書設定へのアクセスを許可する」を参照してください。

クォータ

請求書設定には、いくつかのクォータと制限が適用されます。詳細についてはAWS 請求書設定、「クォータと制限」ページの「」を参照してください。

Service Quotas の詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「AWS のサービス クォータ」を参照してください。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の作成

請求書単位は、作成する単一の AWS 組織内の相互に排他的なメンバーアカウントのグループです。これらの請求書ユニットは、ビジネスエンティティに対応するように作成できます。請求書ユニットを使用して AWS コストを分離し、今後各請求書ユニットの請求書を受け取るメンバーアカウントを設定できます。

現在、請求書単位を作成する際にはいくつかの制限があります。

- 請求書単位の作成後に、請求書の受取人または請求書単位名を変更することはできません。は、一度に 1 つの請求書単位のルールの一部にしか AWS アカウント できません。ただし、特定のアカウントを複数の請求書ユニットのレシーバーにすることができます。

- アカウントは、両方のユニットの請求書受取人でない限り、請求書単位のメンバーおよび別の請求書単位の受取人にすることはできません。
- 請求書単位は、単一の支払者アカウントまたは組織内でのみ作成できます。
- AWS 請求書設定では、請求書単位に新しいアカウントが自動的に追加されることはありません。新しいアカウントが作成されたら、これを請求書ユニットに手動で追加するか、AWS 請求 APIs を使用する必要があります。
- 請求書は支払者アカウントレベルでのみ統合でき、請求書単位レベルでは統合できません。

各支払者アカウントに対して作成できる請求書単位の数、または請求書単位名への文字制限の詳細については、「」を参照してくださいAWS 請求書設定。

> **Note**
>
> 前提条件: 請求書レシーバーを追加するには、「」を参照してください追加の請求連絡先 E メールアドレスの設定。

請求書単位を作成するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求書設定を選択します。
3. 請求書単位セクションで、請求書単位の作成を選択します。
4. 請求書単位名には、 内で固有の一意の名前を入力します AWS アカウント。使用できる文字の詳細については、「」を参照してくださいAWS 請求書設定。
5. (オプション) 請求書単位の説明に、説明の概要を入力します。
6. 請求書レシーバーセクションで、アカウントがこの請求書ユニットに関連する請求書を受け取ることを選択します。請求書の受信者として、支払者またはメンバーアカウントを選択します。

> **Note**
>
> 請求書レシーバーは、デフォルトでは請求書単位のメンバーではありません。請求書単位のメンバーとして支払者アカウントを選択した場合、支払者アカウントは請求書単位の請求書受信者である必要があります。

7. アカウントを選択すると自動的に入力される請求書受取人の詳細を確認します。これらの詳細は請求書に表示されます。
8. 請求書発行者が の場合Amazon Web Services, Inc.、請求書単位のチェックボックスですべてのアカウントに税金設定を適用を選択して、請求書受信者の税金設定を継承することを選択できます。

   納税者アカウントではなく請求書単位から税設定が継承されたことを確認するには、 コンソールの税設定ページを参照してください。

   - 支払者アカウントで税継承が有効になっている場合、請求書単位のメンバーは支払者アカウントの税設定を継承します。
   - 請求書発行者が でない場合Amazon Web Services, Inc.、請求書単位のメンバーは自動的に請求書受取人の税設定を継承します。
9. アカウント セクションで、請求書単位に追加するアカウントを選択します。
10. 請求書単位の作成 を選択します。

この設定は、請求書単位を作成するとすぐに有効になります。

請求書単位の作成に関するトラブルシューティング

以下のセクションでは、請求書単位を作成するときによくある問題を解決する方法について説明します。

請求書受取人のビジネス情報を更新したい

解決方法

請求書受取人の会社名と住所は、次の順序で入力から取得されます。該当するコンソールページで最新情報を更新します。

1. 税金設定を使用して情報を更新する

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [課税設定] を選択します。
3. アカウント名の横にあるチェックボックスをオンにします。
4. 「税登録の管理」から「編集」を選択します。
   - ビジネスリーガル名を更新する場合

    - 更新された名前をビジネスリーガルネームフィールドに入力します。
  - 会社の住所を更新する場合
    - 更新された住所をビジネスリーガルアドレスフィールドに入力します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
6. 入力した住所または提案された住所を選択し、確認を選択します。
7. [Update] (更新) を選択します。

2. 支払い設定を使用して情報を更新する

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Payment preferences] (お支払いの詳細設定) を選択します。
3. 「デフォルトの支払い設定」セクションで、編集を選択します。
   - ビジネス名を更新する場合
     - 請求先住所で、氏名または会社フィールドを更新します。
   - 会社の住所を更新する場合
     - 請求先住所で、住所フィールドを更新します。
4. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

3. アカウント管理を使用して情報を更新する

1. アカウントページにアクセスする方法の詳細な手順については、「 AWS アカウント管理 ユーザーガイド」のAWS アカウント 「連絡先情報の更新」を参照してください。
2. ビジネス名を変更するには、連絡先情報の下にあるフルネームを更新します。
3. 会社の住所を変更するには、連絡先住所または代替連絡先住所を更新します。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の更新

請求書単位の設定を更新でき AWS 、月末に最新の設定が使用されます。請求書単位内のアカウントを追加または削除することはできますが、請求書レシーバーまたは請求書単位名を変更することはできません。

請求書単位を更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求書設定を選択します。
3. 請求書単位セクションで、請求書単位を選択します。
4. アクション で編集 を選択します。
5. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

請求書単位の更新のトラブルシューティング

このページの情報を使用して、顧客が請求書ユニットを更新するときに発生する一般的な問題を解決できます。

請求書受信者の E メールアドレスを更新したい

解決方法

請求書受信者の E メールアドレスは、次の方法で更新できます。

アカウント管理を使用して法的情報を更新する

- アカウントページの代替連絡先アドレスを更新します。詳細な手順については、「 AWS アカウント管理 ユーザーガイド」の AWS アカウント 「連絡先情報の更新」を参照してください。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の削除

請求書単位を削除すると、アクションを元に戻すことはできません。請求書単位を削除する前に生成された請求書には引き続きアクセスできます。

請求書単位を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求書設定を選択します。
3. 請求書単位セクションで、請求書単位を選択します。
4. [アクション]、[削除] の順に選択します。

5. 請求書単位の削除を選択します。

請求書単位を削除するためのトラブルシューティングトピック

このページの情報を使用して、請求書ユニットまたはアカウントを削除するときに発生する一般的な問題を解決できます。

請求書レシーバーアカウントが削除されたとき、または から移動したときの請求書単位への影響 AWS Organizations

解決方法

請求書レシーバーアカウントを解約するか、Organizations から削除すると、請求書単位全体が削除されます。

メンバーアカウントが削除された場合、または一括請求ファミリーから移行した場合の影響

解決方法

メンバーアカウントが閉鎖されたり、 から移動されたり AWS Organizations、一括請求ファミリーから移動されたりすると、アカウントが属していた請求書単位に対応する請求書によって、該当するアカウントが自動的に省略されます。

請求書設定を使用した AWS 請求書単位の表示

請求書単位を作成すると、複数の方法で請求書単位の詳細を表示できます。

請求書単位の詳細を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求書設定を選択します。
3. 次のいずれかを行います：
   - 請求書単位セクションで、請求書単位を選択します。
   - アカウント タブで、請求書単位に割り当てられたアカウントを選択します。アカウントタブには、請求書単位に割り当てられていないアカウントも一覧表示されます。

AWS 請求書設定スナップショット履歴の表示

スナップショット履歴機能を使用して、請求書単位設定の履歴をいつでも表示できます。

請求書設定スナップショット履歴を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、請求書設定を選択します。
3. 設定スナップショット履歴の表示 を選択します。
4. 設定を表示する日時を入力します。
5. リストされた各請求書単位の詳細を表示するには、請求書単位名を選択します。

他の サービスでの AWS 請求書設定の使用

請求書単位を作成したら、他の請求およびコスト管理サービスで AWS 請求書設定を使用できます。

発注書の請求書単位への関連付け

発注書を 1 つ以上の請求書ユニットに関連付けることができます。

発注書を関連付けるには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 次のステップを使用して、請求書単位を追加します。
   - 新しい発注書を作成する場合
     a. 発注書を追加 を選択して発注書を作成します。
     b. 請求書単位 フィールドに、1 つ以上の請求書単位を追加します。
     c. 発注書を作成するには、他のフィールドに入力します。詳細については、「発注書を追加する」を参照してください。
   - 既存の発注書に請求書を追加する場合
     a. 編集する発注書 ID を選択します。

b. 発注書の詳細ページで、発注書の編集を選択します。
c. 請求書単位 フィールドに、1 つ以上の請求書単位を追加します。
d. 発注書の編集を完了します。詳細については、「発注書を編集する」を参照してください。

> **Note**
> 請求書単位を削除するときは、対応する発注書の関連付けも削除する必要があります。

AWS Cost Explorer でのコストの視覚化

請求書の単位コストは、 AWS Cost Explorer サービスで確認できます。Cost Explorer の詳細については、「 コストAWS 管理ユーザーガイド」の AWS Cost Explorer を使用したコストと使用状況の分析」を参照してください。

Cost Explorer でコストを視覚化するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. 日付範囲には、時間範囲を入力します。
4. Group by で、 を選択しますCost categories。
5. コストカテゴリで、 を選択しますaws:invoice:invoiceUnitName。
6. コストを表示する請求書単位を選択します。

> **Note**
> Cost Explorer が請求書の単位情報を表示するまでに最大 24 時間かかる場合があります。

発注書を管理する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書を管理し、発注書が請求書を反映するように設定できます 複数の明細項目がある複数の発注書を追加することもできます。設定に基づいて、請求書と最も一致する発注書が選択されます。通常のアカウントまたは管理 AWS アカウントを使用している場合は、発注書 AWS Organizations を管理できます。機能へのアクセスの詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。

各発注書には複数の明細項目があり、すべての明細項目が請求書との照合に使用されます。次のタイプの明細項目を使用できます。

- [すべて] — AWS アカウントでのすべての料金。
- AWS 月別使用量 – AWS 毎月の請求書の料金。
- AWS サブスクリプション購入 – サブスクリプション請求書の料金。たとえば、リザーブドインスタンス (RI) の前払い料金や サポート 料金などです。
- AWS Marketplace トランザクション – AWS Marketplace 契約サブスクリプションからの請求書料金の発注書明細項目。これは、すべての AWS Marketplace 請求書がレコードの販売者から生成されるため、次のエンティティでのみ使用できます。 AWS Inc.、 AWS EMEA SARL、 AWS オーストラリア、 AWS ニュージーランド。現在、この項目は、通常の毎月の請求期間外の請求のみをサポートしています。
- AWS Marketplace 一括使用 – AWS Marketplace 請求書料金のデフォルトの発注書。これは、すべての AWS Marketplace 請求書がレコードの販売者から生成されるため、次のエンティティでのみ使用できます。 AWS Inc.、 AWS EMEA SARL、 AWS オーストラリア、 AWS ニュージーランド。 AWS Marketplace サブスクリプションを含むすべての請求書には、サブスクリプションにトランザクション固有の発注書がない限り、AWS Marketplace 一括使用明細項目が含まれます。サブスクリプションにトランザクション固有の発注書がある場合、代わりに請求書にはAWS Marketplace トランザクション明細項目があります。
- AWS プロフェッショナルサービスとトレーニングの購入 – AWS プロフェッショナルサービスとトレーニングからの請求書料金のデフォルトの発注書の明細項目。これは、すべてのコンサルティング、対面、またはデジタルトレーニングサービスに適用され、 AWS Inc. エンティティでのみ使用できます。この項目は、通常の毎月の請求期間外の請求のみをサポートしています。

請求書の最適な発注書を決定するために、多くの条件とパラメータが使用されます。通常のアカウントまたは AWS Organizations 管理アカウントごとに最大 100 個のアクティブな発注書を作成し、最大 100 個の明細項目を作成できます。

請求書が生成されると、管理アカウントに追加されたすべての発注書が関連付けの対象とみなされます。その後、有効期限切れまたは一時停止された発注書は除外され、アクティブな発注書のみが残されます。請求書の請求エンティティは、発注書の「請求元」エンティティと照合され、一致しないものは除外されます。たとえば、 AWS Inc. エンティティ (PO_1) に発注書を追加し、EMEA SARL AWS エンティティ (PO_2) に発注書を追加した場合です。リザーブドインスタンスを AWS 欧州から購入した場合、PO_2 のみが請求書の関連付けの対象となります。

次に、明細項目設定を評価して、請求書に最適な判断を行います。明細項目と照合するには、請求書の請求期間が明細項目の開始月から終了月内であり、かつ明細項目のタイプとも一致している必要があります。複数の明細項目が一致する場合は、最も具体的なタイプの明細項目が請求書の関連付けに使用されます。たとえば、RI 請求書がある場合、両方が設定されている場合は、ALL ではなくサブスクリプション明細項目が使用されます。

最後に、請求書金額をカバーするのに十分な残高がある明細項目が、残高不足明細項目の上に選択されます。複数の発注書に属する明細項目がすべての基準に正確に一致する場合は、最後に更新された発注書が請求書と一致するように使用されます。

トピック

- 発注書設定をセットアップする
- 発注書を追加する
- 発注書を編集する
- 発注書を削除する
- 発注書を表示する
- 発注書の詳細ページを読む
- 発注所の通知を有効にする
- タグを使用して発注書へのアクセスを管理する

発注書設定をセットアップする

発注書とその明細項目属性を使用して、ニーズに最適な設定を柔軟に定義できます。以下に、使用できる発注書の設定シナリオの例を示します。

異なる有効月と有効期限月を選択することで、異なる期間で個別の発注書を設定できます。

> **Note**
>
> 明細項目と照合するには、請求書の請求期間が明細項目の開始月から終了月内であり、かつ明細項目のタイプとも一致している必要があります。

Example 例 1

月別の発注書を使用する場合、各発注書に対して同じ有効月と有効期限月を選択することで、月別に 1 つの発注書を定義できます。発注書は、請求書の請求期間にのみ適用されます。

このセットアップで使用できる発注書設定を次に示します。

- PO #M1_2021 では、発効月を 2021 年 1 月、有効期限月を 2021 年 1 月に設定しています。
- PO #M2_2021 では、発効月を 2021 年 2 月、有効期限月を 2021 年 2 月に設定しています。
- PO #M3_2021 では、発効月を 2021 年 3 月、有効期限月を 2021 年 3 月に設定しています。

次に、特定の四半期、半年、または年全体の発注を定義する方法の例を示します。

- PO #Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月、有効期限月を 2021 年 6 月に設定しています。
- PO #2H_2021 では、発効月を 2021 年 7 月、有効期限月を 2021 年 12 月に設定しています。
- PO #2022Y では、発効月を 2022 年 1 月、有効期限月を 2022 年 12 月に設定しています。

Example 例 2

明細項目設定を使用して、異なるタイプの請求書に対して個別の発注書を設定できます。

- PO #Anniversary_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS monthly usage に設定しています。
- PO #Subscriptions_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS Subscription Purchase に設定しています。
- PO #Marketplace_Q4_2021 では、発効月を 2021 年 4 月に、有効期限月を 2021 年 6 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase に設定しています。

明細項目の開始月と終了月を細かく設定することで、異なる期間の特定の発注書の残高を追跡できます。

Example 例 3

発効月が 2021 年 4 月で有効期限月が 2021 年 6 月の例 1 から PO #Q4_2021 を検討します。次の明細項目をセットアップすることで、この発注書の残高を月単位で追跡できます。

- Line item #1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = ALL です。
- Line item #2 では、開始月 2021 年 5 月、終了月 2021 年 5 月、Line item type = ALL です。
- Line item #3 では、開始月 2021 年 6 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = ALL です。

または、同じ発注書と期間について、各明細項目タイプの残高を個別に追跡することもできます。

Example 例 4

例 1 からの同じ PO #Q4_2021 は、次の設定を使用して、異なる明細項目タイプの残高を個別に追跡するようにセットアップできます。

- Line item #1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS monthly usage です。
- Line item #1.2 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS Subscription Purchase です。
- Line item #1.3 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 6 月、Line item type = AWS Marketplace Purchase です。

5 月と 6 月にこの設定を続行します。

Example 例 5

また、前の 2 つの設定を組み合わせて、異なる期間と明細項目タイプの残高を個別に追跡することもできます。

- Line item #1.1 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS monthly usage です。
- Line item #1.2 では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、Line item type = AWS Subscription Purchase です。

- `Line item #1.3` では、開始月 2021 年 4 月、終了月 2021 年 4 月、`Line item type = AWS Marketplace Purchase` です。

5 月と 6 月にこの設定を続行します。

発注書を追加する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、請求書で使用する発注書を追加できます。発注書の追加は、発注書と明細項目の設定を含む 2 段階のプロセスです。まず、発注書の詳細 (発注書 ID、配送先住所、有効期間および有効期限月など) を入力します。次に、発注書を請求書と照合するために使用される発注書明細項目の設定を定義します。複数の発注書を追加すると、生成される請求書と最も一致する明細項目がある発注書が使用されます。

発注書を追加するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. [発注書の追加] を選択します。
4. [発注書 ID] では、発注書 ID の一意の ID を入力します。発注書 ID はアカウント内で一意でなければなりません。購入 ID の文字制限の詳細については、「発注書」を参照してください。
5. (オプション) [説明] で、参照用のメモを含め、発注書を記述します。
6. 請求元 で、請求元の AWS 請求エンティティを選択します。

> **Note**
>
> [請求元] の場所ごとに、送金の詳細は各々異なります [請求元] を選択していることを確認してください。請求元の法人に対して支払いを行う必要があります。発注書で複数の [請求元] の場所を設定することはお勧めしません。

7. (オプション) 発注書が [Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティから請求されている場合: [税登録番号] で、発注書に関連付ける税登録番号を選択します。発注書は、選択した税登録番号に対して生成された請求書のみに関連付けられます。

> **Note**
>
> [税登録番号] の選択は、[Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティでのみ利用できます。税登録番号の設定の詳細については、「税金情報の設定」を参照してください。

8. [配送先] では、配送先住所を入力します。

   (オプション) [請求先住所をコピー] を選択して、[請求先] フィールドから入力された住所をコピーして編集します。

9. [発効月] では、発注を開始する請求期間を選択します。発注書は、指定した請求期間以降の使用に関連する請求書の対象となります。

10. [有効期限月] では、発注を終了する請求期間を選択します。発注書は、指定された請求期間の終了時に失効します。請求期間を過ぎた使用に関連する請求書には使用されません。

11. (オプション) [発注書の連絡先] では、連絡先名、E メールアドレス、および電話番号を入力します。連絡先は最大 20 件まで追加できます。

12. (オプション) タグキーと値を入力します。最大 50 個のタグを追加できます。

13. [明細項目の設定] を選択します。

14. [明細項目番号] では、明細項目番号の一意の ID を入力します。

15. (オプション) [説明] では、明細項目の説明を入力します。

16. [明細項目タイプ] では、使用する明細項目タイプを選択します。各明細項目タイプの詳細な説明については、「Managing your purchase orders」を参照してください。

17. [開始月] では、明細項目を開始する月を選択します。この日付は発注書の [発効月] より前の日付にすることはできません。

18. [終了月] では、明細項目の終了月を選択します。この日付は発注書の [有効期限月] より後の日付にすることはできません。

19. (オプション) [残高追跡を有効にする] を選択して、明細項目の残高を追跡します。

20. [金額] では、発注書の明細項目の合計金額を入力します。

21. [数量] では、数量を入力します。

22. (オプション) [税金] では、税金の額を入力します。明細項目の金額の絶対値または割合 (%) を指定します。

[税金タイプ] では、[金額の %] を選択してパーセンテージを入力するか、[USD での金額] を選択して絶対税額を入力します。

23. 他の明細項目を追加するには、[新しい明細項目の追加] を選択します。最大 100 個の明細項目を追加できます。
24. [発注書を送信] を選択します。

一部のフィールドは自動的に入力され、編集できません。以下に、自動フィールドが参照されている場所のリストを示します。

- [請求先] — 請求書の [請求先] 住所 このフィールドは、発注書の請求連絡先が請求書の請求連絡先と一致する必要があるため、参照として含まれます。
- [支払い条件] — 交渉された支払い条件。
- [通貨] — 希望する請求書の通貨。

発注書を編集する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書、明細項目情報、およびステータスを編集できます。このプロセスでは、発注書 ID は変更できません。

発注書を編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [発注書の編集] を選択します。
5. 任意のパラメータを変更します。発注書 ID は変更できません。
6. [明細項目の設定] を選択します。
7. [発注書を送信] を選択します。

連絡先を更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [連絡先の管理] を選択します。
5. 必要に応じて、連絡先情報を変更します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

発注書のステータスを変更するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [ステータスの変更] を選択します。
5. ステータスを選択します。
   - [一時停止] — 発注書は、請求書の関連付けに使用されなくなります。
   - [アクティブ] — 発注書は請求書の関連付けに使用されます。
6. [ステータスの変更] を選択します。

> **Note**
>
> 一時停止の発注書は、有効期限を過ぎて、[一時停止-期限切れ] ステータスに設定されている場合、請求書の関連付けのために使用できます。そのためには、ステータスを [期限切れ] に変更し、有効期限月を更新して [アクティブ] にします。明細項目の終了月を適宜更新してください。

明細項目を追加するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [明細項目] セクションで、[明細項目の追加] を選択します。

5. 必要に応じて情報を変更します。
6. [明細項目の保存] を選択します。

明細項目を編集するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [明細項目] セクションで、[編集] を選択します。
5. 必要に応じて、明細項目の情報を変更します。
6. [明細項目の保存] を選択します。

明細項目を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. 削除するすべての明細項目を [明細項目] セクションで選択します。
5. [削除] を選択します。
6. [確認] を選択してください。

発注書のタグを更新するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [Manage tags (タグの管理)] を選択します。
5. 必要に応じてタグ情報を変更します。
6. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

発注書設定から税登録番号 (TRN) を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 編集する発注書を選択します。
4. [発注書の編集] を選択します。
5. TRN 値を削除します。
6. [保存] を選択します。

発注書を削除する

請求情報とコスト管理コンソールを使用して、発注書をそのすべての通知および関連する連絡先とともに、いつでも削除できます。削除された発注書は復元できません。

発注書を削除するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 削除する発注書をすべて選択します。
4. [発注書を削除] を選択します。
5. [確認] を選択してください。

発注書を表示する

請求情報とコスト管理コンソールの発注書ダッシュボードには、発注書のステータスの概要が表示されます。発注書は以下の情報とともにダッシュボードに一覧表示されます。

- [発注書 ID] — 発注書の一意の識別子。
- [値] — 発注書の金額。これは、すべての明細項目金額の合計。
- [残高] — 明細項目残高の合計。この合計は、請求書が関連付けられるときはいつでも更新されます。
- [発効] および [有効期限] — 発注書 ID の開始と終了。

- [ステータス] — 発注書の現在のステータス。
- [更新日] — 発注書を更新した最新の日付。

発注書を表示するには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、 [発注書] を選択します。
3. 発注書を選択して、[購入の詳細] ページを参照します。

発注書の詳細ページを読む

個々の発注書のコンテンツは、最急情報とコスト管理コンソールの [購入の詳細] ページで確認できます。

発注書または明細項目を変更するには、「発注書を編集する」を参照してください。

- [請求先] — 請求書に反映される住所。請求連絡先を変更するには、[支払い方法] からの情報を更新します。
- [配送先] — 発注書の配送先住所。
- 請求元 – 請求元の AWS 法人。
- [税登録番号] — 発注書に対して選択した税登録番号。発注書は、これらの税登録番号に対して生成された請求書に関連付けられています。

> **Note**
>
> [税登録番号] の選択は、[Amazon Web Services EMEA SARL] 請求エンティティでのみ利用できます。税登録番号の設定の詳細については、「税金情報の設定」を参照してください。

- 支払い条件 – 交渉された AWS 支払い条件。
- [通貨] — 希望する請求書の支払い通貨。
- [発効月] — 発注書が有効になった時点以降の請求期間。発注書は、指定した請求期間以降の使用に関連する請求書の対象となります。
- [有効期限月] — 発注書が失効する請求期間。発注書は現在の請求期間の請求書にのみ使用されます。指定された請求期間を過ぎた使用に関連する請求書には使用されません。

- [連絡先] — この発注書のすべての連絡先のリスト。[連絡先の管理] を選択して、すべてのリストを表示します。
- [ステータス] — 発注書の現在のステータス。
  - [アクティブ] — 請求書の関連付けの対象となります。
  - [一時停止] — 請求書の関連付けの対象外です。アクティブな発注書または期限切れの発注書を一時停止できます。
  - [期限切れ] — 有効期限を過ぎて、請求書の関連付けの対象になっていない発注書。
  - [一時停止-期限切れ] — 有効期限も過ぎている一時停止された発注書。
- [残高金額] — 発注書で残っている残高。これは、発注書で設定されているすべての明細項目の合計残高です。
- [合計金額] — 発注書で設定されているすべての明細項目の合計値の合計。
- [明細項目] — 発注書を追加するときに使用した明細項目の詳細。
  - [数] — 明細項目の一意の識別子。
  - [タイプ] — 明細項目のタイプ。
  - [開始月] — 項目が発効する月。明細項目は、この月からの請求書の関連付けの対象となります。
  - [終了月] — 明細項目の有効期限が切れる月。この明細項目は、今月末には請求書の関連付けの対象になりません。
  - [金額] — 単位の金額。
  - [数量] — 単位の数。
  - [税金] — 税金の額。
  - [合計値] — 特定の明細項目の金額の合計値。
  - [現在の残高] — この明細項目と照合されたすべての請求書の合計金額を差し引いた後の残りの残高。この明細項目に一致するすべての請求書の詳細を表示するには、請求書のテーブルを参照してください。
- [請求書] — 発注書に関連付けられているすべての請求書。
  - [発行日] — 請求書が発行された日付。
  - [タイプ] — 請求書のタイプ。たとえば、請求書とクレジットメモ。
  - [ID] — 請求書の一意な識別子。
  - [明細項目番号] — 請求書に関連付けられている発注書の明細項目番号。
  - [金額] — 請求書の金額。
  - [支払期日] — 請求書の支払期限日。

発注所の通知を有効にする

請求情報とコスト管理コンソールで E メール通知を有効にするには、発注書に連絡先を追加します。通知を受信するには、少なくとも 1 つの発注書連絡先が追加されている必要があります。

通知は、有効期限切れ、または残高不足の発注書に対して積極的にアクションを取るのに役立ちます。これにより、遅滞なく支払いを行うことができます。連絡先情報を更新するには、「発注書を編集する」を参照してください。

発注書の通知は、次のシナリオで連絡先に送信されます。

- 残高の追跡 — 発注書の明細項目の残高が 75% のしきい値を下回ったとき。発注書の残高は明細項目レベルで追跡され、各レベルで有効にする必要があります。
- 有効期限の追跡 — 発注書の有効期限が近づいているとき。連絡先は、有効期限に到達するまで通知を受け取ります。発注書の有効期限が 1 か月未満の場合、通知は 1 週間前と有効期限日に送信されます。有効期限が 1~3 か月先の場合は、有効期限の 1 か月前に通知が送信されます。有効期限が 3 か月より先の場合は、有効期限の 2 か月前に通知が送信されます。

タグを使用して発注書へのアクセスを管理する

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) を使用して、発注書へのアクセスを管理できます。発注書を作成する際、キーと値のペアでタグ付けできます。その後、IAM ポリシーを作成し、タグを指定できます。たとえば、`project` キーを追加してそのキーに `test` という値を割り当てると、IAM ポリシーによってこのタグの付いた発注書へのアクセスを明示的に許可または拒否できます。

新しい発注書にタグを追加したり、既存の注文を更新したりするには、「発注書を追加する」と「発注書を編集する」を参照してください。

Example 例: タグを使用してアクセスを許可する

以下のポリシーにより、IAM エンティティは、`project` キーと `test` の値を持つ発注書を追加、変更、またはタグ付けできます。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
```

```
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
            "purchase-orders:TagResource",
            "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders"
        ],
        "Resource": "arn:aws:purchase-orders::*:purchase-order/*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {
                "aws:RequestTag/project": "test"
            },
            "ForAllValues:StringEquals": {
                "aws:TagKeys": "project"
            }
        }
    }]
}
```

Example 例: タグを使用してアクセスを拒否する

次のポリシーでは、project キーと値が test である発注書に対して IAM エンティティが発注アクションを完了することを拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Deny",
        "Action": "purchase-orders:*",
        "Resource": "arn:aws:purchase-orders::*:purchase-order/*",
        "Condition": {
            "StringEquals": {
                "aws:ResourceTag/Project": "test"
            }
        }
    }]
}
```

詳細については、IAM ユーザーガイドにある下記のトピックを参照してください。

- ABAC とは AWS
- タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御

AWS のサービス で を探索する AWS 無料利用枠

> **Note**
>
> このセクションは、2025 年 7 月 15 AWS アカウント 日以降に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日より前にアカウントを作成した場合は、「」を参照してください[を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)]。

を使用して AWS 無料利用枠 、コストコミットメントなしで AWS のサービスを調べることができます。にサインアップすると AWS アカウント、無料アカウントプランまたは有料アカウントプランのいずれかを選択できます。を初めて使用する場合は AWS、アカウントプランに関係なく、アカウントの作成後に 100 USD のクレジットを受け取ります。アクティビティを完了することで、最大 100 USD のクレジットを追加で獲得することもできます。追加のクレジットの獲得の詳細については、「」を参照してください[追加クレジットの獲得]。さらに、毎月の無料使用制限 AWS のサービス を提供する 30 を超える常時無料にアクセスできます。

無料アカウントプランは、最大 6 か月間無料で概念実証を試 AWS のサービス して構築するお客様に最適です。有料アカウントプランにアップグレードするまで、この期間中は料金は発生しません。無料アカウントプランは、6 か月後、またはクレジットが完全に使用された時点のいずれか早い方で終了します。さらに、無料アカウントプランでは、 AWS 無料利用枠 クレジット額全体やハードウェアの購入を迅速に消費 AWS のサービス する特定の にアクセスすることはできません。無料アカウントプランの対象となるサービスのリストについては、[AWS 無料利用枠 FAQs]」を参照してください。

有料アカウントプランは、初期クレジット額を超える本稼働アプリケーションの構築に最適です。使用量がクレジット残高を超えた場合、またはクレジットが適用されないサービスを使用する場合、pay-as-you-go料金を支払います。各プランの詳細については、「」を参照してください[AWS 無料利用枠 プランの選択]。

の開始方法 AWS 無料利用枠

で開始するには AWS 無料利用枠

1. [AWS 無料利用枠] ウェブサイトに移動します。
2. 「Create free account」を選択します。

3. サインアッププロセスに従います。これには、無料アカウント AWS アカウント プランまたは有料アカウントプランの選択が含まれます。

   サインアッププロセスの詳細については、AWS アカウント 「 管理ガイド」を参照してください。

その他の AWS 無料利用枠 リソース

詳細については、以下のリソースを参照してください AWS 無料利用枠。

- AWS 無料利用枠
- AWS 無料利用枠 のよくある質問
- AWS 無料利用枠 API リファレンス

AWS 無料利用枠 プランの選択

にサインアップすると AWS アカウント、無料プランまたは有料アカウントプランのいずれかを選択できます。を初めて使用する場合は AWS、アカウントプランに関係なく、アカウントの作成後に 100 USD のクレジットを受け取ります。アクティビティを完了することで、最大 100 USD のクレジットを追加で獲得することもできます。さらに、毎月の無料使用制限 AWS のサービス を提供する 30 を超える にアクセスできます。

無料アカウントプラン

無料アカウントプランは、アプリケーションの探索 AWS のサービス と構築中に料金が発生しないようにします。無料アカウントプランは、6 か月後、またはクレジットが完全に使用された時点のいずれか早い方で終了します。AWS Billing and Cost Management コンソールホームでクレジット残高と無料アカウントプラン情報をモニタリングできます。無料アカウントプランの使用状況のモニタリングの詳細については、「」を参照してくださいAWS 無料利用枠 使用状況の追跡。

無料アカウントプランの有効期限が切れると、アカウントは自動的に閉鎖され、リソースとデータにアクセスできなくなります。 は、アカウントと関連するすべてのリソースを完全に削除する前に、コンテンツを AWS 90 日間保持します。アカウントアクセスを維持するには、90 日以内にpay-as-you-goで有料アカウントプランにアップグレードできます。無料アカウントプランの残りのクレジットは、将来の AWS 請求に自動的に適用されます。

> **Note**
>
> - 無料アカウントプランには、クレジットを枯渇させる可能性のある AWS のサービスや機能、またはハードウェア購入へのアクセスは含まれません。サービスの例としてはAWS Marketplace、、 リザーブドインスタンスなどがあります。これらのサービスにアクセスするには、有料アカウントプランにアップグレードします。無料アカウントプランの対象となるサービスのリストについては、AWS 無料利用枠 FAQs」を参照してください。
> - 無料アカウントプランは、他のプロモーションクレジットや割引の対象外です。
> - 無料アカウントプランは AWS Organizations、参加、 AWS Control Tower ランディングゾーンの設定、 AWS パートナーネットワークへの参加、プロフェッショナルサービス契約の作成、 とのエンタープライズ契約への登録 AWS、Skill Builder Team サブスクリプションの購入 AWS 、または を AWS アカウント HIPAA または SEC 準拠として指定すると、自動的に有料プランにアップグレードされます。詳細については、「 の利用規約」を参照してください。

無料プランをアップグレードするには

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. アップグレードプランを選択します。
3. 取得した機能を確認し、アップグレードアカウントを選択します。

有料アカウントプラン

有料アカウントプランを使用して、すべての AWS のサービス および 機能にすぐにアクセスできます。有料アカウントプランは、無料利用枠クレジットを超える本稼働アプリケーションを構築する準備ができているお客様を対象としています。無料利用枠のクレジット残高を超える使用量、またはクレジットが適用されない AWS のサービス を使用する場合、従pay-as-youが課金されます。詳細については、AWS 「プロモーションクレジットの引き換え」を参照してください。

有料アカウントプランには、一部の の短期トライアルへのアクセスも含まれています AWS のサービス。トライアルには、指定された期間の毎月の無料利用枠の使用制限が含まれます。短期トライアルのサービスの詳細については、「」を参照してくださいAWS 無料利用枠。

無料利用枠アカウントプランの比較表

無料プラン	有料プラン
100 USD のサインアップクレジットを受け取り、最大 100 USD の追加クレジットを獲得	100 USD のサインアップクレジットを受け取り、最大 100 USD の追加クレジットを獲得
Always 無料サービスへのアクセス	Always 無料サービスと短期トライアルオファーへのアクセス
AWS のサービス および 機能を選択するためのアクセス	すべての AWS のサービス および 機能へのアクセス
使用中は料金は発生しません	クレジット残高を超える料金の支払い
クレジットが枯渇したとき、またはプラン期間が終了したときにアカウントが閉鎖されます	クレジットが枯渇してもアカウントが閉鎖されない
他のプロモーションクレジットや割引の対象外	その他のプロモーションクレジットと割引の対象

追加クレジットの獲得

新規の AWS お客様は、アクティビティを完了することで、アカウントプランに関係なく 100 USD の追加クレジットを獲得できます。これらのアクティビティは、学習に役立ちます AWS のサービス。アクティビティは、AWS Console Home ダッシュボードの Explore AWS ウィジェットにあります。

トピック

- Amazon EC2 を使用してインスタンスを起動する
- Amazon Bedrock プレイグラウンドで基盤モデルを使用する
- を使用してコスト予算を設定する AWS Budgets
- を使用してウェブアプリを作成する AWS Lambda
- Amazon RDS データベースを作成する

Amazon EC2 を使用してインスタンスを起動する

Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) を使用して、 AWS クラウド上で実行される仮想マシンまたはインスタンスを作成します。このアクティビティでは、サーバーでインスタンスを起動してすぐに開始する方法について説明します。また、インスタンスをクリーンアップする方法についても説明します。

Amazon EC2 の詳細については、「Amazon Elastic Compute Cloud ドキュメント」を参照してください。

> **Note**
>
> このアクティビティでは、 AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。潜在的なコストを確認するには、Amazon EC2 オンデマンド料金表のサービス料金ページを参照してください。

Amazon Bedrock プレイグラウンドで基盤モデルを使用する

Amazon Bedrock を使用して、主要な AI 企業の幅広い基盤モデルにアクセスします。テキスト、画像、動画、埋め込み出力など、さまざまなタイプの出力を統合 API で生成できます。このアクティビティでは、モデルを選択し、Amazon Bedrock プレイグラウンドでレスポンスを生成するプロンプトを送信します。

Amazon Bedrock の詳細については、Amazon Bedrock ドキュメントを参照してください。

> **Note**
>
> このアクティビティでは、 AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。潜在的なコストを確認するには、Amazon Bedrock 料金表のサービス料金ページを参照してください。

を使用してコスト予算を設定する AWS Budgets

AWS Budgets を使用して、予算コストまたは使用量を超えたとき、または超えると予測されるときに警告する予算を設定します。このアクティビティでは、コストと使用状況をモニタリングするための AWS コスト予算を作成します。

詳細については AWS Budgets、「 AWS Budgets ドキュメント」を参照してください。

を使用してウェブアプリを作成する AWS Lambda

を使用して AWS Lambda 、サーバーのプロビジョニングや管理を行わずにコードを実行します。このアクティビティでは、関数 URL を持つ Lambda 関数で構成されるシンプルなウェブアプリを構築する方法について説明します。

> **Note**
>
> このアクティビティでは、 AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス料金が発生します。潜在的なコストを確認するには、料金に関するサービスAWS Lambda 料金ページを参照してください。

詳細については AWS Lambda、AWS Lambda 「 ドキュメント」を参照してください。

Amazon RDS データベースを作成する

Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) は、クラウド内のリレーショナルデータベースのセットアップ、オペレーション、スケーリングを簡素化するフルマネージド型のデータベースサービスです。このアクティビティでは、Amazon RDS または Aurora データベースを起動し、基本的な設定オプションについて説明します。データベースの設定と管理に必要な重要な設定について説明します。

Amazon RDS の詳細については、Amazon Relational Database Service ドキュメント」を参照してください。

> **Note**
>
> このアクティビティでは、 AWS 無料利用枠 クレジットから差し引かれた AWS のサービス 料金が発生します。潜在的なコストを確認するには、Amazon RDS 料金表のサービス料金ページを参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況の追跡

AWS 無料利用枠 使用状況は、次の方法で追跡できます。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日以降に作成

無料アカウントプラン情報のモニタリング: 無料アカウントプランの有効期限、クレジット残高、残り日数は、 AWS Cost and Usage Report ウィジェット、 AWS Management Console ホーム、または AWS SDK と CLI を通じてプログラムで無料でモニタリングできます。また、クレジット残高と無料アカウントプラン期間の終了が近づくと、定期的に E メールアラートが送信されます。

有料アカウントプラン情報のモニタリング: AWS Billing and Cost Management コンソールのクレジットページでクレジット残高と有効期限をモニタリングできます。無料利用枠 API または AWS Billing and Cost Management コンソールの無料利用枠ページを使用して、短期トライアルと常に無料利用枠の制限に照らして実際の使用量を追跡することもできます。これは、無料使用制限を超えると表示され、毎月pay-as-you-goに切り替わります。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日より前に作成

無料利用枠の制限を追跡するには、請求設定で無料利用枠使用状況アラートをオンにします。デフォルトでは、各サービスの無料利用枠制限の 85% を超えると、 AWS 無料利用枠 使用状況アラートが E メールで自動的に通知されます。支出 AWS 予算をゼロに設定することで、使用量を無料利用枠の上限の 100% まで追跡するように Budgets を設定することもできます。

請求情報とコスト管理コンソールの無料利用枠ページを使用して、 AWS 無料利用枠 使用状況を確認します。

トピック

- AWS 無料利用枠 使用状況アラートの使用
- 無料利用枠の推奨アクション
- 追跡可能な AWS 無料利用枠 サービス

AWS 無料利用枠 使用状況アラートの使用

AWS 無料利用枠 使用状況アラートを使用して、コストと使用状況を追跡し、アクションを実行できます。この機能の詳細については、AWS 「 Budgets によるコストの管理」を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートは、各サービスの無料利用枠制限の 85% を超えると、E メールで自動的に通知します。追加の追跡のために、 テンプレート`zero spend budget`を使用して を設定することで、使用量を無料利用枠の上限の 100% まで追跡 AWS Budgets するように を設定できます。予算をフィルタリングして個々のサービスを追跡することも可能です。

例えば、Amazon Elastic Block Store の無料利用枠の上限の 100% を超えることが予測されたときに、アラートを送信する予算を設定できます。使用量予算の設定方法については、「予算の作成」を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートは、最初の 25 GB の Amazon DynamoDB ストレージや最初の 10 のカスタム Amazon CloudWatch メトリクスなど、当月のアクティブな無料利用枠サービス AWS のサービス でカバーされます。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日より前に作成

2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した場合、最初の 12 か月以内に 12 Months Free、、 Free Trialsの 3 種類の AWS 無料利用枠 サービスがアクティブになる可能性がありますAlways Free。

AWS アカウント 2025 年 7 月 15 日以降に作成

2025 年 7 月 15 AWS アカウント 日以降に を作成した場合、 AWS 無料利用枠 サービスはプランタイプによって異なります。有料プランアカウントでは、 Free Trialと Always Freeのサービスがアクティブになっている可能性があります。無料アカウントプランアカウントでは、Always Freeサービスのみがアクティブになります。

サービスの無料利用枠の制限を超えると、 はアカウントの作成に使用した E メールアドレス () に E AWS メールを送信します AWS アカウントのルートユーザー。 AWS 無料利用枠 使用状況アラートの E メールアドレスを変更するには、次の手順を参照してください。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートの E メールアドレスを変更するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] で、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] で [編集] を選択します。
4. 使用状況アラートを受信するメールアドレスを入力します。
5. [更新] を選択します。

AWS 無料利用枠制限の 85% の予算使用状況アラートは、 の管理アカウントではなく AWS アカウント、すべての個人に対して自動的にアクティブ化されます AWS Organizations。管理アカウントを所有している場合は、 AWS 無料利用枠 使用状況アラートを取得するようにオプトインする必要が

あります。次の手順を使用して、無料利用枠使用状況アラートをオプトインまたはオプトアウトします。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートをオプトインまたはオプトアウトするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインの [設定] で、[請求設定] を選択します。
3. [アラート設定] で [編集] を選択します。
4. AWS 無料利用枠 アラートを受信を選択して、無料利用枠使用状況アラートにオプトインします。オプトアウトするには、[AWS 無料利用枠 アラートを受信する] のチェックボックスをクリアします。
5. [更新] を選択します。

無料利用枠の推奨アクション

の資格 AWS 無料利用枠 があり、無料利用枠を利用している場合は、請求情報とコスト管理ホームページの推奨アクションウィジェットを使用して使用状況を追跡できます。このウィジェットには、使用量がいずれかのサービスに設定された無料利用枠使用制限の 85% を超えた場合の推奨事項が表示されます。

以下の条件は、 AWS 無料利用枠 データを表示するかどうかを制限する場合があります。

- 無料利用枠を提供し AWS のサービス ない を使用する
- 無料利用枠の資格が終了している場合
- AWS Organizations メンバーアカウント AWS を通じて にアクセスする
- AWS GovCloud (米国西部) または AWS GovCloud (米国東部) リージョン AWS のサービス で を使用する

詳細については、「推奨されるアクション」を参照してください。

追跡可能な AWS 無料利用枠 サービス

を使用すると AWS、 AWS 無料利用枠 サービスの使用量と使用したサービスの使用タイプを追跡できます。使用タイプは、 が AWS 追跡する特定の使用タイプです。例えば、使用タイプ `BoxUsage:freetier.micro` とは、ユーザーが Amazon EC2 マイクロインスタンスを使用したという意味です。

AWS 無料利用枠 使用状況アラートと使用状況別の上位 AWS 無料利用枠 サービス表には、有効期限が切れるオファリングと有効期限が切れないオファリング AWS 無料利用枠 の両方が記載されています。以下のサービスや使用タイプを追跡できます。

> **Note**
>
> 12 か月間無料は、2025 年 7 月 15 日より AWS 前に にサインアップしたお客様にのみ適用されます。

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ

AWS Amplify	`BuildDuration`
	`DataStorage`
	`DataTransferOut`
	`HostingComputeRequestCount`
	`HostingComputeRequestDuration`
		12 か月間無料

AWS AppSync	`ConnectionDuration`
	`GraphQLInvocation`
	`GraphQLNotification`
	`ResponseData`
		12 か月間無料

AWS Audit Manager	`Resource-Assessment-Collected`	無料トライアル
AWS Budgets	`ActionEnabledBudgetsUsage`	常に無料
AWS CloudFormation	`Resource-Invocation-Count-FreeTier`	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS CodeArtifact	Requests TimedStorage-ByteHrs	常に無料
AWS CodeCommit	User-Month	常に無料
AWS CodePipeline	actionExecutionMinute activePipeline	常に無料
AWS Data Pipeline	AWS-Activities-infreq AWS-Preconditions-infreq	12 か月間無料
AWS Data Transfer	DataTransfer-Out-Bytes DataTransfer-Regional-Bytes	常に無料
AWS Database Migration Service	InstanceUsg:dms.t2.micro InstanceUsg:dms.t3.micro	常に無料
AWS DeepRacer	ServiceUse-Train-Evaluate-Job TimedStorage-GigabyteHrs	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Directory Service	MicrosoftAD-DC-Usage Small-Directory-Usage	無料トライアル
AWS Elemental MediaConnect	DataTransfer-Out-Bytes	常に無料
AWS Glue	Catalog-Request Catalog-Storage	常に無料
AWS IoT Greengrass	ActiveGGC-Devices	12 か月間無料
AWS HealthImaging	API-Requests-Core EarlyDelete-ActiveByteHrs TimedStorage-ActiveByteHrs TimedStorage-ArchiveByteHrs	12 か月間無料
AWS IoT	ActionsExecuted ConnectionMinutes LoRaWAN-FUOTA Messages RegistryAndShadowOperations RulesTriggered Solved-Positions	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS IoT Analytics	DataProcessing-Bytes DataScanned-TB ProcessedStorage-ByteHrs RawStorage-ByteHrs	12 か月間無料
AWS IoT Device Defender	Detect	無料トライアル
AWS IoT Device Management	JobExecutions	12 か月間無料
AWS IoT Events	Messages	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS IoT TwinMaker	IoTTwinMaker-BaseTier1-Queries IoTTwinMaker-BaseTier1-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-BaseTier2-Queries IoTTwinMaker-BaseTier2-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-BaseTier3-Queries IoTTwinMaker-BaseTier3-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-BaseTier4-Queries IoTTwinMaker-BaseTier4-UnifiedDataAccess IoTTwinMaker-UnifiedDataAccess	12 か月間無料
AWS Key Management Service	KMS-Requests	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Lambda	Lambda-GB-Second Lambda-Streaming-Response-Processed-Bytes Request	常に無料
AWS Migration Hub Refactor Spaces	API-Request EnvironmentHours	常に無料
OpsWorks	OpsWorks-Chef-Automate OpsWorks-Puppet-Enterprise	12 か月間無料
AWS RoboMaker	SimulationUnitHour	無料トライアル
AWS Security Hub	OtherProduct:PaidFindingsIngestion RuleEvaluation	常に無料
AWS Service Catalog	SC-API-Calls	常に無料
AWS Step Functions	StateTransition	常に無料
AWS Storage Gateway	Uploaded-Bytes	常に無料
AWS Supply Chain	ADPSiteProductCount SiteProductCount StorageSize	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS Systems Manager	AWS-Auto-ScriptDuration-Tier3 AWS-Auto-Steps-Tier1 IM-Notifications-Tier1	常に無料
Amazon Virtual Private Cloud	PublicIPv4:InUseAddress	12 か月間無料
AWS WAF	AMR-BotControl-Request AMR-BotControl-Targeted-Request AMR-FraudControl-Request ShieldProtected-AMR-BotControl-Request ShieldProtected-AMR-BotControl-Targeted-Request ShieldProtected-AMR-FraudControl-Request	常に無料
AWS X-Ray	XRay-TracesAccessed XRay-TracesStored	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon API Gateway	ApiGatewayHttpRequest ApiGatewayMessage ApiGatewayMinute ApiGatewayRequest	12 か月間無料
Amazon AppStream	stream-hrs:720p:g2 stream.standard.large-ib	無料トライアル
Amazon Augmented AI	A2ICustom-Objects A2IRek-Objects A2ITextract-Objects	12 か月間無料
Amazon Braket	Simulators-Task	無料トライアル
Amazon Cloud Directory	Requests-Tier1 Requests-Tier2 TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon CloudFront	DataTransfer-Out-Bytes Executions-CloudFrontFunctions Invalidations Requests-Tier1	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon CloudSearch	DocumentBatchUpload IndexDocuments SearchInstance:m1.large SearchInstance:m1.small SearchInstance:m2.2xlarge SearchInstance:m2.xlarge SearchInstance:m3.2xlarge SearchInstance:m3.large SearchInstance:m3.medium SearchInstance:m3.xlarge SearchInstance:m4.2xlarge SearchInstance:m4.large SearchInstance:m4.xlarge SearchInstance:search.2xlarge	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	SearchInstance:search.large SearchInstance:search.medium SearchInstance:search.previousgeneration.2xlarge SearchInstance:search.previousgeneration.large SearchInstance:search.previousgeneration.small SearchInstance:search.previousgeneration.xlarge SearchInstance:search.small SearchInstance:search.xlarge	
Amazon Cognito	CognitoEnterpriseMAU CognitoUserPoolMAU	常に無料
Amazon Cognito Sync	CognitoSyncOperation TimedStorage-ByteHrs	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Comprehend	Comprehend-DC-Custom Comprehend-DE-Custom Comprehend-EA Comprehend-KP Comprehend-LD Comprehend-SA Comprehend-Syntax ContainsPiiEntities DetectEvents DetectPiiEntities DetectTgtSentiment DetectTopics DocClassification-INSURANCE DocClassification-MORTGAGE DocClassification-PromptSafety	12 か月間無料
Amazon Connect	chat-message end-customer-mins tasks	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Connect Customer Profiles	MonthlyConnectBaseProfiles MonthlyProfiles	12 か月間無料
Amazon Connect Voice ID	Authentication Enrollment FraudDetection	12 か月間無料
Amazon DataZone	DataZoneCompute DataZoneRequests DataZoneStorage DataZoneUsers	無料トライアル
Amazon DevOps Guru	DevOpsGuru-APICalls ResourceGroup-A-usagehours ResourceGroup-B-usagehours	無料トライアル
Amazon DocumentDB (MongoDB 互換性)	BackupUsage InstanceUsage:db.t3.medium StorageIOUsage StorageUsage	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ

Amazon DynamoDB	`ReadCapacityUnit-Hrs`
	
	`ReplWriteCapacityUnit-Hrs`
	
	`Streams-Requests`
	
	`TimedStorage-ByteHrs`
	
	`WriteCapacityUnit-Hrs`
		常に無料

Amazon Elastic Container Registry	`TimedStorage-ByteHrs`	12 か月間無料
Amazon ElastiCache	`NodeUsage:cache.t1.micro`	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Elastic Compute Cloud	BoxUsage:freetier.micro BoxUsage:freetrial CW:AlarmMonitorUsage CW:MetricMonitorUsage CW:Requests CarrierIP:IdleAddress CarrierIP:Remap DataProcessing-Bytes DataTransfer-Out-Bytes DataTransfer-Regional-Bytes EBS:SnapshotUsage EBS:VolumeIOUsage EBS:VolumeUsage ElasticIP:IdleAddress ElasticIP:Remap LCUUsage LoadBalancerUsage	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Elastic Container Registry Public	`Internet-ECRPublic-Out-Bytes` `TimedStorage-ByteHrs`	12 か月間無料
Amazon Elastic Container Service	`ECS-Anywhere-Instance-hours-WithFree`	無料トライアル
Amazon Elastic File System	`TimedStorage-ByteHrs`	12 か月間無料

Amazon Elastic Transcoder	`ets-audio-success`
	`ets-hd-success`
	`ets-sd-success`
		12 か月間無料

Amazon Forecast	`DataInjection`
	`ForecastDataPoints`
	`TrainingHours`
		無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Fraud Detector	FraudPrediction-AccountTakeoverInsights FraudPrediction-OnlineFraudInsights FraudPrediction-RulesOnly FraudPrediction-TransactionFraudInsights HostingHrs StoredDataset TrainingHrs	無料トライアル
Amazon GameLift Servers	BoxUsage:c3.large DailyActiveUser FlexMatchMatchmakingHrs FlexMatchPlayerPackages GLAGameSessionsPlaced GLAServerProcessConnMin	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthLake	FHIRDataStorage FHIRQueries	常に無料
Amazon IVS Chat	Messaging-Deliveries Messaging-Requests	12 か月間無料
Amazon Interactive Video Service	Input-Basic-Hours Output-SD-Hours Real-Time-Encode-Hours Real-Time-Hours Stages-Participant-Hours	12 か月間無料
Amazon Kendra	KendraDeveloperEdition KendraIntelligentRanking-BaseCapacity	無料トライアル
Amazon Keyspaces (Apache Cassandra 向け)	ReadRequestUnits TimedStorage-ByteHrs WriteRequestUnits	無料トライアル
Amazon Lex	Speech-Requests Text-Requests botdesign	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Lightsail	BundleUsage:0.5GB BundleUsage:0.5GB_win BundleUsage:1GB BundleUsage:1GB_win BundleUsage:2GB BundleUsage:2GB_win ContainerSvcUsage:Micro-0.25CPU-1GB-Free DNS-Queries DatabaseUsage:1GB UnusedStaticIP	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Location Service	DeviceDelete Geocode GeofenceCreateReadUpdateDelete GeofenceList MapTile PositionEvaluation PositionRead PositionWrite ResourceCreateReadUpdateDelete ReverseGeocode Route Suggest	無料トライアル
Amazon Lookout for Equipment	Inference-Hours-L4E Ingestion-GB-L4E Training-Hours-L4E	無料トライアル
Amazon Lookout for Metrics	ANOMALY_DETECTION	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Lookout for Vision	EdgeInference Free-Inference Free-Training Inference Training	無料トライアル
Amazon MQ	InstanceUsage:mq.t2.micro MQ:RabbitStorageUsage MQ:StorageUsage	12 か月間無料
Amazon Macie	EventsProcessing S3ContentClassification SensitiveDataDiscovery	無料トライアル
Amazon Managed Service for Prometheus	AMP:MetricSampleCount AMP:MetricStorageByteHrs AMP:QuerySamplesProcessed	常に無料
Amazon MemoryDB	DataWritten NodeUsage:db.t4g.small	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Mobile Analytics	EventsRecorded	12 か月間無料
Amazon Neptune	BackupUsage DataTransfer-Out-Bytes InstanceUsage:db.t3.medium StorageIOUsage StorageUsage	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
AWS HealthOmics	AnalyticsType:Annotation-Bytes-hour AnalyticsType:Variant-Bytes-hour StorageClass:Active-Gigabase-hour StorageClass:Archive-Gigabase-hour WorkflowType:Private-RunStorage-GB-hour WorkflowType:Private-omics.c.12xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.16xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.24xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.2xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.4xlarge-hours	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.c.8xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.c.large-hours WorkflowType:Private-omics.c.xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.12xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.16xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.24xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.2xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.4xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.m.8xlarge-hours	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.m.large-hours WorkflowType:Private-omics.m.xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.12xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.16xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.24xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.2xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.4xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.8xlarge-hours WorkflowType:Private-omics.r.large-hours	

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	WorkflowType:Private-omics.r.xlarge-hours	
Amazon OpenSearch Service	ES:freetier-Storage ES:freetier-gp3-Storage ESInstance:freetier.micro ESInstance:t3.small	12 か月間無料
Amazon Personalize	DataIngestion TPS-hours TrainingHour	無料トライアル
Amazon Pinpoint	Domain-Inboxplacement EventsRecorded InAppMessageRequests MonthlyTargetedAudience Pinpoint_DeliveryAttempts Pinpoint_MonthlyTargetedAudience Predictive-Tests	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Polly	SynthesizeSpeech-Chars SynthesizeSpeechLongForm-Characters SynthesizeSpeechNeural-Characters	12 か月間無料
QuickSight	QS-ENT-Alerts-FreeTrial	無料トライアル
Amazon Redshift	Node:dc2.large Node:dw2.large	無料トライアル
Amazon Rekognition	FaceVectorsStored Group1-ImagesProcessed Group2-ImagesProcessed ImagesProcessed MinsOfLiveVideoProcessed MinutesOfVideoProcessed UserVectorsStored inferenceminutes minutestrained	12 か月間無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ

Amazon Relational Database Service	`InstanceUsage:db.t1.micro`
	`PI_API`
	`RDS:StorageIOUsage`
	`RDS:StorageUsage`
		12 か月間無料

Amazon Route 53	`Cidr-Blocks` `Health-Check-AWS`	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon SageMaker ランタイム	A2ICustom-Objects A2IRek-Objects A2ITextract-Objects AsyncInf:ml.m.xlarge-AsyncInfParent Autopilot-RedshiftML:CreateModelRequest-Tier0-Parent Canvas:CreateModelRequest-Tier0-Parent Canvas:Session-Hrs-Parent DataWrangler:ml.m.xlarge-Parent FeatureStore:ReadRequestUnitsParent FeatureStore:TimedAndPITRStorageParent FeatureStore:WriteRequestUnitsParent FreeMonitorParent FreeServerlessParent Geospatial:NotebookCompute	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
	Geospatial:TimedStorage Host:ml.m.xlarge-HostingParent LabeledObject Notebk:ml.t.medium-NotebookParent RStudio:RSessionGateway-ml.t3.medium-RSessionGatewayParent Rstudio:Rsession-ml.t3.medium-RSessionParent Train:ml.m.xlarge-TrainingParent	
Amazon Simple Email Service	Message MessageUnits Recipients-EC2 Recipients-MailboxSim-EC2 VirtDelivMgr	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Simple Notification Service	DeliveryAttempts-HTTP DeliveryAttempts-SMS DeliveryAttempts-SMTP Notifications-Mobile Requests-Tier1 SMS-Price-US	常に無料
Amazon Simple Queue Service	Requests	常に無料
Amazon Simple Storage Service	Requests-Tier1 Requests-Tier2 TimedStorage-ByteHrs	12 か月間無料
Amazon Simple Workflow Service	AggregateInitiatedActions AggregateInitiatedWorkflows AggregateWorkflowDays	常に無料
Amazon SimpleDB	BoxUsage TimedStorage-ByteHrs	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Textract	PagesForLayout PagesForSignatures PagesforAnalyzeDocForms PagesforAnalyzeDocQueries PagesforAnalyzeDocTables PagesforAnalyzeExpense PagesforAnalyzeLending PagesforDocumentText SyncExpensePagesProcessed SyncIDPagesProcessed	無料トライアル
Amazon Timestream	DataIngestion-Bytes DataScanned-Bytes MagneticStore-ByteHrs MemoryStore-ByteHrs	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon Transcribe	CallAnalyticsStreamingAudio CallAnalyticsTranscribeAudio HealthScribeBatch MedicalStreamingAudio MedicalTranscribeAudio StreamingAudio TranscribeAudio	12 か月間無料
Amazon Translate	ActiveCustomTranslationJob TranslateText	12 か月間無料
Amazon WorkSpaces	AW-HW-1-AutoStop-Usage AW-HW-1-AutoStop-User AW-HWU-3-AutoStop-Usage AW-HWU-3-AutoStop-User	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Amazon CloudWatch	CW:AlarmMonitorUsage CW:Canary-runs CW:ContributorInsightEvents CW:ContributorInsightRules CW:InternetMonitor-CityNetwork CW:MetricMonitorUsage CW:Requests DashboardsUsageHour-Basic DataDelivery-Bytes DataProcessing-Bytes DataScanned-Bytes Logs-LiveTail TimedStorage-ByteHrs	常に無料
CloudWatch Events	Event-8K-Chunks ScheduledInvocation	常に無料
CodeBuild	Build-Min:Linux:g1.small Build-Sec:Lambda.1GB	常に無料

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
CodeCatalyst	Compute DevEnvironment-Compute DevEnvironment-Storage Package-Storage Repo-Storage	常に無料
CodeGuru	Profiler-Lambda-Sampling-Hour	無料トライアル
Amazon Comprehend Medical	ComprehendMedical-Batching DetectEntities DetectPHI InferICD10CM InferRxNorm InferSNOMEDCT	無料トライアル

サービス	使用タイプ	無料利用枠のタイプ
Contact Center Telecommunications (service sold by AMCS, LLC)	did-inbound-mins did-numbers outbound-mins tollfree-inbound-mins tollfree-numbers tollfree-numbers-STD	12 か月間無料
Contact Center Telecommunications Korea	did-inbound-mins did-numbers	12 か月間無料
Contact Center Telecommunications South Africa	did-inbound-mins did-numbers	12 か月間無料
Contact Lens for Amazon Connect	ChatAnalytics VoiceAnalytics	12 か月間無料
エラスティックロードバランシング	DataProcessing-Bytes LCUUsage LoadBalancerUsage	12 か月間無料

を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)

> **Note**
>
> このセクションは、2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日以降にアカウントを作成した場合は、「」を参照してくださいAWS のサービス で を探索する AWS 無料利用枠。

を作成すると AWS アカウント、特定の使用制限内で一部の AWS サービスを無料で試すことができます。

AWS 無料利用枠には以下の 3 種類があります。

常に無料

この無料利用枠は有効期限がなく、すべての AWS のお客様がご利用可能です。

12 か月間無料

AWSに初めてサインアップした日から 12 か月間、ご利用が可能です。

短期トライアル

無料利用枠の上限までを毎月、12 か月以内でご利用可能です。ほとんどの短期無料トライアルは、特定のサービスをアクティブ化した日から開始します。

AWS 無料利用枠 利点、タイプ、使用制限を提供するサービスを見つけるには

1. AWS 無料利用枠 ページに移動します。
2. 「無料利用枠の詳細」セクションで、フィルターを選択して利用枠タイプと製品カテゴリを検索します。

   たとえば、Always Free を選択し、Compute を選択して AWS Lambda 、 (Lambda) で利用可能な無料リクエストの数を確認できます。

AWS 無料利用枠 と、対象期間中に料金を回避する方法の詳細については、以下のトピックを参照してください。

トピック

- の使用資格の確認 AWS 無料利用枠
- 無料利用枠後の予期しない請求額の回避
- 無料利用枠 API を使用する

の使用資格の確認 AWS 無料利用枠

> **Note**
>
> このセクションは、2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日以降にアカウントを作成した場合は、「」を参照してくださいAWS のサービス で を探索する AWS 無料利用枠。

これらの条件がすべて満たされた場合、 AWS 使用量は AWS 無料利用枠 制限内にとどまります。

- AWS 無料利用枠 オファーのアクティブなトライアル期間内です。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) などのサービスの 12 か月間無料プログラムを利用している最中だとします。
- を使用するの AWS のサービス は、 AWS 無料利用枠 利点を提供する のみです。
- 使用量は、これらのサービス AWS 無料利用枠 の制限内にとどまります。

これらの条件を 1 つ以上 AWS のサービス 超えて を使用すると、無料利用枠の制限を超える使用量に対して標準 AWS 請求レートで課金されます。

AWS 無料利用枠 制限の詳細については、「」を参照してくださいAWS 無料利用枠。

> **Note**
>
> の場合 AWS Organizations、すべてのメンバーアカウントの AWS 無料利用枠 資格は、管理アカウントが作成された日に開始されます。詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」を参照してください。

無料利用枠後の予期しない請求額の回避

> **Note**
>
> このセクションは、2025 年 7 月 15 日より AWS アカウント 前に を作成した新規 AWS のお客様にのみ適用されます。2025 年 7 月 15 日以降にアカウントを作成した場合は、「」を参照してくださいAWS のサービス で を探索する AWS 無料利用枠。

12 か月間無料サービスの利用資格は、 を初めてアクティブ化してから 12 か月後に AWS 無料利用枠 失効します AWS アカウント。この期間以降は、無料利用枠の資格を延長することはできません。

> **Note**
>
> AWS 無料利用枠 資格の有効期限が切れた後でも、Always Free オファーを引き続き使用できます。利用可能な「常に無料」オファーの詳細については、「AWS 無料利用枠」を参照してください。

AWS 無料利用枠 資格の有効期限が近づいたら、不要なリソースをシャットダウンまたは削除することをお勧めします。資格の有効期限が切れると、標準の AWS 請求レートで使用料が請求されます。

短期トライアルの場合、サービスの有効期限が通知されることはありません。無料利用枠のアラートが通知されるのは、トライアル期間中のみです。短期トライアルで予期せぬ費用が発生しないよう、トライアル期間が終了する前に、これらのリソースをオフにします。

アカウントに定期的なログインをしていなくても、アクティブなリソースが実行されている可能性があります。次の手順で、アカウントのアクティブなリソースを確認します。

> **Note**
>
> `GetFreeTierUsage` API オペレーションを使用して無料利用枠を使用することもできます。無料利用枠 API に関する詳細については、「AWS Billing and Cost Management API Reference」を参照してください。

AWS 請求を使用してアクティブなリソースを確認するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/billing/ で請求コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで [Bills] を選択します。
3. [サービス別料金] タブで、[すべて展開] を選択します。
4. アクティブなリソースのあるサービスと AWS リージョン別のサービス、および各リソースの料金をリストで確認します。

AWS Cost Explorer を使用してアクティブなリソースを確認するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/home で AWS コスト管理を開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Explorer] を選択します。
3. [コストと使用量のグラフ] で、不要なリソースのあるサービスと AWS リージョン をメモします。これらのリソースをシャットダウンまたは削除する方法の手順については、当該サービスのドキュメントを参照してください。

   例えば、Amazon EC2 Linux インスタンスを終了するには、「Amazon EC2 ユーザーガイド」を参照してください。

> **Tip**
>
> を閉じることもできます AWS アカウント。詳細と重要な考慮事項については、「AWS アカウント管理 リファレンスガイド」の「アカウントの閉鎖」を参照してください。

無料利用枠 API を使用する

AWS 無料利用枠 では、 AWS のサービス と製品を毎月無料で使用できます。無料利用枠 API を使用すると、無料利用枠の使用状況をプログラムで月間使用量の上限と照らし合わせて追跡できます。

API を使用して、毎月の無料利用から従量制料金のシステムに変更されるタイミングを確認します。これにより、その月における各サービスの予測使用量と無料利用枠の上限を比較できるため、意図しない課金を回避できます。たとえば、使用量が の無料オファーの上限をいつ超えるかを知るには AWS Glue、 API を使用して使用量を追跡できます AWS アカウント 。その後、無料利用枠の制限が終了する前に、サービスを維持するか、変更を加えるかを決定できます。

API を使用してビジュアライゼーションを作成したり、API レスポンスに基づいて AWS リソースの変更を自動化するスクリプトを記述したりすることもできます。

Example 例: の無料利用枠オファーを検索する AWS Glue

次の AWS Command Line Interface（ AWS CLI) コマンドは GetFreeTierUsage API オペレーションを使用して、無料利用枠の使用状況でフィルタリングします AWS Glue。

リクエスト

```
aws freetier get-free-tier-usage --filter '{"Dimensions": {"Key": "SERVICE", "Values":
 ["Glue"], "MatchOptions": ["CONTAINS"]}}'
```

レスポンス

次のレスポンスは、 から 2 つのAlways Freeオファーを返します AWS Glue。

```
{
    "freeTierUsages": [
        {
            "actualUsageAmount": 287.0,
            "description": "1000000.0 Request are always free per month as part of AWS
 Free Usage Tier (Global-Catalog-Request)",
            "forecastedUsageAmount": 2224.25,
            "freeTierType": "Always Free",
            "limit": 1000000.0,
            "operation": "Request",
            "region": "global",
            "service": "AWS Glue",
            "unit": "Request",
            "usageType": "Catalog-Request"
        },
        {
            "actualUsageAmount": 176.36827958,
            "description": "1000000.0 Obj-Month are always free per month as part of
 AWS Free Usage Tier (Global-Catalog-Storage)",
            "forecastedUsageAmount": 1366.8541667450002,
            "freeTierType": "Always Free",
            "limit": 1000000.0,
            "operation": "Storage",
            "region": "global",
            "service": "AWS Glue",
            "unit": "Obj-Month",
```

```
            "usageType": "Catalog-Storage"
        }
    ]
}
```

関連リソース

AWS CLI および AWS Software Development Kit (SDKsには、 無料利用枠 API のサポートが含まれています。無料利用枠 API をサポートする言語のリストについては、オペレーション名を選択し、[次も参照してください:] セクションで目的の言語を選択します。

無料利用枠 API に関する詳細については、「AWS Billing and Cost Management API Reference」を参照してください。

AWS Billing and Cost Management コンソールを使用して E メールアラートの受信など、無料利用枠の使用状況を追跡するには、「」を参照してくださいAWS 無料利用枠 使用状況の追跡。

Amazon EC2 での無料利用枠の詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」の「チュートリアル: Amazon EC2 Linux インスタンスの開始方法」を参照してください。

AWS コストの予算を作成し、予算がコストと使用量を超えたとき、または超えると予測されるときに通知とアラートを設定することもできます。詳細については、「AWS コスト管理ユーザーガイド」の「AWS Budgetsを用いてコストを管理する」を参照してください。

カーボンフットプリントの表示

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) を使用して、 AWS 製品やサービスに関連する炭素排出量の見積もりを表示できます。

トピック

- Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) の開始方法
- Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) について
- エネルギー使用量の計算
- 炭素排出量の推定の理解

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) の開始方法

Customer Carbon Footprint Tool はすべてのアカウントで使用できます。データは 3 か月の遅延で毎月更新され、 は炭素排出量の見積もりの計算に必要なデータを AWS 処理します。

> **Note**
>
> アカウントでレポートが利用できない場合、アカウントが新規すぎてデータを表示できないか、レポート月のカーボンフットプリントが 0.5 kgCO2e 未満である可能性があります。詳細については、「Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) について」を参照してください。

Customer Carbon Footprint Tool を使用するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、コストと使用状況分析で Customer Carbon Footprint Tool を選択します。
3. [Customer Carbon Footprint Tool] で、[開始月] と [終了月] を選択します。

IAM ポリシー

Customer Carbon Footprint Tool とデータ`sustainability:GetCarbonFootprintSummary`にアクセスするには、IAM アクセス許可が必要です。IAM 許可の詳細については、「AWS 請求用の Identity and Access Management」を参照してください。

AWS Organizations ユーザー

の管理アカウントとしてサインインしている場合 AWS Organizations、Customer Carbon Footprint Tool ダッシュボードとスプレッドシートのダウンロードでは、それらのメンバーアカウントが組織の一部であった期間、統合されたメンバーアカウントデータがレポートされます。

メンバーアカウントの場合、Customer Carbon Footprint Tool はすべての期間の排出量データをレポートします。これは、組織内のアカウントに関連付けられたメンバーシップに発生した可能性のある変更とは関係ありません。

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) について

提供された情報の詳細な理解が可能となるように、このページでは、コンソールの各セクションについて説明しています。

炭素排出量の測定単位は、業界標準の測定値である二酸化炭素換算トン (MTCO2e) です。この測定では、二酸化炭素、メタン、亜酸化窒素を含む複数の温室効果ガスを考慮します。すべての温室効果ガス排出量は、気候変化に関する政府間パネル (IPCC) で定義されているそれぞれの地球温暖化係数 (GWP) 値を使用して MTCO2e に変換されます。この標準化されたアプローチにより、組織はさまざまな温室効果ガスの気候への影響を 1 つの同等の単位で表現できます。

炭素排出量データは、過去 38 か月間利用可能です。これは、過去 3 年間の年間比較の簡単なプロセスを可能にするためです。新しいデータは通常、15 日から 25 日の間毎月発行され、炭素排出量の見積もりを提供するために必要なデータを収集 AWS して処理するため、3 か月の遅延が発生します。Customer Carbon Footprint Tool は、0.001 MTCO2e (1 kgCO2e) の解像度でカーボンフットプリントを表示します。当月の排出量が 0.0005 MTCO2e (0.5 kgMTCO2e) 未満の場合は、 と表示されます`0`。0.000001 MTCO2e (1 グラム) の解像度でカーボンフットプリントを確認するには、「データエクスポート」を参照してください。

CCFT ロケーションベースの排出量データを使用してエネルギー使用量を計算するには、「」を参照してくださいエネルギー使用量の計算。

機能、方法、その他の情報に対する過去の変更の詳細については、「Customer Carbon Footprint Tool Release Notes」を参照してください。

炭素排出量の概要

このセクションでは、推定 AWS 排出量と推定排出量削減額を示します。このツールには、デフォルトで市場ベースの方法 (MBM) を使用して計算されたスコープ 2 の排出量が表示されます。ダッシュボードの計算方法フィルターで LBM を選択すると、ロケーションベースの方法 (LBM) を使用して計算された排出量を確認できます。 排出量の削減は、ロケーションベースメソッド (LBM) と市場ベースメソッド (MBM) を使用して計算されたカーボンフットプリント排出量の差です。LBM と MBM の詳細については、「」を参照してください入力データ。

AWS 炭素排出量

このセクションでは、時間の経過に伴う炭素排出量の傾向を、上位に分類して示します AWS リージョン。デフォルトでは上位 5 つのリージョンが表示され、他のリージョンは Other の下にグループ化されます。すべてのリージョンの排出量を表示するには、 タブで排出量 AWS リージョンを選択します。

サービス別の排出量

このセクションでは、Amazon Elastic Compute Cloud (EC2)、Amazon Simple Storage Service (S3)、Amazon CloudFront (CloudFront) の使用による炭素排出量を示します。その他の AWS 製品やサービスは、「その他」の下にグループ化されます。

による排出量 AWS リージョン

このセクションでは、該当する各 に関連する炭素排出量を示します AWS リージョン。例えば、US East (Ohio) や Europe (London) などです。Amazon CloudFront などのグローバルサービスからの排出量は、Global で報告されます。

炭素排出量データのダウンロード

Customer Carbon Footprint Tool コンソールページの右上にある 2 つのオプションのいずれかを使用して、炭素排出量データに一括でアクセスできます。

CSV をダウンロードする

最大 38 か月の履歴データを含む CSV ファイルをダウンロードするには、このオプションを選択します。このファイルには、月、サービス、および ごとのデータが含まれます AWS リージョン。このファイルのデータは、常に最新の方法論バージョンを使用して計算されます。

CSV のダウンロード (レガシーバージョン)

CSV のダウンロードの横にあるドロップダウンを選択して、このオプションを見つけます。このオプションは、新しい方法論バージョンがリリースされてから 3 か月間、一時的に存在します。

これには、前の方法論計算を使用した炭素推定値が含まれます。これを使用して、さまざまな方法論バージョン間でデータを比較できます。

たとえば、メソドロジーバージョン 2 は 2025 年 4 月にリリースされます。ダウンロード CSV (レガシーバージョン) は 2025 年 4 月から 6 月の間に利用でき、2025 年 1 月から 3 月のデータにバージョン 1 の方法論を使用します。この間、Download CSV を使用して取得できるデータは、2025 年 1 月から 3 月のバージョン 2 を使用します。

カスタムデータエクスポートを作成する

データエクスポートに移動するには、これを選択します。次に、基本的な SQL を使用して炭素排出量データエクスポートを作成し、QuickSight と統合してデータを視覚化できます。カスタムデータエクスポートを使用すると、特定の組織内のすべてのアカウントのアカウントレベルの詳細にアクセスできます。

エネルギー使用量の計算

> **Note**
>
> - この方法を使用して計算されるエネルギーデータは、情報提供のみを目的としています。最適化にこの情報を使用しないでください。
> - この方法は、特定の電力インフラストラクチャのため、カナダ (中部) およびアフリカ (ケープタウン) リージョンではサポートされていません。

Customer Carbon Footprint Tool (CCFT) は、クラウドカーボンフットプリントのエネルギー使用量を計算するためのデータを提供します。CCFT ロケーションベースの排出量メソッド (LBM) データと公開されているグリッド排出量係数を組み合わせることで、 AWS ワークロードの推定エネルギーフットプリントを判断できます。Amazon で使用されるエネルギー放出係数の詳細については、「Amazon Carbon Methodology Document」を参照してください。

クラウドカーボンフットプリントの推定エネルギー消費量を決定するには、ロケーションベースの排出量を対応するグリッド排出量係数で割ります。必要に応じて単位変換を適用してください。

```
Location-based emissions / Grid emissions factor = Energy consumption
```

Example 例

グリッド排出量係数が 500 kg CO2e/MWh で、2025 年に米国西部 (オレゴン) リージョンでクラウド使用量によって生成された LBM 排出量が 100 MTCO2e である場合は、次のようにエネルギー使用量を計算します。

1. 100 MTCO2e に 1,000 を掛けて、メトリクストンをキログラムに変換します。
2. 結果を米国西部 (オレゴン) リージョンのグリッド排出量係数 500 kgCO2e で割ります。

```
(100 MTCO2e * 1000) / 500 kgCO2e/MWh = 200 MWh
```

炭素排出量の推定の理解

Customer Carbon Footprint Tool は、 AWS クラウドサービスの使用に関連する顧客固有の温室効果ガス (GHG) 排出量を定量化します。このツールは、クラウド製品の全範囲を対象としています。

Customer Carbon Footprint Tool で採用されている方法は、以下の標準で概説されているデータソースと配分方法に基づいています。

- GHG プロトコルとその基盤となる標準 ISO 14064
- GHG Protocol Product Life Cycle Accounting and Reporting Standard and associated Information and Communication Technology (ICT) sector guidance。
- ライフサイクル評価 (LCA) 用の ISO 14040 および ISO 14044

Customer Carbon Footprint Tool の手法は、これらの標準からの要素を使用して、システムの境界、入力データ、配分アプローチを定義します。Customer Carbon Footprint Tool の見積もりは、2025 年 1 月から更新された方法論 (バージョン 2) を使用して計算され、サードパーティーによって検証されます。2024 年 12 月以前のデータは、以前のバージョンの方法論を使用します。この現在のバージョンの完全な方法論ドキュメントとサードパーティーの検証レターを確認するには、「Amazon 持続可能性」ページの「レポート」を参照してください。

リージョン、使用状況、および請求データの考慮要素

世界のさまざまな地域の電力グリッドでは、さまざまな電力源が使用されています。炭素に強烈な燃料 (石炭など) を使用するものもあれば、主に低炭素水素やその他の再生可能エネルギーを使用するものもあります。Amazon の再生可能エネルギープロジェクトの場所も重要な役割を果たします。これらのプロジェクトによって生成されるエネルギーは、同じグリッド上のリージョンからの排出量に

対して考慮されるためです。その結果、すべての炭素強度 AWS リージョン が同じというわけではありません。

使用量が多いと排出量が比較的少ないリージョンもあります。使用量が少ないと排出量が増えるリージョンもあります。例えば、ヨーロッパでの使用量による排出量は、グリッドにより多くの再生可能エネルギーがあるため、使用量の多い地域であっても、総排出量の少ない割合を表す AWS リージョン ことがよくあります。アジアパシフィック AWS リージョン では、一部のアジアパシフィックリージョンでは低炭素エネルギーの可用性が低いため、これらのリージョンでのお客様の使用量が小さい場合でも、総排出量の大きい割合を表すことができます。炭素の見積りは使用量のみに基づいており、前払いでの Savings Plan の購入などの 1 回限りの料金は、同様の炭素排出量の増加を発生させるものではありません。

Customer Carbon Footprint Tool と Amazon のカーボンフットプリントレポート

Amazon のカーボンフットプリントレポートは、当社の年次サステナビリティレポートの一部です。これは、Amazon Web Services を含むすべての Amazon オペレーションにおけるスコープ 1～3 の排出量をカバーします。お客様のカーボンフットプリントレポートには、お客様自身の AWS 使用量に起因する排出量が表示されます。詳細については、「Amazon Sustainability」(Amazon のサステナビリティ) を参照してください。

トピック

- システム境界
- 入力データ
- 配分アプローチ

システム境界

システム境界は、CCFT 計算で考慮されるアクティビティと関連する排出量を定義します。CCFT は、GHG プロトコルの排出量分類によって通知され、企業の排出量は 3 つの に分割されますscopes。

- スコープ 1: 排出量は、所有または管理されているソースからの直接排出量です。
- スコープ 2: 排出量は、購入した工ネルギーの生産による間接的な排出量です。
- スコープ 3: 排出量は、アップストリームとダウンストリームの両方の排出量 (ハードウェアの製造、end-of-life排出量など) を含む、報告会社のバリューチェーンで発生するすべての間接的な排

出量 (スコープ 2 には含まれません) です。現在、スコープ 3 の排出量は CCFT に含まれていません。

スコープ 1

CCFT には、クラウドサービスをサポートする AWS 所有または管理の施設からの緊急バックアップジェネレーターにおける燃料の放出が含まれます。CCFT には、市場ベースの方法 (MBM) とロケーションベースの方法 (LBM) の両方の計算を使用した、特定のエッジサイトからの排出量 (CloudFront 排出量など) も含まれます。

スコープ 2

CCFT は、市場ベースメソッド (MBM) とロケーションベースメソッド (LBM) の両方の計算を使用して、クラウドサービスと特定のエッジサイト (CloudFront 排出量など) をサポートする AWS 所有または管理施設からのスコープ 2 排出量を報告します。

Customer Carbon Footprint Tool は、 AWS 倉庫、製造施設、オフィスに関連する排出量を除外します。これらの排出量は、クラウドサービスの提供に起因するものではありません。お客様の施設 (Amazon Cloud Extension、Embedded Points of Presence、 AWS Outposts サイトなど) で実行されたサイトから発生する排出量は、現時点では Customer Carbon Footprint Tool の対象外です。詳細については、「CCFT 方法ドキュメント」を参照してください。

入力データ

このセクションでは、各 AWS クラスターのスコープ 1 と 2 の炭素排出量を定義する Customer Carbon Footprint Tool の上流で発生するデータと変換のソースの概要を説明します。CCFT には現在、スコープ 1 とスコープ 2 のデータが含まれており、今後スコープ 3 を含める予定です。完全な方法論を理解するには、「CCFT 方法論ドキュメント」を参照してください。

スコープ 1

Amazon は、毎年年間フットプリントのスコープ 1 アクティビティデータを生成して保証します。このデータは、CCFT の各報告月のスコープ 1 排出量データを推定するためのベースとして AWS を使用します。Amazon の年次レポートと CCFT の月次ケイデンスのギャップを埋めるために、スコープ 1 の排出量の過去の増加を使用して、当年の毎月の排出量を見積もります。

スコープ 2

スコープ 1 と同様に、CCFT 手法は Amazon のフットプリント手法に厳密に従います。Amazon のアプローチに従って、CCFT での公開時にデータの精度を優先し、データのプライマリソース

(実際のエネルギー消費など) が合理的に利用できない場合にのみ、他のソース (推定エネルギー消費量など) にフォールバックします。

AWS は、エネルギー消費 (MWh) を推定してクラスターレベルと月レベルのロケーションベース (LBM) 排出量を推定し、LBM 排出量係数を乗算します。エネルギーデータは、ユーティリティ電力請求書と過去の見積もりの約 95%、<5% の見積もりデータで構成されます。

> **Note**
>
> ロケーションベースの方法 (LBM) は、スコープ 2 の炭素排出量会計で使用される GHG プロトコル方式であり、エネルギー消費が発生するグリッドの平均排出量強度を反映しています。

LBM の後、 は、エネルギー属性証明書 (EACs)、電力購入契約 (PPA) などの市場ベースの契約手段 AWS を検討して、再生可能エネルギープロジェクトを反映し、市場ベースの (MBM) 排出量を計算します。これは、GHG プロトコルスコープ 2 ガイダンスで概説されている品質基準と一致しています。

> **Note**
>
> 市場ベースの方法 (MBM) は、エネルギー属性証明書 (EACs。例えば、会社の再生可能エネルギーの購入などです。

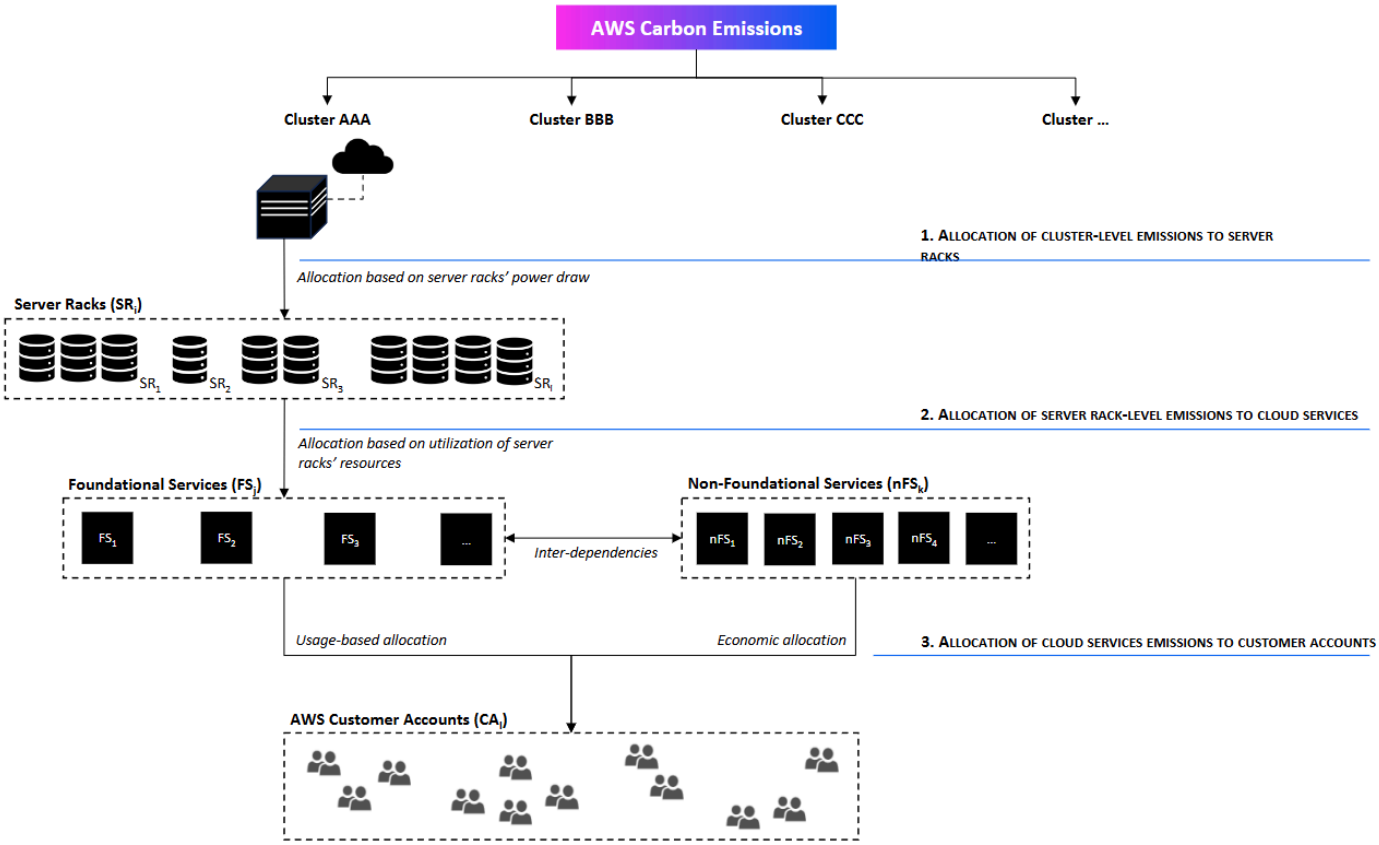
LBM と MBM の違いの詳細については、「GHG Protocol Scope 2 Guidance」を参照してください。

配分アプローチ

炭素配分モデルは、トップダウンアプローチを使用して AWS 、クラウドサービスの使用に関連する顧客のカーボンフットプリントを計算します。 は physical allocation (使用量ベースの配分とも呼ばれる) を AWS 優先し、セカンダリオプションeconomic allocationとして を考慮します。概念的には、モデルは次の論理変換ワークフローを使用して動作します。

1. サーバーラックの消費電力を使用して、クラスターレベルの排出量をクラスター内のサーバーラックに割り当てます。
2. サーバーラックリソースの使用率に基づいて、サーバーラックに関連する炭素排出量を AWS クラウドサービスに割り当て、相互依存関係を考慮します。専用サーバーラックを備えたサービスには物理的な割り当てを使用し、他のサービスには経済的な割り当てを使用します。

3. 各クラウドサービスに関連する炭素排出量を個々の顧客アカウントに割り当てます。専用サーバーラックを備えたサービスには物理的な割り当てを使用し、他のサービスには経済的な割り当てを使用します。



AWS Cost Categories を使用したコストの整理

コスト配分は、組織内で誰がどのくらいの費用を費やしているのかを特定するのに役立ちます。コストカテゴリは、独自の内部ビジネス構造にコストをマッピングするのに役立つ AWS コスト配分サービスです。

Cost Categories では、コストを意味のあるカテゴリにグループ化するルールを作成できます。

Example シナリオ例 1

ビジネスが *Team1*、*Team2* などの複数のチームに分かれているとします。チームはビジネス AWS アカウント で 10 を使用します。 AWS コストをグループ化するルールを定義して、これらのチーム間で割り当てることができます。

1. ビジネス用に *Team* という名前のコストカテゴリを作成しました。
2. このコストカテゴリでは、ルールを次のように定義しました。
   - アカウント 1 から 3 のすべてのコストは、*Team : Team1* に分類されます。
   - アカウント 4 と 5 のすべてのコストは、*Team : Team2* に分類されます。
   - 他のすべてのアカウントについては、すべてのコストが *Team : Team3* に分類されます。
3. このルールを使用すると、アカウント 6 のすべてのコスト明細項目がコストカテゴリ値 *Team3* で分類されます。これらの分類は、次の例のように AWS Cost and Usage Report （ AWS CUR) に列として表示されます。このルールに基づいて、アカウント 3 のコストは *Team1* に分類され、アカウント 6 のコストは *Team3* に割り当てられます。

リソース ID	AccountID	LineItemType	UsageType	非ブレンドコスト	NetUnblended Cost	ResourceTag/Project	costCategory/Team
i-11223	3	使用方法	BoxUsage:c1.xlarge	3.36	3.36	ベータ	*Team1*
i-12345	6	SavingsPlanCoveredUsage	BoxUsage:m5.xl	150	140	[Alpha](アルファ)	*Team3*

これらのカテゴリは、 AWS Billing and Cost Management コンソールの複数の製品でも使用できます。これには、 AWS Cost Explorer AWS Budgets、、 AWS CUR、 AWS コスト異常検出が含まれます。例えば、フィルター `value = Team 1` を Team という名前のコストカテゴリに適用することで、Cost Explorer の *Team1* に割り当てられたコストをフィルタリングできます。

また、コストカテゴリ間に複数レベルの階層関係を作成して、組織構造を複製できます。

Example シナリオ例 2

1. 例えば、複数のチームのグループ分けが含まれている *BusinessUnit* という名前のコストカテゴリを作成できます。
2. 次に、*BU1* という名前のコストカテゴリ値を定義します。このコストカテゴリ値では、*Team* コストカテゴリから *Team 1* と *Team 2* を選択します。
3. 次に、*BU2* という名前のコストカテゴリ値を定義します。このコストカテゴリ値では、*Team* コストカテゴリから *Team 3* と *Team 4* を選択します。

この例は、次に示すように、コストと使用状況レポートに表示されます。

リソース ID	AccountID	LineItemType	UsageTyp	非ブレンドコスト	NetUnbleDed Cost	Resource ag/ Project	costCateg ory/ Team	costCateg ory/ BusinessUnit
i-11223	3	使用方法	BoxUsage c1.xlarge	3.36	3.36	ベータ	*Team1*	*BU1*
i-12345	6	SavingsPlanCovere Usage	BoxUsage m5.xl	150	140	[Alpha] (アルファ)	*Team3*	*BU2*

コストカテゴリを作成すると、Cost Explorer、 AWS Budgets、 AWS CUR、および Cost Anomaly Detection に表示されます。Cost Explorer と AWS Budgets では、コストカテゴリが追加の請求ディメンションとして表示されます。これを使用して、特定のコストカテゴリ値でフィルタリングしたり、コストカテゴリ別にグループ化したりできます。 AWS CUR では、コストカテゴリは、各行にコストカテゴリ値を含む新しい列として表示されます。コスト異常検出では、コストカテゴリをモニタータイプとして使用して、指定したコストカテゴリ値での合計コストをモニタリングできます。

メモ

- AWS リソースに適用されるキーと値のペアであるリソースタグと同様に、コストカテゴリはすべてのコスト明細項目に適用されるキーと値のペアです。キーはコストカテゴリ名です。値はコストカテゴリ値です。前の例では、これはコストカテゴリ名 *Team* がキーであることを意味します。*Team1*、*Team2*、および *Team3* はコストカテゴリ値です。
- Cost Categories は、当月の初めから有効になります。コストカテゴリを月中旬に作成または更新すると、変更が月初からコストと使用量に自動的に適用されます。例えば、10 月 15 日にコストカテゴリのルールを更新した場合、10 月 1 日以降のコストと使用量は更新されたルールを使用します。
- コストカテゴリを作成および管理できるのは、 の管理アカウント AWS Organizations または個々のアカウントのみです。

トピック

- サポートされているディメンション
- サポートされているオペレーション
- サポートされているルールの種類
- デフォルト値
- ステータス
- クォータ
- 用語の比較
- コストカテゴリを作成する
- コストカテゴリのタグ付け
- コストカテゴリを表示する
- コストカテゴリ値のダウンロード
- コストカテゴリを編集する
- コストカテゴリを削除する
- コストカテゴリ内で料金を分割する

サポートされているディメンション

請求ディメンションのリストから選択して、コストカテゴリルールを作成できます。これらの請求ディメンションは、データをグループ化するために使用されます。たとえば、アカウントセットをグループ化してチームを形成するとします。アカウント請求ディメンションを選択し、チームに含めるアカウントのリストを選択する必要があります。

次の請求ディメンションがサポートされています。

アカウント

オペレーションに応じて、 AWS アカウント名またはアカウント ID を指定できます。完全一致オペレーション (`is` または `is not`) を使用している場合、アカウントはそのアカウント ID を参照します。部分一致オペレーション (`starts with`、`ends with`、または `contains`) を使用している場合、アカウントはアカウント名を参照します。

Charge Type (料金タイプ)

明細項目の詳細に基づく料金のタイプ。また、Cost Explorer API では `RECORD_TYPE` と言います。詳細については、「用語の比較」を参照してください。

コストカテゴリ

別のコストカテゴリのディメンション。コストカテゴリをディメンションとして使用すると、カテゴリのレベルを分類できます。

リージョン

がリソースを AWS ホストする地理的エリア。

サービス

Amazon EC2、Amazon RDS、Amazon S3 などのAWS のサービス。

タグキー

リソースで指定されているコスト配分タグキー。詳細については、「コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡」を参照してください。

使用タイプ

使用タイプは、各サービスが特定タイプのリソースの使用量を測定するために使用する単位です。例えば、BoxUsage:t2.micro(Hrs) 使用タイプは Amazon EC2 t2.micro インスタンスの実行時間に基づいてフィルタリングします。

請求エンティティ

請求エンティティは、請求書または取引が他の AWS サービスの購入用 AWS Marketplace であるか、購入用であるかを識別する単位です。例えば、 AWS Marketplace 請求エンティティは、購入の請求書またはトランザクションでフィルタリングします AWS Marketplace。

サポートされているオペレーション

これらのオペレーションを使用して、コストカテゴリルールを作成するときにフィルター式を作成できます。

以下のオペレーションがサポートされています。

Is

指定されている正確な値をフィルタリングするために使用される完全一致オペレーション。

Is not

指定されていない正確な値をフィルタリングするために使用される完全一致オペレーション。

Is absent

この値に一致するタグキーを除外するために使用される完全一致オペレーション。

を含む

この値を含むテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

Starts with (で始まる)

この値で始まるテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

で終わる

この値で終わるテキスト文字列をフィルタリングするために使用される部分一致。この値では、大文字と小文字が区別されます。

サポートされているルールの種類

コストの分類に使用するコストカテゴリ値を定義するには、ルールタイプを使用します。

以下のルールタイプがサポートされています。

通常ルール

このルールタイプは、定義されたディメンションルールに基づいてディメンションを分類する静的に定義されたコストカテゴリ値を追加します。

継承された値

このルールタイプは、定義されたディメンション値からコストカテゴリ値を動的に継承するルールを定義する柔軟性を追加します。たとえば、特定のタグキーの値に基づいてコストを動的にグループ化するとします。継承された値のルールタイプを選択してから、Tag ディメンションを選択し、使用するタグキーを指定する必要があります。オプションで、タグキー teams を使用して、リソースにタグ付けできます。それらは、alpha、beta、および gamma のような値でタグ付けできます。次に、継承された値ルールを用いて、Tag をディメンションとして選択し、teams をタグキーとして使用することができます。これにより、alpha、beta、および gamma の動的コストカテゴリ値が生成されます。

デフォルト値

オプションで、コストカテゴリに一致するルールがない場合は、この値を代わりに使用するように定義できます。

ステータス

コンソールを使用して、コストカテゴリがコストおよび使用状況情報の処理を完了したかどうかのステータスを確認できます。コストカテゴリを作成または編集した後、Cost and Usage Report、Cost Explorer、およびその他のコスト管理製品で AWS コストと使用状況の情報が分類されるまでに最大 24 時間かかることがあります。

ステータス状態は 2 つあります。

申請済み

コストカテゴリの処理が完了し、 AWS コストと使用状況レポート、Cost Explorer、およびその他のコスト管理製品の情報が新しいルールで最新になっています。

Processing

コストカテゴリの更新はまだ進行中です。

クォータ

コストカテゴリクォータの詳細については、「クォータと制限」を参照してください。

用語の比較

CHARGE_TYPE は、コストカテゴリの式でサポートされているディメンションです。それは、Cost Explorer API にある RECORD_TYPE 値です。このディメンションでは、コンソールを使用しているか、API/JSON エディタを使用しているかによって、異なる用語を使用します。両方のシナリオで使用される用語の比較表を次に示します。

用語の比較

API または JSON エディタの値	コンソールで使用される名前
クレジット	クレジット
DiscountedUsage	予約が適用される使用
料金	料金
返金	返金
RIFee	定期的な予約料金
SavingsPlanCoveredUsage	Savings Plan の対象となる使用
SavingsPlanNegation	Savings Plan の否定
SavingsPlanRecurringFee	Savings Plan 定期料金
SavingsPlanUpfrontFee	Savings Plan 前払い料金
税金	税金
使用方法	使用方法

コストカテゴリを作成する

コスト配分は、組織内の適切なグループに AWS クラウド コストをマッピングして割り当てるのに役立ちます。これらのコストを割り当てるには、コストカテゴリを作成します。コストカテゴリはルールで構成されます。

ルールには次の 2 つのタイプがあります。

1. コストをグループ化するルール
2. コストを分割するルール

コストをグループ化するルール

次の 1 つ以上のディメンションを使用して、コストをグループ化するルールを定義します。

- アカウント
- コスト配分タグ
- Charge Type (クレジットや返金など)
- サービス
- リージョン
- Usage Type (BoxUsage:t2.micro など)
- AWS や などの請求エンティティ AWS Marketplace

ルールは、定義された順序で評価されます。

Example 例: コストをグループ化するルール

エンジニアリング部門にはプロジェクト *Alpha* とプロジェクト *Beta* があり、マーケティング部門にはプロジェクト *Gamma* があります。

すべてのリソースには、*Project:Alpha*、*Project:Beta*、*Project:Gamma* など、使用されているプロジェクト名でタグ付けされます。

Department という名前のコストカテゴリを作成して、*Marketing* 部門と *Engineering* 部門にコストを割り当てます。*Department* コストカテゴリでは、ルールを次のように定義します。

- ルール 1: コストに *Project:Alpha* または *Project:Beta* のコスト配分タグがある場合は、コストを *Department:Engineering* に割り当てます。
- ルール 2: コストに *Project:Gamma* のコスト配分タグがある場合は、そのコストを *Department:Marketing* に割り当てます。

分類されていないコストのデフォルト名を指定することもできます。この例では、タグ付けされていないリソースに関連するコストを *IT* 部門に割り当てる必要があります。

- ルール 1: コストに *Project:Alpha* または *Project:Beta* のコスト配分タグがある場合は、コストを *Department:Engineering* に割り当てます。
- ルール 2: コストに *Project:Gamma* のコスト配分タグがある場合は、そのコストを *Department:Marketing* に割り当てます。
- その他のすべてのコストについては、*Department:IT* に割り当てます。

この例では、コストカテゴリ名は *Department* です。コストカテゴリの値は、*Engineering*、*Marketing*、および *IT* です。

コストを分割するルール

1 つのコストカテゴリ値に割り当てられたコストは、他のコストカテゴリ値間で分割できます。この例では、*IT* コストを *Engineering* 部門と *Marketing* 部門の間で 70:30 の比率で分割する必要がある場合、その配分を実行する分割請求ルールを定義できます。

コストカテゴリを作成するときに、次のような追加の詳細を指定できます。

- [有効日] – コストカテゴリの開始日を設定します。デフォルトでは、この日付は現在の月に設定されます。前月を選択した場合、コストカテゴリルールはその日付から遡及的に適用されます。
- [タグ] – このコストカテゴリを編集できるユーザーへのアクセスを制御するには、コストカテゴリにタグを追加します。次に、IAM ポリシーを更新して、そのコストカテゴリへのアクセスを許可または拒否します。例えば、コストカテゴリに *Role:Administrator* タグを追加し、IAM ポリシーを更新して、そのタグを持つコストカテゴリへの特定のロールのアクセスを明示的に許可できます。

デフォルトでは、通常のアカウントと の管理アカウントには、コストカテゴリを作成するためのアクセス権 AWS Organizations があります。

> **Tip**
>
> コストと使用状況レポートで AWS コストデータのバックフィルをリクエストするには、サポートケースを作成します。サポートケースでは、バックフィルするレポート名と請求期間を指定します。詳細については、「へのお問い合わせ サポート」を参照してください。

以下の手順に従ってコストカテゴリを作成します。コストカテゴリを作成した後、使用状況レコードのコストカテゴリの値が更新されるまで最大 24 時間かかります。

コストカテゴリを作成するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Categories] を選択します。
3. [コストカテゴリの作成] を選択します。ルールを更新するときに、コストプレビューパネルを参照として使用できます。
4. [コストをグループ化] の横に、コストカテゴリの名前を入力します。コストカテゴリ名はアカウント内で一意にする必要があります。
5. [ルールビルダー] または [JSON エディタ] を使用して、コストカテゴリを定義します。

   JSON リクエスト構文の詳細については、「AWS Billing and Cost Management API Reference」の「Cost category」セクションを参照してください。
6. [ルールビルダー] で、[ルールを追加] を選択します。
7. [ルールタイプ] を選択し、[コストをグループ化する方法を手動で定義] (通常ルール) または [コストをアカウントまたはタグごとに自動的にグループ化] (継承ルール) を選択します。
8. 通常のルールでは、コストが条件の [すべて] または [いずれか] を満たしているかどうかを選択します。
9. リストから請求の [ディメンション] を選択します。

   a. 通常のルールタイプでは、[アカウント]、[サービス]、[料金タイプ] (######など)、[タグキー]、[リージョン]、[使用タイプ]、[コストカテゴリ] または [請求エンティティ] を選択できます。([Cost Category] を選択して、コストカテゴリ間の階層関係を作成できます)。

   b. 継承された値のルールタイプでは、[アカウント] または [タグキー] (コスト配分タグキー) を選択できます。
10. 通常のルールタイプでは、ドロップダウンリストから [演算子] を選択します。オプションは、[Is]、[Contains]、[Starts with]、および [Ends with] です。

> **Note**
>
> [Contains]、[Starts with]、および [Ends with] は、アカウントとタグのディメンションでのみサポートされています。これらの演算子をアカウントで使用すると、エンジンはアカウント ID ではなくアカウント名と照合して評価を行います。

11. 属性セレクターで、[ディメンション] のフィルタリングされた値を選択するか、独自の値を入力します。

> **Note**
>
> [アカウント] ディメンションでは、継承されたコストカテゴリ値のアカウント ID ではなく、アカウント名を使用します。

12. 必要に応じて [条件を追加] を選択し、ステップ 9 から 11 を繰り返します。
13. [コストをグループ化する] に、コストカテゴリ値を入力します。
14. ルールの作成を選択します。
15. (オプション) デフォルト値を追加します。これは、すべての一致しないコストをこの値に分類します。
16. (オプション) ルールの順序を変更するには、矢印を使用するか、各ルールの右上にある番号を変更します。

    ルールは順番に処理されます。明細項目に一致するルールが複数ある場合、照合する最初のルールを使用して、コストカテゴリ値が決定されます。
17. (オプション) ルールを削除するには、ルールを選択し、[削除] を選択します。
18. [Next (次へ)] を選択します。
19. (オプション) コストを分割するには、[分割請求を追加] を選択します。分割料金ルールの詳細については、「コストカテゴリ内で料金を分割する」を参照してください。

    a. [分割料金の追加] を選択します。

    b. [ソース値] の下で、コストカテゴリ値を選択します。

    c. [ターゲット値] の下で、分割料金を配分する 1 つ以上のコストカテゴリ値を選択します。

    d. [料金配分方法] の下で、コストを配分する方法を選択します。選択肢は、[比例]、[固定]、および [等分] です。

e. [固定] 料金配分では、各ターゲットコストカテゴリ値を配分するパーセント額を入力します。

f. 必要に応じてステップ 19 を繰り返します。

20. [Next (次へ)] を選択します。
21. (オプション) コストカテゴリルールのルックバック期間を追加するには、ルールを遡及適用する月を選択します。
22. (オプション) タグを追加するには、[Add new resource tag] (新しいリソースタグを追加) を選択し、キーと値を入力します。
23. [コストカテゴリの作成] を選択します。

コストプレビューパネルについて

コストプレビューパネルには、コストカテゴリルールを作成または更新するときに、コストがどのようにグループ化または分割されるかがリアルタイムで表示されます。コストプレビューパネルに表示される結果は、過去 1 か月の正味償却コストに基づく見積りです。

コストプレビューパネルを使用する際に留意すべき点をいくつか示します。

- ルールの条件が複雑な場合、コストプレビューの結果は正確ではない可能性があります。例えば、`Contains`、`Starts With`、`Ends With` 演算子で一致する値が多すぎる場合などです。

  より正確な結果を得るには、ルールを保存し、コストカテゴリの詳細ページを確認してください。
- ルールが複雑すぎたり、リアルタイムで計算するのに時間がかかりすぎる場合、プレビューにはコスト内訳は表示されません。

コストカテゴリのタグ付け

コストカテゴリへのタグ付けは、コストカテゴリへのアクセスを制御するのに便利です。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「タグを使用した AWS リソースへのアクセスの制御」を参照してください。

次の手順を使用して、既存のコストカテゴリにタグを付けられます。

コストカテゴリにタグ付けするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、[Cost Categories] を選択します。
3. タグ付けするコストカテゴリを選択します。
4. [Resource tags] (リソースタグ) セクションに移動します。
5. [Manage resource tags] (リソースタグを管理) を選択します。
6. [Add new resource tag] (新しいリソースタグを追加) を選択します。
7. [Key] (キー) と [Value] (値) を入力します。
8. タグを設定したら、[Save changes] (変更の保存) を選択します。

コストカテゴリを表示する

のコストカテゴリダッシュボードから AWS Billing and Cost Management、詳細ページを使用してカテゴリの詳細と値に関する包括的な情報を表示できます。このセクションでは、詳細ページに移動し、表示される値を理解し、ビューをカスタマイズしてさまざまなコストタイプを表示する方法について説明します。

トピック

- コストカテゴリの詳細ページへ移動する
- コストカテゴリの詳細ページを理解する
- コストカテゴリの過去 1 か月の分類
- コストタイプを変更する

コストカテゴリの詳細ページへ移動する

請求情報とコスト管理コンソールで任意のコストカテゴリ名を選択して、詳細ページを開くことができます。詳細ページは、コストカテゴリを追加または編集するときにも表示されます。

コストカテゴリの詳細ページを表示するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。

コストカテゴリの詳細ページを理解する

コストカテゴリの詳細ページでは、[カテゴリの詳細] および [カテゴリ値] セクションを使用して、過去 1 か月のコスト配分の内容を示します。

- ページの右上にある [月セレクタ] を使用して、表示している月を変更します。コストカテゴリ内のコストカテゴリ値コスト配分の詳細な内容を表示できます。
- [カテゴリの詳細] セクションの下で、現在の [ステータス]、[デフォルト値]、値カウント、および過去 1 か月の正味償却コストの合計を表示できます。
- [分類されたコスト] の下のグラフは、月額支出のコストカテゴリ値の配分を示します。未分類のコストは [未分類] として表示されます。

コストカテゴリの過去 1 か月の分類

[カテゴリ値] セクションでは、設定済みの各コストカテゴリ値の過去 1 か月の支出を確認できます。表示される額は、正味償却コストです。

コストをさらに調べるには、[AWS Cost Explorerで表示] を選択して Cost Explorer を開きます。

コストタイプを変更する

コストカテゴリは、さまざまなコストタイプを使用して表示することができます。以下のオプションを選択できます。

- 非ブレンドコスト
- 償却コスト
- ブレンドコスト
- 非ブレンド純コスト
- 償却純コスト

これらのコストタイプの詳細については、「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「Cost Explorer を使用してデータを探索する」を参照してください。

コストカテゴリのタイプを変更する

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。現在、コストカテゴリのコストタイプは一度に 1 つしか変更できません。
4. ページの右上隅にある設定アイコン
   (⚙)
   を選択します。
5. [コストカテゴリ設定] ダイアログボックスで、コストの集計方法を選択します。
6. [確認] を選択してください。新しいコストタイプを用いてページが更新されます。

コストカテゴリ値のダウンロード

コストカテゴリダッシュボードの詳細ページから、過去 1 か月のコストカテゴリ支出のオフラインコピーをダウンロードできます。詳細ページは、コストカテゴリを作成または編集した後に表示されます。

コストカテゴリの詳細ページをダウンロードするには

1. https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. [コストカテゴリ] 列の下で、コストカテゴリ名を選択します。
4. [CSVをダウンロード] を選択して、カンマ区切り値のファイルをダウンロードします。

コストカテゴリを編集する

次の手順を使用して、コストカテゴリを編集できます。コストカテゴリ名は編集できません。分割料金を使用している場合は、現時点のソース値として[未分類] コストを選択します。

コストカテゴリを編集するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. 編集するコストカテゴリを選択します。

4. [Edit cost category (コストカテゴリを編集する)] を選択します。
5. 変更を前の日付から遡って適用したい場合は、パラメータの変更を適用する月を選択します。
6. パラメータを変更し、[Confirm cost category (コストカテゴリを確認する)] を選択します。

コストカテゴリを削除する

次の手順を使用して、コストカテゴリを削除できます。

コストカテゴリを削除するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[コストカテゴリ] を選択します。
3. 削除するコストカテゴリを選択します。
4. [Delete cost category (コストカテゴリを削除する)] を選択します。

> **Note**
>
> コストカテゴリの削除は、現在の請求月から有効になります。例えば、9 月 15 日に `CostCategoryA` を削除した場合、`CostCategoryA` は 9 月以降に生成されたレポートに表示されなくなります。ただし、9 月より前の期間の AWS Cost Explorer レポートに表示されます。

コストカテゴリ内で料金を分割する

分割料金ルールを使用して、コストカテゴリ値の間で料金を配分できます。分割料金は、1 人の所有者に直接帰属されていないコストがある場合に便利です。したがって、コストを 1 つのコストカテゴリ値に分類することはできません。たとえば、データ転送コスト、エンタープライズサポート、および運用コストが発生する、複数のチーム、事業部門、財務所有者が共有する一連のコストがあります。コストカテゴリを作成または編集するときに、分割料金ルールを定義できます。これらのプロセスの詳細については、「コストカテゴリを作成する および コストカテゴリを編集する」を参照してください。

これは、分割料金を設定するときに表示される用語のリストです。

ソース

分割する共有コストのグループ。ソースには、既存のコストカテゴリ値のいずれかを指定できます。

ターゲット

ソースによって定義された、全体でコストを分割するコストカテゴリ値。

配分方法

ソースコストをターゲット間で分割する方法。以下の方法から選択できます。

[比例] - 各ターゲットの比例加重コストに基づいて、ターゲット全体にコストを配分します。

[固定] - 定義された配分率に基づいて、ターゲット全体にコストを配分します。

[等分] - すべてのターゲット全体に等分にコストを配分します。

前提条件

分割料金ルールを定義する前に、コストを適切なコストカテゴリ値に分類する必要があります。

Example 例

値 `engineering`、`marketing`、および `FinOps` を用いた `Business unit` コストカテゴリを使用して、組織の事業部門ビューを定義します。組織は、エンジニアリングおよびマーケティングビジネスユニットをサポートする共有インフラストラクチャプラットフォームも運用しています。

この共有インフラストラクチャプラットフォームのコストをターゲットの事業部門に配分するには、適切な [ディメンション] を使用して、そのコストを新しいコストカテゴリ値 `Infrastructure Platform` に分類します。

共有コストを含むコストカテゴリ値をルールリストのトップに移動することをお勧めします。コストカテゴリルールはトップダウン順に評価されるため、共有コストは個々の事業部門が分類される前に分類されます。これらの共有コストを分類した後、各事業部門全体に分割することができます。

分割料金のベストプラクティスを理解する

分割料金を設定する手順については、「コストカテゴリを作成する ステップ 15」を参照してください。分割料金ルールを定義した後、コンソールの [コストカテゴリの詳細] ページで、分割および配分されたコストを表示できます。詳細ページには、各コストカテゴリ値のコストの概要が表示されま

す。これには、分割料金を計算する前後のコストが含まれます。詳細ページから CSV レポートをダウンロードすることもできます。

分割料金を設定する場合は、次のシナリオに注意してください。

- コストカテゴリ値は、すべての分割料金ルール全体で 1 回だけソースとして使用できます。これは、値がソースとして使用されている場合、ターゲットとして使用することはできないことを意味します。値がターゲットとして使用されている場合、ソースとして使用することはできません。値は、複数の分割料金ルールでターゲットとして使用できます。
- コストカテゴリ値が [継承された値] ルールから作成された際に、その値をソースまたは分割料金ターゲットとして使用する場合は、[コストカテゴリステータス] が [適用済み] に変わるまで待つ必要があります。
- 分割料金ルールと合計配分コストは、[コストカテゴリの詳細] ページでのみ提示されます。これらのコストは表示されず、 AWS コストと使用状況レポート、Cost Explorer、その他の AWS コスト管理ツールにも影響しません。
- 1 つのコストカテゴリに対して最大 10 個の分割料金ルールを定義できます。

コストカテゴリクォータの詳細については、「コストカテゴリ」を参照してください。

コスト配分タグを使用した AWS コストの整理と追跡

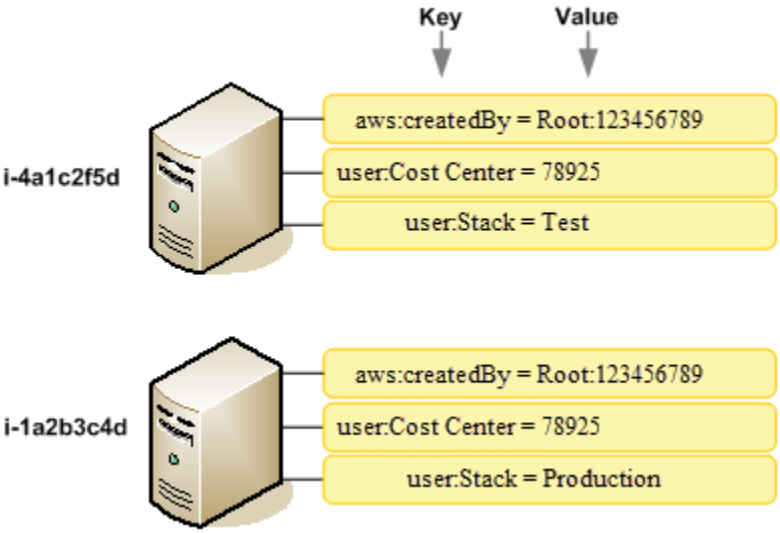
AWS 請求書に関する質問や料金の請求については、 サポート に連絡して、すぐに問い合わせに対処してください。サポートが必要な場合は、「請求書と支払いに関するサポートを受ける」を参照してください。請求書ページの内容を理解するには、「[請求] ページを使って月額料金と請求書を理解する」を参照してください。

タグは、ユーザーまたは が AWS リソース AWS に割り当てるラベルです。各タグは、キーと値から構成されます。タグキーはリソースごとにそれぞれ一意である必要があります。また、各タグキーに設定できる値は 1 つのみです。タグを使用してリソースを整理し、コスト配分タグを使用して AWS コストを詳細レベルで追跡できます。コスト配分タグを有効にすると、 はコスト配分タグ AWS を使用してコスト配分レポートでリソースコストを整理し、コストの分類と追跡を容易にします AWS 。

AWS には、 AWS生成タグとユーザー定義タグの 2 種類のコスト配分タグが用意されています。

AWS、または AWS Marketplace ISV は、 AWS生成されたタグを定義、作成、適用し、ユーザー定義タグを定義、作成、適用します。Cost Explorer またはコスト配分レポートで使用するには、事前に両方のタイプのタグを別々にアクティブ化しておく必要があります。

以下の図に、そのコンセプトを示します。この例では、2 つの Amazon EC2 インスタンスにタグ (Cost Center と Stack) を割り当ててアクティブ化しています。各タグには値が関連付けられています。これらのリソースを作成するcreatedBy前に、 AWS生成されたタグもアクティブ化しました。createdBy タグは、リソースの作成者を追跡します。ユーザー定義タグは userプレフィックスを使用し、 AWS生成されたタグは aws: プレフィックスを使用します。



ユーザーまたは が AWS リソース (Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなど) にタグ AWS を適用し、請求情報とコスト管理コンソールでタグをアクティブ化すると、 はコスト配分レポートをカンマ区切り値 (CSV ファイル) として AWS 生成し、使用状況とコストをアクティブなタグ別にグループ化します。自社のカテゴリ たとえばコストセンター、アプリケーション名、所有者を表すタグを適用すると、複数のサービスにわたってコストを分類することができます。

コスト配分レポートには、各請求期間のすべての AWS コストが含まれます。タグ付きとタグなしのどちらのリソースもこのレポートに出力されるので、リソース別の請求額を明確に分類できます。たとえば、リソースにアプリケーション名のタグを付けると、1 つのアプリケーションが実行されているすべてのリソースのコスト総額がわかります。次に示すスクリーンショットは、各タグの列が表示されているレポートの一部です。

Total Cost	user:Owner	user:Stack	user:Cost Center	user:Application
0.95	DbAdmin	Test	80432	Widget2
0.01	DbAdmin	Test	80432	Widget2
3.84	DbAdmin	Prod	80432	Widget2
6.00	DbAdmin	Test	78925	Widget1
234.63	SysEng	Prod	78925	Widget1
0.73	DbAdmin	Test	78925	Widget1
0.00	DbAdmin	Prod	80432	Portal
2.47	DbAdmin	Prod	78925	Portal

請求サイクルの終了時点では、コスト配分タグのある請求レポートの請求額合計 (タグ付きとタグなし) は、[請求書] ページの請求額の合計と同じ期間のその他の請求レポートの請求額の合計に等しくなります。

タグは、Cost Explorer の表示をフィルタリングするために使用することもできます。Cost Explorer の詳細については、「 AWS Cost Explorer によるコストの分析」を参照してください。

生成されたタグのアクティブ化の詳細については、 AWS「」を参照してくださいAWS生成されたタグのコスト配分タグのアクティブ化。ユーザー定義タグの適用とアクティブ化については、「ユーザー定義のコスト配分タグの使用」を参照してください。すべてのタグが請求情報とコスト管理コンソールに表示されるまでに最大 24 時間かかる場合があります。

> メモ
>
> - ベストプラクティスとして、タグには秘密情報を保存しないでください。
> - 請求コンソールの [cost allocation tags] マネージャーにアクセスできるのは、組織の管理アカウントおよび組織のメンバーではない単一のアカウントのみです。
> - タグを作成および更新するには、 AWS タグエディタを使用します。Tag Editor の詳細については、「 AWS リソースユーザーガイドのタグ付け」の「Tag Editor の使用」をご覧ください。

トピック

- AWS生成タグの使用
- ユーザー定義のコスト配分タグの使用
- バックフィルコスト配分タグ
- 毎月のコスト配分レポートの使用
- コスト配分タグの日付を理解する

AWS生成タグの使用

AWS生成されたタグcreatedByは、コスト配分の目的でサポートされている AWS リソース AWS を定義して適用するタグです。 AWS生成されたタグを使用するには、管理アカウントの所有者が Billing and Cost Management コンソールでタグをアクティブ化する必要があります。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。タグがアクティブ化されると、 は、 AWSで生成されたタグがアクティブ化された後に作成されたリソースへのタグの適用 AWS を開始します。 AWS生成されたタグは、請求情報とコスト管理コンソールとレポートでのみ使用でき、 AWS タグエディタを含む AWS コンソールの他の場所には表示されません。createdBy タグは、リソースクォータあたりのタグ数には影響しません。

aws:createdBy タグは、次の場合にのみ入力されます AWS リージョン。

- ap-northeast-1
- ap-northeast-2
- ap-south-1
- ap-southeast-1
- ap-southeast-2
- cn-north-1
- eu-central-1
- eu-west-1
- sa-east-1
- us-east-1
- us-east-2
- us-gov-west-1
- us-west-1
- us-west-2

これらの外部で作成されたリソース AWS リージョン には、このタグが自動的に入力されません。

createdBy タグでは、次のキー値定義が使用されます。

```
key = aws:createdBy
```

```
value = account-type:account-ID or access-key:user-name or role session name
```

すべての値に、すべての値パラメーターが含まれるわけではありません。例えば、ルートアカウント用の AWS生成のタグの値には、ユーザー名がないこともあります。

account-type の有効値は、Root、IAMUser、AssumedRole、FederatedUser です。

タグに account-ID がある場合、*account-id* はリソースを作成したルートアカウントまたはフェデレーティッドユーザーのアカウント番号を追跡します。タグにアクセスキーがある場合、*access-key* は使用された IAM アクセスキーを追跡します。該当する場合はセッションロール名も追跡されます。

user-name は、ユーザー名です (使用可能な場合)。

タグ値の例を次に示します。

```
Root:1234567890
Root: 111122223333 :exampleUser
IAMUser: AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE :exampleUser
AssumedRole: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE :exampleRole
FederatedUser:1234567890:exampleUser
```

IAM ユーザー、ロール、およびフェデレーションの詳細については、「IAM ユーザーガイド」を参照してください。

AWS が生成したコスト配分タグは、ベストエフォートベースで適用されます。CloudTrail など、AWS生成されたタグが依存するサービスの問題により、タグ付けにギャップが生じる可能性があります。

createdBy タグは次のイベントの後、次のサービスおよびリソースにのみ適用されます。

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
AWS CloudFormation (AWS CloudFormation)	CreateStack	スタック
AWS Data Pipeline (AWS Data Pipeline)	CreatePipeline	パイプライン
Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2)	CreateCustomerGateway	カスタマーゲートウェイ
	CreateDhcpOptions	DHCP オプション
	CreateImage	イメージ
	CreateInternetGateway	インターネットゲートウェイ
	CreateNetworkAcl	ネットワーク ACL
	CreateNetworkInterface	ネットワークインターフェイス

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
	CreateRouteTable	ルートテーブル
	CreateSecurityGroup	セキュリティグループ
	CreateSnapshot	Snapshot
	CreateSubnet	サブネット
	CreateVolume	ボリューム
	CreateVpc	VPC
	CreateVpcPeeringConnection	VPC ピア接続
	CreateVpnConnection	VPN 接続
	CreateVpnGateway	VPN ゲートウェイ
	PurchaseReservedInstancesOffering	リザーブドインスタンス
	RequestSpotInstances	スポットインスタンスのリクエスト
	RunInstances	インスタンス
Amazon ElastiCache (ElastiCache)	CreateSnapshot	Snapshot
	CreateCacheCluster	クラスター
AWS Elastic Beanstalk (Elastic Beanstalk)	CreateEnvironment	環境
	CreateApplication	アプリケーション

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
Elastic Load Balancing (Elastic Load Balancing)	CreateLoadBalancer	ロードバランサー
Amazon S3 Glacier (S3 Glacier)	CreateVault	ボールト
Amazon Kinesis (Kinesis)	CreateStream	ストリーム
Amazon Relational Database Service (Amazon RDS)	CreateDBInstanceReadReplica	データベース
	CreateDBParameterGroup	ParameterGroup
	CreateDBSnapshot	Snapshot
	CreateDBSubnetGroup	SubnetGroup
	CreateEventSubscription	EventSubscription
	CreateOptionGroup	OptionGroup
	PurchaseReservedDBInstancesOffering	ReservedDBInstance
	CreateDBInstance	データベース
Amazon Redshift (Amazon Redshift)	CreateClusterParameterGroup	ParameterGroup
	CreateClusterSnapshot	Snapshot
	CreateClusterSubnetGroup	SubnetGroup

AWS 製品	API イベントまたはコンソール イベント	リソースタイプ
	`CreateCluster`	クラスター
Amazon Route 53 (Route 53)	`CreateHealthCheck`	HealthCheck
	`CreatedHostedZone`	HostedZone
Amazon Simple Storage Service (Amazon S3)	`CreateBucket`	バケット
AWS Storage Gateway (Storage Gateway)	`ActivateGateway`	ゲートウェイ

> **Note**
>
> `CreateDBSnapshot` タグは、スナップショットのバックアップストレージには適用されません。

AWS Marketplace ベンダー提供のタグ

特定の AWS Marketplace ベンダーはタグを作成し、ソフトウェアの使用に関連付けることができます。これらのタグには、プレフィックス `aws:marketplace:isv:` があります。タグを使用するには、管理アカウントの所有者が請求情報とコスト管理コンソールでタグをアクティブ化する必要があります。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。`aws:createdBy` タグと同様に、これらのタグは請求情報とコスト管理コンソールにのみ表示され、リソースクォータあたりのタグ数には影響しません。製品に適用されるタグキーは、AWS Marketplace 製品ページにあります。

AWS生成タグのコスト配分タグの制限

AWS生成されたタグには、次の制限が適用されます。

- AWS生成されたタグをアクティブ化できるのは管理アカウントのみです。
- AWS生成されたタグを更新、編集、または削除することはできません。
- 請求情報とコスト管理レポートのアクティブなタグキーの最大数は 500 個です。

- AWS生成のタグは CloudTrail ログを使用して作成されます。CloudTrail は、特定のサイズをログに記録すると、 AWS生成されたタグの作成が失敗します。
- 予約済みのプレフィックスは `aws:` です。

  AWSによって生成されたタグ名と値には、割り当てることができない`aws:`プレフィックスが自動的に割り当てられます。 AWSによって生成されたタグ名は、ユーザー定義のリソースタグクォータである 50 にはカウントされません。ユーザー定義タグの名前は、`user:` というプレフィックスを付けてコスト配分レポートに表示されます。
- タグ値が null の場合、Cost Explorer と AWS Budgets には表示されません。null でもあるタグ値が 1 つだけの場合、タグキーは Cost Explorer または AWS Budgets にも表示されません。

AWS生成されたタグのコスト配分タグのアクティブ化

管理アカウントの所有者は、請求情報とコスト管理コンソールで AWS生成されたタグをアクティブ化できます。管理アカウントの所有者がタグをアクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても有効になります。このタグは、請求情報とコスト管理コンソールとレポートにのみ表示されます。

> **Note**
>
> `createdBy` タグは、請求情報とコスト管理コンソールでアクティブ化できます。このタグは特定の で使用できます AWS リージョン。詳細については、「AWS生成タグの使用」を参照してください。

AWS生成されたタグをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. [AWS-generated cost allocation tags] で、`createdBy` タグを選択します。
4. [有効化] を選択します。タグが有効になるまでに最大 24 時間かかることがあります。

AWS生成されたタグのコスト配分タグの無効化

管理アカウントの所有者は、請求情報とコスト管理コンソールで AWS生成されたタグを非アクティブ化できます。管理アカウントの所有者がタグを非アクティブ化すると、タグはすべてのメンバーアカウントに対しても非アクティブ化されます。 AWS生成されたタグを非アクティブ化すると、 は新しいリソースにタグを適用 AWS しなくなります。それまでにタグ付けされたリソースのタグは、そのまま残ります。

AWS生成されたタグを無効にするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. [AWS-generated cost allocation tags] で、[Deactivate] を選択します。

タグが非アクティブになるまでに最大 24 時間かかることがあります。

ユーザー定義のコスト配分タグの使用

ユーザー定義タグは、ユーザーが定義、作成し、リソースに適用するタグです。ユーザー定義タグを作成して適用すると、請求情報とコスト管理コンソールを使用してコスト配分の追跡をアクティブ化できます。コスト配分タグは、Cost Explorer、Budgets、 AWS コストと使用状況レポート、または従来のレポートを有効にした後、コンソールに表示されます。 AWS のサービスをアクティブ化すると、コスト配分レポートに表示されます。その後、コスト配分レポートのタグを使用して AWS コストを追跡できます。タグは、そのタグが作成される前に作成されたリソースには適用されません。

> **Note**
>
> - ベストプラクティスとして、組織を移動するときにコスト配分タグを再度アクティブ化します。アカウントがメンバーとして別の組織に移動すると、そのアカウントの以前にアクティブ化されたコスト配分タグは「アクティブ」状態を失い、新しい管理アカウントによって再度アクティブ化する必要があります。
> - ベストプラクティスとして、タグには秘密情報を保存しないでください。
> - 請求情報とコスト管理コンソールの [cost allocation tags] マネージャーにアクセスできるのは、組織の管理アカウントおよび組織のメンバーではない単一のアカウントのみです。

ユーザー定義のコスト配分タグの適用

使いやすさと最良の結果を得るには、 AWS タグエディタを使用してユーザー定義タグを作成して適用します。Tag Editor では、統一された方法で一元的にユーザー定義タグを作成および管理できます。詳細については、「Tagging AWS Resources and Tag Editor User Guide」を参照してください。

サポートされるサービスでは、API または AWS Management Consoleを使用してリソースにタグを適用できます。各 AWS サービスには、タグの独自の実装があります。これらの実装を個々に使用するか、タグエディターを使用してこのプロセスを簡素化することができます。タグをサポートするサービスの完全リストについては、「タグベースのグループでサポートされているリソース」および「 リソースグループのタグ付け API リファレンス」を参照してください。

> **Note**
>
> コスト配分タグの動作は AWS 、サービスによって異なります。サポートされているサービスのコスト配分タグの動作の詳細については、サービスのドキュメントを参照してください。たとえば、Amazon ECS でのコスト配分タグの使用の詳細については、Amazon Elastic Container Service デベロッパーガイドの「Amazon ECS リソースのタグ付け」を参照してください。

作成および適用したユーザー定義タグは、コスト配分用にアクティブ化できます。コスト配分用にタグをアクティブ化する場合は、コストの整理方法に応じた一連のタグキーを設定するようお勧めします。コスト配分レポートにタグキーが列として追加され、各行の該当する値が表示されるため、タグキーのセットを一貫して使用すると、コスト追跡が容易になります。

一部のサービスは、Amazon EMR が EC2 インスタンスを起動するなど、サービスが使用する他の AWS リソースを起動します。補足サービス (EC2) でタグ付けがサポートされている場合、補足リソース (関連する Amazon EC2 インスタンスなど) にレポート用のタグを付けることができます。タグを付けることができるリソースの詳細なリストについては、Tag Editor を使用して検索してください。Tag Editor を使用してリソースを検索する方法の詳細については、「タグ付けするリソースの検索」を参照してください。

> **メモ**
>
> - AWS Marketplace 明細項目には、関連付けられた Amazon EC2 インスタンスタグが付けられます。

- awsApplication タグは、 AWS Service Catalog AppRegistryで設定されるアプリケーションに関連付けられるすべてのリソースに自動的に追加されます。このタグはコスト配分タグとして自動的に有効化されます。自動的に有効化されたタグは、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。詳細については、「クォータと制限」を参照してください。

ユーザー定義タグの制限

基本的なタグの制限については、Amazon EC2 ユーザーガイドの「タグの制限」を参照してください。

コスト配分のユーザー定義タグに適用されるタグは次のとおりです。

- 予約済みのプレフィックスは aws: です。

  AWS生成のタグの名前と値には aws: プレフィックスが自動的に割り当てられますが、これをユーザーが割り当てることはできません。ユーザー定義タグの名前は、user: というプレフィックスを付けてコスト配分レポートに表示されます。
- 各キーは、各リソースに対して 1 回だけ使用してください。同じキーを同じリソースに対して 2 回使用しようとすると、リクエストが却下されます。
- 一部のサービスでは、作成時にリソースにタグ付けすることができます。詳細については、リソースにタグ付けするサービスに関するドキュメントを参照してください。
- 「タグの制限」に一覧表示されている文字以外の文字が必要な場合は、タグに標準 Base-64 エンコーディングを適用できます。請求情報とコスト管理では自動的にタグがエンコードまたはデコードされません。
- 非従量制サービスのユーザー定義のタグを有効にできます (アカウントのタグ付けなど)。ただし、それらのサービスは従量制ではないため、これらのタグはコスト管理スイートでは設定されません。

ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化

請求レポートにタグを表示するには、タグをアクティブ化する必要があります。ユーザー定義のコスト配分タグはタグキーを表し、請求情報とコスト管理コンソールで有効にします。タグキーをアクティブ化または非アクティブ化すると、同じタグキーを共有するすべてのタグ値に影響します。タグキーには複数のタグ値を設定できます。UpdateCostAllocationTagsStatus API オペレーショ

ンを使用しても、タグを設定できます。詳細については、「APIリファレンスAWS Billing and Cost Management」を参照してください。

タグキーをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. アクティブ化するタグキーを選択します。
4. [有効化] を選択します。

ユーザー定義のタグを作成してリソースに適用した後、アクティブ化のためにタグキーがコスト配分タグページに表示されるまでに最大で 24 時間かかる場合があります。タグキーがアクティブ化されるまでに最大 24 時間かかることがあります。

コスト配分タグのある請求レポートでのタグキーの表示例については、「コスト配分レポートの表示」を参照してください。

`awsApplication` タグについて

`awsApplication` タグは、 でセットアップされているアプリケーションに関連付けられているすべてのリソースに自動的に追加されます AWS Service Catalog AppRegistry。このタグはコスト配分タグとして自動的に有効化されます。このタグを使用して、アプリケーションとそのリソースのコスト傾向を分析します。

`awsApplication` タグは無効化できますが、アプリケーションのコストレポートに影響します。タグを非アクティブ化した場合、再び自動的にアクティブ化されることはありません。タグを手動で有効化するには、請求コンソールまたは UpdateCostallocationTagsStatus API オペレーションを使用します。

`awsApplication` タグは、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。コスト配分タグのクォータと制限の詳細については、クォータと制限 を参照してください。AppRegistry について詳しくは、「AWS Service Catalog AppRegistry 管理者ガイド」を参照してください。

バックフィルコスト配分タグ

管理アカウントのユーザーは、最大 12 か月間、コスト配分タグのバックフィルをリクエストできます。バックフィルをリクエストすると、タグの現在のアクティベーションステータスは、選択した期間にわたってバックフィルされます。

例えば、 Project タグは 2023 年 6 月に AWS リソースに関連付けられ、2023 年 11 月にアクティブ化されました。2023 年 12 月、2023 年 1 月からタグのバックフィルをリクエストします。その結果、Project タグは 2023 年 1 月から 12 月までの過去の月にさかのぼってアクティブ化されます。Project タグに関連付けられたタグ値は、2023 年 6 月から 2023 年 12 月までのコストデータで使用できます。ただし、2023 年 1 月から 2023 年 5 月の間は、タグが AWS リソースに存在しなかったため、Projectタグ値は関連付けられません。

バックフィルを使用して、アライメントのためにタグを非アクティブ化することもできます。例えば、過去の月に Team タグがアクティブでしたが、現在は inactive ステータスに設定されているとします。バックフィルすると、Team タグは非アクティブ化され、過去の月のコストデータから削除されます。

> **Note**
>
> - リソースタグは、バックフィルされたコストデータを使用可能にするために AWS 、リソースに履歴的に割り当てる必要があります。
> - バックフィルが進行中の場合は、新しいバックフィルリクエストを送信できません。
> - 新しいバックフィルリクエストは 24 時間に 1 回のみ送信できます。

コスト配分タグのバックフィルをリクエストするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[Cost Allocation Tags] (コスト配分タグ) を選択します。
3. ページの右上で、[バックフィルタグ] を選択します。
4. [バックフィルタグ] ダイアログボックスで、バックフィルを開始する月を選択します。
5. [確認] を選択してください。

バックフィルによる AWS コスト管理サービスの更新

バックフィルにより、Cost Explorer、データエクスポート、および AWS Cost and Usage Report が自動的に更新されます。これらのサービスは 24 時間に 1 回データを更新するため、バックフィルは成功してもすぐには更新されません。詳細については、対応するガイドの次のリソースを参照してください。

- 「AWS Cost Management ユーザーガイド」の「Analyzing your costs with Cost Explorer」
- 「AWS Data Exports ユーザーガイド」の「What is Data Exports?」

毎月のコスト配分レポートの使用

毎月のコスト配分レポートには、 アカウントの AWS 使用状況が製品カテゴリ別および連結アカウントユーザー別に一覧表示されます。このレポートには、詳細な AWS Cost and Usage Reportと同じ明細項目、およびタグキーの追加列が含まれます。 AWS Cost and Usage Report 代わりに を使用することをお勧めします。

月次配分レポートの詳細については、次のトピックを参照してください。

トピック

- 月別コスト配分レポートの設定
- 時間別コスト配分レポートの取得
- コスト配分レポートの表示

月別コスト配分レポートの設定

デフォルトでは、 API または を使用して追加した新しいタグキー AWS Management Console は、コスト配分レポートから自動的に除外されます。このトピックに記載されている手順を使用してこれらを追加できます。

タグキーをコスト配分レポートに表示することを選ぶと、キーごとに 1 列追加され、対応する明細項目の値が表示されます。コスト配分レポートの元来の目的以外で他のタグを利用する可能性があるため (セキュリティまたは運用上の理由から追加するタグなど)、タグキーは個別にレポートに含めたり除外したりすることができます。このため、コストの整理に役立つ意味のある請求書情報が表示されるようになります。少数のタグキーを一貫して使用すると、コストの追跡がより容易になります。詳細については、「コスト配分レポートの表示」を参照してください。

> **Note**
>
> AWS は、作成して所有する Amazon S3 バケットに請求レポートを保存します。これらのレポートは、Amazon S3 API、Amazon S3 AWS Management Console 用Amazon S3を使用してバケットから取得できます AWS Command Line Interface。コスト配分レポートは、請求

情報とコスト管理コンソールの [アカウントアクティビティ] ページからはダウンロードできません。

コスト配分レポートを設定し、タグをアクティブ化するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [請求明細レポート (レガシー)] で [編集] を選択し、次に [S3 へのレガシーレポート配信] を選択します。
3. [S3 バケットをアクティブ化する] を選択し、レポートの配信先を指定します。
4. [S3 バケットの設定] ダイアログボックスで、次のいずれかを選択します。
   - 既存の S3 バケットを使用するときは、[既存の S3 バケットを使用] を選択して、S3 バケットを選択します。
   - 新しい S3 バケットを作成するときは、[新しい S3 バケットを作成] を選択し、[S3 バケット名] に名前を入力して、[リージョン] を選択します。
5. [Next (次へ)] を選択します。
6. デフォルトの IAM ポリシーを読み、[このポリシーが正しいことを確認しました] を選択します。
7. [Save] を選択します。
8. [レポート] リストで、[コスト割り当てレポート] のチェックボックスを選択して [有効化] を選択します。
9. [レポートタグの管理] を選択します。

   このページには、API または該当する AWS のサービスのコンソールを使用して作成したタグのリストが表示されます。現在レポートに表示されているタグキーが選択されています。除外されているタグキーは選択されていません。
10. ドロップダウンリストで [非アクティブ] のタグをフィルタリングして、レポートで有効にするタグを選択できます。
11. [有効化] を選択します。

組織内で管理アカウントを所有している場合、コスト配分レポートには、メンバーアカウントのすべての使用量、コスト、タグが含まれます。デフォルトでは、メンバーアカウントで登録されたすべて

のキーが表示され、レポートに表示するか除外するかを指定できます。リソースとタグを含む請求明細レポートには、前のステップを使用して選択するコスト配分タグキーも含まれます。

時間別コスト配分レポートの取得

コスト配分レポートは、Amazon S3 AWS バケットに 1 日に数回発行するいくつかのレポートの 1 つです。 Amazon S3

> **Note**
>
> 現在の請求期間中 (月額) 、 は推定コスト配分レポート AWS を生成します。その月のファイルは、請求期間が終了するまでの間、繰り返し上書きされ、請求期間終了時に最終的なレポートが生成されます。その後で、次の請求期間の新しいファイルが作成されます。過去の月のレポートは、指定された Amazon S3 バケットに残ります。

コスト配分レポートの表示

次の例は、さまざまなコストセンターとアプリケーションの請求額を追跡するためのものです。リソース (Amazon EC2 インスタンスや Amazon S3 バケットなど) には、"Cost Center"="78925" や "Application"="Widget1" のようなタグが割り当てられています。コスト配分レポートでは、ユーザー定義のタグキーにはプレフィックス がありuser、たとえば `user:Cost Center`や `user:Application` AWS. 生成のタグキーにはプレフィックス がありますaws。キーは列見出しとして表示され、その下にタグ付きの明細項目の値 (たとえば 78925) が表示されます。

Total Cost	user:Owner	user:Stack	user:Cost Center	user:Application
0.95	DbAdmin	Test	80432	Widget2
0.01	DbAdmin	Test	80432	Widget2
3.84	DbAdmin	Prod	80432	Widget2
6.00	DbAdmin	Test	78925	Widget1
234.63	SysEng	Prod	78925	Widget1
0.73	DbAdmin	Test	78925	Widget1
0.00	DbAdmin	Prod	80432	Portal
2.47	DbAdmin	Prod	78925	Portal

キーを選択するときは、値の階層が統一されるように注意して選択してください。そのようになっていない場合は、レポートのコストが効果的にグループ化されず、多数の明細項目が出力されます。

> **Note**
>
> 請求期間の途中でリソースのタグを追加または変更した場合は、コストが分割され、2 つの明細項目としてコスト配分レポートに表示されます。1 行目は更新前のコストを示し、2 行目は更新後のコストを示します。

レポート内の未配分リソース

コスト配分レポートの中に、タグでグループ化できない請求額がある場合は、デフォルトでは標準の請求額集計方法が適用され (アカウント/製品/明細項目で分類)、レポートに表示されます。未配分のコストが発生する状況としては、次のようなものがあります。

- 月の途中でコスト配分レポートにサインアップした。
- 一部のリソースに、請求期間の一時期または全体にわたってタグが付けられていなかった。
- 使用しているサービスが現時点ではタグをサポートしていない。
- AWS サポート や AWS Marketplace 月額料金などのサブスクリプションベースの料金は配分できません。
- 1 回だけ支払う料金 (たとえば Amazon EC2 リザーブドインスタンスの前払い料金) は配分できません。

タグ付けされたリソースに関連する想定外のコスト

コスト配分タグを使用して、使用量およびコストの割合が高いリソースを確認できますが、リソースを削除または非アクティベートすれば、必ずしもコストが削減できるとは限りません。予想外のコストの削減に関する詳細については、「予期しない請求について」を参照してください。

コスト配分タグの日付を理解する

> **前提条件**
>
> AWS Billing and Cost Management コンソールの [コスト配分タグ] のページでこれらの日付を確認するには、`ce:ListCostAllocationTags` のアクセス許可が必要です。
> AWS Identity and Access Management (IAM) ポリシーの更新の詳細については、「」を参照してくださいアクセス許可の管理。

コスト配分タグを使用する場合、次のメタデータフィールドを使用して、タグが最後に使用された日または最後に更新された日を確認できます。

- [最終更新日] — コスト配分のためにタグキーがアクティブ化または非アクティブ化された最後の日付。

  例えば、タグキー `lambda:createdby` が 2023 年 7 月 1 日に非アクティブからアクティブに変更されたとします。この場合、[最終更新日] の列には 2023 年 7 月 1 日が表示されます。
- 最終使用月 – AWS リソースでタグキーが使用された最後の月。

  例えば、タグキー `lambda:createdby` が最後に使用されたのが 2023 年 4 月 であるとします。この場合、[最終使用月] の列には 2023 年 4 月が表示されます。これは、その日付以降、タグキーはどのリソースにも関連付けされていないことを意味します。

> **メモ**
>
> - [最終更新日] の列には、新しく作成されたタグキーがアクティブ化されていない場合、何も表示されません。
> - [最終使用月] の列では、2023 年 4 月以前に使用され、現在どのリソースにも関連付けされていないタグキーについては [2023 年 4 月以前] と表示されます。

を使用した AWS のサービス および 料金の呼び出し AWS の料金表

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS の料金表 は、購入 AWS のサービス できる の製品と価格のカタログを提供します AWS。

このカタログには、 からの永続的な無料オファーが含まれています AWS 無料利用枠。これには、定期的に更新され、永続的に利用可能な、使用量ベースの無料利用枠オファーが含まれます。このカタログには、アカウントのアクティブ期間に基づいて有効期限が切れる時間制限付き無料利用枠オファーは含まれていません。無料利用枠の詳細については、「を使用してサービスを試す AWS 無料利用枠 (2025 年 7 月 15 日より前)」を参照してください。また、このカタログには、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) スポットインスタンスは含まれていません。Amazon EC2 スポットインスタンスの詳細については、「Amazon EC2 スポットインスタンス」を参照してください。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- AWS Billing and Cost Management API リファレンス
- 言語固有の AWS SDKs
- Amazon Web Services のツール

概要

の使用に役立つ主な概念 AWS の料金表は次のとおりです。

サービス

Amazon EC2 や Savings Plans AWS のサービスなどの 。例えば、Amazon EC2 の Savings Plans は `AWSComputeSavingsPlan`、機械学習 (ML) の Savings Plans は `AWSMachineLearningSavingsPlans` などです。

製品

AWS のサービスが販売するエンティティ。料金表ファイルでは、製品は固有の在庫保持単位 (SKU) によってインデックス付けされます。

属性

製品に関連するプロパティ。このプロパティは `AttributeName` と `AttributeValue` から構成されます。製品には複数の属性があります。各属性には `AttributeName` が 1 つと該当する `AttributeValues` のリストがあります。

次の AWS の料金表 APIs を使用できます。

AWS 料金表クエリ API

この API は、プログラムで AWS のサービス、製品、および料金情報のクエリを一元的に便利に行うことができます。

Price List Service API は、製品属性を使用して、SKU レベルの料金を取得できます。この API を使用して、コスト管理ツールとシナリオ計画ツールの構築、請求データの照合、予算編成のための将来の支出の予測、内部ワークロードと を比較する費用対効果分析を提供します AWS。

> **Note**
>
> Price List Query API は Savings Plans の料金をサポートしていません。

AWS Price List Bulk API

この API は、料金表ファイルを使用して、現在の AWS のサービス および製品のup-to-date料金情報をプログラムで一括で取得する方法を提供します。料金表ファイルは JSON 形式と CSV 形式で提供されています。料金表ファイルは、 AWS のサービス と AWS リージョンで構成されています。

> **Note**
>
> Price List Query API および Price List Bulk API で取得された料金詳細情報は、情報提供のみを目的としています。料金表ファイルとサービス料金ページの間に不一致がある場合、AWS はサービス料金ページに表示されている料金を請求します。

AWS のサービス 料金の詳細については、AWS 「 の料金」を参照してください。

AWS の料金表 APIs を呼び出すには、任意のプログラミング言語をサポートする AWS SDK を使用することをお勧めします。 AWS SDKsを使用すると、時間を節約し、リクエストの署名プロセスを簡素化できます。 AWS SDKs を開発環境と統合し、関連するコマンドにアクセスすることもできます。

の開始方法 AWS の料金表

IAM 許可

ユーザーやロールなどの AWS Identity and Access Management (IAM) ID には、Price List Query API または Price List Bulk API を使用するためのアクセス許可が必要です。アクセスを許可するには、「製品と価格の検索」を参照してください。

エンドポイント

Price List Query API および Price List Bulk API には、次のエンドポイントが用意されています。

- https://api.pricing.us-east-1.amazonaws.com
- https://api.pricing.eu-central-1.amazonaws.com
- https://api.pricing.ap-south-1.amazonaws.com

AWS リージョン は Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

Price List Query API または Price List Bulk API を呼び出す場合は、以下の例を参照してください。

Java

次の例では、*region_name* を指定し、それを使用して PricingClient を作成します。

```
public class Main {
    public static void main(String[] args) {

        // Create pricing client
        PricingClient client = PricingClient.builder()
                .region(Region.US_EAST_1)// or Region.AP_SOUTH_1
```

```
                .credentialsProvider(DefaultCredentialsProvider.builder().build())
                .build();
        );
    }
}
```

AWS Command Line Interface

次のコマンドでリージョンを指定します。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

クォータ

「クォータと制限」ページの「AWS の料金表」を参照してください。

Service Quotas の詳細については、「AWS 全般のリファレンス」の「AWS のサービス クォータ」を参照してください。

AWS Price List Query API を使用したサービスと製品の検索

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

次のような場合は、Price List Query API を使用することをお勧めします。

- 製品の料金情報を検索する。
- フィルタに一致する製品と料金を検索する。
- フロントエンド環境など、リソースが限られているアプリケーションを開発している場合に必要な製品および料金を迅速に見つける。

AWS のサービス製品、製品属性、および料金を確認するには、次のステップを参照してください。

ステップ 1: 利用可能な AWS のサービスの検索

サービスを見つけたら、`DescribeServices` API オペレーションを使用してその属性を取得できます。サービスコードがわかっている場合は、 AWS Price List Query API を使用してサービスの属性

を取得することもできます。次に、サービス属性を使用して、属性値に基づいて要件を満たす製品を検索できます。

例: サービスの検索

次の AWS Command Line Interface（ AWS CLI) コマンドは、 サービスの検索方法を示しています。

Example 例: すべてのサービスの検索

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "NextToken": "abcdefg123",
    "Services": [
        {
            "AttributeNames": [
                "volumeType",
                "maxIopsvolume",
                "instanceCapacity10xlarge",
                "locationType",
                "operation"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonEC2"
        },
        {
            "AttributeNames": [
                "productFamily",
                "volumeType",
                "engineCode",
                "memory"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonRDS"
        },
        {...}
    ]
}
```

Example 例: Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) のサービスメタデータの検索

次のコマンドは、Amazon EC2 のサービスメタデータを検索する方法を示しています。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1 --service-code AmazonEC2
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "NextToken": "abcdefg123",
    "Services": [
        {
            "AttributeNames": [
                "productFamily",
                "volumeType",
                "engineCode",
                "memory"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonEC2"
        }
    ]
}
```

AWS リージョン は Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

詳細については、AWS Billing and Cost Management API リファレンスの DescribeServices を参照してください。

ステップ 2: 属性に使用可能な値の検索

ステップ 1 では、 AWS のサービスの属性リストを取得しました。このステップでは、これらの属性を使用して製品を検索します。ステップ 3 では、これらの属性に使用可能な値が必要です。

属性の値を見つけるには、`GetAttributeValues` API オペレーションを使用します。API を呼び出すには、`AttributeName` および `ServiceCode` パラメータを指定します。

例: 属性値の取得

次の AWS Command Line Interface （ AWS CLI) コマンドは、 の属性値を取得する方法を示しています AWS のサービス。

Example 例: Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の属性値の検索

```
aws pricing get-attribute-values --service-code AmazonRDS --attribute-name operation --
region us-east-1
```

レスポンス

```
{
    "AttributeValues": [
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0002"
        },
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0003"
        },
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0004"
        },
        {
            "Value": "CreateDBInstance:0005"
        }
    ],
    "NextToken": "abcdefg123"
}
```

AWS リージョン は Price List Query API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

詳細については、AWS Billing and Cost Management 「 API リファレンス」のGetAttributeValues「」および「言語固有の AWS SDKs」を参照してください。

ステップ 3: 属性からの製品の検索

このステップでは、ステップ 1 とステップ 2 の情報を使用して製品とその条件を検索します。製品に関する情報を取得するには、GetProducts API オペレーションを使用します。フィルタのリストを指定して、必要な製品を返すことができます。

> **Note**
>
> Price List Query API がサポートしているのは "AND" 一致のみです。コマンドのレスポンスには、指定したすべてのフィルタに一致する製品のみが含まれます。

例: 属性からの製品の検索

次の AWS Command Line Interface（ AWS CLI) コマンドは、属性を使用して製品を検索する方法を示しています。

Example 例: フィルタを指定した製品の検索

次のコマンドは、Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) のフィルタを指定する方法を示しています。

```
aws pricing get-products --service-code AmazonRDS --region us-east-1 --filters
 Type=TERM_MATCH,Field=operation,Value="CreateDBInstance:0002"
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "PriceList": ["{
        \"product\":{
            \"productFamily\":\"Database Instance\",
            \"attributes\":{
                \"engineCode\":\"2\",
                \"enhancedNetworkingSupported\":\"Yes\",
                \"memory\":\"64 GiB\",
                \"dedicatedEbsThroughput\":\"2000 Mbps\",
                \"vcpu\":\"16\",
                \"locationType\":\"AWS Region\",
                \"storage\":\"EBS Only\",
                \"instanceFamily\":\"General purpose\",
                \"regionCode\":\"us-east-1\",
                \"operation\":\"CreateDBInstance:0002\",
                ...
            },
            \"sku\":\"22ANV4NNQP3UUCWY\"},
            \"serviceCode\":\"AmazonRDS\",
            \"terms\":{...}"
    ],
    "NextToken": "abcd1234"
}
```

Example 例: **filters.json** ファイルを使用したフィルタの指定

次のコマンドは、すべてのフィルタを記載した JSON ファイルを指定する方法を示しています。

```
aws pricing get-products --service-code AmazonRDS --region us-east-1 --filters file://
filters.json
```

例えば、filters.json ファイルには以下のフィルタが含まれる場合があります。

```
[
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "operation",
    "Value": "CreateDBInstance:0002"
  }
]
```

次の例は、複数のフィルタを指定する方法を示しています。

```
[
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "AttributeName1",
    "Value": "AttributeValue1"
  },
  {
    "Type": "TERM_MATCH",
    "Field": "AttributeName2",
    "Value": "AttributeValue2"
  },
  ...
]
```

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "PriceList": ["{
        \"product\":{
            \"productFamily\":\"Database Instance\",
            \"attributes\":{
                \"engineCode\":\"2\",
                \"enhancedNetworkingSupported\":\"Yes\",
                \"memory\":\"64 GiB\",
                \"dedicatedEbsThroughput\":\"2000 Mbps\",
```

```
                \"vcpu\":\"16\",
                \"locationType\":\"AWS Region\",
                \"storage\":\"EBS Only\",
                \"instanceFamily\":\"General purpose\",
                \"regionCode\":\"us-east-1\",
                \"operation\":\"CreateDBInstance:0002\",
                ...
            },
            \"sku\":\"22ANV4NNQP3UUCWY\"},
            \"serviceCode\":\"AmazonRDS\",
            \"terms\":{...}"
    ],
    "NextToken": "abcd1234"
}
```


詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- GetProducts AWS Billing and Cost Management API リファレンスの および言語固有の AWS SDKs
- サービス料金表ファイルの読み取り
- サービス料金表ファイルでの料金の確認

Price List Bulk API を使用した AWS 料金表ファイルの取得

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

以下のタスクを実行する場合は、Price List Bulk API を使用することをお勧めします。

- AWS のサービスの製品情報や料金情報を大量に処理する。
- 一括処理など、 AWS のサービスで高スループットで製品および料金情報を処理する。

また、Price List Query API ではユースケースに十分なスループットとクォータが得られない場合も、Price List Bulk API を使用します。

AWS Price List Bulk API を使用して、プログラムで料金表ファイルを検索およびダウンロードすることをお勧めします。料金表ファイルの URL を取得するには、次の手順を参照してください。

AWS Price List Bulk API を使用しない場合は、料金表ファイルを手動でダウンロードできます。詳細については、「料金表ファイルの手動取得」を参照してください。

ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス

`DescribeServices` API オペレーションを使用して、Price List Bulk API がサポートする利用可能な AWS のサービス をすべて検索します。この API オペレーションは、サービスのリストから `ServiceCode` 値を返します。後でこの値を使用して、関連する料金表ファイルを検索します。

Example 例: 利用可能なサービスの検索

次のコマンドは、利用可能な AWS のサービスの検索方法を示しています。

```
aws pricing describe-services --region us-east-1
```

AWS リージョン は Price List Bulk API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

レスポンス

```
{
    "FormatVersion": "aws_v1",
    "NextToken": "abcdefg123",
    "Services": [
        {
            "AttributeNames": [
                "volumeType",
                "maxIopsvolume",
                "instanceCapacity10xlarge",
                "locationType",
                "operation"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonEC2"
        },
        {
            "AttributeNames": [
                "productFamily",
                "volumeType",
                "engineCode",
                "memory"
            ],
            "ServiceCode": "AmazonRDS"
```

```
        },
        {...}
    ]
}
```

この API オペレーションの詳細については、 API AWS Billing and Cost Management リファレンスのDescribeServices「」および「言語固有の AWS SDKs」を参照してください。

ステップ 2: 利用可能な の料金表ファイルを検索する AWS のサービス

ListPriceLists API オペレーションを使用して、表示権限のある料金表参照リストを取得します。結果を絞り込む場合は、ServiceCode、CurrencyCode、および EffectiveDate パラメータを指定します。

AWS リージョン は Price List Bulk API の API エンドポイントです。エンドポイントは製品やサービスの属性とは関係ありません。

料金表ファイルの検索例

Example 例: すべての の料金表ファイルを検索する AWS リージョン

--region-code パラメータを指定しない場合、API オペレーションは利用可能なすべての AWS リージョンから料金表ファイル参照を返します。

```
aws pricing list-price-lists --service-code AmazonRDS --currency-code USD --effective-
date "2023-04-03 00:00"
```

レスポンス

```
{
   "NextToken": "abcd1234",
   "PriceLists": [
      {
         "CurrencyCode": "USD",
         "FileFormats": [ "json", "csv" ],
         "PriceListArn": "arn:aws:pricing:::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-east-1",
         "RegionCode": "us-east-1"
      },
      {
         "CurrencyCode": "USD",
         "FileFormats": [ "json", "csv" ],
```

```
         "PriceListArn": "arn:aws:pricing:::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-west-2",
         "RegionCode": "us-west-2"
      },
      ...
   ]
}
```

Example 例: 特定リージョンの料金表ファイルを検索する

RegionCode パラメータを指定すると、API オペレーションは、そのリージョンのみの料金表ファイル参照を返します。過去の料金表ファイルを検索するには、EffectiveDate パラメータを使用します。例えば、過去の日付を指定して特定の料金表ファイルを検索できます。

レスポンスから得た PriceListArn 値を GetPriceListFileUrl API オペレーションで使用して、目的の料金表ファイルを取得できます。

```
aws pricing list-price-lists --service-code AmazonRDS --currency-code USD --region-
code us-west-2 --effective-date "2023-04-03 00:00"
```

レスポンス

```
{
   "PriceLists": [
      {
         "CurrencyCode": "USD",
         "FileFormats": [ "json", "csv" ],
         "PriceListArn": "arn:aws:pricing:::price-list/aws/AmazonRDS/
USD/20230328234721/us-west-2",
         "RegionCode": "us-west-2"
      }
   ]
}
```

この API オペレーションの詳細については、 API AWS Billing and Cost Management リファレンスのListPriceLists「」および「言語固有の AWS SDKs」を参照してください。

ステップ 3: 特定の料金表ファイルの取得

GetPriceListFileUrl API オペレーションを使用して、料金表ファイルの URL を取得します。この URL は、ステップ 1 とステップ 2 の ListPriceLists レスポンスから取得した PriceListArn と FileFormats の値に基づいています。

Example 例: 特定の料金表ファイルを取得する

次のコマンドは、Amazon RDS の特定の料金表ファイルの URL を取得します。

```
aws pricing get-price-list-file-url --price-list-arn arn:aws:pricing:::price-list/aws/
AmazonRDS/USD/20230328234721/us-east-1 --file-format json --region us-east-1
```

レスポンス

```
{
    "Url": "https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/
AmazonRDS/20230328234721/us-east-1/index.json"
}
```

レスポンスから取得した URL を使用して料金表ファイルをダウンロードできます。

この API オペレーションの詳細については、次のトピックを参照してください。

- GetPriceListFileUrl AWS Billing and Cost Management API リファレンスの および言語固有の AWS SDKs
- 料金表ファイルの読み取り

料金表ファイルの手動取得

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS Price List Bulk API を使用して、プログラムで料金表ファイルを検索およびダウンロードすることをお勧めします。詳細については、「ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス」を参照してください。

AWS Price List Bulk API を使用しない場合は、料金表ファイルを手動でダウンロードできます。必要な情報を入手済みの場合は、関連するトピックにスキップできます。

ステップ 1: 利用可能な AWS のサービスの検索

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスインデックスファイルを使用して、 AWS Price List Bulk API が提供する利用可能な AWS のサービス と Savings Plans を検索できます。

サービスインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスしてください。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/index.json
```

サービスインデックスファイルでは、サービスの料金を検索できます。各サービスの料金表ファイルをダウンロードするには、`offerCode` または `serviceCode` を使用します。

詳細については、以下の各トピックを参照してください。

- サービスインデックスファイルの読み取り
- ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス

ステップ 2: で使用可能なバージョンを検索する AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

ステップ 1 で取得した AWS のサービス または Savings Plan sの場合、サービスバージョンインデックスファイルを使用して料金表のすべての履歴バージョンを見つけることができます。

サービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、`serviceCode` または `savingsPlanCode` を使用します。`serviceCode` および `savingsPlanCode` の値を確認する場合は、「ステップ 1: 利用可能な検出結果 AWS のサービス」を参照してください。

のサービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには AWS のサービス、次の URL に移動します。*<serviceCode>* を、自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/<serviceCode>/index.json
```

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) の場合は、次のような URL になります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonEC2/index.json
```

> **Note**
>
> サービスバージョンインデックスファイルのバージョンに加えて、current という名前の別のバージョンがあります。current バージョンは、特定の の料金表ファイルの最新バージョンを指します AWS のサービス。

Savings Plans の最新サービスバージョンインデックスファイルをダウンロードするには、URL で savingsPlanCode と current を指定します。*<savingsPlanCode>* を自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/current/index.json
```

例えば、AWSComputeSavingsPlan および AWSMachineLearningSavingsPlans の現在のバージョンは、次の URL のように指定します。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/index.json
```

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSMachineLearningSavingsPlans/current/index.json
```

詳細については、「サービスバージョンインデックスファイルの読み取り」を参照してください。

ステップ 3: のバージョンの AWS リージョン で利用可能な検出結果 AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

前のステップの AWS のサービス または Savings Plan sのバージョンについては、 AWS のサービスが購入する製品を提供するすべての AWS リージョン およびエッジロケーションを見つけることができます。

のサービスリージョンインデックスファイルをダウンロードするには AWS のサービス、次の URL に移動します。*<serviceCode>* と *<version>* を自分の情報に置き換えてください。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/<serviceCode>/<version>/
region_index.json
```

例えば、サービスコードが AmazonRDS、バージョンが current の場合、URL は次のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/
region_index.json
```

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。*<savingsPlanCode>* を自分の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/current/
region_index.json
```

例えば、Savings Plans が AWSComputeSavingsPlan、バージョンが current の場合、URL は次のようになります。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/
current/region_index.json
```

詳細については、「サービスリージョンインデックスファイルの読み取り」を参照してください。

ステップ 4: AWS リージョン およびバージョンの で利用可能な料金表を検索する AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

前のステップでは、 AWS のサービスに関する以下の情報を取得しました。

- サービスコード
- Savings Plans コード
- バージョン
- AWS リージョン

次に、この情報を使用して、サービス料金表ファイル内の料金を検索できます。これらのファイルは JSON 形式と CSV 形式で入手できます。

目次

- サービス料金表ファイルの検索
- Savings Plans のサービス料金表ファイルの検索

サービス料金表ファイルの検索

サービス料金表ファイルには、次のようなサービス関連の詳細情報が記載されています。

- そのファイル内の料金の発効日
- サービス料金表のバージョン
- 提供されている製品とその詳細のリストおよび料金 (JSON および CSV 形式)

次の URL では、URL を変更して必要な形式 (JSON または CSV) を指定できます。

サービス料金表ファイルをダウンロードするには、次の URL にアクセスします。各*##########*を独自の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/
v1.0/aws/<serviceCode>/<version>/<regionCode>/index.<format>
```

次に Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の例を示します。このサービスは URL に AmazonRDS を指定します。

Example 例: Amazon RDS の料金表ファイルの最新バージョン

米国東部 (オハイオ) リージョンの Amazon RDS の料金表ファイルの最新バージョンは、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/us-east-2/
index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/current/us-east-2/
index.json
```

Example 例: Amazon RDS の特定のバージョンの料金表ファイル

米国東部 (オハイオ) リージョンの Amazon RDS の料金表ファイルの特定バージョンは、次の URL から取得できます。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.json
```

Savings Plans のサービス料金表ファイルの検索

Savings Plans のサービス料金表ファイルには、次のような Savings Plans 関連の詳細情報が記載されています。

- そのファイル内の料金の発効日
- サービス料金表のバージョン
- 提供されている製品とその詳細のリストおよび料金 (JSON および CSV 形式)

次の URL では、URL を変更して必要な形式 (JSON または CSV) を指定できます。

Savings Plans のサービス料金表ファイルをダウンロードするには、次の URL を使用します。各*##########*を独自の情報に置き換えます。

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/<savingsPlanCode>/<version>/<regionCode>/index.json
```

Example 例: Amazon SageMaker AI のサービス料金表ファイル

米国東部 (オハイオ20230509202901) リージョンで SageMaker AI (AWSComputeSavingsPlan) の料金表ファイルの特定のバージョン () を取得するには、次の URL を使用します。

CSV 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/us-east-2/index.csv
```

JSON 形式

```
https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/us-east-2/index.json
```

詳細については、「サービス料金表ファイルの読み取り」を参照してください。

料金表ファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この短いアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

このセクションを使用して、料金表ファイルを読み取る方法を理解します。これには、サービスインデックスファイル、サービスバージョンインデックスファイル、リージョンインデックスファイル、および AWS のサービス と Savings Plans の両方のユースケースの料金表ファイルが含まれます。

サービスインデックスファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスインデックスファイルを入手したら、それを使用してサービス料金表ファイルを検索できます。

サービスインデックスファイルは、JSON ファイルとして入手できます。ファイルを読み取るには、テキストアプリケーションまたは JSON を解析するプログラムを使用できます。

サービスインデックスファイルには主に以下の 2 つのセクションがあります。

- サービスインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS が提供するサービスのリスト (サービスインデックスファイルの場合) と、サービスが提供される AWS リージョン サービスのリスト (サービスリージョンインデックスファイルの場合)

サービスインデックスファイルに関する情報には、料金をダウンロードできる URL と、そのサービスのサービスリージョンインデックスファイルの URL が含まれています。

例: サービスインデックスファイル

サービスインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "formatVersion":"The version number for the offer index format",
   "disclaimer":"The disclaimers for this offer index",
   "publicationDate":"The publication date of this offer index",
   "offers":{
      "firstService":{
         "offerCode":"The service that this price list is for",
         "currentVersionUrl":"The URL for this offer file",
         "currentRegionIndexUrl":"The URL for the regional offer index file",
         "savingsPlanVersionIndexUrl":"The URL for the Savings Plan index file (if
 applicable)"
      },
      "secondService":{
         "offerCode": ...,
         "currentVersionUrl": ...,
         "currentRegionIndexUrl": ...,
         "savingsPlanVersionIndexUrl":...
      },
      ...
   },
}
```

サービスインデックスファイルの定義

以下は、サービスインデックスファイルで使用する条件の定義です。

FormatVersion

サービスバージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの `formatVersion` は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが `v1` から `v2` に変更されるとき。

Disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

PublicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2015-04-09T02:22:05Z や 2015-09-10T18:21:05Z などです。

Offers

利用可能なサービス料金表ファイルのリスト。

Offers:OfferCode

AWS サービスの製品の一意のコード。例えば、AmazonEC2 や AmazonS3 などです。OfferCode は、インデックスのルックアップキーとして使用されます。

Offers:CurrentVersionUrl

最新のサービス料金表ファイルをダウンロードできる URL。

Offers:currentRegionIndexUrl

利用可能なサービス料金表ファイルのリージョン別のリスト。

Offers:savingsPlanVersionIndexUrl

適用可能な Savings Plans オファーのリスト。

サービスバージョンインデックスファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスバージョンインデックスファイルは JSON 形式で入手できます。ファイルを読み取るには、テキストプログラムまたは JSON を解析するアプリケーションを使用できます。

サービスバージョンインデックスファイルは以下の 2 つの主要セクションで構成されています。

- サービスバージョンインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS のサービスで利用可能な料金表ファイルの全バージョンのリスト

サービスバージョンに関する情報には、指定期間におけるそのサービスの料金をダウンロードするための URL が含まれます。

トピック

- のサービスバージョンインデックスファイル AWS のサービス
- Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

のサービスバージョンインデックスファイル AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この短いアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスバージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

トピック

- 例: サービスのサービスバージョンインデックスファイル
- サービスバージョンインデックスファイルの定義

例: サービスのサービスバージョンインデックスファイル

サービスバージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "formatVersion":"The version number for the service version index format",
   "disclaimer":"The disclaimers for this service version index",
   "publicationDate":"The publication date of this service version index",
   "offerCode": "The service code/Savings Plan code",
   "currentVersion": "The latest version of the service"
   "versions":{
      "firstVersion":{
         "versionEffectiveBeginDate":"The date starting which this version is
 effective",
         "versionEffectiveEndDate":"The date until which this version is effective",
         "offerVersionUrl":"The relative URL for the service price list file of this
 version"
      },
      "secondVersion":{
         "versionEffectiveBeginDate": ...,
         "versionEffectiveEndDate": ...,
         "offerVersionUrl": ...
      },
      ...
   },
```

```
}
```

サービスバージョンインデックスファイルの定義

以下は、サービスバージョンインデックスファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービスバージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの formatVersion は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが v1 から v2 に変更されるとき。

disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z と指定します。

offerCode

の製品の一意のコード AWS のサービス。例えば、AmazonRDS、AmazonS3 です。

CurrentVersion

AWS のサービスの最新バージョン番号。例えば、20230328234721 と指定します。

versions

この AWS のサービスで利用可能なバージョンのリスト。

versions:version

AWS のサービスの料金表のバージョンを表す固有のコード。これはバージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、20230328234721 です。

versions:version:versionEffectiveBeginDate

このバージョンの有効期間の開始日時 (UTC 形式) 例えば、2023-03-28T23:47:21Z と指定します。

versions:version:versionEffectiveEndDate

このバージョンの有効期間の終了日時 (UTC 形式) 例えば、2023-03-28T23:47:21Z と指定します。このプロパティが設定されていない場合は、このバージョンが現在アクティブなバージョンであることを意味します。

versions:version:offerVersionUrl

このバージョンのサービス料金表ファイルの相対 URL。例えば、/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/index.json と指定します。

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この短いアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイルを理解するには、次の参考資料を参照してください。

目次

- 例: Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル
- サービスバージョンインデックスの定義

例: Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイル

Savings Plans のサービスバージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "disclaimer":"The disclaimers for this service version index",
   "publicationDate":"The publication date of this service version index",
   "currentOfferVersionUrl" "The relative URL of region index file for latest version
 number of the service"
   "versions":[
      {
         "publicationDate":"The publication date of this version of service from which
 this version was effective",
         "offerVersionUrl":"The relative URL for the service region index file of this
 version"
      },
      {
         "publicationDate": ...,
         "offerVersionUrl": ...
      },
      ...
```

```
    ],
}
```

サービスバージョンインデックスの定義

以下は、サービスバージョンインデックスファイルの条件の定義です。

disclaimer

サービスバージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2023-03-28T23:47:21Z` と指定します。

currentOfferVersionUrl

サービスの最新バージョン番号のリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、`/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/current/region_index.json` と指定します。

versions

こので使用可能なバージョンのリスト AWS のサービス。

versions:version:publicationDate

サービスバージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2023-04-07T14:57:05Z`

versions:version:offerVersionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、`/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230407145705/region_index.json` と指定します。

サービスリージョンインデックスファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この短いアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービスリージョンインデックスファイルは JSON 形式で入手できます。ファイルを読み取るには、テキストプログラムまたは JSON を解析するアプリケーションを使用できます。

サービスリージョンインデックスファイルは以下の 2 つの主要セクションで構成されています。

- サービスリージョンインデックスファイルに関するメタデータ
- AWS リージョン AWS のサービス または Savings Plan sが利用可能なすべての のリスト

サービスリージョンに関する情報には、指定期間およびリージョンにおけるそのサービスの料金をダウンロードするための URL が含まれます。

トピック

- のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス
- Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

のサービスバージョンインデックスファイルを理解するには AWS のサービス、以下のリファレンスを参照してください。

目次

- 例: のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス
- サービスリージョンインデックスの定義

例: のサービスリージョンインデックスファイル AWS のサービス

のサービスリージョンインデックスファイルは、次の AWS のサービス ようになります。

```
{
   "formatVersion":"The version number for the service region index format",
   "disclaimer":"The disclaimers for this service region index",
   "publicationDate":"The publication date of this service region index",
   "regions":{
```

```
      "firstRegion":{
         "regionCode":"A unique identifier that identifies this region",
         "currentVersionUrl":"The relative URL for the service regional price list file
 of this version"
      },
      "secondRegion":{
         "regionCode": ...,
         "currentVersionUrl": ...
      },
      ...
   }
}
```

サービスリージョンインデックスの定義

以下は、サービスリージョンインデックスファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービスリージョンインデックスファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの formatVersion は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが v1 から v2 に変更されるとき。

disclaimer

サービスリージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスリージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z と指定します。

regions

AWS リージョン で使用できる のリスト AWS のサービス。

regions:regionCode

これが AWS のサービス 提供されているリージョンの一意のコード。これはリージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、米国東部 (オハイオ) リージョンの場合は、us-east-2 を使用します。

regions:regionCode:currentVersionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/20230328234721/us-east-2/index.json と指定します。

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルについては、以下の参考資料を参照してください。

トピック

- 例: Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル
- サービスリージョンインデックスの定義

例: Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイル

Savings Plans のサービスリージョンインデックスファイルは次のようになります。

```
{
   "disclaimer":"The disclaimers for this service version index",
   "publicationDate":"The publication date of this service region index",
   "regions":[
      {
         "regionCode":"A unique identifier that identifies this region",
         "versionUrl":"The relative URL for the service regional price list file of
 this version"
      },
      {
         "regionCode": ...,
         "versionUrl": ...
      },
      ...
   ]
}
```

サービスリージョンインデックスの定義

以下は、サービスリージョンインデックスファイルの条件の定義です。

disclaimer

サービスリージョンインデックスファイルに適用される免責事項。

publicationDate

サービスリージョンインデックスファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2023-03-28T23:47:21Z と指定します。

regions

AWS リージョン で使用できる のリスト AWS のサービス。

regions:regionCode

これが AWS のサービス 提供されているリージョンの一意のコード。これはリージョンリストのルックアップキーとして使用されます。例えば、米国東部 (オハイオ) リージョンの場合は、us-east-2 を使用します。

regions:versionUrl

このバージョンのサービスリージョンインデックスファイルの相対 URL。例えば、/savingsPlan/v1.0/aws/AWSComputeSavingsPlan/20230407145705/us-east-2/index.json と指定します。

サービス料金表ファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

サービス料金表ファイルには、すべての AWS リージョン または Savings Plan sの製品と料金 AWS のサービス 、または特定のリージョンの単一の AWS のサービス または Savings Plan の製品と料金が一覧表示されます。

サービス料金表ファイルは、CSV か JSON 形式で入手できます。

ファイルを読み取るには、スプレッドシートプログラムを使用して CSV ファイルを読み取り、ソートするか、JSON ファイルを解析するアプリケーションを使用できます。

> **Note**
>
> CSV ファイルでは、製品詳細と料金詳細は 1 つのセクションにまとめられます。JSON ファイルでは、製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。

トピック

- のサービス料金表ファイルの読み取り AWS のサービス
- Savings Plans のサービス料金表ファイルの読み取り

のサービス料金表ファイルの読み取り AWS のサービス

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

のサービス料金表ファイル AWS のサービス には、次のタイプの情報が含まれています。

- サービス料金表ファイルの詳細 — 形式バージョン、公開日など、サービス料金表ファイルに関するメタデータ
- 製品詳細 — 製品と製品情報が記載されているサービス料金表ファイルの製品メタデータ
- 料金詳細 (terms) — このサービス料金表ファイルに含まれるすべての製品の料金

目次

- CSV ファイル
- JSON ファイル
- サービス料金表の定義
- 製品詳細 (products) の定義
- 製品詳細 (terms) の定義

CSV ファイル

CSV ファイルの最初の 5 行には、料金表ファイルのメタデータが含まれています。6 行目には、製品とその属性 (SKU、`OfferTermCode`、`RateCode`、`TermType` など) の列名が表示されます。

列数は、サービスによって異なります。最初のいくつかの列には料金詳細が表示され、残りの列にはサービスの製品詳細が表示されます。

JSON ファイル

製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。同じ製品が複数の条件で提供されたり、同じ条件が複数の製品に適用されたりする場合があります。

例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスは、`Hourly` または `Reserved` の条件で利用できます。製品に適用される条件を確認する場合は、製品の SKU を使用できます。

Example 例: JSON

```
{
   "formatVersion":"The version of the file format",
   "disclaimer":"The disclaimers for the price list file",
   "offerCode":"The code for the service",
   "version":"The version of the price list file",
   "publicationDate":"The publication date of the price list file",
   "products": {
      "sku": {
         "sku":"The SKU of the product",
         "productFamily":"The product family of the product",
         "attributes": {
            "attributeName":"attributeValue",
         }
      }
   },
   "terms": {
      "termType": {
         "sku": {
            "sku": {
               "offerTermCode":"The term code of the product",
               "sku":"The SKU of the product",
               "effectiveDate":"The effective date of the pricing details",
               "termAttributesType":"The attribute type of the terms",
               "termAttributes": {
                  "attributeName":"attributeValue",
               },
               "priceDimensions": {
                  "rateCode": {
                     "rateCode":"The rate code of the price",
                     "description":"The description of the term",
                     "unit":"The usage measurement unit for the price",
                     "startingRange":"The start range for the term",
                     "endingRange":"The end range for the term",
                     "pricePerUnit": {
                        "currencyCode":"currencyRate",
                     }
                  }
```

```
                }
            }
        }
    }
}
```

サービス料金表の定義

以下は、サービス料金表ファイルの条件の定義です。

formatVersion

サービス料金表ファイルがどの形式バージョンにあるかを追跡する属性。ファイルの `formatVersion` は、構造が変更されたときに更新されます。例えば、バージョンが `v1` から `v2` に変更されるとき。

disclaimer

サービス料金表ファイルに適用されるすべての免責事項。

offerCode

の製品の一意のコード AWS のサービス。例えば、Amazon EC2 では `AmazonEC2` または Amazon S3 では `AmazonS3` です。

version

サービス料金表ファイルのバージョンを追跡する属性。新しいファイルが公開されるたびに、新しいバージョン番号が含まれます。例えば、`20150409022205` と `20150910182105` です。

publicationDate

サービス料金表ファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、`2015-04-09T02:22:05Z` と `2015-09-10T18:21:05Z` です。

製品詳細 (products) の定義

このセクションには、 AWS のサービスのサービス料金表ファイルに含まれる製品の情報が表示されます。製品は SKU によってインデックスが作成されます。

products:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

products:sku:productFamily

製品タイプのカテゴリ。例えば、Amazon EC2 では compute または Amazon S3 では storage です。

products:sku:attributes

すべての製品属性のリスト。

products:sku:attributes:Attribute Name

製品属性の名前。例えば、Instance Type、Processor、または OS です。

products:sku:attributes:Attribute Value

製品属性の値。例えば、m1.small (インスタンスタイプ)、xen (プロセッサのタイプ)、Linux (OS のタイプ) などです。

製品詳細 (terms) の定義

このセクションには、 AWS のサービスのサービス料金表ファイルに含まれる製品の料金情報が表示されます。

料金は、まず条件 (onDemand と reserved) によってインデックスが作成され、次に SKU によってインデックスが作成されます。

terms:termType

条件の定義が表す特定の条件のタイプ。有効な条件タイプは reserved および onDemand です。

terms:termType:SKU

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

terms:termType:sku:Offer Term Code

特定のタイプの条件の一意のコード。例えば、KCAKZHGHG と指定します。

製品と料金の組み合わせは、ピリオドで区切った SKU コードと条件コードで参照されます。例えば、U7ADXS4BEK5XXHRU.KCAKZHGHG と指定します。

terms:termType:sku:Effective Date

サービス料金表ファイルが有効になる日付。例えば、条件 EffectiveDate が 2017 年 11 月 1 日の場合、この日付より前では、この料金は有効ではありません。

terms:termType:sku:Term Attributes Type

条件が適用される製品および製品オファーを識別するための固有のコード。例えば、EC2-Reserved 属性タイプは、Amazon EC2 リザーブドホストに対して条件が使用可能であることを意味します。

terms:termType:sku:Term Attributes

条件タイプに適用可能なすべての属性のリスト。この形式は attribute-name: attribute-value になります。例えば、条件の期間、条件の適用対象になる購入のタイプなどです。

terms:termType:sku:Term Attributes:Attribute Name

TermAttribute の名前。これを使用して、特定の属性を検索できます。例えば、length または PurchaseOption で条件を検索できます。

terms:termType:sku:Term Attributes:Attribute Value

TermAttribute の値。例えば、条件の期間を 1 年に、購入オプションを All Upfront に設定できます。

terms:termType:sku:Price Dimensions

使用量の測定方法、支払いに使用できる通貨、料金枠の制限など、料金表ファイルの料金詳細。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code

製品、オファー、および料金枠の組み合わせの一意のコード。製品および条件の組み合わせには、無料利用枠、低使用利用枠、高使用利用枠など、複数の料金ディメンションがあります。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Description

料金またはレートの説明。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Unit

各サービスが請求の使用量を測定するために使用する単位のタイプ。例えば、Amazon EC2 では時間単位、Amazon S3 では GB 単位などです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Starting Range

この料金でカバーされる料金枠の下限です。例えば、0 GB や 1,001 回の API オペレーションコールなどです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Ending Range

この料金でカバーされる料金枠の上限です。例えば、1,000 GB や 10,000 回の API オペレーションコールなどです。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit

1 つの測定単位でのサービスコストの計算。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit:Currency Code

特定の製品の料金の通貨を示すコード。

terms:termType:sku:Price Dimensions:Rate Code:Price Per Unit:Currency Rate

サポートされているさまざまな通貨での製品のレート。例えば、単位あたり 1.2536 USD です。

Savings Plans のサービス料金表ファイルの読み取り

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この短いアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

のサービス料金表ファイル AWS のサービス には、次のタイプの情報が含まれています。

- サービス料金表ファイルの詳細 – バージョン、公開日など AWS リージョン、サービス料金表ファイルに関するメタデータ
- 製品詳細 — 製品と製品情報が記載されているサービス料金表ファイルの製品メタデータ
- 料金詳細 (terms) — サービス料金表ファイルに含まれるすべての製品の料金

目次

- CSV ファイル
- JSON ファイル
- サービス料金表の定義
- 製品詳細 (products) の定義

- 料金詳細 (terms) の定義

CSV ファイル

CSV ファイルの最初の 5 行は、料金表ファイルのメタデータです。6 行目には、製品とその属性 (SKU、RateCode など) の列名が表示されます。

列数は Savings Plans によって異なります。最初のいくつかの列には料金詳細が表示され、残りの列には Savings Plans の製品詳細が表示されます。

JSON ファイル

製品詳細と料金詳細がそれぞれのセクションに表示されます。JSON サービス料金表ファイルは次の例のようになります。

```
{
   "version" : "The version of the price list file",
   "publicationDate" : "The publication date of the price list file",
   "regionCode" : "Region for which price list file is valid for",
   "products" : [
      {
         "sku" : "The SKU of the product",
         "productFamily" : "The product family of the product",
         "serviceCode" : "Savings plan code",
         "attributes" : {
            "attributeName":"attributeValue",
         }
      },
      ...
   ],
   "terms" : {
      "savingsPlan" : [
         {
            "sku" : "The SKU of the product",
            "description" : "Description of the product",
            "effectiveDate" : "The effective date of the pricing details",
            "leaseContractLength" : {
                "duration" : "Length of the lease contract - it is a number",
                "unit" : "Unit of the duration"
            },
            "rates" : [
                {
                    "discountedSku" : "The SKU of the discounted on demand product",
```

```
                    "discountedUsageType" : "Usage type of the discounted product",
                    "discountedOperation" : "Operation of the discounted product",
                    "discountedServiceCode" : "Service code of the discounted product",
                    "rateCode" : "The rate code of this price detail",
                    "unit" : "Unit used to measure usage of the product",
                    "discountedRate" : {
                        "price" : "Price of the product",
                        "currency" : "Currency of the price"
                    }
                },
                ...
            ]
        },
        ...
    ]
  }
}
```

サービス料金表の定義

以下は、サービス料金表ファイルの条件の定義です。

regionCode

料金表が有効なリージョンのリージョンコード。

version

料金表ファイルのバージョンを追跡する属性。新しいファイルが公開されるたびに、新しいバージョン番号が含まれます。例えば、20150409022205 と 20150910182105 です。

publicationDate

サービス料金表ファイルが公開された UTC 形式の日付と時刻。例えば、2015-04-09T02:22:05Z と 2015-09-10T18:21:05Z です。

製品詳細 (products) の定義

このセクションには、Savings Plans の料金表ファイルに含まれる製品の情報が表示されます。製品は SKU によってインデックスが作成されます。

products:product:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が HCNSHWWAJSGVAHMH の製品は、HCNSHWWAJSGVAHMH が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

products:product:productFamily

製品タイプのカテゴリ。例えば、Compute Savings Plans の場合は EC2InstanceSavingsPlans です。

products:product:serviceCode

Savings Plans のサービスコード。例えば、ComputeSavingsPlans と指定します。

products:product:attributes

すべての製品属性のリスト。

products:product:attributes:attributeName

製品属性の名前。例えば、Instance Type、Location Type、または Purchase Option です。

products:product:attributes:attributeValue

製品属性の値。例えば、m1.small (インスタンスタイプ)、AWS Local Zone (ロケーションのタイプ)、No Upfront (購入オプションのタイプ) などです。

料金詳細 (terms) の定義

このセクションには、Savings Plans の料金表ファイルに含まれる料金の情報が表示されます。

料金は、まず条件 (savingsPlan) によってインデックスが作成されます。

terms:termType

条件の定義が表す特定の条件のタイプ。有効な条件タイプは savingsPlan です。

terms:termType:sku

製品の一意のコード。SKU コードを使用して、製品の詳細と料金を関連付けます。

例えば、SKU が T496KPMD8YQ8RZNC の製品は、496KPMD8YQ8RZNC が SKU として表示されている料金のみで利用可能です。

terms:termType:sku:description

製品の説明。

terms:termType:sku:effectiveDate

サービス料金表ファイルが有効になる日付。例えば、条件 `EffectiveDate` が 2017 年 11 月 1 日の場合、この日付より前では、この料金は有効ではありません。

terms:termType:sku:leaseContractLength:duration

リース契約の期間。この値は数値です。例えば、1 や 3 と指定します。

terms:termType:sku:rates

Savings Plans 製品に適用されるすべての割引料金のリスト。Savings Plans 製品は、他のサービスの複数の製品を組み合わせたもので、その組み合わせに適用される複数の料金が含まれています。

terms:termType:sku:rates:discountedSku

割引対象オンデマンド製品の SKU。

terms:termType:sku:rates:discountedUsageType

割引対象オンデマンド製品の使用タイプ。

terms:termType:sku:rates:discountedOperation

割引対象オンデマンド製品のオペレーション。

terms:termType:sku:rates:discountedServiceCode

割引対象オンデマンド製品のサービスコード。

terms:termType:sku:rates:rateCode

Savings Plans 製品で提供される料金の料金コード。例えば、`T496KPMD8YQ8RZNC.26PW7ZDSYZZ6YBTZ` などです

terms:termType:sku:rates:unit

製品の使用量を測定するために使用される単位。例えば、Amazon EC2 インスタンスの場合は `Hrs` です。

terms:termType:sku:rates:discountedRate:price

Savings Plans 製品で提供される割引対象製品の料金。例えば、`3.434` と指定します。

terms:termType:sku:rates:discountedRate:currency

Savings Plans 製品で提供される割引対象製品の料金の通貨。例えば、USD と指定します。

サービス料金表ファイルでの料金の確認

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この簡単なアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

AWS Price List Bulk API は、オンデマンドおよびリザーブドインスタンスの料金など、参考目的ですべての AWS 製品の料金を提供します。

特定の製品の料金と条件を確認するには、オファーファイルを使用します。例えば、Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) インスタンスの料金のリストを確認できます。

> **Note**
>
> AWS Price List Bulk API は、 AWS 無料利用枠 料金表などの期間限定オファーの包括的なソースではありません。無料利用枠の料金については、「AWS 無料利用枠」を参照してください。

関心がある製品の料金を確認するには

目次

- サービスのオンデマンド料金の確認
- サービスの階層化された料金を確認する
- 無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認する
  - 例
- リザーブドインスタンスがあるサービスの料金を確認する

サービスのオンデマンド料金の確認

次の手順は、Amazon EC2 AWS のサービスなどの のオンデマンド料金を確認する方法を示しています。

CSV ファイルを使用してオンデマンド料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [PricePerUnit] 列で、対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してオンデマンド料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [terms] と [On-Demand] で、目的の SKU を見つけます。

   SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。
4. [pricePerUnit] を参照して、SKU の対応するオンデマンド料金を確認します。

サービスの階層化された料金を確認する

次の手順では、サービス (Amazon Simple Storage Service (Amazon S3) など) の階層化された料金を確認する方法を示します。

CSV ファイルを使用してサービスの階層化された料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで CSV ファイルを開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [PricePerUnit] 列で、[StartingRange] と [EndingRange] それぞれの対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してサービスの階層化された料金を確認するには

1. JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。

3. [terms] と [On-Demand] で、目的の SKU を見つけます。

   SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。
4. [beginRange] と [endRange] で、[pricePerUnit] を参照して対応する階層化された料金を確認します。

無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認する

次の手順は、 が AWS Price List Bulk API で無料利用枠の料金を公開 AWS のサービス する方法を示しています AWS Lambda。

すべての無料利用枠の料金には、「AWS 無料利用枠」に記載されている条件が適用されます。

CSV ファイルを使用して無料利用枠があるサービスの料金を確認するには

1. サービスの CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [OnDemand] を表示します。
4. [Location] 列をフィルタリングして [Any] を表示します。

   は、このシナリオ AWS リージョン のすべての を表すわけではありません。これは、CSV ファイル内の他の行項目によって定義されたリージョンのサブセットであり、[RelatedTo] 列は口ケーションの [Any] エントリの SKU と一致します。
5. 特定の無料利用枠 SKU の対象となる、すべての口ケーションと製品のリストを検索するには、[RelatedTo] 列で無料利用枠 SKU を見つけます。
6. 対象となるすべての場所で、無料利用枠で力バーされる使用状況を確認するには、[任意] の場所について「StartingRange」および「EndingRange」を参照してください

例

この例では、料金ファイルに [RelatedTo] が SKU ABCD と等しいエントリがないことを前提としています。

次の表に示すように、SKU が ABCD の無料利用枠オフアーは、Asia Pacific (Singapore) および US East (Ohio) リージョンでは有効ですが、AWS GovCloud (US) では有効ではありません。無料利用枠によって力バーされる使用量は合計 400,000 秒で、両方の対象リージョンで使用されます。

[SKU]	StartingRage	EndingRange	[単位]	RelatedTo	場所
ABCD	0	400000	seconds		Any
QWER	0	Inf	seconds	ABCD	Asia Pacific (Singapore)
WERT	0	Inf	seconds	ABCD	US East (Ohio)
ERTY	0	Inf	seconds		AWS GovCloud (US)

JSON ファイルを使用して無料利用枠があるサービスの階層化された料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [製品] の下で、リージョンの接頭辞 [Global] がある [usagetype] を見つけます。
4. その SKU を書き留めて、同じ SKU を [terms] と [OnDemand] で探します。
5. 無料利用枠の使用量については、[BeginRange] と [EndRange] を確認します。

   無料利用枠の対象となる製品とリージョンのリストについては、[appliesTo] を確認します。

リザーブドインスタンスがあるサービスの料金を確認する

次の手順では、リザーブドインスタンスがあるサービス (Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) など) の料金を確認する方法を示します。

CSV ファイルを使用してリザーブドインスタンスの料金を確認するには

1. Amazon EC2 CSV ファイルをダウンロードします。
2. CSV ファイルを任意のアプリケーションで開きます。
3. [TermType] 列をフィルタリングして [reserved] を表示します。

4. 目的の使用タイプとオペレーションを検索します。
5. [LeaseContractLength]、[PurchaseOption]、および [OfferingClass] のそれぞれで、[PricePerUnit] 列の対応する料金を確認します。

JSON ファイルを使用してリザーブドインスタンスの料金を確認するには

1. サービスの JSON ファイルをダウンロードします。
2. 任意のアプリケーションで JSON ファイルを開きます。
3. [terms] と [Reserved] で、目的の SKU を見つけます。

   SKU がわからない場合は、[products (製品)] で [usage type (使用タイプ)] と [operation (オペレーション)] を検索します。

同じ製品の [LeaseContractLength]、[PurchaseOption]、および [OfferingClass] で料金を確認できます。

料金更新通知の設定

に関するフィードバックを提供するには AWS の料金表、この短いアンケートに回答してください。回答者は匿名になります。注: このアンケートは英語にのみ対応しています。

料金表ファイルは随時変更されます。料金表ファイルが更新されると、Amazon Simple Notification Service (Amazon SNS) 通知が送信されます。が料金 AWS を下げるときや、新しい製品やサービスが起動されたときなど、料金が変更されたときに通知を受け取るように を設定できます。

料金が変わるたびに通知を受け取るか、1 日 1 回通知を受け取ることができます。1 日 1 回の通知を受け取るように選択した場合、通知には前日に適用されたすべての料金変更が含まれます。通知を設定して、変更が発生したときに最新のファイルを入手することをお勧めします。

目次

- Amazon SNS 通知の設定
- AWS のサービスの通知の構造
- Savings Plans の通知の構造

Amazon SNS 通知の設定

を使用して Amazon SNS 通知 AWS Management Console にサインアップできます。

料金表ファイルの更新に関する Amazon SNS 通知を設定するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/sns/v3/home で Amazon SNS コンソールを開きます。
2. Amazon SNS を初めて使用する場合、[今すぐ始める] を選択します。
3. 必要に応じて、ナビゲーションバー AWS リージョン の を米国東部 (バージニア北部) に変更します。
4. ナビゲーションペインで [サブスクリプション] を選択します。
5. [Create subscription] を選択します。
6. [トピック ARN] には、必要に応じて以下を入力します。
   - サービス料金の場合
     - 料金が変更されるたびに通知を受けるには、`arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api` と入力します。
     - 料金変更の通知を 1 日に 1 回受け取るには、`arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-list-api` と入力します。
   - Savings Plans 料金の場合は、`arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications` と入力します。
7. [Protocol (プロトコル)] では、デフォルトの HTTP 設定を使用します。
8. エンドポイントには、Amazon Simple Queue Service (Amazon SQS)、または E メールなど AWS Lambda、通知を受信する形式を指定します。
9. [Create subscription] を選択します。

   料金が変更されると、ステップ 8 で指定した形式で通知が届きます。

> **Important**
>
> 次のエラーメッセージが表示された場合: サブスクリプションを作成できませんでした。エラーコード: InvalidParameter - エラーメッセージ: 無効なパラメータ: TopicArn、米国東部 (バージニア北部) リージョンを使用していない可能性があります。請求メトリクスデータ

は、リソースが他のリージョンにある場合でも、このリージョンに保存されます。ステップ 3 に戻り、以降の手順を完了します。

AWS のサービスの通知の構造

料金更新通知の件名は次の形式です。

```
[Pricing Update] New <serviceCode> offer file available.
```

Example 例: 件名

Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) の料金更新通知は次のようになります。

```
[Pricing Update] New AmazonRDS offer file available.
```

Example 例: 通知メッセージ

Amazon SQS、Lambda、またはその他のサービス AWS のサービス などの にサブスクライブしている場合、料金更新通知メッセージ本文の構造は次のようになります。

```
{
    "formatVersion":"v1.0",
    "offerCode":"<serviceCode>",
    "version":"<Version number of this new price list>",
    "timeStamp":"<Publish date of this new price list>",
    "url":{
        "JSON":"<JSON URL of the current version price list>",
        "CSV":"<CSV URL of the current version price list>"
    },
    "regionIndex":"<Region index url of the current version price list>",
    "operation":"Publish"
}
```

例えば、Amazon RDS の通知メッセージは次のようになります。

```
{
    "formatVersion":"v1.0",
    "offerCode":"AmazonRDS",
    "version":"20230328234721",
```

```
    "timeStamp":"2023-03-28T23:47:21Z",
    "url":{
        "JSON":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.json",
        "CSV":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.csv"
    },
    "regionIndex":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/region_index.json",
    "operation":"Publish"
}
```

Example 例: E メール通知

E メールに登録した場合、料金更新 E メールメッセージ本文の構造は次のようになります。

```
Hello,
You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api.

We've published a new version of the offer file for Service <serviceCode>. To download
 the offer file, use the following URLs:
  - JSON format : <JSON URL of the current version price list>
  - CSV format : <CSV URL url of the current version price list>

To download the index for the region-specific offer files, use the following URL:
   - RegionIndexUrl : <Region index URL of the current version price list>

To get a daily email that shows all price changes made the previous day, subscribe to
 the following SNS topic: arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-
list-api.

To learn more about offer files and index files, see  http://docs.aws.amazon.com/
awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html.

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

Amazon RDS の E メールメッセージの例は次のようになります。

```
Hello,
You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:price-list-api.
```

```
We've published a new version of the offer file for Service AmazonRDS. To download the
 offer file, use the following URLs:
  - JSON format : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.json
  - CSV format : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/AmazonRDS/
current/index.csv

To download the index for the region-specific offer files, use the following URL:
   - RegionIndexUrl : https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/offers/v1.0/aws/
AmazonRDS/current/region_index.json

To get a daily email that shows all price changes made the previous day, subscribe to
 the following SNS topic: arn:aws:sns:us-east-1:278350005181:daily-aggregated-price-
list-api.

To learn more about offer files and index files, see  http://docs.aws.amazon.com/
awsaccountbilling/latest/aboutv2/price-changes.html.

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

Savings Plans の通知の構造

料金更新通知の件名は次の形式です。

```
[Pricing Update] New <Savings Plan name> is available.
```

Example 例: Savings Plans の件名

Savings Plans の件名は次のようになります。

```
[Pricing Update] New AWS Compute Savings Plan is available.
```

Example 例: 通知メッセージ

Amazon SQS、Lambda、またはその他のサービス AWS のサービス などの にサブスクライブしている場合、料金更新通知メッセージ本文の構造は次のようになります。

```
{
  "version":"<Version number of this new price list>",
```

```
  "offerCode":"<savingsPlanCode which can be used as input to API calls>",
  "savingsPlanCode":"<savingsPlan Name>",
  "topicArn":"arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications",
  "versionIndex":"<version index url of the version price list>",
  "regionIndex":"<Region index URL of the version price list>"
}
```

例えば、ComputeSavingsPlans の通知は次のようになります。

```
{
  "version":"20230509202901",
  "offerCode":"AWSComputeSavingsPlan",
  "savingsPlanCode":"ComputeSavingsPlans",
  "topicArn":"arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications",
  "versionIndex":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/index.json",
  "regionIndex":"https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/region_index.json"
}
```

Example 例: E メール通知

E メールに登録した場合、料金更新 E メール本文の構造は次のようになります。

```
Hello,

You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications.

We've published a new version of <Savings Plan name>.

To download the index of current region specific savings plans, use the following URL:
  - <Region index URL of the version price list>

To download the index of previous versions of savings plans, use the following URL:
  - <version index URL of the version price list>

To learn more about Savings Plans, see http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/
latest/aboutv2/price-changes.html.
To learn about finding Savings Plan prices in an offer file, see https://
docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/sp-offer-file.html

Thank You,
```

```
Amazon Web Services Team
```

例えば、Savings Plans の E メール本文は次のようになります。

```
Hello,

You've received this notification because you subscribed to receiving updates from SNS
 topic arn:aws:sns:us-east-1:626627529009:SavingsPlanPublishNotifications.

We've published a new version of Compute Savings Plans.

To download the index of current region specific savings plans, use the following URL:
  - https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/region_index.json

To download the index of previous versions of savings plans, use the following URL:
  - https://pricing.us-east-1.amazonaws.com/savingsPlan/v1.0/aws/
AWSComputeSavingsPlan/20230509202901/index.json

To learn more about savings plans, see http://docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/
latest/aboutv2/price-changes.html.
To learn about finding Savings Plan prices in an offer file, see https://
docs.aws.amazon.com/awsaccountbilling/latest/aboutv2/sp-offer-file.html

Thank You,
Amazon Web Services Team
```

の請求の統合 AWS Organizations

の一括請求機能を使用して AWS Organizations 、複数の の請求と支払いを統合することができます AWS アカウント。のすべての組織には、すべてのメンバーアカウントの料金を支払う管理アカウント AWS Organizations があります。 組織の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」を参照してください。

一括請求には次の利点があります。

- 1 つの請求書 – 同じ SOR 内の複数のアカウントに対して 1 つの請求書を取得します。組織に複数の SORs のアカウントがある場合は、SOR ごとに 1 つの請求書を受け取ります。
- 簡単な追跡 – 複数のアカウントでの料金を追跡し、コストと使用状況の統合データをダウンロードできます。
- 使用状況の結合 – 組織内のすべてのアカウントの使用量を結合し、料金のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、および Savings Plans を共有できます。その結果、会社、部門、またはプロジェクトでの料金が個々のスタンドアロンアカウントと比較して低くなります。詳細については、「従量制割引」を参照してください。
- 追加料金なし – 一括請求は追加コストなしで提供されます。

> **Note**
>
> メンバーアカウント請求書は情報の提供のみに使用されます。管理アカウントは、各アカウントで利用できる追加のボリューム割引、リザーブドインスタンスの割引、または Savings Plans を再割り当てする場合があります。

管理アカウントへのアクセス権がある場合は、メンバーアカウントで発生した AWS 料金をまとめて確認できます。また、各メンバーアカウントのコストレポートも取得できます。

> **Important**
>
> メンバーアカウントが組織を離れた場合、そのメンバーアカウントは、組織にいたときに生成された Cost Explorer データにアクセスできなくなります。このデータは削除されず、組織の管理アカウントは引き続きデータにアクセスできます。再度組織に加わったメンバーアカウントは再びデータにアクセスできます。

トピック

- 一括請求 (コンソリデーティッドビリング) の処理
- EMEA AWS での一括請求
- インドでの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)
- 請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引
- 予約インスタンス
- 一括請求について
- 短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト
- サポート のアカウントに対する 料金 AWS Organizations

一括請求 (コンソリデーティッドビリング) の処理

AWS Organizations は一括請求を提供するため、組織内のすべてのメンバーアカウントの合計コストを追跡できます。次のステップは、組織を作成し、一括請求を確認するプロセスの概要を説明します。

1. AWS Organizations コンソールまたは AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。 AWS Billing and Cost Management コンソールを開いている場合は、[Consolidated Billing (一括請求)]、[Get started (今すぐ始める)] の順に選択します。 AWS Organizations コンソールにリダイレクトされます。
2. コンソールで、[Create organization AWS Organizations] を選択します。
3. 新しい組織の管理アカウントになるアカウントから、組織を作成します。詳細については、組織の作成を参照してください。管理アカウントは、すべてのメンバーアカウントの料金の支払い責任を負います。
4. (オプション) 組織のメンバーのアカウントを自動で作成します。詳細については、「組織 AWS アカウント での の作成」を参照してください。
5. (オプション) 既存のアカウントを招待して組織に統合します。詳細については、「組織への AWS アカウント の招待」を参照してください。
6. 毎月、一括請求のすべてのメンバーアカウントに対して管理アカウントに AWS 課金されます。

メンバーアカウントのすべての料金が管理アカウントに請求されます。しかし、組織内で (一括請求のみではなく) 機能をすべてサポートするように組織が変更されない限り、また、ポリシーによりメ

ンバーアカウントが明示的に制限されない限り、各メンバーアカウントは他のメンバーアカウントから独立しています。たとえば、メンバーアカウントの所有者は、管理アカウントがそれらのアクションを制限しない限り、 AWS サービスにサインアップし、リソースにアクセスし、 AWS プレミアムサポートを使用できます。各アカウントの所有者は引き続き、自分のサインイン認証情報を使用し、組織内の他のアカウントとは独立して割り当てられたアカウント許可を持ちます。

一括請求管理アカウントのセキュリティを確保する

組織内の管理アカウントの所有者は、AWS Multi-Factor Authentication (多要素認証) と強力なパスワードを使用してアカウントを安全に保ってください。パスワードには 8 文字以上で、大文字と小文字の両方、1 つ以上の数字、1 つ以上の特殊文字を含めてください。パスワードの変更は、AWS セキュリティ認証情報のページで行います。

EMEA AWS での一括請求

一括日次請求書機能で請求額を合算すると、1 日に受け取る請求書の数を減らすことができます。次の要件が満たされている場合、この機能は自動的にオプトインされます。

- AWS アカウント は、Amazon Web Services EMEA SARL (AWS 欧州) エンティティを通じて請求されます。詳細については、「AWS 欧州での支払いの管理」を参照してください。
- 請求書による支払いの支払い方法を使用している。この機能は、クレジットカードまたは自動引き落としによる支払い方法では利用できません。

この機能では以下の項目が統合されます。

- 日々のサブスクリプションとサイクル外の請求書が 1 つの請求書に統合されます。
- 複数のクレジットメモが 1 つの請求書に統合されます。

例えば、今日、リザーブドインスタンスを 3 つ購入し、2 つのクレジットメモを受け取った場合、その日の終わりに合計 2 つの請求書が届きます。1 つの請求書にはリザーブドインスタンスの購入が含まれ、もう 1 つにはクレジットメモが含まれます。

統合期間

AWS は、UTC の午前 23 時 59 分から午前 24 時の間にサブスクリプション請求書と返金を処理します。 AWS その後、過去 24 時間の一括請求書とクレジットメモが生成されます。一括請求は数分以内に利用可能になります。

対象サービス

毎日の請求書には、 AWS のサービス サブスクリプション、out-of-cycle購入、クレジットメモが含まれます。この機能には以下は含まれません。

- AWS Marketplace 購入
- AWS 毎月のサービスおよび年次請求書
- 複数の異なる元の請求書に対して発行されたクレジットメモ

  例えば、元の請求書 ID 123 のクレジットメモ A を受け取り、元の請求書 ID 456 に対して別のクレジットメモ B を受け取ったとします。同じ日に発行されたものであっても 2 つの クレジットメモは統合されません。クレジットメモは、元の請求書 ID と同じものに対して発行された場合にのみ統合されます。
- AWS サポート サポート プランの変更などの の購入
- 一部の Amazon Route 53 サービス (ドメイン名の購入など) AWS Partner Network AWS Managed Services、re:Invent、re:Inforce などの AWS 会議に対する料金

通貨と外国為替レート

クレジットメモでは、元の請求書と同じ通貨と為替レートが使用されます。

サブスクリプション請求書の場合、 は過去 24 時間以内に処理されたすべての 1 回限りの料金に最新の通貨設定 AWS を適用します。例えば、午前中にリザーブドインスタンスを購入し、午後に希望通貨を変更すると、 は午前の購入通貨を新しい希望通貨 AWS に変換します。この更新は、その日に生成された一括請求書に表示されます。

AWS Cost and Usage Report への変更

一括請求では、 AWS が 1 回限りの料金を AWS コストと使用状況レポート (AWS CUR)、Cost Explorer、または AWS Budgets を使用して設定されたコスト予算アラートに表示するまで、最大 24 時間かかる場合があります。

償却された 1 回限りのリザーブドインスタンスの前払い料金は、引き続き AWS CUR、Cost Explorer、または Budgets で表示できます。

一括請求機能の無効化

既定では、この機能はお客様のアカウントに対して有効になります。この機能が不要な場合は、次に説明する手順に従います。

一括請求を無効にするには

1. AWS Support Center Consoleにサインインします。
2. アカウントと請求のサポートケースを作成します。
3. [サービス] で [請求] を選択します。
4. [カテゴリ] で、[一括請求] を選択します。
5. プロンプトに従ってケースを作成します。

> **Note**
>
> 一括請求を後でもう一度有効にする場合は、この手順を繰り返します。

インドでの一括請求 (コンソリデーティッドビリング)

新しいアカウントにサインアップし、連絡先と請求先住所にインドを選択した場合、ユーザー契約はインドの現地 AWS 販売者である Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) と締結されます。 AWS インドは請求を管理し、請求書の合計は米ドルではなくインドルピーにリストされ、ルピーでの支払いが期待されます。

AWS India アカウントのマルチ SOR 組織の有効化

AWS India 管理アカウントが別の SOR からアカウントを招待できない場合、または AWS India アカウントが AWS India AWS アカウント 以外の からの招待を受け入れることができない場合、アカウントは、この機能が利用できないレガシーモデルで運用されている可能性があります。現在、 AWS インドのアカウントをレガシーモデルから、この機能が利用可能な新しいモデルに移行しています。完了予定日は 2025 年 12 月です。

リンクされた AWS India アカウントの SOR への影響を理解する

組織に参加する AWS India アカウントの SOR は、管理アカウントの SOR に応じて異なる場合があります。

- 管理アカウントが AWS インドにある場合、リンクされたすべてのアカウントの SOR は保持され、組織に加わっても変更されません。
- 管理アカウントが AWS インドにない場合は、組織に参加するように AWS India アカウントを招待できます。ただし、SORs AWS Inc. に解決されます。

請求発効日、アカウントアクティビティ、数量割引

お客様が組織に参加するリクエストを、アカウント所有者が受け入れると、メンバーアカウントの料金は即座にお客様の責任となります。メンバーアカウントが月の途中で参加した場合、管理アカウントはその月の後半分のみ請求されます。

例えば、メンバーアカウントが 3 月 10 日に組織に加わった場合、 は 3 月 10 日からメンバーアカウントの使用期間について管理アカウントに AWS 請求します。それが発生する前の月の部分はメンバーアカウントの元の所有者に請求されます。

請求およびアカウントアクティビティ

は、メンバーアカウントの所有者ではなく、管理アカウントの所有者に毎月 AWS 課金します。組織内のすべてのアカウントの合計使用量を表示するには、管理アカウントの [Bills] ページを参照してください。 AWS は日に複数回、ページを更新します。さらに、 AWS はダウンロード可能なコストレポートを毎日提供します。

メンバーアカウントの所有者には課金されませんが、 AWS 請求ページに移動することで使用量と料金を確認できます。メンバーアカウント所有者は、請求書にある管理アカウントや他のメンバーアカウントのデータを表示したり取得したりすることはできません。

従量制割引

請求の目的で、 は組織内のすべてのアカウントを 1 つのアカウントであるかのように AWS 扱います。 AWS Data Transfer や Amazon S3 などの一部のサービスには、特定の使用ディメンションにボリューム料金階層があり、サービスを使用するほど料金が低くなります。一括請求では、 はすべてのアカウントの使用量 AWS を組み合わせて、適用するボリューム料金階層を決定します。これにより、可能な限り全体的な料金が低くなります。 AWS 次に、 は各メンバーアカウントを、アカウントの使用量に基づいて全体的なボリューム割引の一部を割り当てます。

たとえば、ボブの一括請求には、ボブ自身のアカウントとスーザンのアカウントの両方が含まれているとします。ボブのアカウントは管理アカウントであるため、自分自身とスーザンの両方の料金を支払います。

月単位で、ボブは 8 TB、スーザンは 4 TB のデータを転送しています。

この例では、 は転送された最初の 10 TB に対して GB あたり 0.17 USD、次の 40 TB に対して 0.13 USD を AWS 請求します。これは換算すると、最初の 10 TB に対して TB 当たり 174.08 USD (= 0.17 × 1024)、次の 40 TB に対して TB 当たり 133.12 USD (= 0.13 × 1024) になります。1 TB = 1024 GB です。

ボブとスーザンが使用した 12 TB は、ボブの管理アカウントに対して、次のように請求されます。(174.08 USD × 10 TB) + (133.12 USD × 2 TB) = 1,740.80 USD + 266.24 USD = 2,007.04 USD

一括請求全体で階層化のメリットがなければ、 はボブとスーザンに TB あたり 174.08 USD を請求し、合計 2,088.96 USD を請求する AWS ことになります。

料金の詳細については、「AWS の料金」を参照してください。

AWS の無料利用枠 AWS Organizations

無料利用枠をサポートする Amazon EC2 などのサービスの場合、 は AWS 組織内のすべてのアカウントの合計使用量に無料利用枠 AWS を適用します。 AWS は無料利用枠を各アカウントに個別に適用しません。

AWS には、無料利用枠の制限を超えるか、無料利用枠の制限を超えると予測されるかを追跡する予算が用意されています。組織の無料利用枠の予算はデフォルトでは有効になっていません。管理アカウントでは、請求情報とコスト管理コンソールを使用して無料利用枠使用状況アラートをオプトインすることができます。無料利用枠使用状況アラートは、個々のメンバーアカウントでは使用できません。

無料利用枠の詳細については、AWS 無料利用枠 FAQs」を参照してください。

予約インスタンス

請求の目的で、 の統合請求機能は、組織内のすべてのアカウントを 1 つのアカウントとして AWS Organizations 扱います。これは、組織内のすべてのアカウントは、他のアカウントで購入したリザーブドインスタンスの時間単位のコスト利点を受けることができるということを意味しています。

請求情報とコスト管理コンソールの [設定] ページで、リザーブドインスタンスの共有の割引を無効化することができます。詳細については、「the section called “リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有”」を参照してください。

トピック

- 特定のサービスの請求例

- リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有

特定のサービスの請求例

の特定のサービスで一括請求がどのように機能するかについては、他にもいくつか知っておくべきことがあります AWS。

Amazon EC2 リザーブドインスタンス

たとえば、Amazon EC2 リザーブド DB インスタンスの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンは 5 つの同じタイプのリザーブドインスタンスを持っていて、ボブは何も持っていません。特定の 1 時間の間に、スーザンは 3 つのインスタンスを使用し、ボブは 6 つのインスタンスを使用します。組織の一括 bill. AWS bills では合計 9 つのインスタンスをリザーブドインスタンスとして、残りの 4 つのインスタンスを通常のインスタンスとして使用します。

スーザンがリザーブドインスタンスを購入したのと同じ利用可能ゾーンでボブがインスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けることができます。たとえば、スーザンがリザーブドインスタンス購入の際に `us-west-2a` を指定した場合、ボブが組織の一括請求でコストメリットを得るためには、ボブは自分のインスタンス起動時に `us-west-2a` を指定する必要があります。しかし、Availability Zone の実際の口ケーションは、アカウント間で独立しています。たとえば、ボブのアカウントの `us-west-2a` アベイラビリティーゾーンは、スーザンのアカウントの口ケーションとは異なる口ケーションにある可能性があります。

Amazon RDS リザーブド DB インスタンス

たとえば、Amazon RDS リザーブド DB インスタンスの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブド DB インスタンスを持っていて、ボブは何も持っていないとします。特定の 1 時間の間、スーザンは 3 つの DB インスタンスを使用し、ボブは 6 つの DB インスタンスを使用します。合計 9 つの DB インスタンスが一括請求されます。 AWS 5 つはリザーブド DB インスタンス、残りの 4 つはオンデマンド DB インスタンスです (Amazon RDS リザーブド DB インスタンスの料金については、料金表ページを参照してください)。スーザンがリザーブド DB インスタンスを購入したのと同じリージョンでボブが DB インスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブド DB インスタンスのコスト利点を受けることができます。

また、「リザーブド DB インスタンス」で説明されているように、Susan のリザーブド DB インスタンスのすべての関連属性が、Bob によって起動された DB インスタンスの属性と一致する必要があり

ます。たとえば、スーザンが以下の属性で、us-west-2 でリザーブド DB インスタンスを購入したとします。

- DB エンジン: Oracle
- DB インスタンスのクラス: m1.xlarge
- デプロイのタイプ: Multi-AZ

これは、ボブが組織の一括請求においてコストメリットを得るためには、正確に同じ属性を持つ自身の DB インスタンスを us-west-2 で起動する必要があることを意味しています。

Amazon ElastiCache リザーブドノードインスタンス

たとえば、Amazon ElastiCache リザーブドノードの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブドノードを持っていて、ボブは何も持っていないとします。ある特定の 1 時間の内に、スーザンは 3 つのノードを使用し、ボブは 6 つ使用します。これにより、合計 9 個のノードが一括請求に使用されます。

AWS は 5 つをリザーブドノードとして請求します。残りの 4 つはオンデマンドノードとして AWS 請求します。（Amazon ElastiCache リザーブドノードの料金については、「Amazon ElastiCache 料金表」を参照してください。）スーザンがリザーブドノードを購入したのと同じリージョンでボブがオンデマンドノードを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドノードのコスト利点を受けることができます。

また、スーザンのリザーブドノードのコスト利点を受けるには、ボブのノードの全属性が、スーザンが起動したノードの属性と一致する必要があります。たとえば、スーザンが以下の属性で、us-west-2 でリザーブドノードを購入したとします。

- キャッシュエンジン: Redis
- ノードの種類: cache.r3.large

ボブは組織の一括請求においてコストメリットを得るためには、同じ属性を持つ自身の ElastiCache ノードを us-west-2 で起動する必要があります。

Amazon OpenSearch Service リザーブドインスタンス

たとえば、Amazon OpenSearch Service リザーブドノードの例として、ボブとスーザンが組織内でそれぞれアカウントを持っているとします。スーザンが 5 つのリザーブド インスタンスを持ってい

て、ボブは何も持っていないとします。ある特定の 1 時間の内に、スーザンは 3 つのインスタンスを使用し、ボブは 6 つ使用します。これにより、合計 9 個のインスタンスが一括請求に使用されます。

AWS は 5 つをリザーブドインスタンスとして請求します。 は残りの 4 つをオンデマンドインスタンスとして AWS 請求します。(Amazon OpenSearch Service リザーブドインスタンス料金については、「Amazon OpenSearch Service 料金表」を参照してください。) スーザンがリザーブドインスタンスを購入したのと同じ AWS リージョン でボブがオンデマンドインスタンスを起動する場合にのみ、ボブはスーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けることができます。

スーザンのリザーブドインスタンスのコスト利点を受けるには、スーザンが予約したものと同じインスタンスタイプをボブも使用する必要があります。たとえば、スーザンが `us-west-2` で `m4.large.elasticsearch` インスタンスを購入したとします。ボブが組織の一括請求においてコスト利点を得るためには、同じインスタンスタイプを使用して `us-west-2` で Amazon OpenSearch Service ドメインを起動する必要があります。

リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有

組織の管理アカウントは、組織内のすべてのアカウント (管理アカウントを含む) においてリザーブドインスタンスの割引と Savings Plans の割引の共有を無効にすることができます。つまり、リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引は、共有を無効にしたすべてのアカウント間で共有されなくなります。

アカウントでリザーブドインスタンスまたは Savings Plans の割引を共有するには、両方のアカウントで共有を有効にする必要があります。設定はいつでも変更できます。各請求見積りは、最後の設定のセットを使用して計算されます。月の最終請求額は、月の最終日の午後 11 時 59 分 59 秒 (UTC 時) に指定されている設定に基づいて計算されます。

AWS Organizations アカウントで Savings Plans 共有が有効になっている場合は、次の条件を満たす必要があります。

- 一括請求ファミリー内の少なくとも 1 つのアカウントが、管理アカウントの請求に適用されるには、Savings Plans の AWS コンピューティング使用量を持っている必要があります。
- Savings Plans は、まず購入アカウントの使用に適用されます。未使用の時間単位のコミットメントがある場合、Savings Plans は共有が有効になっている組織内の他のアカウントにそれらを自動的に適用します。計算された削減額が最も大きいアカウントが優先されます。
- 他の対象となる連結アカウントに割引を適用するには、Savings Plans オープナーアカウントを RI および Savings Plans の割引共有設定で含めてアクティブ化する必要があります。

- Savings Plans 所有者アカウントが共有設定から削除または非アクティブ化された場合、Savings Plans 割引は他の適格な連結アカウントには適用されません。
- Savings Plans 所有者メンバーアカウントが組織を離れるか、組織から削除された場合、Savings Plans は一括請求に適用されなくなります。

> **Important**
>
> - リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引共有を無効にすると、毎月の請求額が高くなる可能性があります。
> - Savings Plans 割引を共有するには、Savings Plans 所有者アカウントが RI および Savings Plans の割引共有設定でアクティブである必要があります。これにより、組織内の他の適格なリンクアカウントでの割引の使用が可能になります。

トピック

- 共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の無効化
- 共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の有効化

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の無効化

個々のメンバーアカウントの共有割引を無効にすることができます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を無効にするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のアカウント別の割引共有設定] で、割引共有を無効にするアカウントを選択します。
4. [無効化] を選択します。
5. [リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有の無効化] ダイアログボックスで [無効化] を選択します。

> **Tip**
>
> [アクション] を選択してから [すべて無効化] を選択して、すべてのアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有を無効にすることもできます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引の有効化

コンソールを使用して、アカウントのリザーブドインスタンス共有割引を有効にできます。

アカウントセットで Savings Plans を共有することができます。特典を他のアカウントと共有しないか、アカウントの統合された請求ファミリー全体のラインアイテムの利用資格をオープンするかを選択できます。

共有リザーブドインスタンスと Savings Plans の割引を有効にするには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。

   > **Note**
   >
   > AWS Organizationsの管理アカウントにログインしていることを確認します。

2. ナビゲーションペインで、[請求設定] を選択します。
3. [リザーブドインスタンスと Savings Plans のアカウント別の割引共有設定] で、割引共有を有効にするアカウントを選択します。
4. [アクティブ化] を選択します。
5. [リザーブドインスタンスと Savings Plans の共有の有効化] ダイアログボックスで、[有効化] を選択します。

> **Tip**
>
> [アクション] を選択してから [すべて有効化] を選択して、すべてのアカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans の共有を有効にすることもできます。

一括請求について

で組織を管理する場合は AWS Organizations、一括請求を使用して、組織内のアカウントの合計使用コストを表示できます。一括請求 (コンソリデーティッドビリング) はコスト削減にも役立ちます。例えば、 AWS 製品やサービスに対して利用可能な最低料金を支払うために、 は、インスタンスを事前に購入するための低価格と割引料金 (予約またはリザーブドインスタンス) で、より高い使用量に見合う料金階層 AWS を提供します。一括請求 (コンソリデーティッドビリング) を使用して、複数のアカウントの使用量を 1 つの請求書にまとめて、より安価な階層により迅速に達することができます。また、あるアカウントの未使用の予約を別のアカウントのインスタンス使用量に適用することもできます。

トピック

- 一括請求の計算方法
- 料金階層
- 予約インスタンス
- Savings Plans
- ブレンドレートとコスト

一括請求の計算方法

組織内では、管理アカウントがメンバーアカウントで発生したすべての料金を支払います。管理アカウントの管理者であり、適切な権限を持っている場合、すべてのメンバーアカウントのリザーブドインスタンス割引とボリューム階層の合計使用コストを表示できます。は、そのアカウントの使用状況に基づいてメンバーアカウントごとに個別の請求書 AWS を作成するため、個々のメンバーアカウントで発生する料金を表示することもできます。 には、管理アカウントの請求書に各アカウントの請求書の概要 AWS も含まれます。各請求期間中、 は推定請求額を 1 日に数回 AWS 計算し、組織で発生したコストを追跡できるようにします。請求書は翌月の月初までは確定されません。

> **Note**
>
> メンバーアカウントと同様に、管理アカウントにも利用料金が発生する可能性があります。ただし、ベストプラクティスとして、管理アカウントを使用して AWS サービスを実行しないでください。例外は、組織自体を管理するために必要なサービスおよびリソースの場合です。たとえば、一括請求の管理の一環として、 AWS 管理アカウントに S3 バケットを作成してコストと使用状況レポートを保存できます。

料金階層

一部の AWS サービスは、定義された AWS 使用量の単位コストを指定する階層で料金が設定されます。使用量が増えてしきい値を超えると、1 か月の追加使用量についてさらに安い単価を指定する新しい料金階層に移行します。 AWS 使用量は毎月測定されます。使用状況を測定するために、 は組織内のすべてのアカウントを 1 つのアカウントとして AWS 扱います。メンバーアカウントが個別に階層の限度に達することはありません。代わりに、組織でのすべての使用量がサービスごとに集計され、より安い価格階層がより迅速に適用されます。毎月の初めに、サービスの使用量がゼロにリセットされます。

各 AWS サービスは、料金情報を個別に発行します。すべての個別の料金表ページには、AWS 料金のページからアクセスできます。

Amazon S3 Standard ストレージのコストの計算

次の表は、料金範囲の例を示しています (コストが異なる場合があります)。詳細については、「Amazon S3 の料金」を参照してください。

Amazon S3 の料金階層

階層の説明	GB あたりの料金	GB あたりの料金
最初の 1 TB/月	0.10 USD	100.00 USD
次の 49 TB/月	$0.08	80.00 USD
次の 450 TB/月	0.06 USD	60 USD

次のテーブルでは、管理アカウントと 3 つのメンバーアカウントを含む、組織の Amazon S3 の使用状況を示しています。

S3 使用量のブレンドコストの例

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト
管理	最初の 1 TB/月	1,000	1	0.10 USD	100	100.00 USD
	次の 49 TB/月	49,000	49	$0.08	80	3,920.00 USD
	次の 450 TB/月	45,000	45	0.06 USD	60	2,700.00 USD
合計		95,000	95			6,720.00 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/95,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/95 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 1	最初の 1 TB/月	1,000	1	0.10 USD	100	100.00 USD	0.070737	70.737	70.37 USD
	次の 49 TB/月	14,000	14	$0.08	80	1,120.00 USD	0.070737	70.737	990.318 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/9 5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/9 5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 USD	0.070737	70.737	1,061.055 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/9 5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/9 5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 2	次の 49 TB/月	20,000	20	$0.08	80	1,600.00 USD	0.070737	70.737	1,414.74 USD
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 USD	0.070737	70.737	1,061.55 USD

アカウント	Tier	ストレージ量 (GB)	ストレージ量 (TB)	非ブレンドレート (/GB)	非ブレンドレート (/TB)	非ブレンドコスト	ブレンドレート (/GB) (=6,720/9 5,000 USD)	ブレンドレート (/TB) (=6,720/9 5 USD)	ブレンドコスト (= ブレンドレート * ストレージ)
メンバー 3	次の 49 TB/月	15,000	15	$0.08	80	1,200.00 USD	0.070737	70.737	1,061.55 USD
	次の 450 TB/月	15,000	15	0.06 USD	60	900.00 USD	0.070737	70.737	1,061.55 USD

上記の表の費用は次のように計算されます。

1. 組織の全使用量は合計 95 TB (95,000 GB) です。これは、管理アカウントの記録用に加算されます。管理アカウントそのものの使用量はありません。使用料は、メンバーアカウントにのみ発生します。メンバー 1 は、1 TB のストレージを使用しています。この場合、組織の最初の料金範囲を満たしています。2 番目の料金範囲は、3 つのメンバーアカウント (メンバー 1 の 14 TB + メンバー 2 の 20 TB + メンバー 3 の 15 TB = 49 TB) によって満たされています。3 番目の料金範囲は、49 TB を超える使用量に適用されます。この例では、3 番目の料金範囲は、合計使用量が 45 TB のメンバーアカウントに適用されます。
2. 合計コストは、最初の 1 TB のコスト (1,000 GB x 0.10 USD = 100.00 USD) を、次の 49 TB のコスト (49,000 GB x 0.08 USD = 3,920 USD) と残りの 45 TB のコスト (45,000 GB x 0.06 USD = 2,700 USD) に加算して算出します。その結果、合計コストは、6,720 USD (100.00 USD + 3920.00 USD + 2700.00 USD = 6720.00 USD) になります。

前の例は、 で一括請求を使用することで、ストレージの AWS Organizations 全体的な月額コストを削減する方法を示しています。各メンバーアカウントのコストを個別に計算した場合、合計コストは 6,720 USD ではなく、7,660 USD です。3 つのアカウントの使用量を合計することで、より安い料

金階層に、より早く移行することができます。最も高価なストレージ (最初の 1 TB) が最大料金で請求されるのは 1 回のみです。3 回請求されることはありません。たとえば、3 TB のストレージを最大レートの 100 USD/TB で使用すると、300 USD になります。このストレージについて、最初の 1 TB (100 USD) と、80 USD の追加の 2 TB (160 USD) で請求すると、合計請求額は 260 USD です。

予約インスタンス

AWS では、前払い料金と期間契約と引き換えに、時間単位の割引料金も提供しています。

ゾーン リザーブドインスタンス

リザーブドインスタンスは、前払いの料金および期間契約と引き換えに、時間料金を割引する予約です。Amazon Elastic Compute Cloud (Amazon EC2) や Amazon Relational Database Service (Amazon RDS) などのサービスでは、このアプローチを使用して、予約されたキャパシティーをリザーブドインスタンスとして販売しています。仮想マシンではありません。リザーブドインスタンスは、特定の Amazon EC2 または Amazon RDS インスタンスについて事前に料金を支払うという約束です。見返りとして、オンデマンドインスタンスの使用状況と比較して、割引レートが適用されます。リザーブドインスタンスとオンデマンドインスタンスに技術的な違いはありません。インスタンスを起動すると、 はアクティブな予約に適用できる組織内のすべてのアカウントでの対象となる使用状況 AWS をチェックします。詳細については、「Amazon EC2 ユーザーガイド」のリザーブドインスタンスに関するページおよび「Amazon Relational Database Service デベロッパーガイド」のリザーブド DB インスタンスの使用に関するページを参照してください。

リザーブドインスタンスで容量を予約すると、時間単位の使用量は、同じアベイラビリティーゾーン内の利用タイプが同じインスタンスに適用される割引レートで計算されます。

リージョン リザーブドインスタンス

リージョンリザーブドインスタンスは、キャパシティーを予約できません。その代わりに、アベイラビリティーゾーンの柔軟性と、場合によってはインスタンスサイズの柔軟性が提供されます。アベイラビリティーゾーンの柔軟性により、リザーブド AWS リージョンの任意のアベイラビリティーゾーンで 1 つ以上のインスタンスを実行できます。リザーブドインスタンス割引は、すべてのアベイラビリティーゾーンのすべての使用量に適用されます。インスタンスサイズの柔軟性により、インスタンスファミリー内のインスタンスの使用に対して、サイズを問わず、リザーブドインスタンス割引が適用されます。インスタンスサイズの柔軟性は、デフォルトのテナンシーを持つ Linux/Unix プラットフォーム上のリザーブドインスタンスにのみ適用されます。リージョンリザーブドインスタンスの詳細については、このドキュメントにある「コストと使用状況レポートのユーザーガイド」の「予約の詳細」および「Amazon Elastic Compute Cloud Linux インスタンス用ユーザーガイド」の「リザーブドインスタンスの適用」を参照してください。

リザーブドインスタンスを使用した Amazon EC2 のコスト計算

AWS は、組織の特定の AWS リージョン内の特定のインスタンスタイプのすべての Amazon EC2 EC2 インスタンスの料金を計算します。

計算方法

AWS は、次のロジックを使用して Amazon EC2 インスタンスのブレンドレートを計算します。

1. AWS は、その月または月の一部について組織内のすべてのアカウントの使用量を集計し、オンデマンドインスタンスやリザーブドインスタンスのレートなどの非ブレンドレートに基づいてコストを計算します。これらの費用の明細項目は、管理アカウントに対して作成されます。この請求計算モデルは、各明細項目が条件を満たす最低の非ブレンドレートを適用することを目的としたものです。リザーブドインスタンス時間から始まり、無料利用枠の時間、残りの使用量に対するオンデマンドレートの順で適用されます。 AWS コストと使用状況レポートでは、これらの集計コストの明細項目を確認できます。
2. AWS は、各 AWS リージョンの各 Amazon EC2 使用タイプを識別し、集約された管理アカウントから、同じリージョン内の同じ使用タイプに対応するメンバーアカウントの明細項目にコストを割り当てます。 AWS コストと使用状況レポートでは、非ブレンドレート列に各明細項目に適用されるレートが表示されます。

> **Note**
>
> がリザーブドインスタンスの時間をメンバーアカウント AWS に割り当てる場合、常に予約を購入したアカウントから始まります。キャパシティ予約の残り時間がある場合、 は同じアベイラビリティーゾーンで同じ使用タイプを運用する他のアカウントに適用 AWS します。
> AWS は、リージョン RI をインスタンスサイズで割り当てます。RI は、まずインスタンスファミリー内の最小のインスタンスに適用され、次に最小のインスタンスに適用されます。 は、インスタンスの正規化係数に基づいて RI または RI の一部 AWS を適用します。が RIs AWS を適用する順序では、価格差は発生しません。

Savings Plans

Savings Plans は、 AWS 使用料の削減に役立つ柔軟な料金モデルです。Compute Savings Plans を使用すると、1 時間あたりの金額をコミットし、割引された Amazon EC2、Fargate、およびその使用量 AWS Lambda までを受け取ることができます。

Savings Plans によるコストの計算

AWS は、Amazon EC2、Fargate、および の料金を計算し、リザーブドインスタンスでカバーされていないすべての使用量を AWS Lambda 集計し、最も割引率の高い Savings Plans 料金を適用します。

Savings Plans は、Savings Plans を所有するアカウントに適用されます。次に、 AWS 組織内の他のアカウントと共有されます。詳細については、Savings Plans ユーザーガイドの「Savings Plans の使用量への適用方法の理解」を参照してください。

ブレンドレートとコスト

ブレンドレートは、 の組織のメンバーアカウントによって使用されるリザーブドインスタンスとオンデマンドインスタンスの平均レートです AWS Organizations。 は、各サービスのブレンドレートにそのサービスのアカウント使用状況を乗算してブレンドコスト AWS を計算します。

> **Note**
>
> - AWS は、各メンバーアカウントに対して、料金を非ブレンドコストとして表示します。 は、予約や階層化された料金など、すべての一括請求特典を のすべてのメンバーアカウントに適用 AWS し続けます AWS Organizations。
> - Amazon EC2 のブレンドレートは、時間単位で計算されます。

このセクションでは、 が以下のサービスのブレンドレート AWS を計算する方法を示す例を示します。

- Amazon S3 Standard ストレージのブレンドレートの計算
- Amazon EC2 のブレンドレートの計算

Amazon S3 Standard ストレージのブレンドレートの計算

AWS は、ストレージの合計コストを 1 か月あたりに保存されているデータ量で割って、Amazon S3 標準ストレージのブレンドレートを計算します。

管理アカウントおよび 3 つのメンバーアカウントのコスト 6,720 USD を計算した「一括請求の計算方法」の例を使用して、次のロジックでこれらのアカウントのブレンドレートを計算します。

1. ブレンドレートを GB 単位で算出するには、合計コスト (6,720 USD) をストレージ容量 (95,000 GB) で除算します。その結果、ブレンドレートは、1 GB 当たり 0.070737 USD になります。ブレンドレートを TB 単位で算出するには、合計コスト (6,720 USD) をストレージ容量 (95 TB) で除算します。その結果、ブレンドレートは、1 TB 当たり 70.737 USD になります。
2. 各メンバーアカウントのブレンドコストを配分するには、ブレンドレート (GB または TB) に使用量を乗算します。その結果、ブレンドコスト列に表示されている金額になります。たとえば、メンバー 1 は、ブレンドレート 0.070737 USD で 14,000 GB のストレージ (または 70.737 USD で 14 TB) を使用しており、ブレンドコストは 990.318 USD になります。

Amazon EC2 のブレンドレートの計算

一括請求ロジックは、管理アカウントに Amazon EC2 コストを集計してから、それを使用比率に基づいてメンバーアカウントに配分します。

この例では、すべての使用量が同じ使用タイプであり、同じアベイラビリティーゾーンで発生し、リザーブドインスタンスの期間が同じです。この例の対象は、完全な前払いと部分的な前払いのリザーブドインスタンスです。

次の表に、Amazon EC2 の月間 720 時間 (30 日) の使用についての明細項目の計算を表す明細項目を示します。各インスタンスは、同じアベイラビリティーゾーンで実行される同じ使用タイプ (`t2.small`) です。組織は、3 つのリザーブドインスタンスを 1 年分購入しています。メンバーアカウント 1 には 3 つのリザーブドインスタンスがあります。メンバーアカウント 2 にはリザーブドインスタンスはありませんが、オンデマンドのインスタンスを使用しています。

明細項目アカウント	請求タイプ	使用タイプ	前払い料金	月額コスト	使用可能な使用法	使用量	非ブレンドレート	非ブレンドコスト	ブレンドレート	ブレンドコスト
管理アカウント	RI、すべて前払い	t2.small	274.00 USD	0.00 USD	-	1440	-	-	-	-
	RI、一部	t2.small	70.00 USD	5.84 USD	-	720	-	-	-	-

明細項目アカウント	請求タイプ	使用タイプ	前払い料金	月額コスト	使用可能な使用法	使用量	非ブレンドレート	非ブレンドコスト	ブレンドレート	ブレンドコスト
	前払い									
メンバーアカウント 1	RI 適用済み	t2.small	-	-	1440	1440	0.00 USD	0.00 USD	0.00575 USD	8.28 USD
	RI 適用済み	t2.small	-	-	720	720	0.00 USD	0.00 USD	0.00575 USD	4.14 USD
メンバーアカウント 2	オンデマンド	t2.small	-	-	-	720	0.023 USD	16.56 USD	0.00575 USD	4.14 USD
合計					2160	2880		16.56 USD		16.56 USD

前記の表のデータは、次の情報を表しています。

- 組織は、1,440 時間のリザーブドインスタンスキャパシティーを完全な前払いレートで購入しました (2 つの EC2 インスタンス)。
- 組織は、720 時間のリザーブドインスタンスキャパシティーを一部前払いレートで購入しました (1 つの EC2 インスタンス)。
- メンバーアカウント 1 は、2 つの完全な前払いリザーブドインスタンスおよび 1 つの部分的な前払いリザーブドインスタンスを合計 2,160 時間使用しています。メンバーアカウント 2 は、オンデマンドインスタンスを 720 時間使用しています。組織の合計使用量は、合計 2,880 時間 (2160 + 720 = 2,880) です。

- 3 つのリザーブドインスタンスの非ブレンドレートは、0.00 USD です。RI の料金はブレンドレートの計算には使用しないため、非ブレンドレートは常に 0.00 USD になります。
- オンデマンドインスタンスの非ブレンドレートは、0.023 USD です。非ブレンドレートは、製品の現在の価格に関連付けられます。前の表の情報を使用してこれらを検証することはできません。
- ブレンドレートを算出するには、合計コスト (16.56 USD) を Amazon EC2 の合計使用時間 (2,880 時間) で除算します。これにより、1 時間あたり 0.005750000 USD が発生します。

短いバージョンの PDF 請求書のリクエスト

AWS PDF 請求書には、 の一部である支払者アカウント (管理アカウント) および関連するメンバーアカウントの AWS のサービス 料金が含まれています AWS Organizations。

この AWS PDF 請求書には、次のセクションがあります。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス すべてのアカウントの概要
3. メンバーアカウントのアクティビティ概要
4. メンバーアカウントの詳細なアクティビティ

アカウントでこの機能をリクエストすると、PDF 形式の請求書からメンバーアカウントの詳細が省略されるため、受け取る請求書のページ数が少なくなります。

> **Note**
>
> この機能では、PDF 請求書からメンバーアカウントの詳細のみが省略されます。この情報は Billing and Cost Management コンソールと AWS Cost Explorerで引き続き表示できます。

次の PDF 請求書の概要オプションをリクエストできます。

請求書概要オプション 1

オプション 1 には、次のセクションが含まれています。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス すべてのアカウントの概要
3. メンバーアカウントのアクティビティ概要

オプション 1 では、メンバーアカウントの詳細なアクティビティが省略されます。

請求書概要オプション 2

オプション 2 には、次のセクションが含まれています。

1. 請求書全体の概要
2. AWS のサービス すべてのアカウントの概要

オプション2 では、メンバーアカウントの概要アクティビティと詳細アクティビティが省略されます。

いずれかのオプションをリクエストするには、次の手順に従ってください。

短いバージョンの PDF 請求書をリクエストするには

1. 支払者アカウントとして AWS Support Center Console にサインインします。
2. アカウントと請求のサポートケースを作成します。
3. [サービス] で [請求] を選択します。
4. [カテゴリ] で、[一括請求] を選択します。
5. プロンプトに従ってケースを作成します。
6. ケースの詳細で、アカウントに使用する PDF 形式の請求書概要をオプション 1 またはオプション 2 で指定します。

   サポートエージェントがリクエストを完了すると、次回から請求書は、リクエストした請求書オプションで更新されます。この機能は、以前に生成された請求書には適用されません。

> **Note**
>
> 同じ手順で、メンバーアカウントに対して請求書概要オプションを変更したり、従来の PDF 請求書概要をリクエストすることもできます。

サポート のアカウントに対する 料金 AWS Organizations

AWS は、メンバーアカウントごとに サポート 料金を個別に計算します。通常、 サポート メンバーアカウントのサブスクリプションは組織全体には適用されません。アカウントごとに個別にサブスクライブします。エンタープライズサポートプランをご契約の場合は、毎月の請求に複数のアカウント

をまとめて含めることができます。デベロッパー、ビジネス、エンタープライズサポートプランの月額料金は、毎月の AWS 使用量に基づきます。ただし、リザーブドインスタンスおよび Savings Plan の購入に関連する サポート 料金は、購入を行ったメンバーアカウントに適用されます。詳細については、「サポート のプランの料金」を参照してください。

のセキュリティ AWS Billing

でのクラウドセキュリティが最優先事項 AWS です。お客様は AWS 、セキュリティを最も重視する組織の要件を満たすように構築されたデータセンターとネットワークアーキテクチャを活用できます。

セキュリティは、 AWS お客様とお客様の間の責任共有です。責任共有モデルでは、これをクラウドのセキュリティおよびクラウド内のセキュリティと説明しています。

- クラウドのセキュリティ – AWS クラウドで AWS サービスを実行するインフラストラクチャを保護する AWS 責任があります。 AWS また、 では、安全に使用できるサービスも提供しています。サードパーティーの監査者は、AWS コンプライアンスプログラムコンプライアンスプログラムの一環として、当社のセキュリティの有効性を定期的にテストおよび検証。が適用されるコンプライアンスプログラムの詳細については AWS Billing and Cost Management、「コンプライアンスプログラムAWS による対象範囲内のサービスコンプライアンスプログラム」を参照してください。
- クラウドのセキュリティ – お客様の責任は、使用する AWS サービスによって決まります。また、ユーザーは、データの機密性、会社の要件、適用される法律や規制など、その他の要因についても責任を負います。

このドキュメントは、請求情報とコスト管理を使用する際に共有責任モデルを適用する方法を理解するのに役立ちます 以下のトピックでは、セキュリティおよびコンプライアンスの目的を達成するために請求情報とコスト管理を設定する方法を示します。また、請求情報とコスト管理リソースのモニタリングと保護に役立つ他の AWS サービスの使用方法についても説明します。

トピック

- でのデータ保護 AWS Billing and Cost Management
- AWS 請求用の Identity and Access Management
- での口グ記録とモニタリング AWS Billing and Cost Management
- のコンプライアンス検証 AWS Billing and Cost Management
- の耐障害性 AWS Billing and Cost Management
- のインフラストラクチャセキュリティ AWS Billing and Cost Management

でのデータ保護 AWS Billing and Cost Management

責任 AWS 共有モデル、 でのデータ保護に適用されます AWS Billing and Cost Management。このモデルで説明されているように、 AWS はすべての を実行するグローバルインフラストラクチャを保護する責任があります AWS クラウド。ユーザーは、このインフラストラクチャでホストされるコンテンツに対する管理を維持する責任があります。また、使用する「 AWS のサービス 」のセキュリティ設定と管理タスクもユーザーの責任となります。データプライバシーの詳細については、データプライバシーに関するよくある質問を参照してください。欧州でのデータ保護の詳細については、AWS セキュリティブログに投稿された AWS 責任共有モデルおよび GDPR のブログ記事を参照してください。

データ保護の目的で、認証情報を保護し AWS アカウント 、 AWS IAM Identity Center または AWS Identity and Access Management (IAM) を使用して個々のユーザーを設定することをお勧めします。この方法により、それぞれのジョブを遂行するために必要な権限のみが各ユーザーに付与されます。また、次の方法でデータを保護することもお勧めします:

- 各アカウントで多要素認証 (MFA) を使用します。
- SSL/TLS を使用して AWS リソースと通信します。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- で API とユーザーアクティビティのログ記録を設定します AWS CloudTrail。CloudTrail 証跡を使用して AWS アクティビティをキャプチャする方法については、「 AWS CloudTrail ユーザーガイド」のCloudTrail 証跡の使用」を参照してください。
- AWS 暗号化ソリューションと、 内のすべてのデフォルトのセキュリティコントロールを使用します AWS のサービス。
- Amazon Macie などの高度な管理されたセキュリティサービスを使用します。これらは、Amazon S3 に保存されている機密データの検出と保護を支援します。
- コマンドラインインターフェイスまたは API AWS を介して にアクセスするときに FIPS 140-3 検証済み暗号化モジュールが必要な場合は、FIPS エンドポイントを使用します。利用可能な FIPS エンドポイントの詳細については、「連邦情報処理規格 (FIPS) 140-3」を参照してください。

お客様の E メールアドレスなどの極秘または機密情報を、タグ、または [名前] フィールドなどの自由形式のテキストフィールドに含めないことを強くお勧めします。これは、コンソール、API、または SDK を使用して Billing and Cost Management AWS CLIまたは他の AWS のサービス を使用する場合も同様です。 AWS SDKs タグ、または名前に使用される自由記述のテキストフィールドに入力したデータは、請求または診断ログに使用される場合があります。外部サーバーに URL を提供する場合、そのサーバーへのリクエストを検証できるように、認証情報を URL に含めないことを強くお勧めします。

AWS 請求用の Identity and Access Management

AWS Identity and Access Management (IAM) は、管理者が AWS リソースへのアクセスを安全に制御 AWS のサービス するのに役立つ です。IAM 管理者は、誰を認証 (サインイン) し、誰に課金リソースの使用を許可 (許可を持たせる) するかを制御します。IAM は、追加料金なしで使用できる AWS のサービス です。

請求コンソールへのアクセス権のアクティベートを開始するには、「IAM ユーザーガイド」の「IAM チュートリアル: 請求コンソールへのアクセス権の付与」を参照してください。

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

この表は、 請求で請求ユーザーの種類ごとに許可されるデフォルトのアクションをまとめたものです。

ユーザータイプと請求に対するアクセス許可

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
アカウント所有者	アカウント名として設定した名前を持つ人またはエンティティ。	• すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 • AWS 料金の毎月の請求書を受け取ります。
ユーザー	アカウント所有者または管理ユーザーによって、アカウントのユーザーとして定義された人物またはアプリケーション。アカウントには、複数のユーザーを含めることができます。	• ユーザー単位またはユーザーグループ単位で明示的に付与された権限を有します。 • 請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を付与されることができます。詳細については、「アクセス許可の管理の概要」を参照してください。 • アカウントを解約することはできません。

ユーザーのタイプ	説明	請求に対するアクセス許可
組織管理アカウント所有者	AWS Organizations 管理アカウントに関連付けられている個人またはエンティティ。管理アカウントは、組織のメンバーアカウントによって発生した AWS 使用量に対して支払います。	• 管理アカウントについてのみ、すべての請求情報とコスト管理リソースを完全に制御できます。 • 管理アカウントとメンバーアカウントの AWS 料金の毎月の請求書を受け取ります。 • 管理アカウントの請求レポートで、メンバーアカウントのアクティビティを参照できます。
組織のメンバーアカウント所有者	AWS Organizations メンバーアカウントに関連付けられている個人またはエンティティ。管理アカウントは、組織のメンバーアカウントによって発生した AWS 使用量に対して支払います。	• 使用状況レポートまたはアクティビティは、当のアカウントに関するもののみ参照できます。組織内の他のメンバーアカウントまたは管理アカウントの使用状況レポートやアカウントアクティビティにはアクセスできません。 • 請求レポートを表示する権限はありません。 • 当のアカウントに関する情報のみ更新できます。他のメンバーアカウントまたは管理アカウントにはアクセスできません。

アクセス許可の管理の概要

請求の情報およびツールへのアクセス許可

デフォルトでは、IAM ユーザーには AWS Billing and Cost Management コンソールへのアクセス権がありません。

を作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての およびリソースへの AWS のサービス完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

管理者は、ユーザーが引き受けることができる AWS アカウントでロールを作成できます。ロールを作成したら、必要なアクセス権に基づいて IAM ポリシーをロールにアタッチできます。例えば、請求の情報とツールの一部にアクセスできる制限されたアクセス許可を一部のユーザーに与え、すべての情報とツールに対する完全なアクセス許可を他のユーザーに与えることができます。

IAM エンティティに Billing and Cost Management コンソールへのアクセス権を付与するには、以下を行ってください。

- IAM アクセスをルートユーザーとしてアクティブ化します。 AWS アカウント アカウントでこのアクションを実行する必要があるのは 1 回だけです。
- ユーザー、グループ、ロールなどの IAM ID を作成します。
- AWS 管理ポリシーを使用するか、請求情報とコスト管理コンソールで特定のアクションにアクセス許可を付与するカスタマー管理ポリシーを作成します。詳細については、「Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用」を参照してください。

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM tutorial: Grant access to the Billing console」を参照してください。

> **Note**
>
> Cost Explorer の許可は、IAM ポリシーに関係なくすべてのアカウントとメンバーアカウントに適用されます。詳細については、AWS Cost Explorer へのアクセスの制御」を参照してください。

請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする

の IAM ユーザーとロール AWS アカウント は、デフォルトでは Billing and Cost Management コンソールにアクセスできません。これは、IAM ユーザーまたはロールに、特定の請求機能へのアクセス権を付与する IAM ポリシーがある場合でも当てはまります。アクセスを付与するために、 AWS アカウント ルートユーザーは IAM アクセスのアクティブ化設定を使用できます。

を使用する場合は AWS Organizations、IAM ユーザーとロールに Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを許可する各管理アカウントまたはメンバーアカウントで、この設定を有効にします。詳細については、「AWS Billing and Cost Management コンソールへの IAM アクセスのアクティブ化」を参照してください。

請求コンソールで、[IAM アクセスのアクティブ化] 設定により、以下のページへのアクセスを制御します。

- ホーム
- 予算
- Budgets レポート
- AWS コストと使用状況レポート
- Cost Categories
- コスト配分タグ
- 請求書
- 支払い
- クレジット
- 発注書
- 請求設定
- 支払い方法
- 税金設定

- Cost Explorer
- レポート
- 適切なサイズ設定に関する推奨事項
- Savings Plans に関する推奨事項
- Savings Plans 使用率レポート
- Savings Plans カバレッジレポート
- 予約の概要
- 予約の推奨事項
- 予約使用率レポート
- 予約カバレッジレポート
- 詳細設定

> **Important**
>
> IAM アクセスをアクティベートするだけでは、これらの請求情報と予算管理コンソールページに必要な許可は、IAM ロールに付与されません。IAM アクセスのアクティベートに加えて、必要な IAM ポリシーをこれらのロールにアタッチする必要があります。詳細については、「Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用」を参照してください。

[IAM アクセスをアクティベートする] 設定では、次のページおよびリソースへのアクセスを制御しません。

- AWS コスト異常検出、Savings Plans の概要、Savings Plans インベントリ、Savings Plans の購入、Savings Plans カートのコンソールページ
- のコスト管理ビュー AWS Console Mobile Application
- Billing and Cost Management SDK APIs (AWS Cost Explorer、 AWS Budgets、および AWS Cost and Usage Reports APIs)
- AWS Systems Manager Application Manager
- コンソール内 AWS 料金見積りツール
- Amazon Q のコスト分析機能
- AWS Activate Console「��

対象者

AWS Identity and Access Management (IAM) の使用方法は、Billing で行う作業によって異なります。

サービスユーザー - Billing サービスを使用してジョブを実行する場合は、必要な認証情報とアクセス許可を管理者が用意します。さらに多くの Billing 機能を使用して作業を行う場合は、追加のアクセス許可が必要になることがあります。アクセスの管理方法を理解すると、管理者に適切なアクセス許可をリクエストするのに役に立ちます。Billing の機能にアクセスできない場合は、「AWS 請求 ID とアクセスのトラブルシューティング」を参照してください。

サービス管理者 - 社内の Billing リソースを担当している場合は、通常、Billing へのフルアクセスがあります。サービスのユーザーが Billing のどの機能やリソースにアクセスするかを決めるのは、サービス管理者の仕事です。その後、IAM 管理者にリクエストを送信して、サービスユーザーの権限を変更する必要があります。このページの情報を点検して、IAM の基本概念を理解してください。会社が Billing で IAM を使用する方法の詳細については、「Billing と IAM の AWS 連携方法」を参照してください。

IAM 管理者 - IAM 管理者は、Billing へのアクセスを管理するポリシーの作成方法の詳細について確認する場合があります。IAM で使用できる Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「AWS 請求を含むアイデンティティベースのポリシー」を参照してください。

アイデンティティを使用した認証

認証とは、ID 認証情報 AWS を使用して にサインインする方法です。として、IAM ユーザーとして AWS アカウントのルートユーザー、または IAM ロールを引き受けることによって、認証 (にサインイン AWS) される必要があります。

ID ソースを介して提供された認証情報を使用して、フェデレーティッド ID AWS として にサインインできます。 AWS IAM Identity Center （ IAM Identity Center) ユーザー、会社のシングルサインオン認証、Google または Facebook 認証情報は、フェデレーション ID の例です。フェデレーティッド ID としてサインインする場合、IAM ロールを使用して、前もって管理者により ID フェデレーションが設定されています。フェデレーション AWS を使用して にアクセスすると、間接的にロールを引き受けることになります。

ユーザーの種類に応じて、 AWS Management Console または AWS アクセスポータルにサインインできます。へのサインインの詳細については AWS、「 AWS サインイン ユーザーガイド」の「 へのサインイン AWS アカウント方法」を参照してください。

AWS プログラムで にアクセスする場合、 はソフトウェア開発キット (SDK) とコマンドラインインターフェイス (CLI) AWS を提供し、認証情報を使用してリクエストを暗号化して署名します。AWS ツールを使用しない場合は、リクエストに自分で署名する必要があります。リクエストに自分で署名する推奨方法の使用については、「IAM ユーザーガイド」の「API リクエストに対するAWS Signature Version 4」を参照してください。

使用する認証方法を問わず、追加セキュリティ情報の提供をリクエストされる場合もあります。たとえば、 では、アカウントのセキュリティを高めるために多要素認証 (MFA) を使用する AWS ことをお勧めします。詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「多要素認証」および「IAM ユーザーガイド」の「IAM のAWS 多要素認証」を参照してください。

AWS アカウント ルートユーザー

を作成するときは AWS アカウント、アカウント内のすべての およびリソースへの AWS のサービス 完全なアクセス権を持つ 1 つのサインインアイデンティティから始めます。この ID は AWS アカウント ルートユーザーと呼ばれ、アカウントの作成に使用した E メールアドレスとパスワードでサインインすることでアクセスできます。日常的なタスクには、ルートユーザーを使用しないことを強くお勧めします。ルートユーザーの認証情報は保護し、ルートユーザーでしか実行できないタスクを実行するときに使用します。ルートユーザーとしてサインインする必要があるタスクの完全なリストについては、「IAM ユーザーガイド」の「ルートユーザー認証情報が必要なタスク」を参照してください。

フェデレーティッドアイデンティティ

ベストプラクティスとして、管理者アクセスを必要とするユーザーを含む人間のユーザーに、ID プロバイダーとのフェデレーションを使用して一時的な認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスすることを要求します。

フェデレーティッド ID は、エンタープライズユーザーディレクトリ、ウェブ ID プロバイダー、、AWS Directory Serviceアイデンティティセンターディレクトリ、または ID ソースを介して提供された認証情報 AWS のサービス を使用して にアクセスするユーザーです。フェデレーティッド ID がアクセスすると AWS アカウント、ロールを引き受け、ロールは一時的な認証情報を提供します。

アクセスを一元管理する場合は、 AWS IAM Identity Centerを使用することをお勧めします。IAM Identity Center でユーザーとグループを作成するか、独自の ID ソースのユーザーとグループのセットに接続して同期し、すべての AWS アカウント とアプリケーションで使用できます。IAM Identity Center の詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「What is IAM Identity Center?」(IAM Identity Center とは) を参照してください。

IAM ユーザーとグループ

IAM ユーザーは、単一のユーザーまたはアプリケーションに対して特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内の ID です。可能であれば、パスワードやアクセスキーなどの長期的な認証情報を保有する IAM ユーザーを作成する代わりに、一時的な認証情報を使用することをお勧めします。ただし、IAM ユーザーでの長期的な認証情報が必要な特定のユースケースがある場合は、アクセスキーをローテーションすることをお勧めします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「長期的な認証情報を必要とするユースケースのためにアクセスキーを定期的にローテーションする」を参照してください。

IAM グループは、IAM ユーザーの集団を指定するアイデンティティです。グループとしてサインインすることはできません。グループを使用して、複数のユーザーに対して一度に権限を指定できます。多数のユーザーグループがある場合、グループを使用することで権限の管理が容易になります。例えば、IAMAdmins という名前のグループを設定して、そのグループに IAM リソースを管理する許可を与えることができます。

ユーザーは、ロールとは異なります。ユーザーは 1 人の人または 1 つのアプリケーションに一意に関連付けられますが、ロールはそれを必要とする任意の人が引き受けるようになっています。ユーザーには永続的な長期の認証情報がありますが、ロールでは一時認証情報が提供されます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ユーザーに関するユースケース」を参照してください。

IAM ロール

IAM ロールは、特定のアクセス許可 AWS アカウント を持つ 内の ID です。これは IAM ユーザーに似ていますが、特定のユーザーには関連付けられていません。で IAM ロールを一時的に引き受けるには AWS Management Console、ユーザーから IAM ロール (コンソール) に切り替えることができます。ロールを引き受けるには、 または AWS API オペレーションを AWS CLI 呼び出すか、カスタム URL を使用します。ロールを使用する方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ロールを引き受けるための各種方法」を参照してください。

IAM ロールと一時的な認証情報は、次の状況で役立ちます:

- フェデレーションユーザーアクセス – フェデレーティッド ID に許可を割り当てるには、ロールを作成してそのロールの許可を定義します。フェデレーティッド ID が認証されると、その ID はロールに関連付けられ、ロールで定義されている許可が付与されます。フェデレーションのロールについては、「IAM ユーザーガイド」の「サードパーティー ID プロバイダー (フェデレーション) 用のロールを作成する」を参照してください。IAM Identity Center を使用する場合は、許可セットを設定します。アイデンティティが認証後にアクセスできるものを制御するため、IAM Identity

Center は、権限セットを IAM のロールに関連付けます。アクセス許可セットの詳細については、「AWS IAM Identity Center User Guide」の「Permission sets」を参照してください。

- 一時的な IAM ユーザー権限 - IAM ユーザーまたはロールは、特定のタスクに対して複数の異なる権限を一時的に IAM ロールで引き受けることができます。
- クロスアカウントアクセス - IAM ロールを使用して、自分のアカウントのリソースにアクセスすることを、別のアカウントの人物 (信頼済みプリンシパル) に許可できます。クロスアカウントアクセス権を付与する主な方法は、ロールを使用することです。ただし、一部の では AWS のサービス、(プロキシとしてロールを使用する代わりに) リソースに直接ポリシーをアタッチできます。クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス」を参照してください。
- クロスサービスアクセス — 一部の は他の の機能 AWS のサービス を使用します AWS のサービス。例えば、あるサービスで呼び出しを行うと、通常そのサービスによって Amazon EC2 でアプリケーションが実行されたり、Amazon S3 にオブジェクトが保存されたりします。サービスでは、呼び出し元プリンシパルの許可、サービスロール、またはサービスリンクロールを使用してこれを行う場合があります。
  - 転送アクセスセッション (FAS) – IAM ユーザーまたはロールを使用してアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、 を呼び出すプリンシパルのアクセス許可を AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービス へのリクエストをリクエストする と組み合わせて使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービス またはリソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「転送アクセスセッション」を参照してください。
  - サービスロール - サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける IAM ロールです。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除することができます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する」を参照してください。
  - サービスにリンクされたロール – サービスにリンクされたロールは、 にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント 、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスリンクロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

- Amazon EC2 で実行されているアプリケーション – IAM ロールを使用して、EC2 インスタンスで実行され、 AWS CLI または AWS API リクエストを行うアプリケーションの一時的な認証情報を管理できます。これは、EC2 インスタンス内でのアクセスキーの保存に推奨されます。EC2 インスタンスに AWS ロールを割り当て、そのすべてのアプリケーションで使用できるようにするには、インスタンスにアタッチされたインスタンスプロファイルを作成します。インスタンスプロファイルにはロールが含まれ、EC2 インスタンスで実行されるプログラムは一時的な認証情報を取得できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Amazon EC2 インスタンスで実行されるアプリケーションに IAM ロールを使用して許可を付与する」を参照してください。

ポリシーを使用したアクセスの管理

でアクセスを制御する AWS には、ポリシーを作成し、ID AWS またはリソースにアタッチします。ポリシーは AWS 、アイデンティティまたはリソースに関連付けられているときにアクセス許可を定義する のオブジェクトです。 は、プリンシパル (ユーザー、ルートユーザー、またはロールセッション) がリクエストを行うときに、これらのポリシー AWS を評価します。ポリシーでの権限により、リクエストが許可されるか拒否されるかが決まります。ほとんどのポリシーは JSON ドキュメント AWS として に保存されます。JSON ポリシードキュメントの構造と内容の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「JSON ポリシー概要」を参照してください。

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

デフォルトでは、ユーザーやロールに権限はありません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き受けることができます。

IAM ポリシーは、オペレーションの実行方法を問わず、アクションの許可を定義します。例えば、`iam:GetRole` アクションを許可するポリシーがあるとします。そのポリシーを持つユーザーは、 AWS Management Console、、 AWS CLIまたは AWS API からロール情報を取得できます。

アイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザーグループ、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。アイデンティティベースポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する」を参照してください。

アイデンティティベースのポリシーは、さらにインラインポリシーまたはマネージドポリシーに分類できます。インラインポリシーは、単一のユーザー、グループ、またはロールに直接埋め込まれています。管理ポリシーは、 内の複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンポリシーです AWS アカウント。管理ポリシーには、 AWS 管理ポリシーとカスタマー管理ポリシーが含まれます。マネージドポリシーまたはインラインポリシーのいずれかを選択する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「管理ポリシーとインラインポリシーのいずれかを選択する」を参照してください。

リソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、または を含めることができます AWS のサービス。

リソースベースのポリシーは、そのサービス内にあるインラインポリシーです。リソースベースのポリシーでは、IAM の AWS マネージドポリシーを使用できません。

アクセスコントロールリスト (ACL)

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Amazon S3、および Amazon VPC は AWS WAF、ACLs。ACL の詳細については、「Amazon Simple Storage Service デベロッパーガイド」の「アクセスコントロールリスト (ACL) の概要」を参照してください。

その他のポリシータイプ

AWS は、一般的でない追加のポリシータイプをサポートします。これらのポリシータイプでは、より一般的なポリシータイプで付与された最大の権限を設定できます。

- アクセス許可の境界 - アクセス許可の境界は、アイデンティティベースポリシーによって IAM エンティティ (IAM ユーザーまたはロール) に付与できる権限の上限を設定する高度な機能です。エ

ンティティにアクセス許可の境界を設定できます。結果として得られる権限は、エンティティのアイデンティティベースポリシーとそのアクセス許可の境界の共通部分になります。Principal フィールドでユーザーまたはロールを指定するリソースベースのポリシーでは、アクセス許可の境界は制限されません。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。アクセス許可の境界の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM エンティティのアクセス許可の境界」を参照してください。

- サービスコントロールポリシー (SCPs) – SCPsは、 の組織または組織単位 (OU) の最大アクセス許可を指定する JSON ポリシーです AWS Organizations。 AWS Organizations は、ビジネスが所有する複数の をグループ化して一元管理するためのサービス AWS アカウント です。組織内のすべての機能を有効にすると、サービスコントロールポリシー (SCP) を一部またはすべてのアカウントに適用できます。SCP は、各 を含むメンバーアカウントのエンティティのアクセス許可を制限します AWS アカウントのルートユーザー。Organizations と SCP の詳細については、「AWS Organizations ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー (SCP)」を参照してください。
- リソースコントロールポリシー (RCP) – RCP は、所有する各リソースにアタッチされた IAM ポリシーを更新することなく、アカウント内のリソースに利用可能な最大数のアクセス許可を設定するために使用できる JSON ポリシーです。RCP は、メンバーアカウントのリソースのアクセス許可を制限し、組織に属しているかどうかにかかわらず AWS アカウントのルートユーザー、 を含む ID の有効なアクセス許可に影響を与える可能性があります。RCP をサポートする のリストを含む Organizations と RCP の詳細については、AWS Organizations RCPs「リソースコントロールポリシー (RCPs」を参照してください。 AWS のサービス
- セッションポリシー - セッションポリシーは、ロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセッションをプログラムで作成する際にパラメータとして渡す高度なポリシーです。結果としてセッションの権限は、ユーザーまたはロールのアイデンティティベースポリシーとセッションポリシーの共通部分になります。また、リソースベースのポリシーから権限が派生する場合もあります。これらのポリシーのいずれかを明示的に拒否した場合、権限は無効になります。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「セッションポリシー」を参照してください。

複数のポリシータイプ

1 つのリクエストに複数のタイプのポリシーが適用されると、結果として作成される権限を理解するのがさらに難しくなります。が複数のポリシータイプが関与する場合にリクエストを許可するかどうか AWS を決定する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「ポリシー評価ロジック」を参照してください。

Billing と IAM の AWS 連携方法

請求は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されるため、組織内の誰が請求コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。請求書、および料金、アカウントアクティビティ、予算、支払い方法、クレジットに関する詳細情報へのアクセスを制御できます。

Billing and Cost Management コンソールへのアクセスをアクティベートする方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Tutorial: Delegate Access to the Billing Console」を参照してください。

IAM を使用して Billing へのアクセスを管理するときは、事前に、Billing で使用できる IAM の機能について理解しておきます。

AWS Billing で使用できる IAM 機能

IAM の機能	Billing レポート
アイデンティティベースポリシー	はい
リソースベースのポリシー	いいえ
ポリシーアクション	はい
ポリシーリソース	部分的
ポリシー条件キー	Yes
ACL	いいえ
ABAC (ポリシー内のタグ)	部分的
一時的な認証情報	あり
転送アクセスセッション (FAS)	あり
サービスロール	はい
サービスリンクロール	いいえ

請求およびその他の AWS のサービスがほとんどの IAM 機能と連携する方法の概要については、IAM ユーザーガイドのAWS 「IAM と連携する のサービス」を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシー

アイデンティティベースのポリシーのサポート: あり

アイデンティティベースポリシーは、IAM ユーザーグループ、ユーザーのグループ、ロールなど、アイデンティティにアタッチできる JSON 許可ポリシードキュメントです。これらのポリシーは、ユーザーとロールが実行できるアクション、リソース、および条件をコントロールします。ID ベースのポリシーの作成方法については、「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーでカスタム IAM アクセス許可を定義する」を参照してください。

IAM アイデンティティベースのポリシーでは、許可または拒否するアクションとリソース、およびアクションを許可または拒否する条件を指定できます。プリンシパルは、それが添付されているユーザーまたはロールに適用されるため、アイデンティティベースのポリシーでは指定できません。JSON ポリシーで使用できるすべての要素について学ぶには、「IAM ユーザーガイド」の「IAM JSON ポリシーの要素のリファレンス」を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシーの例

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「AWS 請求を含むアイデンティティベースのポリシー」を参照してください。

Billing 内のリソースベースのポリシー

リソースベースのポリシーのサポート: なし

リソースベースのポリシーは、リソースに添付する JSON ポリシードキュメントです。リソースベースのポリシーには例として、IAM ロールの信頼ポリシーや Amazon S3 バケットポリシーがあげられます。リソースベースのポリシーをサポートするサービスでは、サービス管理者はポリシーを使用して特定のリソースへのアクセスを制御できます。ポリシーがアタッチされているリソースの場合、指定されたプリンシパルがそのリソースに対して実行できるアクションと条件は、ポリシーによって定義されます。リソースベースのポリシーでは、プリンシパルを指定する必要があります。プリンシパルには、アカウント、ユーザー、ロール、フェデレーティッドユーザー、または を含めることができます AWS のサービス。

クロスアカウントアクセスを有効にするには、アカウント全体、または別のアカウントの IAM エンティティをリソースベースのポリシーのプリンシパルとして指定します。リソースベースのポリシー

にクロスアカウントのプリンシパルを追加しても、信頼関係は半分しか確立されない点に注意してください。プリンシパルとリソースが異なる場合 AWS アカウント、信頼されたアカウントの IAM 管理者は、プリンシパルエンティティ (ユーザーまたはロール) にリソースへのアクセス許可も付与する必要があります。IAM 管理者は、アイデンティティベースのポリシーをエンティティにアタッチすることで権限を付与します。ただし、リソースベースのポリシーで、同じアカウントのプリンシパルへのアクセス権が付与されている場合は、アイデンティティベースのポリシーをさらに付与する必要はありません。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのクロスアカウントリソースアクセス」を参照してください。

Billing のポリシーアクション

ポリシーアクションのサポート:あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

JSON ポリシーの `Action` 要素にはポリシー内のアクセスを許可または拒否するために使用できるアクションが記述されます。ポリシーアクションの名前は通常、関連付けられた AWS API オペレーションと同じです。一致する API オペレーションのない許可のみのアクションなど、いくつかの例外があります。また、ポリシーに複数のアクションが必要なオペレーションもあります。これらの追加アクションは依存アクションと呼ばれます。

このアクションは関連付けられたオペレーションを実行するためのアクセス許可を付与するポリシーで使用されます。

請求アクションのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」のAWS 「請求で定義されるアクション」を参照してください。

Billing のポリシーアクションは、アクションの前に次のプレフィックスを使用します。

```
billing
```

単一のステートメントで複数のアクションを指定するには、アクションをカンマで区切ります。

```
"Action": [
      "billing:action1",
      "billing:action2"
```

```
        ]
```

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「AWS 請求を含むアイデンティティベースのポリシー」を参照してください。

Billing のポリシーリソース

ポリシーリソースのサポート: 一部

ポリシーリソースがサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

`Resource` JSON ポリシー要素はアクションが適用されるオブジェクトを指定します。ステートメントには`Resource` または `NotResource` 要素を含める必要があります。ベストプラクティスとして、Amazon リソースネーム (ARN) を使用してリソースを指定します。これは、リソースレベルの許可と呼ばれる特定のリソースタイプをサポートするアクションに対して実行できます。

オペレーションのリスト化など、リソースレベルの権限をサポートしないアクションの場合は、ステートメントがすべてのリソースに適用されることを示すために、ワイルドカード (*) を使用します。

```
"Resource": "*"
```

AWS Cost Explorer リソースタイプのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」の「AWS Cost Explorer のアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「AWS 請求を含むアイデンティティベースのポリシー」を参照してください。

Billing のポリシー条件キー

サービス固有のポリシー条件キーのサポート: あり

管理者は JSON AWS ポリシーを使用して、誰が何にアクセスできるかを指定できます。つまり、どのプリンシパルがどのリソースに対してどのような条件下でアクションを実行できるかということです。

Condition 要素 (または Condition ブロック) を使用すると、ステートメントが有効な条件を指定できます。Condition 要素はオプションです。イコールや未満などの 条件演算子 を使用して条件式を作成して、ポリシーの条件とリクエスト内の値を一致させることができます。

1 つのステートメントに複数の Condition 要素を指定する場合、または 1 つの Condition 要素に複数のキーを指定する場合、 AWS では AND 論理演算子を使用してそれらを評価します。1 つの条件キーに複数の値を指定すると、 は論理ORオペレーションを使用して条件 AWS を評価します。ステートメントの権限が付与される前にすべての条件が満たされる必要があります。

条件を指定する際にプレースホルダー変数も使用できます。例えば IAM ユーザーに、IAM ユーザー名がタグ付けされている場合のみリソースにアクセスできる権限を付与することができます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ポリシーの要素: 変数およびタグ」を参照してください。

AWS は、グローバル条件キーとサービス固有の条件キーをサポートしています。すべての AWS グローバル条件キーを確認するには、「IAM ユーザーガイド」のAWS 「グローバル条件コンテキストキー」を参照してください。

請求条件キー、アクション、リソースのリストを確認するには、「サービス認可リファレンス」のAWS 「請求の条件キー」を参照してください。

Billing のアイデンティティベースのポリシー例を確認するには、「AWS 請求を含むアイデンティティベースのポリシー」を参照してください。

Billing のアクセスコントロールリスト (ACL)

ACL のサポート: なし

アクセスコントロールリスト (ACL) は、どのプリンシパル (アカウントメンバー、ユーザー、またはロール) がリソースにアクセスするための許可を持つかを制御します。ACL はリソースベースのポリシーに似ていますが、JSON ポリシードキュメント形式は使用しません。

Billing での属性ベースのアクセス制御 (ABAC)

ABAC (ポリシー内のタグ) のサポート: 一部

ABAC (ポリシー内のタグ) がサポートされるのは、モニター、サブスクリプション、およびコストカテゴリのみです。

属性ベースのアクセス制御 (ABAC) は、属性に基づいてアクセス許可を定義する認可戦略です。では AWS、これらの属性はタグと呼ばれます。タグは、IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) および多くの AWS リソースにアタッチできます。エンティティとリソースのタグ付けは、ABAC の最初の手順です。その後、プリンシパルのタグがアクセスしようとしているリソースのタグと一致した場合にオペレーションを許可するように ABAC ポリシーをします。

ABAC は、急成長する環境やポリシー管理が煩雑になる状況で役立ちます。

タグに基づいてアクセスを管理するには、`aws:ResourceTag/key-name`、`aws:RequestTag/key-name`、または `aws:TagKeys` の条件キーを使用して、ポリシーの条件要素でタグ情報を提供します。

サービスがすべてのリソースタイプに対して 3 つの条件キーすべてをサポートする場合、そのサービスの値はありです。サービスが一部のリソースタイプに対してのみ 3 つの条件キーのすべてをサポートする場合、値は「部分的」になります。

ABAC の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ABAC 認可でアクセス許可を定義する」を参照してください。ABAC をセットアップする手順を説明するチュートリアルについては、「IAM ユーザーガイド」の「属性ベースのアクセスコントロール (ABAC) を使用する」を参照してください。

Billing での一時的な認証情報の使用

一時的な認証情報のサポート: あり

一部の AWS のサービス は、一時的な認証情報を使用してサインインすると機能しません。一時的な認証情報 AWS のサービス を使用する場合などの詳細については、IAM ユーザーガイドAWS のサービス の「IAM と連携する 」を参照してください。

ユーザー名とパスワード以外の AWS Management Console 方法で にサインインする場合、一時的な認証情報を使用します。たとえば、会社のシングルサインオン (SSO) リンク AWS を使用して にアクセスすると、そのプロセスによって一時的な認証情報が自動的に作成されます。また、ユーザーとしてコンソールにサインインしてからロールを切り替える場合も、一時的な認証情報が自動的に作成されます。ロールの切り替えに関する詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「ユーザーから IAM ロールに切り替える (コンソール)」を参照してください。

一時的な認証情報は、 AWS CLI または AWS API を使用して手動で作成できます。その後、これらの一時的な認証情報を使用して アクセスできます AWS。長期的なアクセスキーを使用する代わり

に、一時的な認証情報を動的に生成 AWS することをお勧めします。詳細については、「IAM の一時的セキュリティ認証情報」を参照してください。

Billing の転送アクセスセッション

転送アクセスセッション (FAS) のサポート: あり

IAM ユーザーまたはロールを使用して でアクションを実行すると AWS、プリンシパルと見なされます。一部のサービスを使用する際に、アクションを実行することで、別のサービスの別のアクションがトリガーされることがあります。FAS は、 を呼び出すプリンシパルのアクセス許可を AWS のサービス、ダウンストリームサービス AWS のサービス へのリクエストをリクエストする と組み合わせて使用します。FAS リクエストは、サービスが他の AWS のサービス またはリソースとのやり取りを完了する必要があるリクエストを受け取った場合にのみ行われます。この場合、両方のアクションを実行するためのアクセス許可が必要です。FAS リクエストを行う際のポリシーの詳細については、「転送アクセスセッション」を参照してください。

Billing のサービスロール

サービスロールのサポート: あり

サービスロールとは、サービスがユーザーに代わってアクションを実行するために引き受ける IAM ロールです。IAM 管理者は、IAM 内からサービスロールを作成、変更、削除できます。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「AWS のサービスに許可を委任するロールを作成する」を参照してください。

> **Warning**
>
> サービスロールのアクセス許可を変更すると、Billing の機能が破損する可能性があります。Billing で指示される場合以外は、サービスロールを編集しないでください。

Billing のサービスにリンクされたロール

サービスにリンクされたロールのサポート: なし

サービスにリンクされたロールは、 にリンクされたサービスロールの一種です AWS のサービス。サービスは、ユーザーに代わってアクションを実行するロールを引き受けることができます。サービスにリンクされたロールは に表示され AWS アカウント 、サービスによって所有されます。IAM 管理者は、サービスにリンクされたロールのアクセス許可を表示できますが、編集することはできません。

サービスにリンクされたロールの作成または管理の詳細については、「IAM と提携するAWS のサービス」を参照してください。表の「サービスリンクロール」列に Yes と記載されたサービスを見つけます。サービスにリンクされたロールに関するドキュメントをサービスで表示するには、[はい] リンクを選択します。

AWS 請求を含むアイデンティティベースのポリシー

デフォルトでは、ユーザーおよびロールには、Billing リソースを作成または変更するアクセス許可はありません。また、、 AWS Command Line Interface （ AWS CLI ） AWS Management Console、または AWS API を使用してタスクを実行することはできません。IAM 管理者は、リソースで必要なアクションを実行するための権限をユーザーに付与する IAM ポリシーを作成できます。その後、管理者はロールに IAM ポリシーを追加し、ユーザーはロールを引き継ぐことができます。

これらサンプルの JSON ポリシードキュメントを使用して、IAM アイデンティティベースのポリシーを作成する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM ポリシーを作成する (コンソール)」を参照してください。

各リソースタイプの ARNsAWS 「請求のアクション、リソース、および条件キー」を参照してください。

目次

- ポリシーに関するベストプラクティス
- Billing コンソールの使用
- 自分の権限の表示をユーザーに許可する
- Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用
  - AWS 請求コンソールアクション

ポリシーに関するベストプラクティス

アイデンティティベースのポリシーは、あるユーザーがアカウントの Billing リソースを作成、アクセス、削除できるどうかを決定します。これらのアクションを実行すると、 AWS アカウントに料金が発生する可能性があります。アイデンティティベースポリシーを作成したり編集したりする際には、以下のガイドラインと推奨事項に従ってください:

- AWS 管理ポリシーを開始し、最小特権のアクセス許可に移行 – ユーザーとワークロードにアクセス許可の付与を開始するには、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するAWS 管理ポリシーを使用します。これらは で使用できます AWS アカウント。ユースケースに固有の AWS カスタマー管理ポリシーを定義することで、アクセス許可をさらに減らすことをお勧めします。

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「AWS マネージドポリシー」または「ジョブ機能の AWS マネージドポリシー」を参照してください。

- 最小特権を適用する – IAM ポリシーで許可を設定する場合は、タスクの実行に必要な許可のみを付与します。これを行うには、特定の条件下で特定のリソースに対して実行できるアクションを定義します。これは、最小特権アクセス許可とも呼ばれています。IAM を使用して許可を適用する方法の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのポリシーとアクセス許可」を参照してください。
- IAM ポリシーで条件を使用してアクセスをさらに制限する - ポリシーに条件を追加して、アクションやリソースへのアクセスを制限できます。例えば、ポリシー条件を記述して、すべてのリクエストを SSL を使用して送信するように指定できます。条件を使用して、サービスアクションが などの特定の を通じて使用されている場合に AWS のサービス、サービスアクションへのアクセスを許可することもできます AWS CloudFormation。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM JSON ポリシー要素:条件」を参照してください。
- IAM Access Analyzer を使用して IAM ポリシーを検証し、安全で機能的な権限を確保する - IAM Access Analyzer は、新規および既存のポリシーを検証して、ポリシーが IAM ポリシー言語 (JSON) および IAM のベストプラクティスに準拠するようにします。IAM アクセスアナライザーは 100 を超えるポリシーチェックと実用的な推奨事項を提供し、安全で機能的なポリシーの作成をサポートします。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM Access Analyzer でポリシーを検証する」を参照してください。
- 多要素認証 (MFA) を要求する – で IAM ユーザーまたはルートユーザーを必要とするシナリオがある場合は AWS アカウント、MFA をオンにしてセキュリティを強化します。API オペレーションが呼び出されるときに MFA を必須にするには、ポリシーに MFA 条件を追加します。詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「MFA を使用した安全な API アクセス」を参照してください。

IAM でのベストプラクティスの詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのセキュリティのベストプラクティス」を参照してください。

Billing コンソールの使用

AWS 請求コンソールにアクセスするには、最小限のアクセス許可のセットが必要です。これらのアクセス許可により、 の請求リソースの詳細を一覧表示および表示できます AWS アカウント。最小限必要な許可よりも制限が厳しいアイデンティティベースのポリシーを作成すると、そのポリシーを持つエンティティ (ユーザーまたはロール) に対してコンソールが意図したとおりに機能しません。

AWS CLI または AWS API のみを呼び出すユーザーには、最小限のコンソールアクセス許可を付与する必要はありません。代わりに、実行しようとしている API オペレーションに一致するアクションのみへのアクセスが許可されます。

AWS 請求コンソールの有効化に必要なアクセス許可、管理者アクセス、読み取り専用アクセスなどのアクセスの詳細については、AWS マネージドポリシー「」セクションを参照してください。

自分の権限の表示をユーザーに許可する

この例では、ユーザーアイデンティティにアタッチされたインラインおよびマネージドポリシーの表示を IAM ユーザーに許可するポリシーの作成方法を示します。このポリシーには、コンソールで、または AWS CLI または AWS API を使用してプログラムでこのアクションを実行するアクセス許可が含まれています。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "ViewOwnUserInfo",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetUserPolicy",
                "iam:ListGroupsForUser",
                "iam:ListAttachedUserPolicies",
                "iam:ListUserPolicies",
                "iam:GetUser"
            ],
            "Resource": ["arn:aws:iam::*:user/${aws:username}"]
        },
        {
            "Sid": "NavigateInConsole",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "iam:GetGroupPolicy",
                "iam:GetPolicyVersion",
                "iam:GetPolicy",
                "iam:ListAttachedGroupPolicies",
                "iam:ListGroupPolicies",
                "iam:ListPolicyVersions",
                "iam:ListPolicies",
                "iam:ListUsers"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Billing のアイデンティティベースのポリシーの使用

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

> **Important**
>
> IAM ポリシーに加えて、[アカウント設定] コンソールページで請求情報とコスト管理コンソールへの IAM アクセスを付与する必要があります。
> 詳細については、以下の各トピックを参照してください。
>
> - 請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする
> - 「IAM ユーザーガイド」の「IAM チュートリアル: 請求コンソールへのアクセス権の付与」

このセクションを使用して、アイデンティティベースのポリシーのアカウント管理者が、アクセス許可ポリシーを IAM アイデンティティ (ロールおよびグループ) にアタッチし、Billing リソースに対して操作を実行するアクセス許可を付与する方法を確認します。

AWS アカウント および ユーザーの詳細については、IAM ユーザーガイドの「IAM とは」を参照してください。

カスタマー管理ポリシーを更新する方法の詳細については「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーの編集 (コンソール)」を参照してください。

AWS 請求コンソールアクション

この表は、Billing コンソールの情報とツールへのアクセスを付与するアクセス許可をまとめたものです。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、「AWS 請求ポリシーの例」を参照してください。

AWS コスト管理コンソールのアクションポリシーのリストについては、AWS「コスト管理ユーザーガイド」の「コスト管理アクションポリシー」を参照してください。 AWS

アクセス許可名	説明
`aws-portal:ViewBilling`	Billing and Cost Management コンソールページを表示するアクセス許可を付与します。
`aws-portal:ModifyBilling`	次の Billing and Cost Management コンソールページを変更するアクセス許可を付与します。 • 予算 • 一括請求 • 請求設定 • クレジット • 税金設定 • 支払い方法 • 発注書 • Cost Allocation Tags IAM ユーザーにこれらのコンソールページの変更を許可するには、`ModifyBilling` と `ViewBilling` の両方を許可する必要があります。ポリシーの例については請求情報の変更を IAM ユーザーに許可するを参照してください。

アクセス許可名	説明
aws-portal:ViewAccount	[アカウント設定] を表示するアクセス許可を付与します。
aws-portal:ModifyAccount	[アカウント設定] を変更するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーにアカウント設定の変更を許可するには、ModifyAccount と ViewAccount の両方を許可する必要があります。 [アカウント設定] コンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに明示的に拒否するポリシーの例については、「アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する」を参照してください。
aws-portal:ViewPaymentMethods	[支払い方法] を表示するアクセス許可を付与します。
aws-portal:ModifyPaymentMethods	[支払い方法] を変更するアクセス許可を付与します。 ユーザーに支払い方法の変更を許可するには、ModifyPaymentMethods と ViewPaymentMethods の両方を許可する必要があります。

アクセス許可名	説明
billing:ListBillingViews	利用可能な請求ビューのリストを取得するアクセス許可を付与します。これには、見積り請求グループに対応するカスタム請求ビューと請求ビューが含まれます。 カスタム請求ビューの詳細については、「Billing View によるコスト管理データアクセスの制御」を参照してください。 請求グループに関する詳細な情報は、「AWS Billing Conductor ユーザーガイド」の「請求グループの詳細の表示」を参照してください。
billing:CreateBillingView	カスタム請求ビューを作成するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については、「カスタム請求ビューの作成、管理、共有をユーザーに許可する」を参照してください。
billing:UpdateBillingView	カスタム請求ビューを更新するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については、「カスタム請求ビューの作成、管理、共有をユーザーに許可する」を参照してください。
billing:DeleteBillingView	カスタム請求ビューを削除するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については、「カスタム請求ビューの作成、管理、共有をユーザーに許可する」を参照してください。

アクセス許可名	説明
billing:GetBillingView	請求ビューの定義を取得するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については、「カスタム請求ビューの作成、管理、共有をユーザーに許可する」を参照してください。
sustainability:GetCarbonFootprintSummary	AWS Customer Carbon Footprint Tool とデータを表示するアクセス許可を付与します。これは、請求情報と AWS コスト管理コンソールのコストと使用状況レポートページからアクセスできます。 ポリシーの例については、「IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする」を参照してください。
cur:DescribeReportDefinitions	AWS コストと使用状況レポートを表示するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。

アクセス許可名	説明
cur:PutReportDefinition	AWS コストと使用状況レポートを作成するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する」を参照してください。
cur:DeleteReportDefinition	AWS コストと使用状況レポートを削除するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と請求情報とコスト管理コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除」を参照してください。

アクセス許可名	説明
cur:ModifyReportDefinition	AWS コストと使用状況レポートを変更するアクセス許可を付与します。 AWS コストと使用状況レポートのアクセス許可は、AWS コストと使用状況レポートサービス API と Billing and Cost Management コンソールを使用して作成されたすべてのレポートに適用されます。請求情報とコスト管理コンソールを使用してレポートを作成する場合、IAM ユーザーの許可を更新することをお勧めします。許可を更新しないと、ユーザーがコンソールのレポートページでレポートの表示、編集、削除を行うアクセス権を失うことになります。 ポリシーの例については、「AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除」を参照してください。
ce:CreateCostCategoryDefinition	コストカテゴリを作成するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例についてはCost Categories の表示と管理を参照してください。
ce:DeleteCostCategoryDefinition	コストカテゴリを削除するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例についてはCost Categories の表示と管理を参照してください。
ce:DescribeCostCategoryDefinition	コストカテゴリを表示するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例についてはCost Categories の表示と管理を参照してください。

アクセス許可名	説明
ce:ListCostCategoryDefinitions	コストカテゴリを一覧表示するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については Cost Categories の表示と管理を参照してください。
ce:UpdateCostCategoryDefinition	コストカテゴリを更新するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については Cost Categories の表示と管理を参照してください。
aws-portal:ViewUsage	AWS 使用状況レポートを表示するアクセス許可を付与します。 使用状況レポートの表示を IAM ユーザーに許可するには、ViewUsage と ViewBilling の両方を許可する必要があります。 ポリシーの例については レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する を参照してください。
payments:AcceptFinancingApplicationTerms	IAM ユーザーが融資レンダーが提供する条件に同意できるようにします。ユーザーは、支払いのために銀行口座の詳細を入力し、レンダーから提供された法的文書に署名する必要があります。
payments:CreateFinancingApplication	IAM ユーザーが新しい金融ローンを申請し、選択した金融オプションを参照できるようにします。
payments:GetFinancingApplication	IAM ユーザーが資金調達アプリケーションの詳細を取得できるようにします。ステータス、制限、条件、レンダー情報など。

アクセス許可名	説明
payments:GetFinancingLine	IAM ユーザーがローンの詳細を取得できるようにします。たとえば、ステータスと残高などです。
payments:GetFinancingLineWithdrawal	IAM ユーザーが引き出しの詳細を取得できるようにします。例えば、残高と支払いなどです。
payments:GetFinancingOption	IAM ユーザーが特定の資金調達オプションの詳細を取得できるようにします。
payments:ListFinancingApplications	IAM ユーザーがすべての融資アプリケーションの識別子をすべてのレンダーで取得できるようにします。
payments:ListFinancingLines	IAM ユーザーがすべての融資ローンの識別子をすべてのレンダーで取得できるようにします。
payments:ListFinancingLineWithdrawals	IAM ユーザーが特定のローンの既存の引き出しをすべて取得できるようにします。
payments:ListTagsForResource	支払い方法のタグを表示するアクセス許可を IAM ユーザーに付与するか拒否します。
payments:TagResource	支払い方法のタグを追加するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。
payments:UntagResource	支払い方法からタグを削除するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。
payments:UpdateFinancingApplication	IAM ユーザーが資金調達アプリケーションを変更し、レンダーから要求された追加情報を送信できるようにします。
payments:ListPaymentInstruments	登録済みの支払い方法を一覧表示するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。

アクセス許可名	説明
payments:UpdatePaymentInstrument	支払い方法を更新するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否します。
pricing:DescribeServices	AWS Price List Service API を介して AWS サービス製品と料金を表示するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、DescribeServices 、GetAttributeValues 、および GetProducts を許可する必要があります 。 ポリシーの例については製品と価格の検索を参照してください。
pricing:GetAttributeValues	AWS Price List Service API を介して AWS サービス製品と料金を表示するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、DescribeServices 、GetAttributeValues 、および GetProducts を許可する必要があります 。 ポリシーの例については製品と価格の検索を参照してください。

アクセス許可名	説明
pricing:GetProducts	AWS Price List Service API を介して AWS サービス製品と料金を表示するアクセス許可を付与します。 IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、DescribeServices 、GetAttributeValues 、および GetProducts を許可する必要があります 。 ポリシーの例については製品と価格の検索を参照してください。
purchase-orders:ViewPurchaseOrders	[発注書] を表示するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については発注書の表示と管理を参照してください。
purchase-orders:ModifyPurchaseOrders	[発注書] を変更するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については発注書の表示と管理を参照してください。
tax:GetExemptions	税金コンソールごとに免除と免除タイプを表示するための読み取り専用アクセス許可を付与します。 ポリシーの例についてはIAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可するを参照してください。

アクセス許可名	説明
tax:UpdateExemptions	米国の免税コンソールに免税申請をアップロードするアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については[IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する]を参照してください。
support:CreateCase	免税コンソールから免税申請をアップロードするために必要な、サポートケースを提出するアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については[IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する]を参照してください。
support:AddAttachmentsToSet	免税コンソールに免税証明書をアップロードするために必要なサポートケースにドキュメントをアタッチするアクセス許可を付与します。 ポリシーの例については[IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する]を参照してください。
customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証資格を取得するアクセス許可を付与します。
customer-verification:GetCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを取得するアクセス許可を付与します。

アクセス許可名	説明
customer-verification:CreateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを作成するアクセス許可を付与します。
customer-verification:UpdateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) 顧客検証データを更新するアクセス許可を付与します。
mapcredit:ListAssociatedPrograms	支払者アカウントの関連する Migration Acceleration Program 契約とダッシュボードを表示するアクセス許可を付与します。
mapcredit:ListQuarterSpend	支払者アカウントの Migration Acceleration Program の対象となる支出を表示するアクセス許可を付与します。
mapcredit:ListQuarterCredits	支払者アカウントの Migration Acceleration Program クレジットを表示するアクセス許可を付与します。
invoicing:BatchGetInvoiceProfile	請求書設定の AWS 請求書プロファイルを表示する読み取り専用アクセス許可を付与します。
invoicing:CreateInvoiceUnit	請求書設定の AWS 請求書単位を作成するアクセス許可を付与します。
invoicing:DeleteInvoiceUnit	請求書設定の AWS 請求書単位を削除するアクセス許可を付与します。
invoicing:GetInvoiceUnit	請求書 AWS 設定の請求書単位を表示する読み取り専用アクセス許可を付与します。

アクセス許可名	説明
invoicing:ListInvoiceUnits	請求書設定のすべての AWS 請求書単位を一覧表示するアクセス許可を付与します。
invoicing:ListTagsForResource	請求書設定の請求書ユニットのタグを表示するアクセス許可を IAM ユーザーに付与または拒否 AWS します。
invoicing:TagResource	請求書設定の請求書ユニットのタグを追加するアクセス許可を IAM ユーザーに付与または拒否 AWS します。
invoicing:UntagResource	請求書設定のために請求書ユニットからタグを削除するアクセス許可を IAM ユーザーに許可または拒否 AWS します。
invoicing:UpdateInvoiceUnit	請求書設定の AWS 請求書単位を更新する編集アクセス許可を付与します。

AWS 請求ポリシーの例

Note

次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。

- *aws-portal* 名前空間
- *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
- *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*

を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

Important

- これらのポリシーを使用するには、コンソールの [Account Settings (アカウント設定)] ページで請求情報とコスト管理コンソールへの IAM アクセスをアクティベートする必要があります。詳細については、「請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする」を参照してください。
- AWS 管理ポリシーを使用するには、「」を参照してくださいAWS マネージドポリシー。

このトピックには、アカウントの請求の情報とツールへのアクセスを制御するために IAM ユーザーまたはグループに適用できるポリシーの例が含まれています。以下の基本ルールは、請求情報とコスト管理の IAM ポリシーに適用されます。

- `Version` は常に `2012-10-17` です。
- `Effect` は常に `Allow` または `Deny` です。
- `Action` はアクションまたはワイルドカード (*) の名前です。

  アクションプレフィックスは、 AWS 予算`budgets`、`cur` AWS コストと使用状況レポート、`aws-portal` AWS 請求、または Cost Explorer `ce`用です。
- `Resource` は常に AWS 請求*用です。

  `budget` リソースで実行されるアクションの場合、予算の Amazon リソースネーム (ARN) を指定します。
- 1 つのポリシーで複数のステートメントを使用できます。

AWS コスト管理コンソールのアクションポリシーのリストについては、AWS 「コスト管理ユーザーガイド」の「コスト管理ポリシーの例」を参照してください。 AWS

トピック

- 請求情報の表示を IAM ユーザーに許可する
- IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする

- レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する
- 請求とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する
- メンバーアカウントの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する
- 特定の IAM ユーザーとロールの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する
- IAM ユーザーが請求情報を表示することを許可するが、カーボンフットプリントレポートへのアクセスは拒否する
- IAM ユーザーがカーボンフットプリントレポートにアクセスすることを許可するが、請求情報へのアクセスは拒否する
- AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、請求情報とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する
- アカウント設定を除き、請求とコスト管理コンソールの表示を IAM ユーザーに許可する
- 請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する
- アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する
- レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする
- 製品と価格の検索
- コストと使用状況の表示
- AWS リージョンの有効化と無効化
- Cost Categories の表示と管理
- AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除
- 発注書の表示と管理
- Cost Explorer 設定ページの表示と更新
- Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除
- 予約およびSavings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除
- AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可する
- AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する
- AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスの適用を許可する
- IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する

- (請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報への読み取り専用アクセスを許可する
- (請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報の表示、作成、更新を許可する
- Billing コンソールで AWS Migration Acceleration Program 情報を表示する
- 請求コンソールで AWS 請求書設定へのアクセスを許可する

請求情報の表示を IAM ユーザーに許可する

アカウントの機密扱い情報に対する IAM ユーザーアクセスを与えずに IAM ユーザーが請求情報を表示できるようにするには、次のサンプルポリシーのようなポリシーを使用します。このようなポリシーにより、ユーザーはパスワードおよびアカウントアクティビティレポートにアクセスできなくなります。このポリシーでは、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を IAM ユーザーに与えますが、アカウント設定コンソールページとレポートコンソールページに対するアクセス権は与えません。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 一括請求
- 詳細設定
- クレジット
- 前払い

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        }
```

```
    ]
}
```

IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示できるようにする

IAM ユーザーが請求情報とカーボンフットプリントレポートを表示することを許可するには、次の例のようなポリシーを使用します。このポリシーにより、ユーザーはパスワードおよびアカウントアクティビティレポートにアクセスできなくなります。このポリシーでは、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可を IAM ユーザーに与えますが、アカウント設定コンソールページとレポートコンソールページに対するアクセス権は与えません。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書
- 一括請求
- 詳細設定
- クレジット
- 前払い
- AWS コストと使用状況レポートページの AWS Customer Carbon Footprint Tool セクション

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        },
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

レポートコンソールページへのアクセスを IAM ユーザーに許可する

コンソールの [Reports (レポート)] ページにアクセスして、アカウントアクティビティ情報が含まれている使用状況レポートを表示することを IAM ユーザーに許可するには、次の例のようなポリシーを使用します。

各アクションの定義については、「AWS 請求コンソールアクション」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewUsage",
                "aws-portal:ViewBilling",
                "cur:DescribeReportDefinitions",
                "cur:PutReportDefinition",
                "cur:DeleteReportDefinition",
                "cur:ModifyReportDefinition"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

請求とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する

すべての請求情報とコスト管理コンソールページへの IAM ユーザーアクセスを明示的に拒否するには、次の例のようなポリシーを使用します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
```

```
            "Action": "aws-portal:*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

メンバーアカウントの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する

コストと使用状況のデータへのメンバーアカウント (連結アカウント) のアクセスを制限するには、管理アカウント (支払いアカウント) を使用して Cost Explorer の設定タブにアクセスし、[連結アカウントのアクセス] のチェックを外します。これにより、メンバーアカウントの IAM ユーザーまたはロールが持つ IAM アクションに関係なく、Cost Explorer (AWS Cost Management) コンソール、Cost Explorer API、コンソールホームページのコストと AWS 使用状況ウィジェットからのコストと使用状況データへのアクセスが拒否されます。

特定の IAM ユーザーとロールの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否する

特定の IAM ユーザーとロールの AWS コンソールのコストと使用状況ウィジェットへのアクセスを拒否するには、以下のアクセス許可ポリシーを使用します。

> **Note**
>
> このポリシーを IAM ユーザーまたはロールに追加すると、Cost Explorer (AWS コスト管理) コンソールと Cost Explorer APIsも拒否されます。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "ce:*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
```

```
}
```

IAM ユーザーが請求情報を表示することを許可するが、カーボンフットプリントレポートへのアクセスは拒否する

請求情報とコスト管理コンソールで請求情報の両方を IAM ユーザーに許可しますが、 AWS Customer Carbon Footprint Tool へのアクセスは許可しません。このツールは、 AWS コストと使用状況レポートページにあります。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        },
        {"Effect": "Deny",
            "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

IAM ユーザーがカーボンフットプリントレポートにアクセスすることを許可するが、請求情報へのアクセスは拒否する

IAM ユーザーが AWS コストと使用状況レポート ページの AWS Customer Carbon Footprint Tool にアクセスできるようにしますが、請求情報とコスト管理コンソールで請求情報を表示するためのアクセスを拒否するには。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {"Effect": "Deny",
```

```
            "Action": "aws-portal:ViewBilling",
            "Resource": "*"
        },
        {"Effect": "Allow",
            "Action": "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS サービスへのフルアクセスを許可するが、請求情報とコスト管理コンソールへの IAM ユーザーアクセスを拒否する

コンソールのすべてへの IAM ユーザーアクセスを拒否するには、次のポリシーを使用します。 AWS Identity and Access Management (IAM) へのユーザーアクセスを拒否して、請求情報とツールへのアクセスを制御するポリシーへのアクセスを防止します。

> **Important**
>
> このポリシーは、一切のアクションを許可しません。特定のアクションを許可する他のポリシーと組み合わせてこのポリシーを使用します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:*",
                "iam:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

アカウント設定を除き、請求とコスト管理コンソールの表示を IAM ユーザーに許可する

このポリシーでは、すべての請求情報とコスト管理コンソールへの読み取り専用アクセスを許可します。これには、支払い方法およびレポートコンソールページが含まれます。ただし、このポリシーは、アカウント設定ページへのアクセスを拒否します。これは、このポリシーがアカウントのパスワード、連絡先情報、およびセキュリティの質問を保護することを意味します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:View*",
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Deny",
            "Action": "aws-portal:*Account",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

請求情報の変更を IAM ユーザーに許可する

請求情報とコスト管理コンソールのアカウント請求情報の変更を IAM ユーザーに許可するには、請求情報を表示する許可も IAM ユーザーに与える必要があります。次のポリシー例では、一括請求、設定、およびクレジットコンソールページの変更を IAM ユーザーに許可します。さらに、次の請求情報とコスト管理コンソールページを表示する許可も IAM ユーザーに与えます。

- ダッシュボード
- Cost Explorer
- 請求書
- 注文と請求書

- 前払い

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": "aws-portal:*Billing",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

アカウント設定へのアクセスは拒否するが、その他の請求および使用情報へのフルアクセスは許可する

アカウントのパスワード、連絡先情報、セキュリティの質問を保護するには、アカウント設定への IAM ユーザーのアクセスを拒否しますが、&AB; コンソールのその他の機能に対するフルアクセスは引き続き有効にできます。以下は、ポリシーの例です。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Billing",
                "aws-portal:*Usage",
                "aws-portal:*PaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Effect": "Deny",
```

```
            "Action": "aws-portal:*Account",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

レポートを Amazon S3 バケットにデポジットする

次のポリシーでは、 AWS アカウントと Amazon S3 バケットの両方を所有している場合、Billing and Cost Management が詳細な AWS 請求書を Amazon S3 バケットに保存することを許可します。このポリシーは、IAM ユーザーではなく Amazon S3 バケットに適用する必要があります。つまり、これはリソースベースのポリシーであり、ユーザーベースのポリシーではないからです。請求書にアクセスする必要がない IAM ユーザーに対しては、バケットへの IAM ユーザーアクセスを拒否することをお勧めします。

amzn-s3-demo-bucket1 をバケットの名前に置き換えます。

詳細については、Amazon Simple Storage Service ユーザーガイドの「バケットポリシーとユーザーポリシーの使用」を参照してください。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "billingreports.amazonaws.com"
    },
    "Action": [
      "s3:GetBucketAcl",
      "s3:GetBucketPolicy"
    ],
    "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1"
  },
  {
    "Effect": "Allow",
    "Principal": {
      "Service": "billingreports.amazonaws.com"
```

```
    },
    "Action": "s3:PutObject",
    "Resource": "arn:aws:s3:::amzn-s3-demo-bucket1/*"
  }
  ]
}
```

製品と価格の検索

IAM ユーザーが AWS Price List Service API を使用できるようにするには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。

このポリシーは、 AWS 両方の Price List Bulk API AWS Price List Query API を使用するアクセス許可を付与します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "pricing:DescribeServices",
                "pricing:GetAttributeValues",
                "pricing:GetProducts",
                "pricing:GetPriceListFileUrl",
                "pricing:ListPriceLists"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        }
    ]
}
```

コストと使用状況の表示

IAM ユーザーが AWS Cost Explorer API を使用できるようにするには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ce:*"
      ],
      "Resource": [
        "*"
      ]
    }
  ]
}
```

AWS リージョンの有効化と無効化

ユーザーにリージョンの有効化と無効化を許可する IAM ポリシーの例については、IAM ユーザーガイドのAWS「: AWS リージョンの有効化と無効化を許可する」を参照してください。

Cost Categories の表示と管理

Cost Categories の使用、表示、および管理を IAM ユーザーに許可するには、次のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:GetCostAndUsage",
        "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
        "ce:UpdateCostCategoryDefinition",
```

```
        "ce:CreateCostCategoryDefinition",
        "ce:DeleteCostCategoryDefinition",
        "ce:ListCostCategoryDefinitions",
        "ce:TagResource",
        "ce:UntagResource",
        "ce:ListTagsForResource",
        "pricing:DescribeServices"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS コストと使用状況レポートの作成、表示、編集、または削除

このポリシーでは、API を使用した `sample-report` の作成、表示、編集、または削除を IAM ユーザーに許可します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "ManageSampleReport",
            "Effect": "Allow",
   "Action": [
                "cur:PutReportDefinition",
                "cur:DeleteReportDefinition",
                "cur:ModifyReportDefinition"
            ],
            "Resource": "arn:aws:cur:*:123456789012:definition/sample-report"
        },
        {
            "Sid": "DescribeReportDefs",
            "Effect": "Allow",
            "Action": "cur:DescribeReportDefinitions",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

発注書の表示と管理

このポリシーでは、発注書の表示と管理を IAM ユーザーに許可し、以下のポリシーを使用してアクセス権を付与します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling",
                "purchase-orders:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Cost Explorer 設定ページの表示と更新

このポリシーでは、Cost Explorer 設定ページの表示と更新を IAM ユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:UpdatePreferences"
       ],
      "Resource": "*"
    }
```

```
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、設定ページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:GetPreferences",
                "ce:UpdatePreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、設定ページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
```

```
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:UpdatePreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、Cost Explorer レポートページを使用した表示、作成、更新、および削除を IAM ユーザーに許可します。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateReport",
        "ce:UpdateReport",
        "ce:DeleteReport"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
```

```
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、レポートページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:DescribeReport",
                "ce:CreateReport",
                "ce:UpdateReport",
                "ce:DeleteReport"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、レポートページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
```

```
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:CreateReport",
                "ce:UpdateReport",
                "ce:DeleteReport"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

予約およびSavings Plans アラートの表示、作成、更新、および削除

このポリシーでは、予約の失効アラートおよびSavings Plansアラートの表示、作成、更新、および削除を IAM ユーザーに許可します。予約の失効アラートまたは Savings Plans アラートを編集するには、次の 3 つのきめ細かなアクションすべてが必要です: `ce:CreateNotificationSubscription`、`ce:UpdateNotificationSubscription`、および `ce:DeleteNotificationSubscription`。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Sid": "VisualEditor0",
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "aws-portal:ViewBilling",
        "ce:CreateNotificationSubscription",
```

```
        "ce:UpdateNotificationSubscription",
        "ce:DeleteNotificationSubscription"
       ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよびSavings Plansページを表示または編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:DescribeNotificationSubscription",
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:DeleteNotificationSubscription"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

次のポリシーでは、Cost Explorer の表示を IAM ユーザーに許可しますが、予約の失効アラートおよび Savings Plans ページを編集する許可は拒否します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewBilling"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:DeleteNotificationSubscription"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可する

IAM ユーザーに AWS コスト異常検出への読み取り専用アクセスを許可するには、次のポリシーを使用してアクセスを許可します。 `ce:ProvideAnomalyFeedback`は読み取り専用アクセスの一部としてオプションです。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Action": [
        "ce:Get*"
```

```
      ],
      "Effect": "Allow",
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs の適用を許可する

このポリシーにより、 AWS Budgets はユーザーに代わって IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCPs) を適用できます。

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "iam:AttachGroupPolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
        "organizations:DetachPolicy"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

AWS Budgets に IAM ポリシーと SCPs、ターゲット EC2 インスタンスと RDS インスタンスの適用を許可する

このポリシーにより、 AWS Budgets は IAM ポリシーとサービスコントロールポリシー (SCPs) を適用し、ユーザーに代わって Amazon EC2 および Amazon RDS インスタンスをターゲットにすることができます。

信頼ポリシー

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Principal": {
        "Service": "budgets.amazonaws.com"
      },
      "Action": "sts:AssumeRole"
    }
  ]
}
```

アクセス権限ポリシー

JSON

```
{
  "Version": "2012-10-17",
  "Statement": [
    {
      "Effect": "Allow",
      "Action": [
        "ec2:DescribeInstanceStatus",
        "ec2:StartInstances",
        "ec2:StopInstances",
        "iam:AttachGroupPolicy",
        "iam:AttachRolePolicy",
        "iam:AttachUserPolicy",
```

```
        "iam:DetachGroupPolicy",
        "iam:DetachRolePolicy",
        "iam:DetachUserPolicy",
        "organizations:AttachPolicy",
        "organizations:DetachPolicy",
        "rds:DescribeDBInstances",
        "rds:StartDBInstance",
        "rds:StopDBInstance",
        "ssm:StartAutomationExecution"
      ],
      "Resource": "*"
    }
  ]
}
```

IAM ユーザーに米国の免税の表示と サポート ケースの作成を許可する

このポリシーにより、IAM ユーザーは米国の免税を表示し、免税コンソールで免税証明書をアップロードする サポート ケースを作成できます。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Action": [
                "aws-portal:*",
                "tax:GetExemptions",
                "tax:UpdateExemptions",
                "support:CreateCase",
                "support:AddAttachmentsToSet"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ],
            "Effect": "Allow"
        }
    ]
}
```

(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報への読み取り専用アクセスを許可する

このポリシーでは、IAM ユーザーに顧客検証情報への読み取り専用アクセスを許可します。

各アクションの定義については、「AWS 請求コンソールアクション」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility",
            "customer-verification:GetCustomerVerificationDetails"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

(請求先住所または連絡先住所がインドにあるお客様向け) 顧客確認情報の表示、作成、更新を許可する

このポリシーでは、IAM ユーザーに顧客検証情報の管理を許可します。

各アクションの定義については、「AWS 請求コンソールアクション」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "customer-verification:CreateCustomerVerificationDetails",
            "customer-verification:UpdateCustomerVerificationDetails",
            "customer-verification:GetCustomerVerificationEligibility",
            "customer-verification:GetCustomerVerificationDetails"
```

```
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Billing コンソールで AWS Migration Acceleration Program 情報を表示する

このポリシーにより、IAM ユーザーは Billing コンソールで支払者アカウントの Migration Acceleration Program 契約、クレジット、および対象となる支出を表示できます。

各アクションの定義については、「AWS 請求コンソールアクション」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "mapcredits:ListQuarterSpend",
            "mapcredits:ListQuarterCredits",
            "mapcredits:ListAssociatedPrograms"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

請求コンソールで AWS 請求書設定へのアクセスを許可する

このポリシーは、請求コンソールで IAM ユーザーに AWS 請求設定へのアクセスを許可します。

各アクションの定義については、「AWS 請求コンソールアクション」を参照してください。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "invoicing:ListInvoiceUnits",
                "invoicing:GetInvoiceUnit",
                "invoicing:CreateInvoiceUnit",
                "invoicing:UpdateInvoiceUnit",
                "invoicing:DeleteInvoiceUnit",
                "invoicing:BatchGetInvoiceProfile"
            ],
            "Resource": [
                "*"
            ]
        }
    ]
}
```

AWS Billing向けのアクセスコントロールの移行

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

きめ細かなアクセスコントロールを使用して、組織内の個人に AWS Billing and Cost Management サービスへのアクセスを提供できます。例えば、Billing and Cost Management コンソールへのアクセスを提供せずに Cost Explorer へのアクセスを提供できます。

きめ細かなアクセス制御を使用するには、ポリシーを aws-portal から新しい IAM アクションに移行する必要があります。

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) の次の IAM アクションは、この移行で更新する必要があります。

- aws-portal:ViewAccount
- aws-portal:ViewBilling
- aws-portal:ViewPaymentMethods
- aws-portal:ViewUsage
- aws-portal:ModifyAccount
- aws-portal:ModifyBilling
- aws-portal:ModifyPaymentMethods
- purchase-orders:ViewPurchaseOrders
- purchase-orders:ModifyPurchaseOrders

[影響を受けるポリシー] ツールを使用して影響を受ける IAM ポリシーを特定する方法については、「影響を受けるポリシーツールの使用方法」を参照してください。

> **Note**
>
> API アクセス AWS Cost Explorer、 AWS コストと使用状況レポート、および AWS Budgets は影響を受けません。
> 請求情報とコスト管理コンソールへのアクセスをアクティベートする 変更しないでください。

トピック

- アクセス許可の管理
- コンソールを使用してポリシーを一括移行する
- 影響を受けるポリシーツールの使用方法
- スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する
- 詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング

アクセス許可の管理

AWS Billing は AWS Identity and Access Management (IAM) サービスと統合されるため、組織内の誰が請求情報とコスト管理コンソールの特定のページにアクセスできるかを制御できます。この対象としては、支払い、請求、クレジット、無料利用枠、支払いの詳細設定、一括請求、税金設定、アカウントページなど各機能のページが含まれます。

Billing and Cost Management コンソールをきめ細かく制御するには、以下の IAM アクセス許可を使用してください。

アクセス許可を詳細に設定するには、`aws-portal` ポリシーを `account`、`billing`、`payments`、`freetier`、`invoicing`、`tax`、`consolidatedbilling` に置き換えて使用します。

加えて、`purchase-orders:ViewPurchaseOrders` および`purchase-orders:ModifyPurchaseOrders` は、`purchase-orders`、`account`、および `payments` での、きめ細かなアクションで置き換えます。

きめ細かな AWS Billing アクションの使用

次の表では、請求の情報へのアクセスを、IAM ユーザーおよびロールに対し付与する (あるいは拒否する) ための許可をまとめています。これらのアクセス許可を使用するポリシーの例については、「AWS 請求ポリシーの例」を参照してください。

AWS Cost Management コンソールのアクションのリストについては、AWS Cost Management 「 ユーザーガイド」のAWS Cost Management 「 アクションポリシー」を参照してください。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

請求ホーム	`account:GetAccount Information`
	
	`billing:Get*`
	
	`payments:List*`
	
	`tax:List*`
		[ホーム] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは読み取り専用のアクセス許可です。
		
		Note
		これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
		許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
請求書	account:GetAccountInformation billing:Get* consolidatedbilling:Get* consolidatedbilling:List* invoicing:List* payments:List*	[請求] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは読み取り専用のアクセス許可です。 Note これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	invoicing:Get*	[請求] ページから請求書をダウンロードするアクセス許可を付与します。 Note これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`cur:Get*`	[請求] ページから CSV レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	`billing:ListBillingViews`	作成された各 AWS Billing Conductor 請求グループの説明ARNと を表示するアクセス許可を付与します。これは、特定のグループ向けのレポート設定を作成する際に必要です。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

支払い	`account:GetAccountInformation`
	
	`billing:Get*`
	
	`payments:Get*`
	
	`payments:List*`
		[支払い] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。これらは、[支払期限]、[未適用資金]、[トランザクション]、および [前払い] タブに対する読み取り専用のアクセス許可です。
		
		Note
		これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`invoicing:Get*`	[トランザクション] タブから請求書をダウンロードするアクセス許可 を付与します。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	payments:Update*	前払いの使用、および支払いの詳細設定を行うアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	payments:Make* invoicing:Get*	前払いでの資金請求書類の作成、および支払いを行うためのアクセス許可を付与します。
クレジット	billing:Get* account:GetAccount Information	[クレジット] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。
	billing:RedeemCred its	クレジットを引き換えるアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
発注書	account:GetAccountInformation account:GetContactInformation payments:Get* payments:List* purchase-orders:ListPurchaseOrders purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices tax:ListTaxRegistrations consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	[発注書] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。
	purchase-orders:GetPurchaseOrder	発注書の詳細を閲覧するアクセス許可を付与します。
	purchase-orders:AddPurchaseOrder	発注書を追加するアクセス許可を付与します。
	purchase-orders:DeletePurchaseOrder	発注書を削除するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`purchase-orders:UpdatePurchaseOrder`
	
	`purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus`
		発注書と発注状況を更新するためのアクセス許可を付与します。

AWS コストと使用状況レポート	`cur:GetClassic*`
	
	`cur:DescribeReportDefinitions`
		コストと使用状況レポートページで AWS CUR レポートのリストを表示するアクセス許可を付与します。 AWS
		
		Note
		`cur:GetClassic*` はコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`billing:ListBillingViews`	AWS Billing Conductor で作成された各請求グループのARNと説明を表示するアクセス許可を付与します。これは、特定のグループ向けのレポート設定を作成する際に必要です。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`s3:ListAllMyBuckets`
	
	`s3:CreateBucket`
	
	`s3:PutBucketPolicy`
	
	`s3:GetBucketLocation`
	
	`cur:Validate*`
	
	`cur:PutReportDefinition`
		新しい CUR AWS レポートの作成に必要なアクセス許可アクションを付与します。
		
		Note
		`cur:Validate*` はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`cur:Validate*`
	
	`s3:CreateBucket`
	
	`s3:ListAllMyBuckets`
	
	`s3:PutBucketPolicy`
	
	`s3:GetBucketLocation`
	
	`cur:ModifyReportDefinition`
		AWS CUR 定義を編集するアクセス許可を付与します。
		
		Note
		`cur:Validate*` はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`cur:DeleteReportDefinition`	CUR AWS レポートを削除するアクセス許可を付与します。
	`cur:GetUsage*`	使用状況レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します。
	`sustainability:GetCarbonFootprintSummary`	AWS アカウントのサステナビリティデータを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
コストカテゴリ	account:GetAccountInformation ce:ListCostCategoryDefinitions ce:DescribeCostCategoryDefinition ce:GetCostAndUsage ce:ListTagsForResource consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	コストカテゴリを閲覧するアクセス許可を付与します。 **Note** account:GetAccountInformation はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	billing:Get* ce:TagResource ce:ListCostAllocationTags consolidatedbilling:List* ce:CreateCostCategoryDefinition pricing:DescribeServices ce:GetDimensionValues ce:GetTags	コストカテゴリを作成するアクセス許可を付与します。 **Note** billing:Get* および consolidatedbilling:List* は、コンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	ce:UpdateCostCategoryDefinition ce:UntagResource	コストカテゴリを変更するアクセス許可を付与します。
	ce:DeleteCostCategoryDefinition	コストカテゴリを削除するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
コスト配分タグ	account:GetAccountInformation ce:ListCostAllocationTags consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	コスト配分タグを表示するアクセス許可を付与します。
	ce:UpdateCostAllocationTagsStatus	コスト配分タグを有効または無効にするアクセス許可を付与します。
AWS Budgets	budgets:ViewBudget budgets:DescribeBudgetActionsForBudget budgets:DescribeBudgetAction budgets:DescribeBudgetActionsForAccount budgets:DescribeBudgetActionHistories	[予算] ページを閲覧するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	budgets:CreateBudgetAction budgets:ExecuteBudgetAction budgets:DeleteBudgetAction budgets:UpdateBudgetAction budgets:ModifyBudget	予算および予算アクションを作成、削除、変更するアクセス許可を付与します。
無料利用枠	billing:Get* freetier:Get*	無料利用枠の使用制限と過去 1 か月の使用状況を閲覧するアクセス許可を付与します。
請求設定	account:GetAccountInformation billing:Get* consolidatedbilling:Get* consolidatedbilling:List* cur:GetClassic* cur:Validate* freetier:Get* invoicing:Get*	[請求の詳細設定] ページのすべてのセクションを表示するためのアクションに必要なアクセス許可を付与します。 **Note** これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`billing:Update*`
	
	`freetier:Put*`
	
	`cur:PutClassic*`
	
	`s3:ListAllMyBuckets`
	
	`s3:CreateBucket`
	
	`s3:PutBucketPolicy`
	
	`s3:GetBucketLocation`
	
	`invoicing:Put*`
		[請求の詳細設定] ページで次の変更を行うためのアクセス許可を付与します。
		
		• RI または Savings Plans へのクレジット共有の有効化と無効化
		• [Free Tier Usage Alert] (無料利用枠の使用アラート) の設定
		• [detailed billing reports] (請求明細レポート) での配信および詳細の設定
		• [PDF invoice by email] (PDF 請求書のメール送信) の設定または更新
		
		Note
		`billing:Update*` 、`freetier:Put*` 、`cur:PutClassic*` はコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
支払いの詳細設定	account:GetAccountInformation billing:Get* payments:GetPaymentInstrument payments:List* payments:GetPaymentStatus	[支払いの詳細設定] ページを表示するアクセス許可を付与します。 **Note** これらはコンソール専用のアクセス許可です。これらのアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	payments:Update* payments:Make* payments:CreatePaymentInstrument payments:DeletePaymentInstrument	支払い方法を作成または更新するアクセス許可を付与します。 **Note** payments:Make* は、支払い用のカードで多要素認証 (MFA) が要求される場合にのみ必要です。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`tax:PutTaxRegistration`
	`tax:Delete*`
	`payments:UpdatePaymentPreferences`
	`payments:CreatePaymentInstrument`
		税登録番号を更新または削除するアクセス許可を付与します。

	`payments:Update*`	支払いプロファイルを更新するアクセス許可を付与します **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
税金設定	`tax:List*` `tax:Get*`	税金設定を表示するアクセス許可を付与します。
	`tax:BatchPut*`	税金設定を更新するアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	`tax:Put*`	税継承を設定するアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明

	`tax:UpdateExemptions`
	
	`support:CreateCase`
	
	`support:AddAttachmentsToSet`
		免税を更新するアクセス許可を付与します。

アカウント	`account:Get*`
	
	`account:List*`
	
	`billing:Get*`
	
	`payments:List*`
		[アカウント設定] を表示するアクセス許可を付与します。
		
		Note
		`billing:Get*` はコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

	`account:CloseAccount`	閉じるアクセス許可を付与します AWS アカウント。 **Note** これはコンソール専用のアクセス許可です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	account:DisableRegion	アカウントページで AWS リージョンをオフにするアクセス許可を付与します。
	account:EnableRegion	アカウントページで AWS リージョンを有効にするアクセス許可を付与します。
	account:PutAlternateContact	アカウントの代替連絡先を登録するアクセス許可を付与します。
	account:PutChallengeQuestions	アカウントの秘密の質問を設定するアクセス許可を付与します。 **Note** このアクセス許可はコンソール専用です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	account:PutContactInformation	アカウント用に、住所など主な連絡先情報を設定または登録するためのアクションに必要なアクセス許可を付与します。

Billing and Cost Management コンソールの機能名	IAM アクション	説明
	`billing:PutContractInformation`	アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用される場合に、アカウント契約情報を設定するためのアクセス許可を付与します。取得可能な情報としては、エンドユーザーの組織名、契約番号、発注書番号などがあります。 **Note** このアクセス許可はコンソール専用です。このアクセス許可に対しては、API によりアクセスすることはできません。
	`billing:Update*`	[アカウント] ページの [IAM アクセスのアクティブ化] 設定で、有効化または無効化を行うアクションに必要なアクセス許可を付与します。
	`payments:Update*`	前払い、通貨設定、請求先の詳細と住所、支払い条件を設定するためのアクセス許可を付与します。

コンソールを使用してポリシーを一括移行する

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

このセクションでは、AWS Billing and Cost Management コンソールを使用してレガシーポリシーを Organizations アカウントまたは標準アカウントから詳細なアクションに一括で移行する方法について説明します。コンソールを使用してレガシーポリシーの移行を完了するには、次の 2 つの方法があります。

AWS が推奨する移行プロセスの使用

これは、 AWSによってマッピングされた詳細なアクションにレガシーアクションを移行する、合理化された単一アクションプロセスです。詳細については、「推奨されるアクションを使用してレガシーポリシーを一括移行する」を参照してください。

カスタマイズされた移行プロセスの使用

このプロセスにより、一括移行 AWS 前に が推奨するアクションを確認および変更したり、組織内のどのアカウントを移行するかをカスタマイズしたりできます。詳細については、「レガシーポリシーを一括移行するためのアクションのカスタマイズ」を参照してください。

コンソールを使用した一括移行の前提条件

どちらの移行オプションでも、 が割り当てたレガシー IAM アクションにきめ細かなアクション AWS を推奨できるように、コンソールで同意する必要があります。これを行うには、ポリシーの更新を続行するには、次の IAM アクションを使用して IAM プリンシパルとして AWS アカウントにログインする必要があります。

Management account

```
// Required to view page
"ce:GetConsoleActionSetEnforced",
"aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced",
"purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced",
"ce:UpdateConsoleActionSetEnforced",
"aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced",
"purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced",
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"s3:CreateBucket",
"s3:DeleteObject",
"s3:ListAllMyBuckets",
"s3:GetObject",
"s3:PutObject",
"s3:ListBucket",
"s3:PutBucketAcl",
"s3:PutEncryptionConfiguration",
"s3:PutBucketVersioning",
"s3:PutBucketPublicAccessBlock",
"lambda:GetFunction",
"lambda:DeleteFunction",
"lambda:CreateFunction",
"lambda:InvokeFunction",
"lambda:RemovePermission",
"scheduler:GetSchedule",
"scheduler:DeleteSchedule",
"scheduler:CreateSchedule",
"cloudformation:ActivateOrganizationsAccess",
"cloudformation:CreateStackSet",
"cloudformation:CreateStackInstances",
"cloudformation:DescribeStackSet",
"cloudformation:DescribeStackSetOperation",
"cloudformation:ListStackSets",
"cloudformation:DeleteStackSet",
"cloudformation:DeleteStackInstances",
```

```
"cloudformation:ListStacks",
"cloudformation:ListStackInstances",
"cloudformation:ListStackSetOperations",
"cloudformation:CreateStack",
"cloudformation:UpdateStackInstances",
"cloudformation:UpdateStackSet",
"cloudformation:DescribeStacks",
"ec2:DescribeRegions",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRole",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"iam:GenerateServiceLastAccessedDetails",
"iam:GetServiceLastAccessedDetails",
"iam:GenerateOrganizationsAccessReport",
"iam:GetOrganizationsAccessReport",
"organizations:ListAccounts",
"organizations:ListPolicies",
"organizations:DescribePolicy",
"organizations:UpdatePolicy",
"organizations:DescribeOrganization",
"organizations:ListAccountsForParent",
"organizations:ListRoots",
"sts:AssumeRole",
"sso:ListInstances",
"sso:ListPermissionSets",
"sso:GetInlinePolicyForPermissionSet",
"sso:DescribePermissionSet",
"sso:PutInlinePolicyToPermissionSet",
"sso:ProvisionPermissionSet",
"sso:DescribePermissionSetProvisioningStatus",
"notifications:ListNotificationHubs" // Added to ensure Notifications API does not
 return 403
```

Member account or standard account

```
// Required to view page
"ce:GetConsoleActionSetEnforced",
"aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced",
"purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced",
"ce:UpdateConsoleActionSetEnforced", // Not needed for member account
"aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced", // Not needed for member account
"purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced", // Not needed for member account
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"ec2:DescribeRegions",
"s3:CreateBucket",
"s3:DeleteObject",
"s3:ListAllMyBuckets",
"s3:GetObject",
"s3:PutObject",
"s3:ListBucket",
"s3:PutBucketAcl",
"s3:PutEncryptionConfiguration",
"s3:PutBucketVersioning",
"s3:PutBucketPublicAccessBlock",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:GetRole",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"iam:GenerateServiceLastAccessedDetails",
"iam:GetServiceLastAccessedDetails",
"notifications:ListNotificationHubs" // Added to ensure Notifications API does not
 return 403
```

トピック

- 推奨されるアクションを使用してレガシーポリシーを一括移行する

- レガシーポリシーを一括移行するためのアクションのカスタマイズ
- 一括移行ポリシーの変更をロールバックする
- 移行の確認

推奨されるアクションを使用してレガシーポリシーを一括移行する

AWSによってマッピングされた詳細なアクションを使用して、すべてのレガシーポリシーを移行できます。の場合 AWS Organizations、これはすべてのアカウントのすべてのレガシーポリシーに適用されます。移行プロセスを完了すると、詳細なアクションが有効になります。組織全体をコミットする前に、テストアカウントを使用して一括移行プロセスをテストすることもできます。詳細については、以下のセクションを参照してください。

によってマッピングされたきめ細かなアクションを使用してすべてのポリシーを移行するには AWS

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[確認と移行] を選択します。
4. 移行が完了するまで、[移行中] ページを表示したままにします。進行状況については、ステータスバーを参照してください。
5. [移行中] セクションが [移行成功] に更新されると、[新しい IAM アクションの管理] ページにリダイレクトされます。

一括移行のテスト

組織全体の移行をコミットする前に、テストアカウントを使用して、レガシーポリシーから AWS 推奨されるきめ細かなアクションへの一括移行をテストできます。テストアカウントで移行プロセスを完了すると、詳細なアクションがテストアカウントに適用されます。

テストアカウントを一括移行に使用するには

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. アカウント移行テーブルにアカウントとポリシーがロードされたら、アカウントのリストから 1 つ以上のテスト AWS アカウントを選択します。

5. （オプション) レガシーポリシーと AWS 推奨されるきめ細かなアクション間のマッピングを変更するには、「デフォルトのマッピングを表示する」を選択します。マッピングを変更し、[保存] を選択します。
6. [確認と移行] を選択します。
7. 移行が完了するまでコンソールページを表示したままにします。

レガシーポリシーを一括移行するためのアクションのカスタマイズ

すべてのアカウントに AWS 推奨されるアクションを使用する代わりに、さまざまな方法で一括移行をカスタマイズできます。移行前にレガシーポリシーに必要な変更を確認し、一度に移行する Organizations 内の特定のアカウントを選択し、マッピングされた詳細なアクションを更新してアクセス範囲を変更するオプションがあります。

一括移行前に影響を受けるポリシーを確認するには

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**`Bulk Policy Migrator`**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. アカウントとポリシーが [アカウントの移行] テーブルにロードされたら、[影響を受ける IAM ポリシーの数] 列の番号を選択して、影響を受けるポリシーを確認します。また、そのポリシーが Billing and Cost Management コンソールへのアクセスに最後に使用された日時も表示されます。
5. ポリシー名を選択して IAM コンソールで開き、定義を表示してポリシーを手動で更新します。

> **メモ**
>
> - この操作を行うと、ポリシーが別のメンバーアカウントからのものである場合、現在のアカウントからログアウトされる可能性があります。
> - 現在のアカウントに一括移行が進行中の場合、対応する IAM ページにリダイレクトされません。

6. (オプション) [デフォルトのマッピングを表示する] を選択すると、レガシーポリシーが表示され、 AWSによってマッピングされた詳細なポリシーを理解できます。

選択したアカウントのグループを組織から移行するには

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. アカウントとポリシーが [アカウントの移行] テーブルにロードされたら、移行する 1 つ以上のアカウントを選択します。
5. [確認と移行] を選択します。
6. 移行が完了するまでコンソールページを表示したままにします。

マッピングされた詳細なアクションを更新してアクセス範囲を変更するには

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[カスタマイズ] を選択します。
4. [デフォルトのマッピングを表示する] を選択します。
5. [編集] を選択します。
6. アクセスを制御する Billing and Cost Management サービスの IAM アクションを追加または削除します。詳細なアクションとそのアクションが制御するアクセスの詳細については、「詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング」を参照してください。
7. [Save changes] (変更の保存) をクリックします。

更新されたマッピングは、ログインしているアカウントからの今後すべての移行に使用されます。これはいつでも変更できます。

一括移行ポリシーの変更をロールバックする

一括移行ツールで提供されているステップを使用して、一括移行プロセス中に行ったすべてのポリシー変更を安全にロールバックできます。ロールバック機能はアカウントレベルで機能します。すべてのアカウント、または移行されたアカウントの特定のグループのポリシー更新をロールバックできます。ただし、アカウント内の特定のポリシーの変更をロールバックすることはできません。

一括移行の変更をロールバックするには

1. AWS Management Consoleにサインインします。

2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[変更のロールバック] タブを選択します。
4. ロールバックするアカウントを選択します。アカウントの [ロールバックステータス] 列には `Migrated` と表示されている必要があります。
5. [変更のロールバック] ボタンを選択します。
6. ロールバックが完了するまでコンソールページを表示したままにします。

移行の確認

移行ツールを使用して、まだ移行する必要がある AWS Organizations アカウントがあるかどうかを確認できます。

すべてのアカウントが移行されたかどうかを確認するには

1. AWS Management Consoleにサインインします。
2. ページ上部の検索バーに「**Bulk Policy Migrator**」と入力します。
3. [新しい IAM アクションの管理] ページで、[アカウントの移行] タブを選択します。

テーブルに移行されていないアカウントが表示されない場合、すべてのアカウントが正常に移行されました。

影響を受けるポリシーツールの使用方法

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *`aws-portal`* 名前空間
> - *`purchase-orders:ViewPurchaseOrders`*
> - *`purchase-orders:ModifyPurchaseOrders`*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行を使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。

2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

請求コンソールの [影響を受けるポリシー] ツールを使用して IAM ポリシー (SCP を除く) を特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。[影響を受けるポリシー] ツールを使用して、以下のタスクを実行します。

- IAM ポリシーを特定し、この移行によって影響を受ける IAM アクションを参照します。
- 更新したポリシーをクリップボードにコピーします。
- 影響を受けるポリシーを IAM ポリシーエディターで開きます。
- アカウントの更新したポリシーを保存します。
- 詳細な権限を有効にして、古いアクションを無効にします。

このツールは、サインインしている AWS アカウントの境界内で動作し、他の AWS Organizations アカウントに関する情報は公開されません。

[影響を受けるポリシー] ツールを使用するには

1. にサインイン AWS Management Console し、https://console.aws.amazon.com/costmanagement/ で AWS Billing and Cost Management コンソールを開きます。
2. [影響を受けるポリシー] ツールにアクセスするには、URL (https://console.aws.amazon.com/poliden/home?region=us-east-1#/) をブラウザに貼り付けます。

   > **Note**
   >
   > `iam:GetAccountAuthorizationDetails` アクセス許可は、このページを表示するために必要です。

3. 影響を受ける IAM ポリシーが記載されている表を確認します。ポリシーで参照されている特定の IAM アクションを確認するには、[非推奨の IAM アクション] 列を使用してください。
4. [更新したポリシーをコピー] 列で [コピー] を選択し、更新したポリシーをクリップボードにコピーします。更新したポリシーには、既存のポリシーと、それに追加された詳細な推奨アクションが個別の `Sid` ブロックとして含まれます。このブロックには、ポリシーの末尾にプレフィックス `AffectedPoliciesMigrator` が付きます。

5. [IAM コンソールでポリシーを編集] 列で、[編集] を選択して IAM ポリシーエディターに移動します。既存のポリシーの JSON が表示されます。
6. 既存のポリシー全体を、ステップ 4 でコピーした更新済みのポリシーに置き換えます。必要に応じて他の変更を加えることができます。
7. [次へ]、[変更を保存] の順に選択します。
8. 影響を受けるすべてのポリシーについて、ステップ 3 ~ 7 を繰り返します。
9. ポリシーを更新したら、[影響を受けるポリシー] ツールを更新して、影響を受けるポリシーがリストにないことを確認します。すべてのポリシーの [新しい IAM アクションが見つかりました] 列に [はい] が表示され、[コピー] ボタンと [編集] ボタンは無効になります。影響を受けるポリシーが更新されます。

アカウントで詳細なアクションを有効にするには

ポリシーを更新したら、次の手順に従ってアカウントで詳細なアクションを有効にします。

[新しい IAM アクションを管理] セクションを使用できるのは、組織の管理アカウント (支払人) または個人アカウントだけです。個人アカウントは、新しいアクションを自分で有効にできます。管理アカウントは、組織全体または一部のメンバーアカウントに対して新しいアクションを有効にできます。管理アカウントの場合は、すべてのメンバーアカウントの影響を受けるポリシーを更新し、組織で新しいアクションを有効にします。詳細については、 AWS ブログ記事の「How to toggle accounts between new fine-grained actions or existing IAM actions?」セクションを参照してください。

> **Note**
>
> これを実行するには、次のアクセス許可が必要です。
>
> - `aws-portal:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `aws-portal:UpdateConsoleActionSetEnforced`
> - `ce:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `ce:UpdateConsoleActionSetEnforced`
> - `purchase-orders:GetConsoleActionSetEnforced`
> - `purchase-orders:UpdateConsoleActionSetEnforced`

[新しい IAM アクションを管理] セクションが表示されない場合は、アカウントで詳細な IAM アクションがすでに有効になっていることを意味します。

1. [新しい IAM アクションを管理] では、[強制される現在のアクションセット] 設定は [既存] ステータスになります。

   [新しいアクションを有効にする (詳細)] を選択し、[変更を適用] を選択します。
2. ダイアログボックスで、[はい] を選択します。「強制される現在のアクションセット] ステータスが [詳細] に変わります。つまり、新しいアクションがユーザーの AWS アカウント または組織に強制されます。
3. (オプション) その後、既存のポリシーを更新して、古いアクションをすべて削除できます。

Example 例: IAM ポリシーの前と後

次の IAM ポリシーには古い `aws-portal:ViewPaymentMethods` アクションが含まれています。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewPaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

更新したポリシーをコピーすると、次の例では詳細なアクションを含む新しい `Sid` ブロックが作成されます。

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:ViewPaymentMethods"
            ],
            "Resource": "*"
```

```
        },
        {
            "Sid": "AffectedPoliciesMigrator0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "invoicing:GetInvoicePDF",
                "payments:GetPaymentInstrument",
                "payments:GetPaymentStatus",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

関連リソース

詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「Sid」を参照してください。

新しい詳細アクションの詳細については、「詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング」と「きめ細かな請求アクションの使用」を参照してください。

スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

IAM ポリシーを移行して詳細なアクションとして知られる新しいアクションを使用するために、AWS サンプルのウェブサイトのスクリプトを使用できます。

これらのスクリプトを組織の支払いアカウントから実行して、組織内で古い IAM アクションを使用し、影響を受ける以下のポリシーを特定します。

- カスタマーマネージド IAM ポリシー
- ロール、グループ、ユーザーの IAM インラインポリシー
- サービスコントロールポリシー (支払人のアカウントのみに適用)
- 権限セット

スクリプトは、ポリシーで使用されている既存のアクションに対応する の新しいアクションの提案を生成します。提案を確認し、スクリプトを使用して組織内の影響を受けるすべてのポリシーに新しいアクションを追加します。管理ポリシーや AWS 管理 SCPs (AWS Control Tower や AWS Organizations SCPs など) を更新 AWS する必要はありません。

これらのスクリプトは以下の目的で使用します。

- ポリシーの更新が効率化され、影響を受けるポリシーを支払いアカウントから簡単に管理できます。
- ポリシーの更新に必要な時間が短縮されます。各メンバーアカウントにサインインしてポリシーを手動で更新する必要はありません。
- 複数の異なるメンバーアカウントの同一のポリシーをグループにまとめることができます。その場合、1 つずつ確認しなくても、すべての同じポリシーで同じ更新を確認することや適用することができます。
- が 2023 年 7 月 AWS 6 日に古い IAM アクションを廃止した後も、ユーザーアクセスが影響を受けないようにしてください。

ポリシーとサービスコントロールポリシーの詳細については、 以下のトピックを参照してください。

- 「IAM ユーザーガイド」の「IAM ポリシーを管理する」
- 「AWS Organizations ユーザーガイド」の「サービスコントロールポリシー (SCP)」
- 「IAM Identity Center ユーザーガイド」の「カスタム権限」

概要

このトピックに従って、次のステップを完了します。

トピック

- 前提条件
- ステップ1: 環境の構築
- ステップ 2: CloudFormation スタックセットを作成する
- ステップ 3: 影響を受けるポリシーを特定する
- ステップ 4: 推奨された変更を確認する
- ステップ 5: 影響を受けるポリシーを更新する
- ステップ 6: 変更を元に戻す (オプション)
- IAM ポリシーの例

前提条件

開始するには、以下を実行する必要があります。

- Python 3 をダウンロードしてインストールします。
- 支払いアカウントへのサインイン、および次の IAM 権限を持つ IAM プリンシパルがあることを確認します。

```
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRole",
"iam:GetRolePolicy",
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListAttachedRolePolicies",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion",
"organizations:ListAccounts",
"organizations:ListPolicies",
```

```
"organizations:DescribePolicy",
"organizations:UpdatePolicy",
"organizations:DescribeOrganization",
"sso:DescribePermissionSet",
"sso:DescribePermissionSetProvisioningStatus",
"sso:GetInlinePolicyForPermissionSet",
"sso:ListInstances",
"sso:ListPermissionSets",
"sso:ProvisionPermissionSet",
"sso:PutInlinePolicyToPermissionSet",
"sts:AssumeRole"
```

> **Tip**
>
> 最初に、テストアカウントなどのアカウントのサブセットを使用して、提案された変更が予期された通りに行われることを確認することをお勧めします。
> その後、組織内の残りのアカウントに対してスクリプトを再度実行できます。

ステップ1: 環境の構築

開始するには、AWS Samples Web サイトから必要なファイルをダウンロードします。次に、コマンドを実行して環境をセットアップします。

使用する環境をセットアップするには

1. AWS Samples ウェブサイトからリポジトリを複製します。コマンドラインウィンドウで、次のコマンドを実行できます。

   ```
   git clone https://github.com/aws-samples/bulk-policy-migrator-scripts-for-account-cost-billing-consoles.git
   ```

2. ファイルをダウンロードしたディレクトリに移動します。以下のコマンドを使用できます。

   ```
   cd bulk-policy-migrator-scripts-for-account-cost-billing-consoles
   ```

   リポジトリには、以下のスクリプトとリソースがあります。

   - `billing_console_policy_migrator_role.json` – `BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM ロールを組織のメンバーアカウントに作成す

る CloudFormation テンプレート。スクリプトはこのロールを継承し、影響を受けるポリシーを読み取って更新することができます。

- `action_mapping_config.json` — 古いアクションと新しいアクションの 1 対多のマッピングが含まれます。スクリプトはこのファイルを使用して、古いアクションを含み、影響を受ける各ポリシーの新しいアクションを提案します。

  それぞれの古いアクションは、複数の詳細なアクションに対応しています。ファイルで提案された新しいアクションにより、ユーザーは移行 AWS のサービス 前に同じ にアクセスできます。

- `identify_affected_policies.py` – 組織内の影響を受けるポリシーをスキャンして特定します。このスクリプトは、影響を受けるポリシーと提案された新しいアクションをリストする `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを生成します。

  古いアクションの同じセットを使用し、影響を受けるポリシーは JSON ファイルにグループ化されるため、提案された新しいアクションを確認または更新できます。

- `update_affected_policies.py` – 組織内の影響を受けるポリシーを更新します。スクリプトは `affected_policies_and_suggestions.json` ファイルを入力し、提案された新しいアクションをポリシーに追加します。

- `rollback_affected_policies.py` – (オプション) 影響を受けるポリシーに加えられた変更を元に戻します。このスクリプトは、影響を受けるポリシーから新しい詳細アクションを削除します。

3. 仮想環境をセットアップして有効化するには、次のコマンドを実行します。

```
python3 -m venv venv
```

```
source venv/bin/activate
```

4. 次のコマンドを実行して、 AWS SDK for Python (Boto3) 依存関係をインストールします。

```
pip install -r requirements.txt
```

> **Note**
>
> AWS Command Line Interface () を使用するように AWS 認証情報を設定する必要がありますAWS CLI。詳細については、「AWS SDK for Python (Boto3)」を参照してください。

詳細については、README.md ファイルを参照してください。

ステップ 2: CloudFormation スタックセットを作成する

次の手順に従って CloudFormation スタックセットを作成します。このスタックセットは、組織内のすべてのメンバーアカウントの `BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM ロールを作成します。

> **Note**
>
> このステップを完了する必要があるのは、管理アカウント (支払いアカウント) から 1 回だけです。

CloudFormation スタックセットを作成するには

1. テキストエディタで `billing_console_policy_migrator_role.json` ファイルを開き、*`<management_account>`* の各インスタンスを支払いアカウントのアカウント ID (*`123456789012`* など) に置き換えます。
2. ファイルを保存します。
3. 支払者アカウント AWS Management Console として にサインインします。
4. CloudFormation コンソールで、更新した `billing_console_policy_migrator_role.json` ファイルでスタックセットを作成します。

   詳細については、「 AWS CloudFormation ユーザーガイド」の「 AWS CloudFormation コンソールでのスタックセットの作成」を参照してください。

CloudFormation がスタックセットを作成した後、組織内の各メンバーアカウントに `BillingConsolePolicyMigratorRole` IAM ロールが割り当てられます。

IAM ロールには以下のアクセス許可が含まれます。

```
"iam:GetAccountAuthorizationDetails",
"iam:GetPolicy",
"iam:GetPolicyVersion",
"iam:GetUserPolicy",
"iam:GetGroupPolicy",
"iam:GetRolePolicy",
```

```
"iam:CreatePolicyVersion",
"iam:DeletePolicyVersion",
"iam:ListPolicyVersions",
"iam:PutUserPolicy",
"iam:PutGroupPolicy",
"iam:PutRolePolicy",
"iam:SetDefaultPolicyVersion"
```

メモ

- 各メンバーアカウントに対して、スクリプトは AssumeRole API オペレーションを呼び出して、BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承するための一時的な認証情報を取得します。
- スクリプトは ListAccounts API オペレーションを呼び出して、すべてのメンバーアカウントを取得します。
- また、スクリプトは IAM API オペレーションを呼び出して、ポリシーへの読み取りアクセス許可と書き込みアクセス許可を実行します。

ステップ 3: 影響を受けるポリシーを特定する

スタックセットを作成してファイルをダウンロードしたら、identify_affected_policies.py スクリプトを実行します。このスクリプトは、各メンバーアカウントの BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承し、影響を受けるポリシーを特定します。

影響を受けるポリシーを特定するには

1. スクリプトをダウンロードしたディレクトリに移動します。

```
cd policy_migration_scripts/scripts
```

2. identify_affected_policies.py スクリプトを実行します。

次の入力パラメータを使用できます。

- AWS アカウント スクリプトでスキャンする 。アカウントを指定するには、次の入力パラメータを使用します。

- `--all` – 組織内のすべてのメンバーアカウントをスキャンします。

```
python3 identify_affected_policies.py --all
```

- `--accounts` – 組織内のメンバーアカウントのサブセットをスキャンします。

```
python3 identify_affected_policies.py --accounts 111122223333, 444455556666,
 777788889999
```

- `--exclude-accounts` – 組織内の特定のメンバーアカウントを除外します。

```
python3 identify_affected_policies.py --all --exclude-accounts 111111111111,
 222222222222, 333333333333
```

- `--action-mapping-config-file` – (オプション) `action_mapping_config.json` ファイルへのパスを指定します。スクリプトは、このファイルを使用して影響を受けるポリシーの推奨される更新を生成します。パスを指定しない場合、スクリプトはフォルダー内の `action_mapping_config.json` ファイルを使用します。

```
python3 identify_affected_policies.py --action-mapping-config-file c:\Users\username
\Desktop\Scripts\action_mapping_config.json --all
```

> **Note**
>
> このスクリプトで組織単位 (OU) を指定することはできません。

スクリプトを実行すると、`Affected_Policies_<Timestamp>` フォルダーに 2 つの JSON ファイルが作成されます。

- `affected_policies_and_suggestions.json`
- `detailed_affected_policies.json`

`affected_policies_and_suggestions.json`

影響を受けるポリシーと推奨される新しいアクションを一覧表示します。古いアクションの同じセットを使用し、影響を受けるポリシーは、ファイルにグループ化されます。

このファイルには次のセクションが含まれます。

- スクリプトで指定したアカウントの概要を提供するメタデータ。これには以下が含まれます。
  - スキャンされたアカウントと identify_affected_policies.py スクリプトで使用された入力パラメータ
  - 影響を受けるアカウントの数
  - 影響を受けるポリシーの数
  - 類似ポリシーグループの数
- 類似ポリシーグループ — アカウントのリストとポリシーの詳細 (次のセクションを含む) が含まれます。
  - ImpactedPolicies – 影響を受けるポリシーとグループに含めるポリシーを指定します
  - ImpactedPolicyStatements – 影響を受けるポリシー内で古いアクションを現在使用している Sid ブロックに関する情報を提供します。このセクションには古いアクションと IAM 要素 (Effect、Principal、NotPrincipal、NotAction、Condition など) が含まれます。
- SuggestedPolicyStatementsToAppend – 新しい SID ブロックとして追加される新しい推奨アクションを提供します。

  ポリシーを更新すると、このブロックがポリシーの最後に追加されます。

Example **affected_policies_and_suggestions.json** ファイルの例

このファイルには、以下の基準に基づいて類似するポリシーがグループ化されています。

- 同じ古いアクションが使用されている — すべての SID ブロックに同じ古いアクションがあるポリシー。
- マッチングの詳細 — 影響を受けるアクションに加えて、ポリシーには次のような同一の IAM 要素があります。
  - Effect (Allow/Deny)
  - Principal (アクセスを許可または拒否されるユーザー)
  - NotAction (許可されていないアクション)
  - NotPrincipal (アクセスが明示的に拒否されるユーザー)
  - Resource (ポリシーが適用される AWS リソース)
  - Condition (ポリシーが適用される特定の条件)

> **Note**
>
> 詳細については、「IAM ポリシーの例」を参照してください。

Example **affected_policies_and_suggestions.json** の例


```
[{
        "AccountsScanned": [
            "111111111111",
            "222222222222"
        ],
        "TotalAffectedAccounts": 2,
        "TotalAffectedPolicies": 2,
        "TotalSimilarPolicyGroups": 2
    },
    {
        "GroupName": "Group1",
        "ImpactedPolicies": [{
                "Account": "111111111111",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-Allow",
                "PolicyIdentifier": "1111111_1-user:Inline-Test-Policy-Allow"
            },
            {
                "Account": "222222222222",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-Allow",
                "PolicyIdentifier": "222222_1-group:Inline-Test-Policy-Allow"
            }
        ],
        "ImpactedPolicyStatements": [
            [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "aws-portal:ViewAccounts"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        ],
        "SuggestedPolicyStatementsToAppend": [{
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator0",
```

```
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "account:GetAlternateContact",
                "account:GetChallengeQuestions",
                "account:GetContactInformation",
                "billing:GetContractInformation",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }]
    },
    {
        "GroupName": "Group2",
        "ImpactedPolicies": [{
                "Account": "111111111111",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-deny",
                "PolicyIdentifier": "1111111_2-user:Inline-Test-Policy-deny"
            },
            {
                "Account": "222222222222",
                "PolicyType": "UserInlinePolicy",
                "PolicyName": "Inline-Test-Policy-deny",
                "PolicyIdentifier": "222222_2-group:Inline-Test-Policy-deny"
            }
        ],
        "ImpactedPolicyStatements": [
            [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "deny",
                "Action": [
                    "aws-portal:ModifyAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        ],
        "SuggestedPolicyStatementsToAppend": [{
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "account:CloseAccount",
```

```
                "account:DeleteAlternateContact",
                "account:PutAlternateContact",
                "account:PutChallengeQuestions",
                "account:PutContactInformation",
                "billing:PutContractInformation",
                "billing:UpdateIAMAccessPreference",
                "payments:UpdatePaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }]
    }
]
```

detailed_affected_policies.json

メンバーアカウントに対して identify_affected_policies.py スクリプトが識別した影響を受けるすべてのアカウントの定義が含まれます。

ファイルには類似するポリシーがグループ化されています。このファイルを参照として使用すると、各メンバーアカウントにサインインして各ポリシーとアカウントの更新をここに確認する必要なく、ポリシーの変更を確認および管理できます。

ファイルでポリシー名 (*YourCustomerManagedReadOnlyAccessBillingUser* など) を検索して、影響を受けるポリシー定義を確認できます。

Example 例: **detailed_affected_policies.json**

```
[{
        "Account": "111111111111",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalviewAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::111111111111:policy/AwsPortalviewAccount",

        "PolicyDocument": {
            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "aws-portal:ViewAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
```

```
        }
    },

    {
        "Account": "222222222222",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalviewAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::222222222222:policy/AwsPortalviewAccount",

        "PolicyDocument": {
            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Allow",
                "Action": [
                    "aws-portal:ViewAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    },
    {
        "Account": "111111111111",
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalModifyAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::111111111111:policy/
AwsPortalModifyAccount",

        "PolicyDocument": {

            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Deny",
                "Action": [
                    "aws-portal:ModifyAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    },

    {
        "Account": "222222222222",
```

```
        "PolicyType": "CustomerManagedPolicy",
        "PolicyName": "AwsPortalModifyAccount",
        "PolicyIdentifier": "arn:aws:iam::222222222222:policy/
AwsPortalModifyAccount",

        "PolicyDocument": {

            "Version": "2012-10-17",
            "Statement": [{
                "Sid": "VisualEditor0",
                "Effect": "Deny",
                "Action": [
                    "aws-portal:ModifyAccount"
                ],
                "Resource": "*"
            }]
        }
    }

]
```

ステップ 4: 推奨された変更を確認する

スクリプトによって作成された affected_policies_and_suggestions.json ファイルを確認して変更を加えます。

影響を受けるポリシーを確認するには

1. テキストエディタで、affected_policies_and_suggestions.json ファイルを開きます。
2. AccountsScanned セクションで、スキャンされたアカウント全体で識別された類似グループの数が予期されることを確認します。
3. 影響を受けるポリシーに追加される推奨詳細アクションを確認します。
4. 必要に応じてファイルを更新して保存します。

例 1: **action_mapping_config.json** ファイルを更新する

action_mapping_config.json の推奨マッピングは更新できます。ファイルを更新した後、identify_affected_policies.py スクリプトを再実行します。このスクリプトは、絵協を受けるポリシーの更新された候補を生成します。

action_mapping_config.json ファイルの複数のバージョンを作成して、さまざまなアクセス許可を持つさまざまなアカウントのポリシーを変更できます。例えば、テストアカウントのアクセス許可を移行する action_mapping_config_testing.json という名前のファイルを作成し、本番稼働用アカウント用の action_mapping_config_production.json を作成します。

例 2: **affected_policies_and_suggestions.json** ファイルを更新する

affected_policies_and_suggestions.json ファイル内の推奨される変更セクションを直接編集して、影響を受ける特定のポリシーグループの推奨される変更を変更できます。

このセクションで行った変更は、影響を受ける特定のポリシーグループ内のすべてのポリシーに適用されます。

例 3: 特定のポリシーをカスタマイズする

影響を受けるポリシーグループ内のポリシーで、推奨される更新とは異なる変更が必要であることがわかった場合は、次のことを行うことができます。

- identify_affected_policies.py スクリプトから特定のアカウントを除外します。その後、除外されたアカウントを個別に確認できます。
- 別のアクセス許可が必要な影響を受けるポリシーとアカウントを削除することによって、影響を受ける Sid ブロックを更新します。特定のアカウントのみを含む JSON ブロック、または現在の更新の影響を受けるポリシー実行から除外する JSON ブロックを作成します。

  identify_affected_policies.py スクリプトを再実行すると、更新されたブロックに関連アカウントのみが表示されます。その後、その特定の Sid ブロックに推奨される変更を絞り込むことができます。

ステップ 5: 影響を受けるポリシーを更新する

推奨される変更を確認して修正した後、update_affected_policies.py スクリプトを実行します。スクリプトは入力として affected_policies_and_suggestions.json ファイルを取ります。このスクリプトは、affected_policies_and_suggestions.json ファイルにリストされている影響を受けるポリシーを更新する BillingConsolePolicyMigratorRole IAM ロールを継承します。

影響を受けるポリシーを更新するには

1. まだ開いていない場合は、 AWS CLI のコマンドラインウィンドウを開きます。

2. 次のコマンドを入力して update_affected_policies.py スクリプトを実行します。次の入力パラメータを入力できます。

- 更新対象となる影響を受けるポリシーのリストを含む affected_policies_and_suggestions.json ファイルのディレクトリパス。このファイルは前のステップの出力です。

```
python3 update_affected_policies.py --affected-policies-directory
 Affected_Policies_<Timestamp>
```

update_affected_policies.py スクリプトは、affected_policies_and_suggestions.json ファイル内の影響を受けるポリシーを推奨される新しいアクションで更新します。スクリプトは BillingConsolePolicyMigrator# として識別されるポリシーに Sid ブロックを追加します。ここで、# は増分カウンタ (1、2、3 など) に対応します。

例えば、古いアクションを使用し、影響を受けるポリシー内に複数の Sid ブロックがある場合、スクリプトは、各 Sid ブロックに対応する複数の Sid ブロック (BillingConsolePolicyMigrator# として表示) を追加します。

> **Important**
>
> - このスクリプトは、ポリシーから古い IAM アクションを削除することや、ポリシー内の既存の Sid ブロックを変更することはありません。代わりに、Sid ブロックを作成してポリシーの最後に追加します。これらの新しい Sid ブロックには、JSON ファイルの推奨される新しいアクションが含まれています。元のポリシーのアクセス許可は変更されません。
> - 変更を元に戻す必要がある場合に備えて、BillingConsolePolicyMigrator# Sid ブロックの名前を変更しないことを推奨します。

Example 例: **Sid** ブロックが追加されたポリシー

BillingConsolePolicyMigrator1 ブロックと BillingConsolePolicyMigrator2 ブロックに追加された Sid ブロックを確認します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "ce:*",
                "aws-portal:ViewAccount"
            ],
            "Resource": "*",
            "Principal": {
                "AWS": "arn:aws:iam::111111111111:BillingRole"
            },
            "Condition": {
                "BoolIfExists": {
                    "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
                }
            }
        },
        {
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator1",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "account:GetAlternateContact",
                "account:GetChallengeQuestions",
                "account:GetContactInformation",
                "billing:GetContractInformation",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*",
            "Principal": {
                "AWS": "arn:aws:iam::111111111111:BillingRole"
            },
            "Condition": {
                "BoolIfExists": {
                    "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
                }
            }
        },
```

```
        {
            "Sid": "BillingConsolePolicyMigrator2",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "account:CloseAccount",
                "account:DeleteAlternateContact",
                "account:PutAlternateContact",
                "account:PutChallengeQuestions",
                "account:PutContactInformation",
                "billing:PutContractInformation",
                "billing:UpdateIAMAccessPreference",
                "payments:UpdatePaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

スクリプトは、失敗したオペレーションを含むステータスレポートを生成し、JSON ファイルをローカルに出力します。

Example 例: ステータスレポート

```
[{
    "Account": "111111111111",
    "PolicyType": "Customer Managed Policy"
    "PolicyName": "AwsPortalViewPaymentMethods",
    "PolicyIdentifier": "identifier",
    "Status": "FAILURE", // FAILURE or SKIPPED
    "ErrorMessage": "Error message details"
}]
```

Important

- identify_affected_policies.py スクリプト
  と update_affected_policies.py スクリプトを再実行する
  と、BillingConsolePolicyMigratorRole#Sid ブロックを含むすべてのポリシーがスキップされます。スクリプトでは、これらのポリシーが以前にスキャンおよび更新されていること、および追加の更新は必要ないことが想定されています。これにより、スクリプトがポリシー内の同じアクションを複製することが防止されます。

- 影響を受けるポリシーを更新した後、影響を受けるポリシーツールを使用して新しい IAM を使用できます。問題が見つかった場合は、ツールを使用して前のアクションに戻すことができます。スクリプトを使用してポリシーの更新を元に戻すこともできます。

  詳細については、影響を受けるポリシーツールの使用方法「」およびAWS 「請求、コスト管理、アカウントコンソールのアクセス許可の変更」ブログ記事を参照してください。
- 更新を管理するには、次の方法があります。
  - 各アカウントにスクリプトを個別に実行します。
  - 類似アカウント (テストアカウント、QA アカウント、本番稼働用アカウントなど) にスクリプトをバッチで実行します。
  - すべてのアカウントにスクリプトを実行します。
  - 一部のアカウントをバッチで更新し、その他のアカウントを個々に更新します。

ステップ 6: 変更を元に戻す (オプション)

rollback_affected_policies.py スクリプトは、指定されたアカウントに関して影響を受ける各ポリシーに適用された変更を元に戻します。スクリプトは、update_affected_policies.py スクリプトが追加したすべての Sid ブロックを削除します。これらの Sid ブロックは BillingConsolePolicyMigratorRole# の形式です。

変更を元に戻すには

1. まだ開いていない場合は、 AWS CLI のコマンドラインウィンドウを開きます。
2. 次のコマンドを入力して rollback_affected_policies.py スクリプトを実行します。次の入力パラメータを入力できます。

- --accounts
  - ロールバックに含める AWS アカウント IDs のカンマ区切りリストを指定します。
  - 次の の例では、指定された のポリシーをスキャンし AWS アカウント、BillingConsolePolicyMigrator#Sidブロックを含むステートメントを削除します。

```
python3 rollback_affected_policies.py --accounts 111122223333, 555555555555,
 666666666666
```

- --all

- 組織内の AWS アカウント IDsが含まれます。
- 次の例では、組織内のすべてのポリシーがスキャンされ、BillingConsolePolicyMigratorRole# Sid ブロックを含むすべてのステートメントが削除されます。

```
python3 rollback_affected_policies.py --all
```

- `--exclude-accounts`
  - ロールバックから除外する AWS アカウント IDs のカンマ区切りリストを指定します。

    このパラメータは、`--all` パラメータも指定する場合にのみ使用できます。
  - 次の の例では、指定されたアカウントを除き、組織 AWS アカウント 内のすべての のポリシーをスキャンします。

```
python3 rollback_affected_policies.py --all --exclude-accounts 777777777777,
 888888888888, 999999999999
```

IAM ポリシーの例

ポリシーは、以下が同一の場合に類似しているとみなされます。

- すべての Sid ブロックで影響を受けるアクション。
- 以下の IAM 要素の詳細:
  - `Effect` (Allow/Deny)
  - `Principal` (アクセスを許可または拒否されるユーザー)
  - `NotAction` (許可されていないアクション)
  - `NotPrincipal` (アクセスが明示的に拒否されるユーザー)
  - `Resource` (ポリシーが適用される AWS リソース)
  - `Condition` (ポリシーが適用される特定の条件)

以下の例は、IAM が相違点に基づいて類似していると見なす可能性があるポリシー、またはそうでないポリシーを示しています。

Example 例 1: ポリシーが類似していると見なされる場合

各ポリシータイプは異なりますが、どちらのポリシーにも影響を受ける同じ`Action` を含む 1 つの `Sid` ブロックがあります。

Policy 1: Group inline IAM policy

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2: Customer managed IAM policy

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Example 例 2: ポリシーが類似していると見なされる場合

どちらのポリシーにも、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックが含まれます。ポリシー 2 には追加のアクションが含まれていますが、これらのアクションは影響を受けません。

Policy 1

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing",
            "athena:*"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Example 例 3: ポリシーが類似していると見なされない場合

どちらのポリシーにも、影響を受ける同じ Action を含む 1 つの Sid ブロックが含まれます。ただし、Policy 2 には Policy 1 に存在しない Condition 要素が含まれています。

Policy 1

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:ViewAccount",
            "aws-portal:*Billing",
            "athena:*"
        ],
        "Resource": "*",
        "Condition": {
            "BoolIfExists": {
                "aws:MultiFactorAuthPresent": "true"
```

```
            }
        }
    }]
}
```

Example 例 4: ポリシーが類似していると見なされる場合

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には複数の Sid ブロックがありますが、影響を受ける Action は 1 つのブロックにしかありません。

Policy 1

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:View*"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}}
```

Policy 2

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:View*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Allow",
```

```
            "Action": [
                "cloudtrail:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Example 例 5: ポリシーが類似していると見なされない場合

Policy 1 には、影響を受ける Sid を含む 1 つの Action ブロックがあります。Policy 2 には複数の Sid ブロックがあり、影響を受ける Action は複数のブロックにあります。

Policy 1

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "aws-portal:View*"
        ],
        "Resource": "*"
    }]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
```

```
                "aws-portal:View*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Example 例 6: ポリシーが類似していると見なされる場合

どちらのポリシーにも複数の Sid ブロックがあり、各 Sid ブロックに影響を受ける同じ Action があります。

Policy 1

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "iam:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*",
                "iam:Update*"
            ],
```

```
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "athena:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*",
                "athena:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Example 例 7

次の 2 つのポリシーは、類似していると見なされません。

Policy 1 には、影響を受ける `Sid` を含む 1 つの `Action` ブロックがあります。Policy 2 には、影響を受ける同じ `Action` を含む 1 つの `Sid` ブロックがあります。ただし、Policy 2 にはアクションが異なる別の `Sid` ブロックも含まれます。

Policy 1

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "iam:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:Modify*",
                "iam:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Policy 2

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [{
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "aws-portal:*Account",
                "athena:Get*"
            ],
            "Resource": "*"
```

```
        },
        {
            "Sid": "VisualEditor1",
            "Effect": "Deny",
            "Action": [
                "aws-portal:*Billing",
                "athena:Update*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

詳細な IAM アクションのリファレンスのマッピング

> **Note**
>
> 次の AWS Identity and Access Management (IAM) アクションは、2023 年 7 月に標準サポートが終了しました。
>
> - *aws-portal* 名前空間
> - *purchase-orders:ViewPurchaseOrders*
> - *purchase-orders:ModifyPurchaseOrders*
>
> を使用している場合は AWS Organizations、一括ポリシー移行スクリプトまたは一括ポリシー移行スクリプトを使用して、支払者アカウントからポリシーを更新できます。また、従来のアクションから詳細なアクションへのマッピングのリファレンスを使用して、追加する必要のある IAM アクションを検証することもできます。
> 2023 年 3 月 6 日午前 11 時 (PDT) 以降に AWS Organizations 作成された がある場合、AWS アカウントまたは の一部である場合、きめ細かなアクションは組織で既に有効です。

アクセス許可ポリシーまたはサービスコントロールポリシー (SCP) で次の IAM アクションを移行する必要があります。

- `aws-portal:ViewAccount`
- `aws-portal:ViewBilling`
- `aws-portal:ViewPaymentMethods`

- aws-portal:ViewUsage
- aws-portal:ModifyAccount
- aws-portal:ModifyBilling
- aws-portal:ModifyPaymentMethods
- purchase-orders:ViewPurchaseOrders
- purchase-orders:ModifyPurchaseOrders

このトピックを使用して、廃止される各 IAM アクションの古いアクションと新しいアクションのマッピングを詳細に表示できます。

概要

1. 該当する IAM ポリシーを AWS アカウントで確認してください。そのためには、影響を受ける IAM ポリシーを特定する [影響を受けるポリシー] ツールの手順に従ってください。「影響を受けるポリシーツールの使用方法」を参照してください。
2. IAM コンソールを使用して、新しい詳細なアクセス許可をポリシーに追加します。例えば、ポリシーで purchase-orders:ModifyPurchaseOrders アクセス許可が付与されている場合は、purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング テーブルに各アクションを追加する必要があります。

   古いポリシー

   以下のポリシーでは、ユーザーはアカウント内の発注書を追加、削除、または変更できます。

   JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
            "Resource": "arn:aws:purchase-orders::123456789012:purchase-
order/*"
        }
    ]
```

```
}
```

新しいポリシー

以下のポリシーでも、ユーザーはアカウント内の発注書を追加、削除、または変更できます。詳細なアクセス許可はそれぞれ、古い purchase-orders:ModifyPurchaseOrders アクセス許可の後に表示されます。これらのアクセス許可により、許可または拒否するアクションをより細かく制御できます。

> **Tip**
>
> 移行が完了するまではアクセス許可を失わないように、古いアクセス許可をそのままにしておくことをお勧めします。

JSON

```
{
 "Version": "2012-10-17",
 "Statement": [
  {
   "Sid": "VisualEditor0",
   "Effect": "Allow",
   "Action": [
    "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
    "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
    "purchase-orders:DeletePurchaseOrder",
    "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
    "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus"
   ],
   "Resource": "arn:aws:purchase-orders::123456789012:purchase-order/*"
  }
 ]
}
```

3. 変更内容を保存します。

メモ

- IAM コンソールでポリシーを手動で編集するには、「IAM ユーザーガイド」の「カスタマー管理ポリシーの編集 (コンソール)」を参照してください。
- 詳細なアクション (新しいアクション) を使用するように IAM ポリシーを一括移行する場合は、「スクリプトを使用して詳細な IAM の アクションを使用するポリシーを一括移行する」を参照してください。

目次

- aws-portal:ViewAccount のマッピング
- aws-portal:ViewBilling のマッピング
- aws-portal:ViewPaymentMethods のマッピング
- aws-portal:ViewUsage のマッピング
- aws-portal:ModifyAccount のマッピング
- aws-portal:ModifyBilling のマッピング
- aws-portal:ModifyPaymentMethods のマッピング
- purchase-orders:ViewPurchaseOrders のマッピング
- purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング

aws-portal:ViewAccount のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
account:GetAlternateContact	アカウントの代替連絡先を取得するためのアクセス許可を付与する	読み取り
account:GetContactInformation	アカウントの主な連絡先情報を取得する許可を付与	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
billing:GetContractInformation	契約番号、エンドユーザーの組織名、発注書番号、アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用されているかどうかなど、アカウントの契約情報を表示するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetSellerOfRecord	アカウントのデフォルトの登録販売者を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

aws-portal:ViewBilling のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingData	請求情報に関するクエリを実行するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingDetails	詳細な項目の請求情報を表示するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetBillingNotifications	アカウントの請求情報 AWS に関連して によって送信され	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
	た通知を表示するアクセス許可を付与します	
billing:GetBillingPreferences	リザーブドインスタンス、Savings Plans、クレジット共有などの請求設定を表示するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetContractInformation	契約番号、エンドユーザーの組織名、発注書番号、アカウントが公共機関の顧客へのサービスに使用されているかどうかなど、アカウントの契約情報を表示するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetCredits	引き換えられたクレジットを表示するアクセス許可を付与	読み取り
billing:GetIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:GetSellerOfRecord	アカウントのデフォルトの登録販売者を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
billing:ListBillingViews	プロフォーマ請求グループの請求情報を取得するアクセス許可を付与	リスト
ce:DescribeNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを表示する許可を付与する	読み取り
ce:DescribeReport	Cost Explorer の [レポート] ページを表示する許可を付与する	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
ce:GetAnomalies	異常を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetAnomalyMonitors	異常モニターをクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetAnomalySubscriptions	異常サブスクリプションをクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetCostAndUsage	アカウントのコストと利用状況のメトリクスを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetCostAndUsageWithResources	アカウントのリソースを使用してコストと利用状況のメトリクスを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetCostCategories	指定した期間のコストカテゴリーの名前と値をクエリする許可を付与する	読み取り
ce:GetCostForecast	予測期間のコスト予測を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetDimensionValues	一定期間にわたってフィルタに使用可能なすべてのフィルタの値を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetPreferences	Cost Explorer の設定ページを表示する許可を付与する	読み取り
ce:GetReservationCoverage	アカウントの予約のカバレッジを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetReservationPurchaseRecommendation	アカウントの予約の推奨事項を取得する許可を付与	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
ce:GetReservationUtilization	アカウントの予約率を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetRightsizingRecommendation	アカウントの適切なサイズ設定に関する推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansCoverage	アカウントの Savings Plans のカバレッジを取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansPurchaseRecommendation	アカウントの Savings Plans に関する推奨事項を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansUtilization	アカウントの Savings Plans 使用率を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetSavingsPlansUtilizationDetails	アカウントの Savings Plans 使用率の詳細を取得する許可を付与	読み取り
ce:GetTags	指定された期間のタグを照会する許可を付与	読み取り
ce:GetUsageForecast	予測期間の使用状況予測を取得する許可を付与	読み取り
ce:ListCostAllocationTags	コスト配分タグを一覧表示する許可を付与する	リスト
ce:ListSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration	過去のレコメンデーション生成のリストを取得する許可を付与	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
consolidatedbilling:GetAccountBillingRole	アカウントロール (支払人、リンク付け、レギュラー) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
consolidatedbilling:ListLinkedAccounts	メンバーおよび連結アカウントのリストを取得するアクセス許可を付与する	リスト
cur:GetClassicReport	請求書の CSV レポートを取得するアクセス許可を付与する	読み取り
cur:GetClassicReportPreferences	使用状況レポートのクラシックレポート有効化ステータスを取得するアクセス許可を付与する	読み取り
cur:ValidateReportDestination	CUR 配信の適切なアクセス許可を持つ Amazon S3 AWS バケットが存在するかどうかを検証するアクセス許可を付与します	読み取り
freetier:GetFreeTierAlertPreference	(E メールアドレスで) AWS 無料利用枠 アラート設定を取得するアクセス許可を付与します	読み取り
freetier:GetFreeTierUsage	AWS 無料利用枠 使用制限と month-to-date (MTD) 使用状況を取得するアクセス許可を付与します	読み取り
invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences	請求書の E メール配信設定を取得するアクセス許可を付与する	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
invoicing:GetInvoicePDF	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
invoicing:ListInvoiceSummaries	アカウントまたは連結アカウントの請求書概要情報を取得するアクセス許可を付与する	リスト
payments:GetPaymentInstrument	支払い方法に関する情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:GetPaymentStatus	請求書の支払い状況を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
tax:GetTaxInheritance	税継承ステータスを表示するアクセス許可を付与	読み取り
tax:GetTaxRegistrationDocument	税登録ドキュメントをダウンロードするアクセス許可を付与	読み取り
tax:ListTaxRegistrations	納税登録を表示するアクセス許可を付与する	読み取り

aws-portal:ViewPaymentMethods のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り

新しい アクション	説明	アクセスレベル
invoicing:GetInvoicePDF	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	読み取り
payments:GetPaymentInstrument	支払い方法に関する情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:GetPaymentStatus	請求書の支払い状況を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	リスト

aws-portal:ViewUsage のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
cur:GetUsageReport	使用状況レポートワークフローのリスト AWS のサービス、使用タイプ、およびオペレーションを取得し、使用状況レポートをダウンロードするアクセス許可を付与します	読み取り

aws-portal:ModifyAccount のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:CloseAccount	アカウント情報を閉じるアクセス許可を付与	書き込み
account:DeleteAlternateContact	アカウントの代替連絡先を削除するためのアクセス許可を付与する	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:PutAlternateContact	アカウントの代替連絡先を変更するためのアクセス許可を付与する	書き込み
account:PutChallengeQuestions	アカウントのチャレンジ質問を取変更するアクセス許可を付与	書き込み
account:PutContactInformation	アカウントの主な連絡先情報を更新する許可を付与	書き込み
billing:PutContractInformation	アカウントの契約情報、エンドユーザーの組織名、およびアカウントが公共部門の顧客にサービスを提供するために使用されるかどうかを設定するアクセス許可を付与	書き込み
billing:UpdateIAMAccessPreference	請求設定の [IAM アクセス許可を付与する] 状態を更新するアクセス許可を付与する	書き込み
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み

aws-portal:ModifyBilling のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
billing:PutContractInformation	アカウントの契約情報、エンドユーザーの組織名、およびアカウントが公共部門の顧客にサービスを提供するために	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
	使用されるかどうかを設定するアクセス許可を付与	
billing:RedeemCredits	AWS クレジットを引き換える許可を付与	書き込み
billing:UpdateBillingPreferences	リザーブドインスタンス、Savings Plans、クレジット共有などの請求設定を更新するアクセス許可を付与する	書き込み
ce:CreateAnomalyMonitor	新しい異常モニターを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateAnomalySubscription	新しい異常サブスクリプションを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateNotificationSubscription	予約期限切れのアラートを作成する許可を付与する	書き込み
ce:CreateReport	Cost Explorer レポートを作成する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteAnomalyMonitor	異常モニターを削除する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteAnomalySubscription	異常サブスクリプションを削除する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを削除する許可を付与する	書き込み
ce:DeleteReport	Cost Explorer レポートを削除する許可を付与する	書き込み
ce:ProvideAnomalyFeedback	検出された異常に関するフィードバックを提供する許可を付与	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
ce:StartSavingsPlansPurchaseRecommendationGeneration	Savings Plans のレコメンデーション生成をリクエストする許可を付与	書き込み
ce:UpdateAnomalyMonitor	既存の異常モニターを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdateAnomalySubscription	既存の異常サブスクリプションを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdateCostAllocationTagsStatus	既存のコスト配分タグのステータスを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdateNotificationSubscription	予約の有効期限アラートを更新する許可を付与する	書き込み
ce:UpdatePreferences	Cost Explorer の設定ページを編集する許可を付与する	書き込み
cur:PutClassicReportPreferences	クラシックレポートを有効にするアクセス許可を付与	書き込み
freetier:PutFreeTierAlertPreference	(E メールアドレスで) AWS 無料利用枠 アラート設定を設定するアクセス許可を付与します	書き込み
invoicing:PutInvoiceEmailDeliveryPreferences	請求書の E メール配信設定を取得するアクセス許可を付与する	書き込み
payments:CreatePaymentInstrument	支払い方法を作成するアクセス許可を付与	書き込み
payments:DeletePaymentInstrument	支払い方法を削除するアクセス許可を付与	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
payments:MakePayment	支払い、支払いの認証、支払い方法の検証、および Advance Pay の資金請求書類の作成を行うアクセス許可を付与	書き込み
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み
tax:BatchPutTaxRegistration	税登録をバッチ更新するアクセス許可を付与	書き込み
tax:DeleteTaxRegistration	税登録データを削除するアクセス許可を付与	書き込み
tax:PutTaxInheritance	税継承を設定するアクセス許可を付与	書き込み

aws-portal:ModifyPaymentMethods のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
account:GetAccountInformation	アカウントのアカウント情報を取得するアクセス許可を付与	読み取り
payments:DeletePaymentInstrument	支払い方法を削除するアクセス許可を付与	書き込み
payments:CreatePaymentInstrument	支払い方法を作成するアクセス許可を付与	書き込み
payments:MakePayment	支払い、支払いの認証、支払い方法の検証、および Advance Pay の資金請求書	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
	類の作成を行うアクセス許可を付与	
payments:UpdatePaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与	書き込み

purchase-orders:ViewPurchaseOrders のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
invoicing:GetInvoicePDF	請求書 PDF を取得するアクセス許可を付与する	Get
payments:ListPaymentPreferences	支払い設定 (優先支払い通貨、優先支払い方法など) を取得するアクセス許可を付与する	リスト
purchase-orders:GetPurchaseOrder	発注書を取得する許可を付与	読み取り
purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices	発詳細および詳細を表示するアクセス許可を付与	リスト
purchase-orders:ListPurchaseOrders	すべての使用可能な発注書を取得する許可を付与	リスト

purchase-orders:ModifyPurchaseOrders のマッピング

新しい アクション	説明	アクセスレベル
purchase-orders:AddPurchaseOrder	発注書を追加する許可を付与する	書き込み

新しい アクション	説明	アクセスレベル
purchase-orders:DeletePurchaseOrder	発注書を削除する許可を付与する	書き込み
purchase-orders:UpdatePurchaseOrder	既存の発注書を更新する許可を付与	書き込み
purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus	発注書のステータスを設定する許可を付与	書き込み

AWS マネージドポリシー

管理ポリシーは、 AWS アカウントの複数のユーザー、グループ、ロールにアタッチできるスタンドアロンのアイデンティティベースのポリシーです。 AWS マネージドポリシーを使用して、請求でのアクセスを制御できます。

AWS 管理ポリシーは、 によって作成および管理されるスタンドアロンポリシーです AWS。 AWS 管理ポリシーは、多くの一般的なユースケースにアクセス許可を付与するように設計されています。 AWS 管理ポリシーを使用すると、ポリシーを自分で記述する必要があったよりも、ユーザー、グループ、ロールに適切なアクセス許可を簡単に割り当てることができます。

AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可を変更することはできません。 AWS は、 AWS 管理ポリシーで定義されているアクセス許可を更新することがあります。行われた更新は、ポリシーがアタッチされているすべてのプリンシパルエンティティ (ユーザー、グループ、ロール) に影響します。

請求では、一般的なユースケース向けに複数の AWS 管理ポリシーが用意されています。

トピック

- AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy
- AWSBillingReadOnlyAccess
- Billing
- AWSAccountActivityAccess
- AWSPriceListServiceFullAccess

- AWS 請求の AWS マネージドポリシーの更新

AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy

このマネージドポリシーは、Billing and Cost Management コンソールと発注書コンソールへのフルアクセスを許可します。このポリシーにより、ユーザーはアカウントの発注書を表示、作成、更新、削除できます。

JSON

```
{
   "Version":"2012-10-17",
   "Statement":[
      {
         "Effect":"Allow",
         "Action":[
            "account:GetAccountInformation",
            "account:GetContactInformation",
            "aws-portal:*Billing",
            "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
            "invoicing:GetInvoicePDF",
            "invoicing:ListInvoiceUnits",
            "payments:GetPaymentInstrument",
            "payments:ListPaymentPreferences",
            "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
            "purchase-orders:DeletePurchaseOrder",
            "purchase-orders:GetPurchaseOrder",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
            "purchase-orders:ListTagsForResource",
            "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
            "purchase-orders:TagResource",
            "purchase-orders:UntagResource",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus",
            "purchase-orders:ViewPurchaseOrders",
            "tax:ListTaxRegistrations"
         ],
         "Resource":"*"
      }
   ]
```

```
}
```

AWSBillingReadOnlyAccess

この管理ポリシーは、 コンソールの機能への読み取り専用アクセスをユーザーに付与します AWS Billing and Cost Management 。

アクセス許可の詳細

このポリシーには、以下のアクセス許可が含まれています。

- account – AWS アカウントに関する情報を取得します。
- aws-portal – Billing and Cost Management コンソールページへの全体的な表示アクセス許可をユーザーに付与します。
- billing – AWS 請求設定、アクティブな契約、適用されるクレジットまたは割引、IAM 設定、登録販売者、請求レポートのリストなど、請求情報への包括的なアクセスを取得します。
- budgets – AWS Budgets 機能に設定されたアクションに関する情報を取得します。
- ce – コストと使用状況の情報、タグ、ディメンション値を取得して AWS Cost Explorer 機能を表示します。
- consolidatedbilling – 一括請求機能を使用して設定された に関する AWS アカウント ロールと詳細を取得します。
- cur – AWS Cost and Usage Report データに関する情報を取得します。
- freetier – AWS 無料利用枠 アラートと使用状況の設定に関する情報を取得します。
- invoicing – 請求書の設定に関する情報を取得します。
- mapcredits – Migration Acceleration Program (MAP) 2.0 契約に関連する支出とクレジットを取得します。
- payments – 資金調達、支払いステータス、および支払い手段情報を取得します。
- purchase-orders – 発注書に関連付けられた請求書に関する情報を取得します。
- sustainability – AWS 使用状況に基づいてカーボンフットプリント情報を取得します。
- tax – 税設定から登録された税情報を取得します。

JSON

```
{
```

```
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "VisualEditor0",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "account:GetAccountInformation",
                "aws-portal:ViewBilling",
                "billing:GetBillingData",
                "billing:GetBillingDetails",
                "billing:GetBillingNotifications",
                "billing:GetBillingPreferences",
                "billing:GetContractInformation",
                "billing:GetCredits",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "billing:ListBillingViews",
                "budgets:DescribeBudgetActionsForBudget",
                "budgets:DescribeBudgetAction",
                "budgets:DescribeBudgetActionsForAccount",
                "budgets:DescribeBudgetActionHistories",
                "budgets:ViewBudget",
                "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
                "ce:GetCostAndUsage",
                "ce:GetDimensionValues",
                "ce:GetTags",
                "ce:ListCostCategoryDefinitions",
                "ce:ListCostAllocationTags",
                "ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory",
                "ce:ListTagsForResource",
                "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
                "consolidatedbilling:ListLinkedAccounts",
                "cur:DescribeReportDefinitions",
                "cur:GetClassicReport",
                "cur:GetClassicReportPreferences",
                "cur:GetUsageReport",
                "freetier:GetFreeTierAlertPreference",
                "freetier:GetFreeTierUsage",
                "freetier:GetAccountPlanState",
                "freetier:GetAccountActivity",
                "freetier:ListAccountActivities",
                "invoicing:BatchGetInvoiceProfile",
                "invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences",
                "invoicing:GetInvoicePDF",
```

```
                "invoicing:GetInvoiceUnit",
                "invoicing:ListInvoiceSummaries",
                "invoicing:ListInvoiceUnits",
                "invoicing:ListTagsForResource",
                "mapcredits:ListAssociatedPrograms",
                "mapcredits:ListQuarterCredits",
                "mapcredits:ListQuarterSpend",
                "mapcredits:GetUniqueQuarterSpendSum",
                "payments:GetFinancingApplication",
                "payments:GetFinancingLine",
                "payments:GetFinancingLineWithdrawal",
                "payments:GetFinancingOption",
                "payments:GetPaymentInstrument",
                "payments:GetPaymentStatus",
                "payments:ListFinancingApplications",
                "payments:ListFinancingLines",
                "payments:ListFinancingLineWithdrawals",
                "payments:ListPaymentInstruments",
                "payments:ListPaymentPreferences",
                "payments:ListPaymentProgramOptions",
                "payments:ListPaymentProgramStatus",
                "payments:ListTagsForResource",
                "purchase-orders:GetPurchaseOrder",
                "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
                "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
                "purchase-orders:ListTagsForResource",
                "purchase-orders:ViewPurchaseOrders",
                "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
                "tax:GetTaxInheritance",
                "tax:GetTaxRegistrationDocument",
                "tax:ListTaxRegistrations"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

Billing

この管理ポリシーは、 AWS Billing and Cost Management コンソールを表示および編集するアクセス許可をユーザーに付与します。これには、アカウントの使用状況の閲覧、予算および支払い方法の修正が含まれます。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
      {
        "Sid": "VisualEditor0",
        "Effect": "Allow",
        "Action": [
            "account:GetAccountInformation",
            "aws-portal:*Billing",
            "aws-portal:*PaymentMethods",
            "aws-portal:*Usage",
            "billing:CreateBillingView",
            "billing:DeleteBillingView",
            "billing:GetBillingData",
            "billing:GetBillingDetails",
            "billing:GetBillingNotifications",
            "billing:GetBillingPreferences",
            "billing:GetBillingView",
            "billing:GetContractInformation",
            "billing:GetCredits",
            "billing:GetIAMAccessPreference",
            "billing:GetSellerOfRecord",
            "billing:ListBillingViews",
            "billing:PutContractInformation",
            "billing:RedeemCredits",
            "billing:GetResourcePolicy",
            "billing:ListSourceViewsForBillingView",
            "billing:ListTagsForResource",
            "billing:TagResource",
            "billing:UntagResource",
            "billing:UpdateBillingPreferences",
            "billing:UpdateBillingView",
            "billing:UpdateIAMAccessPreference",
            "budgets:CreateBudgetAction",
            "budgets:DeleteBudgetAction",
            "budgets:DescribeBudgetActionsForBudget",
            "budgets:DescribeBudgetAction",
            "budgets:DescribeBudgetActionsForAccount",
            "budgets:DescribeBudgetActionHistories",
            "budgets:ExecuteBudgetAction",
            "budgets:ModifyBudget",
```

```
                "budgets:UpdateBudgetAction",
                "budgets:ViewBudget",
                "ce:CreateNotificationSubscription",
                "ce:CreateReport",
                "ce:CreateCostCategoryDefinition",
                "ce:DeleteNotificationSubscription",
                "ce:DeleteCostCategoryDefinition",
                "ce:DescribeCostCategoryDefinition",
                "ce:DeleteReport",
                "ce:GetCostAndUsage",
                "ce:GetDimensionValues",
                "ce:GetTags",
                "ce:ListCostAllocationTags",
                "ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory",
                "ce:ListCostCategoryDefinitions",
                "ce:ListTagsForResource",
                "ce:StartCostAllocationTagBackfill",
                "ce:UpdateCostAllocationTagsStatus",
                "ce:UpdateNotificationSubscription",
                "ce:TagResource",
                "ce:UpdatePreferences",
                "ce:UpdateReport",
                "ce:UntagResource",
                "ce:UpdateCostCategoryDefinition",
                "consolidatedbilling:GetAccountBillingRole",
                "consolidatedbilling:ListLinkedAccounts",
                "cur:DeleteReportDefinition",
                "cur:DescribeReportDefinitions",
                "cur:GetClassicReport",
                "cur:GetClassicReportPreferences",
                "cur:GetUsageReport",
                "cur:ModifyReportDefinition",
                "cur:PutClassicReportPreferences",
                "cur:PutReportDefinition",
                "cur:ValidateReportDestination",
                "freetier:GetFreeTierAlertPreference",
                "freetier:GetFreeTierUsage",
                "freetier:PutFreeTierAlertPreference",
                "invoicing:BatchGetInvoiceProfile",
                "invoicing:CreateInvoiceUnit",
                "invoicing:DeleteInvoiceUnit",
                "invoicing:GetInvoiceEmailDeliveryPreferences",
                "invoicing:GetInvoicePDF",
                "invoicing:GetInvoiceUnit",
```

```
            "invoicing:ListInvoiceSummaries",
            "invoicing:ListInvoiceUnits",
            "invoicing:ListTagsForResource",
            "invoicing:PutInvoiceEmailDeliveryPreferences",
            "invoicing:TagResource",
            "invoicing:UntagResource",
            "invoicing:UpdateInvoiceUnit",
            "mapcredits:ListAssociatedPrograms",
            "mapcredits:ListQuarterCredits",
            "mapcredits:ListQuarterSpend",
            "mapcredits:GetUniqueQuarterSpendSum",
            "payments:CreateFinancingApplication",
            "payments:CreatePaymentInstrument",
            "payments:DeletePaymentInstrument",
            "payments:GetFinancingApplication",
            "payments:GetFinancingLine",
            "payments:GetFinancingLineWithdrawal",
            "payments:GetFinancingOption",
            "payments:GetPaymentInstrument",
            "payments:GetPaymentStatus",
            "payments:ListFinancingApplications",
            "payments:ListFinancingLines",
            "payments:ListFinancingLineWithdrawals",
            "payments:ListPaymentInstruments",
            "payments:ListPaymentPreferences",
            "payments:ListPaymentProgramOptions",
            "payments:ListPaymentProgramStatus",
            "payments:ListTagsForResource",
            "payments:MakePayment",
            "payments:TagResource",
            "payments:UntagResource",
            "payments:UpdateFinancingApplication",
            "payments:UpdatePaymentInstrument",
            "payments:UpdatePaymentPreferences",
            "pricing:DescribeServices",
            "purchase-orders:AddPurchaseOrder",
            "purchase-orders:DeletePurchaseOrder",
            "purchase-orders:GetPurchaseOrder",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrderInvoices",
            "purchase-orders:ListPurchaseOrders",
            "purchase-orders:ListTagsForResource",
            "purchase-orders:ModifyPurchaseOrders",
            "purchase-orders:TagResource",
            "purchase-orders:UntagResource",
```

```
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrder",
            "purchase-orders:UpdatePurchaseOrderStatus",
            "purchase-orders:ViewPurchaseOrders",
            "support:AddAttachmentsToSet",
            "support:CreateCase",
            "sustainability:GetCarbonFootprintSummary",
            "tax:BatchPutTaxRegistration",
            "tax:DeleteTaxRegistration",
            "tax:GetExemptions",
            "tax:GetTaxInheritance",
            "tax:GetTaxInterview",
            "tax:GetTaxRegistration",
            "tax:GetTaxRegistrationDocument",
            "tax:ListTaxRegistrations",
            "tax:PutTaxInheritance",
            "tax:PutTaxInterview",
            "tax:PutTaxRegistration",
            "tax:UpdateExemptions"
        ],
        "Resource": "*"
      }
   ]
}
```

AWSAccountActivityAccess

このマネージドポリシーは、[アカウントアクティビティ] を閲覧するアクセス許可をユーザーに付与します。

JSON

```
{
      "Version": "2012-10-17",
      "Statement": [
            {
              "Sid": "VisualEditor0",
              "Effect": "Allow",
              "Action": [
                "account:GetRegionOptStatus",
                "account:GetAccountInformation",
                "account:GetAlternateContact",
```

```
                "account:GetContactInformation",
                "account:ListRegions",
                "aws-portal:ViewBilling",
                "billing:GetIAMAccessPreference",
                "billing:GetSellerOfRecord",
                "payments:ListPaymentPreferences"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWSPriceListServiceFullAccess

この管理ポリシーは、ユーザーに AWS Price List Service へのフルアクセスを付与します。

JSON

```
{
    "Version": "2012-10-17",
    "Statement": [
        {
            "Sid": "AWSPriceListServiceFullAccess",
            "Effect": "Allow",
            "Action": [
                "pricing:*"
            ],
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

AWS 請求の AWS マネージドポリシーの更新

このサービスがこれらの変更の追跡を開始してからの AWS Billing の AWS マネージドポリシーの更新に関する詳細を表示します。このページの変更に関する自動アラートについては、 AWS 請求文書履歴ページの RSS フィードにサブスクライブしてください。

変更	説明	日付
AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新	に次の AWS 無料利用枠 アクセス許可を追加しましたAWSBillingReadOnlyAccess 。 • freetier:GetAccountPlanState • freetier:GetAccountActivity • freetier:ListAccountActivities	2025 年 7 月 9 日
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	Billing および に次の MAP 2.0 アクセス許可を追加しましたAWSBillingReadOnlyAccess 。 • mapcredits:ListAssociatedPrograms • mapcredits:ListQuarterCredits • mapcredits:ListQuarterSpend • mapcredits:GetUniqueQuarterSpendSum	2025 年 3 月 27 日
請求 — 既存のポリシーの更新	に次の請求権限を追加しましたBilling。 • billing:CreateBillingView • billing:DeleteBillingView	2025年1月17日

変更	説明	日付
	• billing:GetBillingView • billing:GetResourcePolicy • billing:ListSourceViewsForBillingView • billing:ListTagsForResource • billing:TagResource • billing:UntagResource • billing:UpdateBillingView	

変更	説明	日付
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新	に次の請求アクセス許可を追加しましたAWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 。 • invoicing:ListInvoiceUnits に次の請求権限を追加しましたAWSBillingReadOnlyAccess 。 • invoicing:BatchGetInvoiceProfile • invoicing:GetInvoiceUnit • invoicing:ListInvoiceUnits • invoicing:ListTagsForResource に次の請求権限を追加しましたBilling。 • invoicing:BatchGetInvoiceProfile • invoicing:CreateInvoiceUnit • invoicing:DeleteInvoiceUnit • invoicing:GetInvoiceUnit	2024 年 12 月 1 日

変更	説明	日付
	• invoicing:ListInvoiceUnits • invoicing:ListTagsForResource • invoicing:TagResource • invoicing:UntagResource • invoicing:UpdateInvoiceUnit	

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	に次の支払いアクセス許可を追加しましたBilling。 • payments:GetFinancingOption • payments:CreateFinancingApplication • payments:UpdateFinancingApplication • payments:GetFinancingApplication • payments:ListFinancingApplications • payments:ListFinancingLines • payments:GetFinancingLine • payments:ListFinancingLines • payments:GetFinancingLineWithdrawal • payments:ListFinancingLineWithdrawals • payments:ListPaymentProgramStatus • payments:ListPaymentProgramOptions に次の支払いアクセス許可を追加しましたAWSBillingReadOnlyAccess 。	2024 年 11 月 12 日

変更	説明	日付
	• payments:GetFinancingOption • payments:GetFinancingApplication • payments:ListFinancingApplications • payments:GetFinancingLine • payments:ListFinancingLines • payments:GetFinancingLineWithdrawal • payments:ListFinancingLineWithdrawals • payments:ListPaymentProgramStatus • payments:ListPaymentProgramOptions	
AWSPriceListServiceFullAccess – ポリシーの更新	AWS Price List Service の AWSPriceListServiceFullAccess ポリシーに関するドキュメントを追加しました。このポリシーは、2017 年に初めて導入されました。既存のポリシーに対して Sid": "AWSPriceListServiceFullAccess を更新しました。	2024 年 7 月 2 日

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 • payments:ListTagsForResource • payments:TagResource • payments:UntagResource • payments:ListPaymentInstruments • payments:UpdatePaymentInstrument 次のタグ関連の権限を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • payments:ListTagsForResource • payments:ListPaymentInstruments	2024 年 5 月 31 日

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory • ce:StartCostAllocationTagBackfill • ce:GetTags • ce:GetDimensionValues 次のコスト配分タグ関連の権限 AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTagBackfillHistory • ce:GetTags • ce:GetDimensionValues	2024 年 3 月 25 日

変更	説明	日付
Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – 既存ポリシーの更新	次のコスト配分タグ関連の権限を Billing に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTags • ce:UpdateCostAllocationTagsStatus 次のコスト配分タグ関連の権限 AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • ce:ListCostAllocationTags	2023 年 7 月 26 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新	次の発注書タグ関連の権限を Billing および AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy に追加しました。 • purchase-orders:ListTagsForResource • purchase-orders:TagResource • purchase-orders:UntagResource 次のタグ関連の権限を AWSBillingReadOnlyAccess に追加しました。 • purchase-orders:ListTagsForResource	2023 年 7 月 17 日

変更	説明	日付
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess – 既存のポリシーの更新 AWSAccountActivityAccess – AWS Billing 用に文書化された新しい AWS 管理ポリシー	更新済みのアクションセットをすべてのポリシーに追加	2023 年 3 月 6 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy - 既存のポリシーの更新	AWS 請求で不要なアクセス許可が削除されました。	2021 年 11 月 18 日
AWS 請求が変更の追跡を開始しました	AWS 請求は、 AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021 年 11 月 18 日

AWS 請求 ID とアクセスのトラブルシューティング

次の情報は、Billing と IAM の使用に伴って発生する可能性がある一般的な問題の診断や修復に役立ちます。

トピック

- Billing でアクションを実行する権限がない
- iam:PassRole を実行する権限がない
- アクセスキーを表示したい
- 管理者として Billing へのアクセスを他のユーザーに許可する
- 自分の 以外のユーザーに請求リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

Billing でアクションを実行する権限がない

にアクションを実行する権限がないと AWS Management Console 通知された場合は、管理者に連絡してサポートを依頼する必要があります。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

以下のエラー例は、mateojackson ユーザーがコンソールを使用して架空の *my-example-widget* リソースに関する詳細情報を表示しようとしているが、架空の billing:*GetWidget* 許可がないという場合に発生します。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/mateojackson is not authorized to perform:
 billing:GetWidget on resource: my-example-widget
```

この場合、Mateo は、billing:*GetWidget* アクションを使用して *my-example-widget* リソースにアクセスできるように、管理者にポリシーの更新を依頼します。

iam:PassRole を実行する権限がない

iam:PassRole アクションを実行する権限がないというエラーが表示された場合は、ポリシーを更新して Billing にロールを渡すことができるようにする必要があります。

一部の AWS のサービス では、新しいサービスロールまたはサービスにリンクされたロールを作成する代わりに、既存のロールをそのサービスに渡すことができます。そのためには、サービスにロールを渡す権限が必要です。

以下の例のエラーは、marymajor という IAM ユーザーがコンソールを使用して Billing でアクションを実行しようする場合に発生します。ただし、このアクションをサービスが実行するには、サービスロールから付与された権限が必要です。メアリーには、ロールをサービスに渡す許可がありません。

```
User: arn:aws:iam::123456789012:user/marymajor is not authorized to perform:
 iam:PassRole
```

この場合、Mary のポリシーを更新してメアリーに iam:PassRole アクションの実行を許可する必要があります。

サポートが必要な場合は、 AWS 管理者にお問い合わせください。サインイン資格情報を提供した担当者が管理者です。

アクセスキーを表示したい

IAM ユーザーアクセスキーを作成した後は、いつでもアクセスキー ID を表示できます。ただし、シークレットアクセスキーを再表示することはできません。シークレットアクセスキーを紛失した場合は、新しいアクセスキーペアを作成する必要があります。

アクセスキーは、アクセスキー ID (例: AKIAIOSFODNN7EXAMPLE) とシークレットアクセスキー (例: wJalrXUtnFEMI/K7MDENG/bPxRfiCYEXAMPLEKEY) の 2 つで構成されています。ユーザー名とパ

スワードと同様に、リクエストを認証するために、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーの両方を使用する必要があります。ユーザー名とパスワードと同様に、アクセスキーは安全に管理してください。

> **Important**
>
> 正規のユーザー ID を確認するためであっても、アクセスキーを第三者に提供しないでください。これにより、 への永続的なアクセス権をユーザーに付与できます AWS アカウント。

アクセスキーペアを作成する場合、アクセスキー ID とシークレットアクセスキーを安全な場所に保存するように求めるプロンプトが表示されます。このシークレットアクセスキーは、作成時にのみ使用できます。シークレットアクセスキーを紛失した場合、IAM ユーザーに新規アクセスキーを追加する必要があります。アクセスキーは最大 2 つまで持つことができます。既に 2 つある場合は、新規キーペアを作成する前に、いずれかを削除する必要があります。手順を表示するには、IAM ユーザーガイドの「アクセスキーの管理」を参照してください。

管理者として Billing へのアクセスを他のユーザーに許可する

Billing へのアクセスを他のユーザーに許可するには、アクセスが必要なユーザーまたはアプリケーションにアクセス許可を付与する必要があります。 AWS IAM Identity Center を使用してユーザーとアプリケーションの管理を行う場合は、アクセスレベルを定義するアクセス許可セットをユーザーまたはグループに割り当てます。アクセス許可セットは、ユーザーまたはアプリケーションに関連付けられている IAM ロールに自動的に IAM ポリシーを作成して割り当てます。詳細については、「AWS IAM Identity Center ユーザーガイド」の「アクセス許可セット」を参照してください。

IAM Identity Center を使用していない場合は、アクセスを必要としているユーザーまたはアプリケーションの IAM エンティティ (ユーザーまたはロール) を作成する必要があります。次に、そのエンティティに Billing での適切なアクセス許可を付与するポリシーをアタッチする必要があります。アクセス許可が付与されたら、ユーザーまたはアプリケーション開発者に認証情報を提供します。これらの認証情報を使用して AWSにアクセスします。IAM ユーザー、グループ、ポリシー、アクセス許可の作成の詳細については、「IAM ユーザーガイド」の「IAM アイデンティティ」と「IAM のポリシーとアクセス許可」を参照してください。

自分の 以外のユーザーに請求リソース AWS アカウント へのアクセスを許可したい

他のアカウントのユーザーや組織外の人が、リソースにアクセスするために使用できるロールを作成できます。ロールの引き受けを委託するユーザーを指定できます。リソースベースのポリシーまた

はアクセスコントロールリスト (ACL) をサポートするサービスの場合、それらのポリシーを使用して、リソースへのアクセスを付与できます。

詳細については、以下を参照してください:

- Billing がこれらの機能をサポートするかどうかについては、「Billing と IAM の AWS 連携方法」を参照してください。
- 所有 AWS アカウント している のリソースへのアクセスを提供する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「所有 AWS アカウント している別の の IAM ユーザーへのアクセスを提供する」を参照してください。
- リソースへのアクセスをサードパーティーに提供する方法については AWS アカウント、IAM ユーザーガイドの「サードパーティーが所有する へのアクセスを提供する AWS アカウント」を参照してください。
- ID フェデレーションを介してアクセスを提供する方法については、「IAM ユーザーガイド」の「外部で認証されたユーザー (ID フェデレーション) へのアクセスの許可」を参照してください。
- クロスアカウントアクセスにおけるロールとリソースベースのポリシーの使用方法の違いについては、「IAM ユーザーガイド」の「IAM でのクロスアカウントのリソースへのアクセス」を参照してください。

でのログ記録とモニタリング AWS Billing and Cost Management

モニタリングは、 AWS アカウントの信頼性、可用性、パフォーマンスを維持する上で重要な部分です。請求情報とコスト管理の使用状況をモニタリングするためのツールがいくつかあります。

AWS コストと使用状況レポート

AWS コストと使用状況レポートは AWS 、使用状況を追跡し、アカウントに関連する推定請求額を提供します。各レポートには、 AWS アカウントで使用する AWS 製品、使用タイプ、オペレーションの一意の組み合わせごとに明細項目が含まれます。 AWS コストと使用状況レポートをカスタマイズして、時間単位または日単位で情報を集計できます。

AWS コストと使用状況レポートの詳細については、「 コストと使用状況レポートガイド」を参照してください。

AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management のユーザー、ロール、または のサービスによって実行されたアクションを記録する AWS サービスである と統合され

ています。CloudTrail は、請求情報とコスト管理コンソールからの呼び出し、および請求情報とコスト管理 API へのコード呼び出しを含む、請求情報とコスト管理のすべての書き込みおよび変更の API 呼び出しをイベントとしてキャプチャします。

詳細については AWS CloudTrail、「」を参照してください[を使用した Billing and Cost Management API コールのログ記録 AWS CloudTrail]。

を使用した Billing and Cost Management API コールのログ記録 AWS CloudTrail

Billing and Cost Management は AWS CloudTrail、Billing and Cost Management のユーザー、ロール、または のサービスによって実行されたアクションを記録する AWS サービスである と統合されています。CloudTrail は、請求情報とコスト管理の API コールをイベントとしてキャプチャします。これには、請求情報とコスト管理コンソールからの呼び出しと請求情報とコスト管理 API からの呼び出しも含まれます。請求に関連する CloudTrail イベントの完全なリストについては、「AWS Billing CloudTrail イベント」を参照してください。

証跡を作成する場合は、請求情報とコスト管理のイベントなど、Amazon S3 バケットへの CloudTrail イベントの継続的な配信を有効にすることができます 証跡を設定しない場合でも、CloudTrail コンソールの [イベント履歴] で最新のイベントを表示できます。CloudTrail で収集された情報を使用して、請求情報とコスト管理に対するリクエスト、リクエスト元の IP アドレス、リクエスト者、リクエスト日時などの詳細を確認できます。

設定や有効化の方法など、CloudTrail の詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」を参照してください。

AWS Billing CloudTrail イベント

このセクションでは、請求情報とコスト管理に関連する CloudTrail イベントの完全なリストを示しています。

イベント名	定義	イベントソース
`AddPurchaseOrder`	発注書の作成を口グに記録します。	`purchase-orders.amazonaws.com`

イベント名	定義	イベントソース
AcceptFxPaymentCurrencyTermsAndConditions	USD 以外の通貨での支払いに関する利用規約の承諾をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
CloseAccount	アカウントの閉鎖をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
CreateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の作成を記録します。	customer-verification.amazonaws.com
CreateOrigamiReportPreference	コストと使用状況レポートの作成をログに記録します (管理アカウントのみ)。	billingconsole.amazonaws.com
DeletePurchaseOrder	発注書の削除をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
DeleteOrigamiReportPreferences	コストと使用状況レポートの削除をログに記録します (管理アカウントのみ)。	billingconsole.amazonaws.com
DownloadCommercialInvoice	コマーシャルインボイスのダウンロードをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
DownloadECSVForBillingPeriod	特定の請求期間の eCSV ファイル (月次使用状況レポート) のダウンロードのログを作成します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
DownloadRegistrationDocument	税金登録文書のダウンロードをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
EnableBillingAlerts	予想請求額の CloudWatch 請求アラートの受信のオプトインをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
FindECSVForBillingPeriod	特定の請求期間における eCSV ファイルの取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetAccountEDPStatus	アカウントの EDP ステータスの取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetAddresses	アカウントの納税先住所、請求先住所、連絡先住所へのアクセスを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetAllAccounts	管理アカウントのすべてのメンバーアカウント番号へのアクセスを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetBillsForBillingPeriod	特定の請求期間におけるアカウントの使用状況および料金のアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetBillsForLinkedAccount	特定の請求期間における一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ファミリー内のメンバーアカウントの 1 つの使用状況および料金を取得する管理アカウントのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
GetCommercialInvoicesForBillingPeriod	特定の請求期間におけるアカウントのコマーシャルインボイスのメタデータへのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetConsolidatedBillingFamilySummary	一括請求 (コンソリデーティッドビリング) ファミリー全体の概要を取得する管理アカウントのアクセスをログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetCustomerVerificationEligibility	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客検証資格取得をログに記録します。	customer-verification.amazonaws.com
GetCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の取得を記録します。	customer-verification.amazonaws.com
GetLinkedAccountNames	特定の請求期間における一括請求ファミリーに属するメンバーアカウント名の管理アカウントからの取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetPurchaseOrder	発注書の取得をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
GetSupportedCountryCodes	税金コンソールでサポートされているすべての国コードへのアクセスを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
GetTotal	アカウントの合計請求額の取得をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
GetTotalAmountForForecast	特定の請求期間における予測料金へのアクセスを口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
ListCostAllocationTags	コスト配分タグの取得とリストを記録します。	billingconsole.amazonaws.com
ListPurchaseOrders	発注書の取得と一覧をログに記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
ListPurchaseOrderInvoices	発注書に関連する請求書の取得と一覧の口グ。	purchase-orders.amazonaws.com
ListTagsForResource	リソースに関連付けられたタグを一覧表示します。payments の場合、このアクションは支払い方法を参照します。purchase-orders の場合、このアクションは発注書を参照します。	purchase-orders.amazonaws.com
RedeemPromoCode	アカウントのプロモーションクレジットの利用を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetAccountContractMetadata	公共部門のお客様に必要な契約情報の作成、削除、または更新を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetAccountPreferences	アカウント名、E メール、パスワードの更新を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetAdditionalContacts	請求、オペレーション、セキュリティ通信用の代替連絡先の作成、削除、または更新を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
SetContactAddress	住所や電話番号を含む、アカウント所有者の連絡先情報の作成、削除、または更新を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetCreatedByOptIn	awscreatedby コスト配分タグ設定のオプトインを口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetCreditSharing	管理アカウントのクレジット共有設定の履歴を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetFreetierBudgetsPreference	無料利用枠のアラートの受信の設定 (オプトインまたはオプトアウト) を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetFxPaymentCurrency	請求書の支払いに使用される優先通貨の作成、削除、または更新を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetIAMAccessPreference	IAM ユーザーによる請求コンソールへのアクセスの許可の作成、削除、または更新を口グに記録します。この設定は、root アクセスが許可されたお客様のみを対象としています。	billingconsole.amazonaws.com
SetPANInformation	India での PAN 情報の作成、削除、または更新を口グに記録します AWS 。	billingconsole.amazonaws.com
SetPayInformation	アカウントの支払い方法の履歴 (請求書またはクレジット/デビットカード) を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
SetRISharing	管理アカウントの RI/Savings Plans 共有設定の履歴を口グに記録します。	billingconsole.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
SetSecurityQuestions	セキュリティチャレンジの質問の作成、削除、または更新をログに記録し、アカウントの所有者として AWS 識別できるようにします。	billingconsole.amazonaws.com
SetTagKeysState	特定のコスト配分タグのアクティブまたは非アクティブ状態をログに記録します。	billingconsole.amazonaws.com
TagResource	リソースのタグ付けをログに記録します。payments の場合、このアクションは支払い方法を参照します。purchase-orders の場合、このアクションは発注書を参照します。	purchase-orders.amazonaws.com
UntagResource	リソースからのタグの削除をログに記録します。payments の場合、このアクションは支払い方法を参照します。purchase-orders の場合、このアクションは発注書を参照します。	purchase-orders.amazonaws.com
UpdateCustomerVerificationDetails	(請求先住所または連絡先住所がインドのお客様のみ) アカウントの顧客確認詳細の更新を記録します。	customer-verification.amazonaws.com
UpdateOrigamiReportPreference	コストと使用状況レポートの更新を記録します (管理アカウントのみ)。	billingconsole.amazonaws.com
UpdatePurchaseOrder	発注書の更新を記録します。	purchase-orders.amazonaws.com
UpdatePurchaseOrderStatus	発注書の状態の更新を記録します。	purchase-orders.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
ValidateAddress	アカウントの納税住所の検証を記録します。	billingconsole.amazonaws.com

Payments CloudTrail イベント

このセクションでは、 AWS Billing コンソールの Payments 機能の CloudTrail イベントの完全なリストを示します。これらの CloudTrail イベントは、billingconsole.amazonaws.com の代わりに payments.amazonaws.com を使用します。

イベント名	定義
Financing_AcceptFinancingApplicationTerms	資金調達アプリケーションでの条件の承諾を口グに記録します。
Financing_CreateFinancingApplication	資金調達アプリケーションの作成を口グに記録します。
Financing_GetFinancingApplication	資金調達アプリケーションのアクセスを口グに記録します。
Financing_GetFinancingApplicationDocument	資金調達アプリケーションに関連付けられたドキュメントのアクセスを口グに記録します。
Financing_GetFinancingLine	資金調達ラインへのアクセスを口グに記録します。

イベント名	定義
Financing_GetFinancingLineWithdrawal	資金調達ラインの引き出しのアクセスをログに記録します。
Financing_GetFinancingLineWithdrawalDocument	資金調達ラインの取り消しに関連するドキュメントのアクセスをログに記録します。
Financing_GetFinancingLineWithdrawalStatements	資金調達ラインの廃止に関連するステートメントのアクセスをログに記録します。
Financing_GetFinancingOption	資金調達オプションへのアクセスをログに記録します。
Financing_ListFinancingApplications	資金調達アプリケーションメタデータのリストをログに記録します。
Financing_ListFinancingLines	資金調達ラインメタデータのリストをログに記録します。
Financing_ListFinancingLineWithdrawals	資金調達ラインリダクションメタデータのリストをログに記録します。

イベント名	定義
Financing_UpdateFinancingApplication	資金調達アプリケーションの更新を口グに記録します。
Instruments_Authenticate	支払い手段の認証を口グに記録します。
Instruments_Create	支払い手段の作成を口グに記録します。
Instruments_Delete	支払い手段の削除を口グに記録します。
Instruments_Get	支払い手段へのアクセスを口グに記録します。
Instruments_List	支払い手段メタデータのリストを口グに記録します。
Instruments_StartCreate	支払い手段の作成前にオペレーションを口グに記録します。
Instruments_Update	支払い手段の更新を口グに記録します。
ListTagsForResource	支払いリソースに関連付けられたタグのリストを口グに記録します。
Policy_GetPaymentInstrumentEligibility	支払い手段の資格へのアクセスを口グに記録します。
Preferences_BatchGetPaymentProfiles	支払いプロファイルへのアクセスを口グに記録します。

イベント名	定義
Preferences_CreatePaymentProfile	支払いプロファイルの作成をログに記録します。
Preferences_DeletePaymentProfile	支払いプロファイルの削除をログに記録します。
Preferences_ListPaymentProfiles	支払いプロファイルメタデータのリストをログに記録します。
Preferences_UpdatePaymentProfile	支払いプロファイルの更新をログに記録します。
Programs_ListPaymentProgramOptions	支払いプログラムオプションのリストをログに記録します。
Programs_ListPaymentProgramStatus	支払いプログラムの適格性と登録ステータスのリストをログに記録します。
TagResource	支払いリソースのタグ付けをログに記録します。
TermsAndConditions_AcceptTermsAndConditionsForProgramByAccountId	承認された支払い条件をログに記録します。

イベント名	定義
TermsAndConditions_GetAcceptedTermsAndConditionsForProgramByAccountId	承認された利用規約へのアクセスをログに記録します。
TermsAndConditions_GetRecommendedTermsAndConditionsForProgram	推奨される利用規約へのアクセスをログに記録します。
UntagResource	支払いリソースからのタグの削除をログに記録します。

税金設定 CloudTrail イベント

このセクションでは、 AWS Billing コンソールの税設定機能の CloudTrail イベントの完全なリストを示します。これらの CloudTrail イベントは、billingconsole.amazonaws.com の代わりに taxconsole.amazonaws.com または tax.amazonaws.com を使用します。

税設定コンソールの CloudTrail イベント

イベント名	定義	イベントソース
BatchGetTaxExemptions	アカウントおよびリンクされたアカウントの米国免税へのアクセスをログに記録します。	taxconsole.amazon.com
CreateCustomerCase	カスタマーサポートケースの作成を記録して、アカウントの米国の免税を検証します。	taxconsole.amazon.com

イベント名	定義	イベントソース
DownloadTaxInvoice	タックスインボイスのダウンロードを口グに記録します。	taxconsole.amazon.com
GetTaxExemptionTypes	税金コンソールで、サポートされているすべての米国免税タイプへのアクセスを記録します。	taxconsole.amazon.com
GetTaxInheritance	アカウントの税相続プリファレンス (有効化または無効化) へのアクセスを記録します。	taxconsole.amazon.com
GetTaxInvoicesMetadata	税金請求書のメタデータの取得を口グに記録します。	taxconsole.amazon.com
GetTaxRegistration	アカウントの税務登録番号へのアクセスを記録します。	taxconsole.amazon.com
PreviewTaxRegistrationChange	確定前に税務登録の変更のプレビューを記録します。	taxconsole.amazon.com
SetTaxInheritance	相続税の設定 (オプトインまたはオプトアウト) を記録します。	taxconsole.amazon.com

税設定 API の CloudTrail イベント

イベント名	定義	イベントソース
BatchDeleteTaxRegistration	複数のアカウントの税登録のバッチ削除を記録します。	tax.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
BatchGetTaxExemptions	1 つ以上のアカウントの免税へのアクセスを記録します。	tax.amazonaws.com
BatchPutTaxRegistration	複数のアカウントの税登録の設定を口グに記録します。	tax.amazonaws.com
DeleteTaxRegistration	アカウントの税登録番号の削除を口グに記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxExemptionTypes	税コンソールで、サポートされているすべての免税タイプへのアクセスを口グに記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxInheritance	アカウントの税相続プリファレンス (有効化または無効化) へのアクセスを記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxRegistration	アカウントの税登録へのアクセスを記録します。	tax.amazonaws.com
GetTaxRegistrationDocument	アカウントの税登録ドキュメントを取得する口グ。	tax.amazonaws.com
ListTaxExemptions	AWS 組織アカウントの免税へのアクセスを記録します。	tax.amazonaws.com
ListTaxRegistrations	管理アカウントのすべてのメンバーアカウントの税金登録詳細を記録します。	tax.amazonaws.com
PutTaxExemption	1 つ以上のアカウントの免税を設定する口グ。	tax.amazonaws.com
PutTaxInheritance	税継承の設定 (オプトインまたはオプトアウト) を口グに記録します。	tax.amazonaws.com

イベント名	定義	イベントソース
PutTaxRegistration	アカウントの税登録の設定を口グに記録します。	tax.amazonaws.com

CloudTrail イベントの呼び出し

このセクションでは、 AWS Billing コンソールの請求機能の CloudTrail イベントの完全なリストを示します。これらの CloudTrail イベントは を使用しますinvoicing.amazonaws.com。

イベント名	定義
CreateInvoiceUnit	請求書単位の作成を口グに記録します。
DeleteInvoiceUnit	請求書単位の削除を口グに記録します。
GetInvoiceProfiles	アカウントの請求書プロファイルへのアクセスを記録します。
GetInvoiceUnit	請求書ユニットのアクセスを記録します。
ListInvoiceUnits	請求書ユニットの取り出しと一覧表示を口グに記録します。
UpdateInvoiceUnit	請求書単位の更新を口グに記録します。

CloudTrail の請求情報とコスト管理の情報

CloudTrail は、 AWS アカウントの作成時にアカウントで有効になります。請求情報とコスト管理でサポートされているイベントアクティビティが発生すると、そのアクティビティは [Event history] (イベント履歴) で AWS のその他サービスのイベントと共に CloudTrail イベントに記録されます。AWS アカウントで最近のイベントを表示、検索、ダウンロードできます。詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「CloudTrail イベント履歴でのイベントの表示」を参照してください。

請求情報とコスト管理のイベントなど、 AWS アカウント内のイベントの継続的な記録については、証跡を作成します。証跡により、CloudTrail はログファイルを Amazon S3 バケットに配信できます。デフォルトでは、コンソールで証跡を作成すると、証跡はすべての AWS リージョンに適用されます。証跡は、 AWS パーティション内のすべてのリージョンからのイベントをログに記録し、指定

した Amazon S3 バケットにログファイルを配信します。さらに、CloudTrail ログで収集されたイベントデータをさらに分析して処理するように他の AWS サービスを設定できます。

詳細については、次を参照してください:

- 証跡の作成のための概要
- CloudTrail がサポートするサービスと統合
- CloudTrail 用 Amazon SNS 通知の構成
- 複数のリージョンから CloudTrail ログファイルを受け取るおよび複数のアカウントから CloudTrail ログファイルを受け取る

各イベントまたはログエントリには、誰がリクエストを生成したかという情報が含まれます。同一性情報は次の判断に役立ちます。

- リクエストが、ルートと IAM ユーザー認証情報のどちらを使用して送信されたか。
- リクエストがロールまたはフェデレーションユーザーの一時的なセキュリティ認証情報を使用して行われたかどうか。
- リクエストが別の AWS サービスによって行われたかどうか。

詳細については、「AWS CloudTrail ユーザーガイド」の「CloudTrail userIdentity Element」を参照してください。

CloudTrail ログエントリの例

次の例は、特定の Billing and Cost Management CloudTrail ログエントリシナリオで提供されています。

トピック

- 請求およびコスト管理ログファイルエントリ
- 税金コンソール
- 支払い

請求およびコスト管理ログファイルエントリ

「トレイル」は、指定した Simple Storage Service (Amazon S3) バケットにイベントをログファイルとして配信するように設定できます。CloudTrail のログファイルは、単一か複数のログエントリを含みます。イベントは任意ソースからの単一リクエストを表し、リクエストされたアクション、アク

ションの日時、リクエストパラメータなどの情報を含みます。CloudTrail ログファイルは、公開 API コールの順序付けられたスタックトレースではないため、特定の順序では表示されません。

以下の例は、SetContactAddress アクションを示す CloudTrail ログエントリです。


```
{
        "eventVersion": "1.05",
        "userIdentity": {
            "accountId": "111122223333",
            "accessKeyId": "AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
        },
        "eventTime": "2018-05-30T16:44:04Z",
        "eventSource": "billingconsole.amazonaws.com",
        "eventName": "SetContactAddress",
        "awsRegion": "us-east-1",
        "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
        "requestParameters": {
            "website": "https://amazon.com",
            "city": "Seattle",
            "postalCode": "98108",
            "fullName": "Jane Doe",
            "districtOrCounty": null,
            "phoneNumber": "206-555-0100",
            "countryCode": "US",
            "addressLine1": "Nowhere Estates",
            "addressLine2": "100 Main Street",
            "company": "AnyCompany",
            "state": "Washington",
            "addressLine3": "Anytown, USA",
            "secondaryPhone": "206-555-0101"
        },
        "responseElements": null,
        "eventID": "5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
        "readOnly": false,
        "eventType": "AwsConsoleAction",
        "recipientAccountId": "1111-2222-3333"
    }
```


税金コンソール

次の例は、CreateCustomerCase アクションを使用する CloudTrail ログエントリです。


```
{
```

```
   "eventVersion":"1.05",
   "userIdentity":{
      "accountId":"111122223333",
      "accessKeyId":"AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE"
   },
   "eventTime":"2018-05-30T16:44:04Z",
   "eventSource":"taxconsole.amazonaws.com",
   "eventName":"CreateCustomerCase",
   "awsRegion":"us-east-1",
   "sourceIPAddress":"100.100.10.10",
   "requestParameters":{
      "state":"NJ",
      "exemptionType":"501C",
      "exemptionCertificateList":[
         {
            "documentName":"ExemptionCertificate.png"
         }
      ]
   },
   "responseElements":{
      "caseId":"case-111122223333-iris-2022-3cd52e8dbf262242"
   },
   "eventID":"5923c499-063e-44ac-80fb-b40example9f",
   "readOnly":false,
   "eventType":"AwsConsoleAction",
   "recipientAccountId":"1111-2222-3333"
}
```

支払い

次の例は、Instruments_Create アクションを使用する CloudTrail ログエントリです。

```
{
    "eventVersion": "1.08",
    "userIdentity": {
        "type": "Root",
        "principalId": "111122223333",
        "arn": "arn:aws:iam::111122223333:<iam>",
        "accountId": "111122223333",
        "accessKeyId": "AIDACKCEVSQ6C2EXAMPLE",
        "sessionContext": {
            "sessionIssuer": {},
            "webIdFederationData": {},
            "attributes": {
```

```
                "creationDate": "2024-05-01T00:00:00Z",
                "mfaAuthenticated": "false"
            }
        }
    },
    "eventTime": "2024-05-01T00:00:00Z",
    "eventSource": "payments.amazonaws.com",
    "eventName": "Instruments_Create",
    "awsRegion": "us-east-1",
    "sourceIPAddress": "100.100.10.10",
    "userAgent": "AWS",
    "requestParameters": {
        "accountId": "111122223333",
        "paymentMethod": "CreditCard",
        "address": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "accountHolderName": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "cardNumber": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "cvv2": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "expirationMonth": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "expirationYear": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "tags": {
            "Department": "Finance"
        }
    },
    "responseElements": {
        "paymentInstrumentArn": "arn:aws:payments::111122223333:payment-
instrument:4251d66c-1b05-46ea-890c-6b4acf6b24ab",
        "paymentInstrumentId": "111122223333",
        "paymentMethod": "CreditCard",
        "consent": "NotProvided",
        "creationDate": "2024-05-01T00:00:00Z",
        "address": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "accountHolderName": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "expirationMonth": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "expirationYear": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS",
        "issuer": "Visa",
        "tail": "HIDDEN_DUE_TO_SECURITY_REASONS"
    },
    "requestID": "7c7df9c2-c381-4880-a879-2b9037ce0573",
    "eventID": "c251942f-6559-43d2-9dcd-2053d2a77de3",
    "readOnly": true,
    "eventType": "AwsApiCall",
    "managementEvent": true,
    "recipientAccountId": "111122223333",
```

```
    "eventCategory": "Management",
    "sessionCredentialFromConsole": "true"
}
```

のコンプライアンス検証 AWS Billing and Cost Management

サードパーティーの監査者は、複数のコンプライアンスプログラムの一環として AWS サービスのセキュリティと AWS コンプライアンスを評価します。請求情報とコスト管理は、 AWS コンプライアンスプログラムの対象ではありません。

特定のコンプライアンスプログラムの対象となる AWS サービスのリストについては、「コンプライアンスAWS プログラムによる対象範囲内のサービスコンプライアンス」を参照してください。一般的な情報については、AWS 「 Compliance ProgramsAssurance」を参照してください。

を使用して、サードパーティーの監査レポートをダウンロードできます AWS Artifact。詳細については、「Downloading Reports in AWS Artifact 」を参照してください。

Billing and Cost Management を使用する際のお客様のコンプライアンス責任は、お客様のデータの機密性、貴社のコンプライアンス目的、適用される法律および規制によって決まります。 は、コンプライアンスに役立つ以下のリソース AWS を提供します。

- 「セキュリティ＆コンプライアンスクイックリファレンスガイド」 – これらのデプロイガイドには、アーキテクチャ上の考慮事項の説明と、 AWSでセキュリティとコンプライアンスに重点を置いたベースライン環境をデプロイするための手順が記載されています。
- AWS コンプライアンスリソース – このワークブックとガイドのコレクションは、お客様の業界や地域に適用される場合があります。
- 「 デベロッパーガイド」の「ルールによるリソースの評価」 – この AWS Config サービスは、リソース設定が内部プラクティス、業界ガイドライン、および規制にどの程度準拠しているかを評価します。 AWS Config
- AWS Security Hub – この AWS サービスは、 内のセキュリティ状態を包括的に把握 AWS し、セキュリティ業界標準とベストプラクティスへの準拠を確認するのに役立ちます。

の耐障害性 AWS Billing and Cost Management

AWS グローバルインフラストラクチャは、 AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンを中心に構築されています。 AWS リージョンは、低レイテンシー、高スループット、高度に冗長なネットワークで接続された複数の物理的に分離されたアベイラビリティーゾーンを提供します。アベイラビ

リティーゾーンでは、ゾーン間で中断することなく自動的にフェイルオーバーするアプリケーションとデータベースを設計および運用することができます。アベイラビリティーゾーンは、従来の単一または複数のデータセンターインフラストラクチャよりも可用性が高く、フォールトトレラントで、スケーラブルです。

AWS リージョンとアベイラビリティーゾーンの詳細については、AWS 「 グローバルインフラストラクチャ」を参照してください。

のインフラストラクチャセキュリティ AWS Billing and Cost Management

マネージドサービスである AWS Billing and Cost Management は、 AWS グローバルネットワークセキュリティで保護されています。 AWS セキュリティサービスと がインフラストラクチャ AWS を保護する方法については、AWS 「 クラウドセキュリティ」を参照してください。インフラストラクチャセキュリティのベストプラクティスを使用して AWS 環境を設計するには、「Security Pillar AWS Well-Architected Framework」の「Infrastructure Protection」を参照してください。

AWS 公開された API コールを使用して、ネットワーク経由で請求情報とコスト管理にアクセスします。クライアントは以下をサポートする必要があります。

- Transport Layer Security (TLS)。TLS 1.2 が必須で、TLS 1.3 をお勧めします。
- DHE (楕円ディフィー・ヘルマン鍵共有) や ECDHE (楕円曲線ディフィー・ヘルマン鍵共有) などの完全前方秘匿性 (PFS) による暗号スイート。これらのモードはJava 7 以降など、ほとんどの最新システムでサポートされています。

また、リクエストにはアクセスキー ID と、IAM プリンシパルに関連付けられているシークレットアクセスキーを使用して署名する必要があります。またはAWS Security Token Service (AWS STS) を使用して、一時的なセキュリティ認証情報を生成し、リクエストに署名することもできます。

インターフェイスエンドポイント (AWS PrivateLink) AWS Billing and Cost Management を使用した へのアクセス

を使用して AWS PrivateLink 、VPC と の間にプライベート接続を作成できます AWS Billing and Cost Management。インターネットゲートウェイ、NAT デバイス、VPN 接続、または AWS Direct Connect 接続を使用せずに、VPC 内にあるかのように Billing and Cost Management にアクセスできます。VPC 内のインスタンスは、請求情報とコスト管理にアクセスするためにパブリック IP アドレスを必要としません。

このプライベート接続を確立するには、 AWS PrivateLinkを利用したインターフェイスエンドポイントを作成します。インターフェイスエンドポイントに対して有効にする各サブネットにエンドポイントネットワークインターフェイスを作成します。これらは、請求情報とコスト管理宛てのトラフィックのエントリポイントとして機能するリクエスタ管理のネットワークインターフェイスです。

詳細については、「 AWS PrivateLink ガイド」の「Access AWS のサービス through AWS PrivateLink」を参照してください。

サービス名の完全なリストについては、 AWS と統合されている のサービス AWS PrivateLinkを参照してください。

請求とコスト管理に関する考慮事項

請求情報とコスト管理用のインターフェイスエンドポイントを設定する前に、「 AWS PrivateLink ガイド」の「考慮事項」を参照してください。

Billing and Cost Management は、インターフェイスエンドポイントを介したすべての API アクションの呼び出しをサポートしています。

VPC エンドポイントポリシーは、請求情報とコスト管理ではサポートされていません。デフォルトでは、インターフェイスエンドポイントを介して請求情報とコスト管理へのフルアクセスが許可されます。または、セキュリティグループをエンドポイントネットワークインターフェイスに関連付けて、インターフェイスエンドポイントを介して請求情報とコスト管理へのトラフィックを制御することもできます。

請求情報とコスト管理用のインターフェイスエンドポイントを作成する

Amazon VPC コンソールまたは AWS Command Line Interface () を使用して、請求情報とコスト管理用のインターフェイスエンドポイントを作成できますAWS CLI。詳細については、「AWS PrivateLink ガイド」の「インターフェイスエンドポイントを作成」を参照してください。

次のサービス名を使用して、請求情報とコスト管理用のインターフェイスエンドポイントを作成します。

```
com.amazonaws.region.service-name
```

インターフェイスエンドポイントのプライベート DNS を有効にすると、デフォルトのリージョン DNS 名を使用して Billing and Cost Management に API リクエストを行うことができます。例えば、`service-name.us-east-1.amazonaws.com`。

インターフェイスエンドポイントのエンドポイントポリシーを作成する

エンドポイントポリシーは、インターフェイスエンドポイントにアタッチできる IAM リソースです。デフォルトのエンドポイントポリシーでは、インターフェイスエンドポイントを介して請求情報とコスト管理へのフルアクセスを許可します。VPC から Billing and Cost Management に許可されるアクセスを制御するには、インターフェイスエンドポイントにカスタムエンドポイントポリシーをアタッチします。

エンドポイントポリシーは以下の情報を指定します。

- アクションを実行できるプリンシパル (AWS アカウント、IAM ユーザー、IAM ロール)。
- 実行可能なアクション。
- このアクションを実行できるリソース。

詳細については、AWS PrivateLink ガイドのControl access to services using endpoint policies (エンドポイントポリシーを使用してサービスへのアクセスをコントロールする)を参照してください。

例: AWS Price List API の VPC エンドポイントポリシー

以下は、カスタムエンドポイントポリシーの例です。このポリシーをインターフェイスエンドポイントにアタッチすると、エンドポイントにアクセスできるすべてのユーザーが AWS Price List API にアクセスできます。

```
{
    "Statement": [
        {
            "Action": "pricing:*",
            "Effect": "Allow",
            "Principal": "*",
            "Resource": "*"
        }
    ]
}
```

を通じて Price List API の一括ファイルダウンロードを使用するには AWS PrivateLink、Amazon S3 アクセスも有効にする必要があります AWS PrivateLink。詳細については、AWS PrivateLink Amazon S3ユーザーガイド」のAmazon S3の 」を参照してください。

クォータと制限

次の表を使用して、 AWS Billing and Cost Management コンソール内の現在のクォータ、制限、および命名に関する制約を確認できます。

> メモ
>
> - AWS コスト管理のクォータと制限の詳細については、AWS 「 コスト管理ユーザーガイド」の「クォータと制限」を参照してください。
> - その他の AWS のサービス クォータの詳細については、のAWS 「 サービスクォータ」を参照してくださいAWS 全般のリファレンス。

トピック

- コストカテゴリ
- 発注書
- 事前支払い
- コスト配分タグ
- AWS の料金表
- 一括ポリシーマイグレーター
- 支払い方法
- AWS 請求書設定

コストカテゴリ

コストカテゴリについては、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
管理アカウントでのコストカテゴリの合計数	50
コストカテゴリ (API) でのコストカテゴリルールの数	500

説明	クォータと制限
コストカテゴリ (UI) でのコストカテゴリルールの数	100
コストカテゴリ名	• 名前は一意である必要があります。 • 大文字と小文字の区別
コストカテゴリ値名	名前は一意である必要はありません
コストカテゴリ名と値名で許可されている文字のタイプと数	• 数字: 0-9 • Unicode 文字 • Space (名前の先頭または末尾には使用不可) • 次の記号: アンダースコア (_) またはエンダッシュ (-)
コストカテゴリでの分割料金ルールの数	10

発注書

発注書については、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
発注書 ID で許可されている文字のタイプ	• A-Z および a-z • Space • 次の記号: _.:/=+-%@
発注書 ID で許可されている文字の数	100
発注書で許可されている連絡先の数	20
発注書で許可されているタグの数	50
発注書で許可されている明細項目の数	100

事前支払い

前払いについては、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
ユーザーエンティティ	AWS Inc. または AWS 欧州
通貨	USD
資金が事前支払いに加算された後の資金の使用状況	• 資金は、対象となる AWS 料金の支払いにのみ使用できます。対象外の料金 (AWS Marketplace 請求書など) は、前払い登録時にデフォルトの支払い方法を使用して請求されます。 • AWS 欧州で追加された前払い資金は、 AWS 欧州の請求書の支払いにのみ使用できます。 • 資金は、引き出し、払い戻し、または譲渡することはできません。 • 資金は、他の通貨に変換することはできません。
事前支払いに未使用の資金がある場合	• 登録されている販売者は変更できません。 • 希望する通貨は変更できません。 • デフォルトの支払い方法は変更できません。

コスト配分タグ

Service Quotas でアクティブなコスト配分タグキーの最大数を調整できます。詳細については「Service Quotas ユーザーガイド」の「クォータの引き上げのリクエスト」を参照してください。

> **Note**
>
> 自動的に有効化されたタグ (`awsApplication` タグなど) は、コスト配分タグのクォータにはカウントされません。

コスト配分タグについては、以下のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
支払者アカウントあたりのアクティブなコスト配分タグキーの最大数	500
API またはコンソールを使用して、1 つのリクエストに対してアクティブ化または非アクティブ化ができるコスト配分タグの数	20

AWS の料金表

一部の Price List Query API および Price List Bulk API オペレーションは、サービスの可用性を維持するために、トークンバケットスキームを使用してスロットリングされます。これらのクォータは、リージョンごとに AWS アカウント ごとに設定されます。各 API オペレーションのクォータを以下の表に示します。

Price List Query API

API オペレーション	トークンバケットサイズ	補充レート/秒
`DescribeServices`	10	5
`GetAttributeValues`	10	5
`GetProducts`	10	5

Price List Bulk API

API オペレーション	トークンバケットサイズ	補充レート/秒
`DescribeServices`	10	5
`GetPriceListFileUrl`	10	5
`ListPriceLists`	10	5

一括ポリシーマイグレーター

一括ポリシーマイグレーターの次のクォータと制限を確認してください。

説明	クォータと制限
移行できる組織内の影響を受けるアカウントの最大数。	200
移行できる組織内の影響を受けるポリシーの最大数。	1,000

支払い方法

支払いについては、以下のクォータと制限をご覧ください。

説明	クォータと制限
支払い手段のタグ付け。	この機能は、次の支払い方法をサポートしています。 • クレジットカード • 銀行口座 (ACH) この機能は、次の支払い方法をサポートしていません。 • 事前支払い • ネットバンキング • 中国銀行リダイレクト • PIX • United Payments Interface (UPI) • 請求書による支払い

AWS 請求書設定

請求書設定については、次のクォータと制限を参照してください。

説明	クォータと制限
支払者アカウントの請求書単位の数。	500
請求書単位名で許可される文字のタイプ。	• 名前は 1～50 文字にする必要があります。 • 文字: A-Zおよび a-z • 数字: 0-9 • Space • 次の記号: ハイフン (-) 、アンダースコア (_)

ドキュメント履歴

以下は、「AWS ユーザーガイド」の今回リリースされたドキュメントの内容です。

変更	説明	日付
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	AWSBillingReadOnlyAccess – 既存の管理ポリシーを更新し、新しい AWS 無料利用枠 ポリシーを追加しました。	2025 年 7 月 9 日
Customer Carbon Footprint Tool ドキュメントを更新し、ロケーションベースのメソッド (LBM) の放出計算を追加	方法論のドキュメントとリリースノートを更新しました。	2025 年 6 月 24 日
Customer Carbon Footprint Tool モデル 2.0 に合わせてドキュメントを更新	方法論のドキュメントを更新し、システム境界、入力データ、配分アプローチに関する新しいセクションを作成しました。	2025 年 4 月 23 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess – Migration Acceleration Program 2.0 クレジットコンソールのアクセス許可を追加するために、既存の管理ポリシーを更新しました。	2025 年 3 月 27 日
バックアップ支払い方法に関するドキュメントを追加しました	バックアップ支払い方法機能に関する新しいドキュメントを追加しました。	2025 年 2 月 20 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	Billing – Billing View のアクセス許可を追加するために、	2025年1月17日

	既存の管理ポリシーを更新しました。	
AWS 請求書設定に関する新しいドキュメント	AWS 請求書設定に関するドキュメントを追加しました。既存の管理ポリシー Billing、AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 、 を更新AWSBillingReadOnlyAccess し、柔軟な請求を管理するアクセス許可を追加しました。	2024 年 12 月 1 日
の新しいドキュメント AWS PrivateLink	のドキュメントを追加しました AWS PrivateLink。	2024 年 11 月 13 日
AWS 金融に関するドキュメントを追加	AWS 金融に関する新しいドキュメントを追加しました。既存の 管理ポリシー Billing と を更新しAWSBillingReadOnlyAccess 、 AWS Financing のアクセス許可を追加しました。	2024 年 11 月 12 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	のドキュメントを追加 AWSPriceListServiceFullAccess – AWS Price List Service へのフルアクセスを提供するAWSPriceListServiceFullAccess ポリシーのドキュメントを追加しました。既存のポリシーに対する Sid": "AWSPriceListServiceFullAccess の更新。	2024 年 6 月 24 日

タグを使用した支払いアクセスに関するドキュメントを追加	タグを使用した支払いアクセスの管理に関する新しいページを追加。既存のマネージドポリシー Billing と AWSBillingReadOnlyAccess を更新し、タグを使用して支払いを管理するためのアクセス許可を追加。	2024 年 5 月 31 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、コスト配分タグのバックフィル機能のアクセス許可を追加。	2024 年 3 月 27 日
更新版	AWS India アカウントでは、Unified Payment Interface (UPI) 支払い方法を使用して AWS 請求書の支払いを行うことができます。	2024 年 3 月 14 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、AWS Migration Acceleration Program のアクセス許可を追加。	2024 年 1 月 18 日
更新版	cur、sustainability 、ce、budgets、pricing、および support アクションを追加して、Billing および AWSBillingReadOnlyAccess マネージドポリシーを更新しました。	2024 年 1 月 17 日

更新版	Amazon Web Services India Private Limited AWS アカウント を使用して、 のクレジットカードまたはデビットカードの詳細を保存できます。	2023 年 12 月 18 日
更新版	コストカテゴリは、さまざまなコストタイプを使用して表示することができます。	2023 年 12 月 14 日
更新版	AWS クラウド財務管理データの概要については、請求情報とコスト管理ホームページの AWS Billing and Cost Management ウィジェットを使用します。 以下の更新を参照してください。 • AWS Billing and Cost Management ホームページを使用する • AWS 請求データと AWS Cost Explorer データの違いを理解する	2023 年 11 月 26 日
更新版	無料利用枠 API の詳細を説明します。 以下の更新を参照してください。 • AWS Billing and Cost Management API リファレンス • 無料利用枠 API を使用する	2023 年 11 月 26 日

更新版	影響を受ける IAM ポリシーツールの使用法に関して更新した情報	2023 年 11 月 14 日
更新版	AWS Service Catalog AppRegistryで作成したアプリケーションには、`awsApplication` ユーザー定義のコスト配分タグが自動的に追加され、有効化されます。 以下の更新を参照してください。 • ユーザー定義のコスト配分タグ • ユーザー定義のコスト配分タグのアクティブ化 • クォータと制限	2023 年 11 月 14 日
更新版	AWS アカウントにサインアップして、登録販売者 (SOR) の詳細を確認してください。	2023 年 11 月 10 日
支払いに関する更新版	クレジットカードでの支払い方法の確認に関する情報が更新されました。	2023 年 11 月 8 日
Updates for Amazon Web Services India Private Limited 顧客確認の更新	AWS India のお客様は、 にサインアップするときに ID 情報を確認できます AWS アカウント。	2023 年 10 月 27 日

更新版	[請求設定] ページを使用して、 AWS Organizationsの会員アカウントのリザーブドインスタンスと Savings Plans のクレジット共有やディスカウント共有を有効または無効にできます。	2023 年 10 月 19 日
のドキュメントを更新しました AWS の料金表	Price List Bulk API と AWS Price AWS List Query API の AWS CLI コマンド例、定義、通知を含むドキュメントを更新しました。	2023 年 10 月 3 日
支払い方法の更新	AWS 欧州 AWS アカウント のでは、請求コンソールで銀行口座をリンクして確認できます。	2023 年 9 月 15 日
更新版	発行された請求書の内容が正しいことを確認するときは、月次請求チェックリストのトピックを使用すれば請求情報を確認できます。	2023 年 9 月 1 日
コスト配分タグの更新	[最終更新日] と [最終使用月] のフィールドを使用して、コスト配分タグが最後に更新または使用された日時を確認できます。	2023 年 8 月 23 日
AWS Price List Query API の更新	欧州 (フランクフルト) リージョンのエンドポイントが追加されました。	2023 年 8 月 15 日

AWS 管理ポリシーの更新	Billing および AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、コスト配分タグの権限を追加しました。	2023 年 7 月 26 日
支払いドキュメントの更新	[支払い] ページのテーブルを使用して、一部適用されたクレジットメモを表示できます。	2023 年 7 月 25 日
AWS 管理ポリシーのドキュメントを更新しました	AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy 、Billing、AWSBillingReadOnlyAccess — 既存のポリシーを更新して、発注書タグの権限を追加しました。	2023 年 7 月 17 日
IAM の詳細なアクションに関するリファレンスドキュメントを更新しました	古い IAM アクションが新しい詳細な IAM アクションにどのようにマッピングされるかを確認できるようにドキュメントを追加しました。	2023 年 6 月 28 日
アカウントページ用のドキュメントを更新しました	AWS 請求コンソールのドキュメントを更新しました。	2023 年 6 月 22 日

更新版	発注書のタグサポートを追加しました 発注書にタグを追加できます。詳細については、以下の各トピックを参照してください。 • 発注書を追加する • 発注書を編集する • タグを使用して発注書へのアクセスを管理する • 発注書クォータ	2023 年 6 月 19 日
スクリプトを使用して IAM の詳細なアクションに一括移行する	ポリシーを新しい IAM の詳細なアクションに一括移行できるようにドキュメントを追加しました。	2023 年 6 月 8 日
支払い方法の更新	ブラジルの PIX 支払い方法を管理する新機能が追加されました。	2023 年 6 月 6 日
EMEA AWS の一括請求	Amazon Web Services EMEA SARL (AWS 欧州) エンティティを通じて請求されるアカウントの一括請求機能を追加しました。	2023 年 6 月 6 日
短いバージョンの PDF 請求書のサポートを追加	短いバージョンの PDF 請求書をリクエストする方法に関するドキュメントを追加しました。	2023 年 5 月 30 日
新しいコストカテゴリディメンションを追加しました	Billing の使用タイプディメンションを追加しました AWS 。	2023 年 5 月 16 日

CSV ダウンロード	Customer Carbon Footprint Tool の CSV ダウンロードオプションを追加しました。	2023 年 4 月 19 日
新しいマネージドポリシーと更新されたマネージドポリシー	`AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy` 、`Billing`、`AWSBillingReadOnlyAccess` — 既存のポリシーを更新しました。`AWSAccountActivityAccess` – AWS Billing 用に文書化された新しい AWS マネージドポリシー	2023 年 3 月 6 日
新しいカスタマーカーボンフットプリントツール	AWS 製品およびサービスに関連する炭素排出量の見積もりを表示する新しい Customer Carbon Footprint Tool 機能を追加しました。	2022 年 2 月 28 日
新しい支払いプロファイル	請求書に自動支払い方法を割り当てるための新しい支払いプロファイル機能が追加されました。	2022 年 2 月 17 日
AWSPurchaseOrdersServiceRolePolicy - 既存のポリシーの更新	AWS 請求で不要なアクセス許可が削除されました。	2021 年 11 月 18 日
AWS 請求が AWS マネージドポリシーの変更の追跡を開始しました	AWS 請求は、 AWS 管理ポリシーの変更の追跡を開始しました。	2021 年 11 月 18 日
新しい AWS コスト管理ガイド	請求情報とコスト管理ユーザーガイドを分割し、機能の詳細を請求情報ガイドと AWS コスト管理ガイドに合わせ、コンソールに合わせます。	2021 年 10 月 20 日

新しい AWS コスト異常検出	機械学習を使用してコストと使用状況を継続的にモニタリングし、異常な支出を検出する新しい AWS コスト異常検出機能を追加しました。	2020 年 12 月 16 日
新しい発注書管理	購入が請求書に反映される方法を設定する新しい発注書機能が追加されました。	2020 年 10 月 15 日
新しい Budgets アクション	AWS 予算が特定のコストまたは使用量のしきい値を超えたときにユーザーに代わってアクションを実行する新しい Budgets アクション機能を追加しました。	2020 年 10 月 15 日
新しい	AWS コストを意味のあるカテゴリにマッピングする新機能を追加しました。	2020 年 4 月 20 日
新しい相続税機能	連結アカウントで税務登録情報を使用できるようにする新機能が追加されました。	2020 年 3 月 19 日
新しい中国銀行リダイレクト支払い方法	を使用して中国人民元のお客様に対して、中国銀行リダイレクトを使用した延滞 AWS 支払いを許可する新しい支払い方法を追加しました。	2020 年 2 月 20 日
セキュリティに関する新しい章	さまざまなセキュリティ制御に関する情報を提供する新しいセキュリティの章が追加されました。この章に、以前の「アクセス制御」章の内容を移行しました。	2020 年 2 月 6 日

新しい AWS コストと使用状況レポートのユーザーガイド	すべての AWS コストと使用状況レポートのコンテンツを別のユーザーガイドに移行して再編成しました。	2020 年 1 月 21 日
AWS Budgets を使用した新しいレポート方法	AWS Budgets レポートを使用して新しいレポート機能を追加しました。	2019 年 6 月 27 日
Cost Explorer に正規化された単位を追加	Cost Explorer レポートに、正規化された単位が追加されました。	2019 年 2 月 5 日
クレジットアプリケーションの変更	AWS はクレジットの適用方法を変更しました。	2019 年 1 月 17 日
新しい支払いの動作	AWS インドのお客様は、支払いの自動請求機能を有効にできるようになりました。	2018 年 12 月 20 日
新しい AWS Price List Service エンドポイント	AWS Price List Service の新しいエンドポイントを追加しました。	2018 年 12 月 17 日
Cost Explorer UI を更新	Cost Explorer UI が更新されました。	2018 年 11 月 15 日
Amazon Athena を AWS コストと使用状況レポートに統合	AWS コストと使用状況レポートから Athena にデータをアップロードする機能を追加しました。	2018 年 11 月 15 日
Budgets 履歴を追加	予算の履歴を表示する機能が追加されました。	2018 年 11 月 13 日
予算のサービスを拡張	RI 予算が Amazon OpenSearch Service に拡張されました。	2018 年 11 月 8 日

新しい支払い方法の追加	SEPA 銀行デビットの支払い方法が追加されました。	2018 年 10 月 25 日
オンデマンドキャパシティー予約を追加	キャパシティ予約に適用される AWS コストと使用状況レポートの明細項目に関するドキュメントを追加しました。	2018 年 10 月 25 日
Budgets AWS エクスペリエンスの再設計	AWS Budgets UI とワークフローを更新しました。	2018 年 10 月 23 日
リザーブドインスタンスの推奨事項に新しい列を追加	Cost Explorer RI のレコメンデーションに新しい列が追加されました。	2018 年 10 月 18 日
新しい AWS CloudTrail アクション	CloudTrail ログ記録にアクションが追加されました。	2018 年 10 月 18 日
リザーブドインスタンスの新しいレポートを追加	RI レポートが Amazon OpenSearch Service に拡張されました。	2018 年 10 月 10 日
新しい AWS コストと使用状況レポートの列	AWS コストと使用状況レポートに新しい列が追加されました。	2018 年 9 月 27 日
Cost Explorer チュートリアル	Cost Explorer に、よく使用される機能のチュートリアルが追加されました。	2018 年 9 月 24 日
CloudTrail イベントを追加	追加の CloudTrail イベントが追加されました。	2018 年 8 月 13 日
新しい支払い方法の追加	ACH 銀行デビット支払い方法を追加しました。	2018 年 7 月 24 日
AWS 無料利用枠ウィジェットを更新しました	AWS 無料利用枠ウィジェットを更新しました。	2018 年 7 月 19 日

その他のサービスの RI 購入の推奨事項を追加	Cost Explorer にその他のサービスの RI 購入のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 7 月 11 日
連結アカウントの RI 購入の推奨事項の追加	Cost Explorer に連結アカウントの RI 購入のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 6 月 27 日
AWS コストと使用状況レポートのデータ更新のサポートを追加	AWS AWS が返金、クレジット、またはサポート料金をアカウントに適用する場合、コストと使用状況レポートは確定後に更新できるようになりました。	2018 年 6 月 20 日
CloudTrail サポートを追加	CloudTrail イベントログ記録のサポートが追加されました。	2018 年 6 月 7 日
予算 AWS CloudFormation にを追加	の Budgets テンプレートを追加しました AWS CloudFormation。	2018 年 5 月 22 日
連結アカウントの RI 割り当て動作の更新	連結アカウントのサイズ柔軟 RI の割り当て動作を更新しました。	2018 年 5 月 9 日
RI カバレッジアラート	RI カバレッジアラートを追加しました。	2018 年 5 月 8 日
非ブレンド連結アカウント請求書	連結アカウント請求書に組織の混合レートが表示されなくなりました。	2018 年 5 月 7 日
AWS 税設定の更新	課税設定を一括編集する機能が追加されました。	2018 年 4 月 25 日

Cost Explorer に Amazon RDS の推奨事項を追加	Cost Explorer に Amazon RDS のレコメンデーションが追加されました。	2018 年 4 月 19 日
新しい Cost Explorer ディメンションと AWS コストと使用状況レポートの明細項目を追加	新しい Cost Explorer ディメンションと AWS コストと使用状況レポートの明細項目を追加しました。	2018 年 3 月 27 日
Cost Explorer API に購入の推奨事項を追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の購入のレコメンデーションへの Cost Explorer API を介したアクセスが追加されました。	2018 年 3 月 20 日
Amazon RDS、Amazon Redshift、および ElastiCache の RI カバレッジを追加	Amazon RDS、Amazon Redshift、および ElastiCache のリザーブドインスタンス (RI) カバレッジ。	2018 年 3 月 13 日
RI カバレッジを Cost Explorer API に追加	`GetReservationCoverage` が Cost Explorer API に追加されました。	2018 年 2 月 22 日
AWS 無料利用枠アラートを追加	AWS 無料利用枠の制限を下回ることができる無料利用枠アラートを追加しました。	2017 年 13 月 12 日
RI 推奨事項	以前の使用状況に基づく RI 推奨事項が追加されました。	2017 年 11 月 20 日
Cost Explorer API	アクティブ化された API アクセス Cost Explorer。	2017 年 11 月 20 日
その他のサービスの RI 使用率のアラート	その他のサービスに通知が追加されました。	2017 年 11 月 10 日

RI レポートの追加	RI レポートを Amazon RDS、Redshift、ElastiCache に拡張しました。	2017 年 11 月 10 日
共有設定の割引	AWS クレジットと RI 割引共有をオフにできるように設定を更新しました。	2017 年 11 月 6 日
新しい Amazon S3 コンソール	新しい Amazon S3 コンソール用に更新されました。	2017 年 9 月 15 日
RI 使用率アラート	RI 使用率がプリセットのパーセント値に基づくしきい値を下回った場合の通知を追加しました。	2017 年 8 月 21 日
Cost Explorer UI を更新	新しい Cost Explorer UI をリリースしました。	2017 年 8 月 16 日
AWS Marketplace データ統合	請求書ページ、Cost Explorer など、すべての請求アーティファクトにデータが反映され AWS Marketplace るように を追加しました。	2017 年 8 月 10 日
組織の一括請求	一括請求を組織の動作にあわせて更新しました。	2017 年 6 月 20 日
AWS Budgets のリンクされたアカウントアクセスと使用タイプグループ	特定の使用タイプと使用タイプグループに基づいたコストと使用予算の作成、およびすべてのアカウントタイプの拡張予算の作成機能のサポートが追加されました。	2017 年 6 月 19 日

リージョン指定オファーファイル	AWS Price List API は、各サービスのリージョンオファーファイルを提供するようになりました。	2017 年 4 月 20 日
Cost Explorer 詳細オプションの追加	返金、クレジット、RI 前払い料金、RI 定期料金やサポート料金などの詳細オプションを追加することで、 Cost Explorer レポートのフィルタができるようになりました。	2017 年 3 月 22 日
Cost Explorer レポートの追加	リザーブドインスタンス (RI) の日別範囲を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2017 年 3 月 20 日
Cost Explorer フィルターの追加	テナンシー、プラットフォーム、および Amazon EC2 スポットやスケジュールされたリザーブドインスタンス購入オプションによって、 Cost Explorer レポートをフィルタリングできるようになりました。	2017 年 3 月 20 日
Cost Explorer と AWS インドの予算	AWS India ユーザーは Cost Explorer と Budgets を使用できるようになりました。	2017 年 3 月 6 日
Cost Explorer 使用タイプのグループ化の追加	Cost Explorer は、コストと使用状況データの両方のグループ化をサポートすることで、ユーザーがコストと使用状況グラフを相互参照してコスト要因を識別できるようにしています。	2017 年 2 月 24 日

Cost Explorer レポートの追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の月別使用率を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 16 日
Cost Explorer レポートの追加	Amazon EC2 リザーブドインスタンス (RI) の日別使用率を Cost Explorer で追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 15 日
AWS 生成されたコスト配分タグを追加	AWS 生成されたタグをアクティブ化`createdBy` して、AWS リソースを作成したユーザーを追跡できるようになりました。	2016 年 12 月 12 日
Cost Explorer 詳細オプションの追加	Cost Explorer レポートからタグ付けされたリソースを除外できるようになりました。	2016 年 11 月 18 日
AWS コストと使用状況レポートの QuickSight 統合	AWS コストと使用状況レポートで、QuickSight にデータをアップロードするためのカスタマイズされたクエリが提供されるようになりました。	2016 年 11 月 15 日
拡張された AWS Budgets 機能	AWS Budgets を使用して使用状況データを追跡できるようになりました。	2016 年 10 月 20 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、使用タイプグループに基づいてコストを可視化できるようになりました。	2016 年 9 月 15 日

AWS コストと使用状況レポートの Amazon Redshift 統合を改善	AWS コストと使用状況レポートで、Amazon Redshift にデータをアップロードするためのカスタマイズされたクエリが提供されるようになりました。	2016 年 8 月 18 日
AWS コストと使用状況レポート	AWS コストと使用状況レポートを作成およびダウンロードできるようになりました。	2015 年 12 月 16 日
AWS 料金表 API	1 つの AWS サービスの製品、料金、制限を一覧表示するオファーファイルをダウンロードできるようになりました。	2015 年 12 月 9 日
Cost Explorer レポートマネージャ	Cost Explorer クエリを保存できるようになりました。	2015 年 12 月 11 日
AWS 無料利用枠の追跡	無料利用枠の制限のうち使用した容量を追跡できるようになりました。	2015 年 8 月 12 日
予算と予測	AWS Budgets とコスト予測を使用して、 AWS 使用量とコストを管理できるようになりました。	2015 年 6 月 29 日
Amazon Web Services India Private Limited	Amazon Web Services India Private Limited (AWS インド) アカウントのアカウント設定と支払い方法を管理できるようになりました。	2015 年 6 月 1– 日

Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、コストをアベイラビリティーゾーン、API オペレーション、購入オプション別に、または複数のコスト配分タグ別に可視化できるようになりました。	2015 年 2 月 19 日
優先する支払い通貨	クレジットカードに関連付けられた支払い通貨を変更できるようになりました。	2015 年 2 月 16 日
Cost Explorer の機能の拡張	Cost Explorer を使用して、Amazon EC2 のインスタンスタイプまたはリージョン別にコストを可視化できるようになりました。	2015 年 1 月 5 日
予想外の料金の回避	「予想外の料金の回避」と「無料利用枠の使用」を改訂および拡張しました。	2014 年 8 月 19 日
IAM ユーザー許可	AWS Identity and Access Management (IAM) ユーザーとフェデレーティッドユーザーがアカウント設定へのアクセスと管理、請求書の表示、コスト管理を実行できるようになりました。たとえば、財務部門のユーザーに、本番環境へのアクセスを許可することなく、 AWS アカウントの財務セットアップと管理へのフルアクセスを許可できます AWS 。	2014 年 7 月 7 日

Cost Explorer の起動	Cost Explorer は AWS コストを可視化し、複数の方法でコストを分析できるようにします。	2014 年 4 月 8 日
バージョン 2.0 発行	AWS Billing and Cost Management ユーザーガイドは、新しい請求情報とコスト管理コンソールに合わせて再編集され、記述内容が改められています。	2013 年 10 月 25 日

翻訳は機械翻訳により提供されています。提供された翻訳内容と英語版の間で齟齬、不一致または矛盾がある場合、英語版が優先します。